世田谷区民意識調査 2024

（令和６年５月実施）

世田谷区

はじめに

世田谷区では、日頃より、様々な形で区民の皆様から区政に対するご意見・ご要望をお聴かせいただいています。

区民意識調査も、こうした広聴事業のひとつとして、区政に対するニーズや意識とその変化を把握するために毎年実施しているもので、今回で５０回目となります。

本書は、本年実施した区民意識調査の結果を取りまとめたものです。今回の調査は、「定住性」「職員応対」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、「広報」「災害時の備え」「ふるさと納税」などに関する項目を調査対象といたしました。

この調査結果を今後の事業の見直しや政策立案の参考とさせていただくとともに、引き続き区民の皆様へのわかりやすい情報提供・情報発信に努め、行政への理解や関心を深めていただき、区民参加を更に推進してまいります。

最後に、調査実施にあたりまして、ご協力いただきました区民の皆様に心からお礼を申し上げます。

令和６年９月

世田谷区

目　　次

調査概要 ····· 1
　１．調査目的 ····· 3
　２．調査項目 ····· 3
　３．調査設計 ····· 3
　４．標本設計 ····· 3
　５．回収結果 ····· 6
　６．この報告書のみかた ····· 7
　７．標本誤差 ····· 7

標本構成 ····· 9
　１．標本構成 ····· 11

質問と回答 ····· 15

調査結果 ····· 35

１．定住性 ····· 37
　（１）居住年数 ····· 37
　（２）暮らしの満足度 ····· 41
　（３）住みやすさ ····· 47
　（４）定住意向 ····· 52
　（５）定住意向理由 ····· 58
　（６）非定住意向理由 ····· 63
　（７）地域における日常生活での困りごと ····· 65

２．区政 ····· 70
　（１）区が積極的に取り組むべき事業 ····· 70

３．職員応対 ····· 74
　（１）窓口応対 ····· 74
　（２）印象が良かった点 ····· 77
　（３）印象が悪かった点 ····· 80
　（４）職員応対での注意点 ····· 82

４．広報 ……… 85
（１）区の取り組みや身近な情報の入手経路 ……… 85
（２）発信してほしい区の取り組みや情報 ……… 87

５．福祉と医療 ……… 90
（１）介護や医療必要時の居住意向 ……… 90
（２）「福祉の相談窓口」の認知度 ……… 93
（３）「在宅医療」の認知度 ……… 96
（４）「ＡＣＰ」（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の認知度 ……… 99
（５）身近な相談相手の有無 ……… 102
（６）日常生活の不安や悩みの有無 ……… 105
（７）行政機関や民間団体からの支援 ……… 108
（８）地域住民同士の支え合いについて ……… 111
（９）認知症についての印象 ……… 114

６．子育て ……… 117
（１）区の子育て環境 ……… 117

７．災害時の備え ……… 121
（１）防災への対処 ……… 121
（２）「ハザードマップ」の認知度 ……… 129
（３）在宅避難推奨の認知度 ……… 133
（４）水や食料の備蓄について ……… 136
（５）非常用電力の備蓄について ……… 139
（６）携帯用トイレの備蓄について ……… 142

８．地域コミュニティ ……… 145
（１）地域活動への参加経験・参加意向 ……… 145

９．文化活動 ……… 149
（１）区内の文化資源の認知度 ……… 149

10．多文化共生 ……… 154
（１）区の多文化共生社会への進捗状況 ……… 154
（２）外国人の地域活動への参加の進捗状況 ……… 157
（３）区内の外国人への偏見や差別の改善状況 ……… 160

11. 健康づくり ····· 163
（１） １日の歩行時間 ····· 163

12. スポーツ ····· 167
（１）この１年間に行ったスポーツや運動の回数 ····· 167
（２）スポーツの生活の質向上への役立ち度 ····· 171
（３）スポーツの新たな交流への貢献度 ····· 173
（４）スポーツの地域の活性化への役立ち度 ····· 175
（５）ユニバーサルスポーツの関心度 ····· 177

13. 交通 ····· 179
（１）区の交通手段の満足度 ····· 179
（２）自転車利用頻度 ····· 182
（３）主な自転車利用用途 ····· 185
（４）歩行時の自転車との接触有無 ····· 188

14. みどり ····· 191
（１）みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと ····· 191

15. ふるさと納税 ····· 194
（１）「世田谷区民が世田谷区にふるさと納税ができる」ことの認知度 ····· 194
（２）「ふるさと納税」の経験 ····· 197
（３）返礼品に関する区の姿勢について ····· 200
（４）「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度 ····· 203
（５）区民税の減収状況の認知経路 ····· 206

16. せたがや Pay ····· 209
（１）せたがや Pay の認知・利用度 ····· 209
（２）せたがや Pay を利用しない理由 ····· 212

調　査　概　要

１．調査目的

この調査は、区民が区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政を進めていくうえでの基礎資料とすることを目的としています。

２．調査項目

（１）定住性
（２）区政
（３）職員応対
（４）広報
（５）福祉と医療
（６）子育て
（７）災害時の備え
（８）地域コミュニティ
（９）文化活動
（10）多文化共生
（11）健康づくり
（12）スポーツ
（13）交通
（14）みどり
（15）ふるさと納税
（16）せたがやPay

３．調査設計

（１）調 査 対 象　　世田谷区在住の満18歳以上の男女
（２）対　象　数　　5,000人（内訳／4,842人、外国籍158人）
（３）抽 出 方 法　　層化二段無作為抽出法
（４）調 査 方 法　　郵送配布・回収またはインターネットによる回答
（５）調 査 期 間　　令和６年５月15日～６月５日
（６）調 査 機 関　　株式会社アダムスコミュニケーション

４．標本設計

（１）母　集　団　　世田谷区在住の満18歳以上の男女
（２）対　象　数　　5,000人
（３）調査地点数　　200地点
（４）抽 出 方 法　　層化二段無作為抽出法

【層　化】

世田谷区内を町丁目単位として、次の10地域に分類しそれぞれを層として計10層とした。

【標本数の配分】

各地域（層）における18歳以上の人口数（令和６年４月１日現在）により、5,000の標本数を配分した。

【抽　出】

① 調査地点の抽出数については、１調査地点の標本数が25になるように、各地域（層）に当てられた標本数より算出し、決定した。

② 調査地点は、各地域（層）ごとに、

$$\frac{\text{地域（層）における人口数}}{\text{地域（層）で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$

を算出し、等間隔抽出法によって、調査地点となる対象者抽出のための町丁目における起算番号を算出した。

③ 対象者の抽出の名簿として、住民基本台帳を使用した。抽出された調査地点における対象者の抽出は、町丁目で指定された起算番号目の人を第１番目の抽出対象とし、以下一定の抽出間隔で指定の対象数25を系統的に抽出した。

地 域 別 町 丁 名 一 覧 表

地域	町丁目	
世田谷東部	池尻	１～４丁目
	下馬	１～６丁目
	三宿	１～２丁目
	太子堂	１～５丁目
	三軒茶屋	１～２丁目
	野沢	１～４丁目
	若林	１～５丁目
	上馬	１～５丁目
	駒沢	１～２丁目
世田谷西部	世田谷	１～４丁目
	弦巻	１～５丁目
	宮坂	１～３丁目
	桜	１～３丁目
	経堂	１～５丁目
	桜丘	１～５丁目
北沢東部	北沢	１～５丁目
	代沢	１～５丁目
	大原	１～２丁目
	羽根木	１～２丁目
	代田	１～６丁目
北沢西部	松原	１～６丁目
	梅丘	１～３丁目
	豪徳寺	１～２丁目
	赤堤	１～５丁目
	桜上水	１～５丁目
玉川北部	駒沢公園	
	駒沢	３～５丁目
	新町	１～３丁目
	深沢	１～８丁目
	桜新町	１～２丁目
	用賀	１～４丁目
	上用賀	１～６丁目
	玉川台	１～２丁目

地域	町丁目	
玉川南部	奥沢	１～８丁目
	東玉川	１～２丁目
	玉川田園調布	１～２丁目
	等々力	１～８丁目
	尾山台	１～３丁目
	玉堤	１～２丁目
玉川西部	中町	１～５丁目
	野毛	１～３丁目
	瀬田	１～５丁目
	上野毛	１～４丁目
	玉川	１～４丁目
砧北部	船橋	１～７丁目
	千歳台	１～６丁目
	祖師谷	１～６丁目
	砧	１～８丁目
	成城	１～９丁目
砧南部	大蔵	１～６丁目
	砧公園	
	岡本	１～３丁目
	鎌田	１～４丁目
	喜多見	１～９丁目
	宇奈根	１～３丁目
烏山	八幡山	１～３丁目
	南烏山	１～６丁目
	粕谷	１～４丁目
	北烏山	１～９丁目
	給田	１～５丁目
	上祖師谷	１～７丁目
	上北沢	１～５丁目

５．回収結果

（１）有効回収数　　2,404 人（内訳／日本国籍 2,356 人、外国籍 48 人）

（２）有効回収率　　48.1%

（内訳／郵送回収 1,558 通・64.8%、インターネット回収 846 通・35.2%）

回収結果内訳　（人口は令和６年４月１日現在）

			標本数A	調査地点数	18歳以上の人口数（母集団）	回収数B	回収率 C＝B／A
全体			5,000	200	794,514	2,404	48.1%
地区	世田谷	東部	825	33	130,997	375	45.5%
		西部	575	23	91,103	273	47.5%
	北沢	東部	425	17	66,301	183	43.1%
		西部	450	18	70,002	199	44.2%
	玉川	北部	475	19	73,410	233	49.1%
		南部	425	17	68,273	228	53.6%
		西部	325	13	52,020	146	44.9%
	砧	北部	600	24	97,235	303	50.5%
		南部	250	10	41,077	119	47.6%
	烏山		650	26	104,096	304	46.8%
	無回答		－	－	－	41	－
性別×年齢	男性	計	2,278	－	371,064	915	40.2%
		10歳代・20歳代	411	－	66,539	72	17.5%
		30歳代	349	－	58,637	102	29.2%
		40歳代	437	－	69,583	135	30.9%
		50歳代	443	－	70,371	196	44.2%
		60歳代	266	－	46,502	160	60.2%
		70歳代	226	－	35,602	151	66.8%
		80歳以上	146	－	23,830	99	67.8%
		無回答	－	－	－	0	－
	女性	計	2,722	－	423,450	1,447	53.2%
		10歳代・20歳代	455	－	69,473	120	26.4%
		30歳代	405	－	64,844	186	45.9%
		40歳代	501	－	76,446	264	52.7%
		50歳代	499	－	76,096	293	58.7%
		60歳代	343	－	48,679	240	70.0%
		70歳代	271	－	43,446	200	73.8%
		80歳以上	248	－	44,466	143	57.7%
		無回答	－	－	－	1	－
	その他		－	－	－	12	－
	無回答		－	－	－	30	－

６．この報告書のみかた

（１）百分比は回答者数（該当設問においては該当者数）を 100％として算出し、本文及び図表の数字はすべて小数点第２位を四捨五入してある。したがって、比率の合計が必ずしも 100.0％にならない場合がある。同様に、複数の回答の合計値も図表の数字が一致しない場合がある。

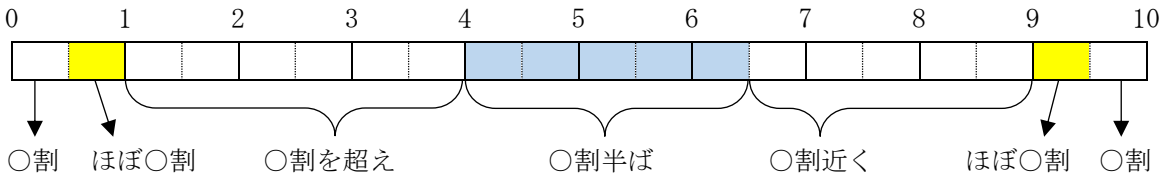
（２）設問中に特に指示がない限り、回答は１つである。

（３）複数回答の設問は、すべての比率の合計が 100.0％を超えることがある。

（４）設問に対して無回答があったクロス集計による分析では、各回答者数の合計が全体の回答者数と一致していない。

（５）基数が 30 に満たないデータについては参考値とする。

（６）数値を考察するにあたり、割合の表現は以下のとおりとしている。



（例：73.5％⇒７割を超え、38.3％⇒４割近く、59.5％⇒６割となる）

７．標本誤差

下記は二段抽出の標本誤差算出の数式である。

（標本誤差） $b = 2\sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$

N=母集団（世田谷区全体）
n＝比率算出の基礎（サンプル数）
p=回答比率

Ｎはnより非常に大きいため、$\frac{N-n}{N-1} \fallingdotseq 1$とみなすことができるので、標準誤差の範囲は、次の標本誤差早見表のとおり求められる。

標 本 誤 差 早 見 表

基数(n) ＼ 回答比率(p)				10%または90%前後	20%または80%前後	30%または70%前後	40%または60%前後	50%前後
総数			2,404	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.9%
地域	世田谷	東部	375	± 4.4%	± 5.8%	± 6.7%	± 7.2%	± 7.3%
		西部	273	± 5.1%	± 6.8%	± 7.8%	± 8.4%	± 8.6%
	北沢	東部	183	± 6.3%	± 8.4%	± 9.6%	± 10.2%	± 10.5%
		西部	199	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
	玉川	北部	233	± 5.6%	± 7.4%	± 8.5%	± 9.1%	± 9.3%
		南部	228	± 5.6%	± 7.5%	± 8.6%	± 9.2%	± 9.4%
		西部	146	± 7.0%	± 9.4%	± 10.7%	± 11.5%	± 11.7%
	砧	北部	303	± 4.9%	± 6.5%	± 7.4%	± 8.0%	± 8.1%
		南部	119	± 7.8%	± 10.4%	± 11.9%	± 12.7%	± 13.0%
	烏 山		304	± 4.9%	± 6.5%	± 7.4%	± 7.9%	± 8.1%
性別	男 性		915	± 2.8%	± 3.7%	± 4.3%	± 4.6%	± 4.7%
	女 性		1,447	± 2.2%	± 3.0%	± 3.4%	± 3.6%	± 3.7%
年代	10・20歳代		196	± 6.1%	± 8.1%	± 9.3%	± 9.9%	± 10.1%
	30歳代		290	± 5.0%	± 6.6%	± 7.6%	± 8.1%	± 8.3%
	40歳代		403	± 4.2%	± 5.6%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.0%
	50歳代		491	± 3.8%	± 5.1%	± 5.8%	± 6.3%	± 6.4%
	60歳代		400	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
	70歳代		354	± 4.5%	± 6.0%	± 6.9%	± 7.4%	± 7.5%
	80歳以上		248	± 5.4%	± 7.2%	± 8.2%	± 8.8%	± 9.0%

基数(n) ＼ 回答比率(p)		10%または90%前後	20%または80%前後	30%または70%前後	40%または60%前後	50%前後
n = 2,500 の場合	(2,500)	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.8%
n = 2,000 の場合	(2,000)	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
n = 1,500 の場合	(1,500)	± 2.2%	± 2.9%	± 3.3%	± 3.6%	± 3.7%
n = 1,000 の場合	(1,000)	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
n = 800 の場合	(800)	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
n = 600 の場合	(600)	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
n = 400 の場合	(400)	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
n = 200 の場合	(200)	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
n = 100 の場合	(100)	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

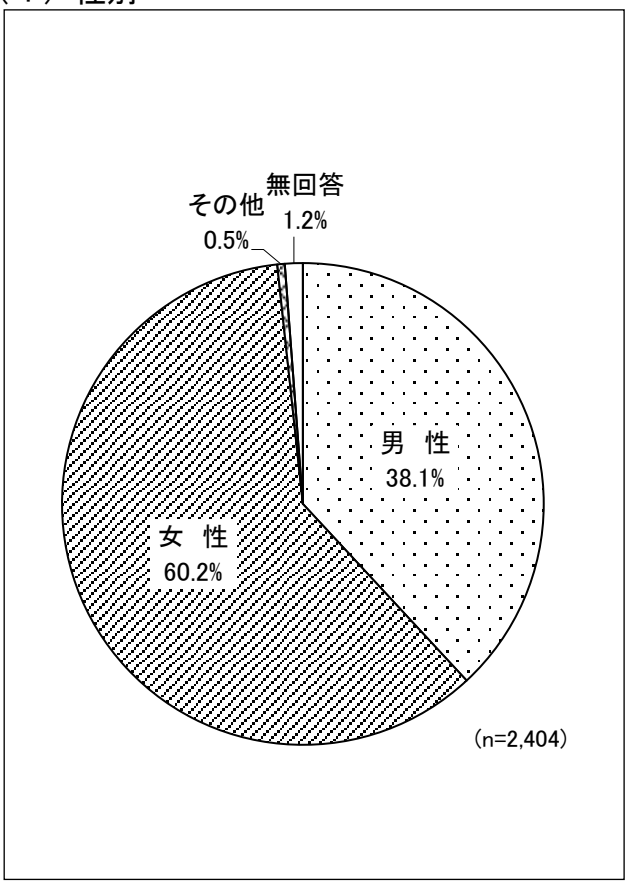
（注）この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答数が 2,404 人であり、その設問の選択肢の回答比率が 40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±2.8%である。」

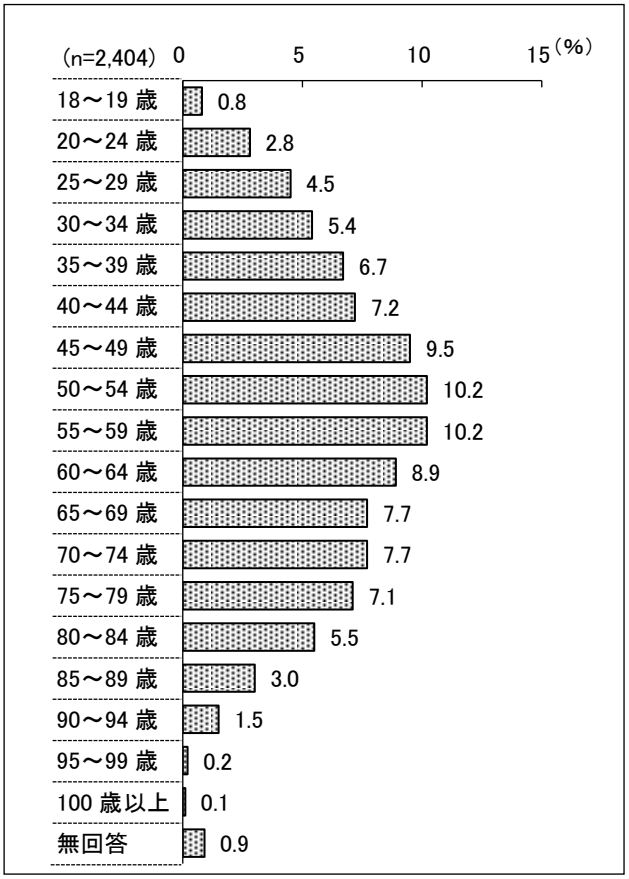
標　本　構　成

１．標本構成

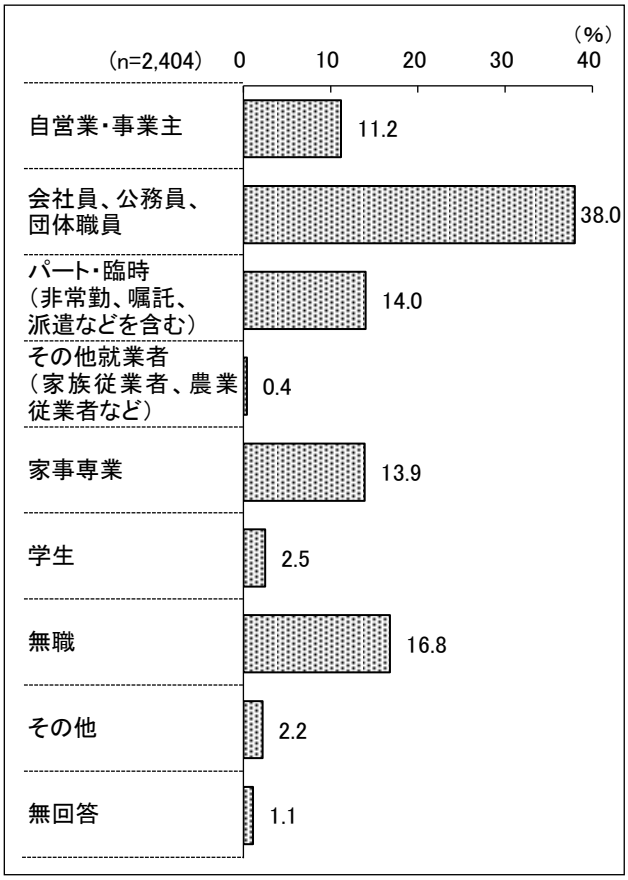
（１）性別



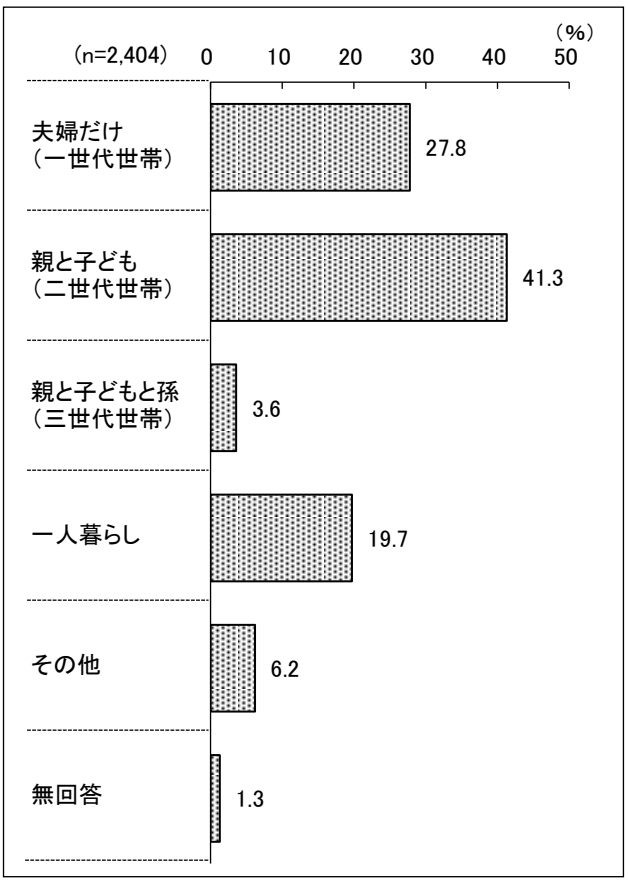
（２）年齢



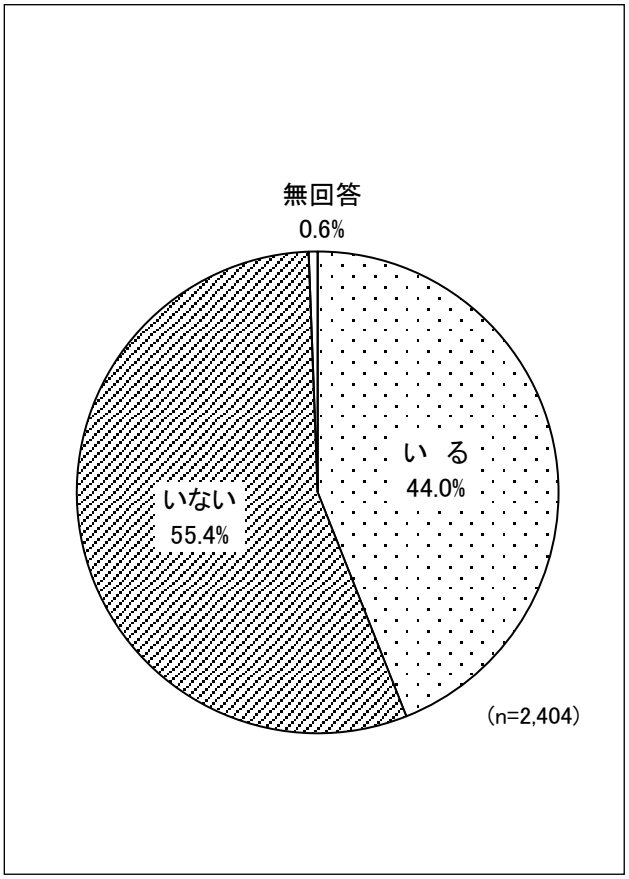
（３）職業



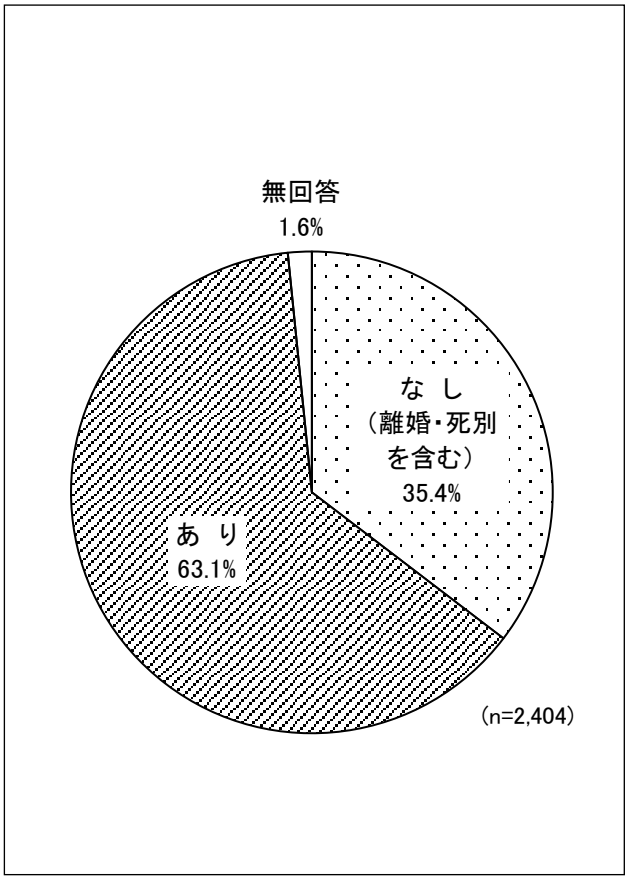
（４）世帯構成



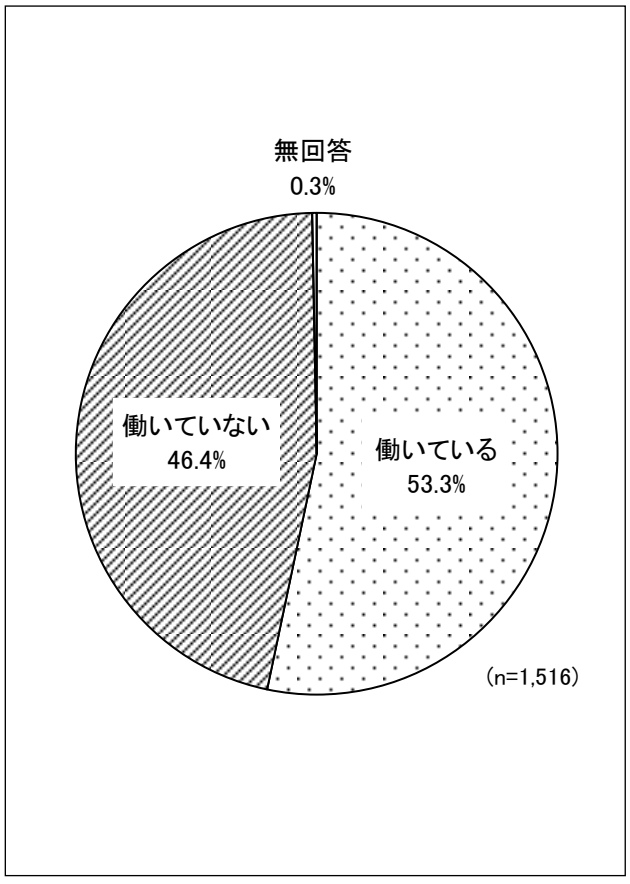
（５）同居家族における高齢者の有無



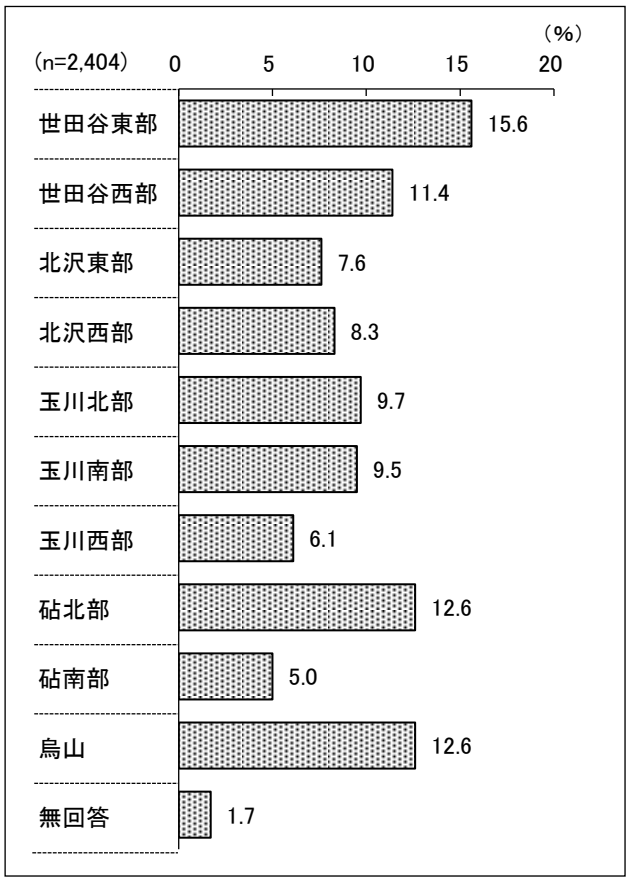
（６）配偶者の有無



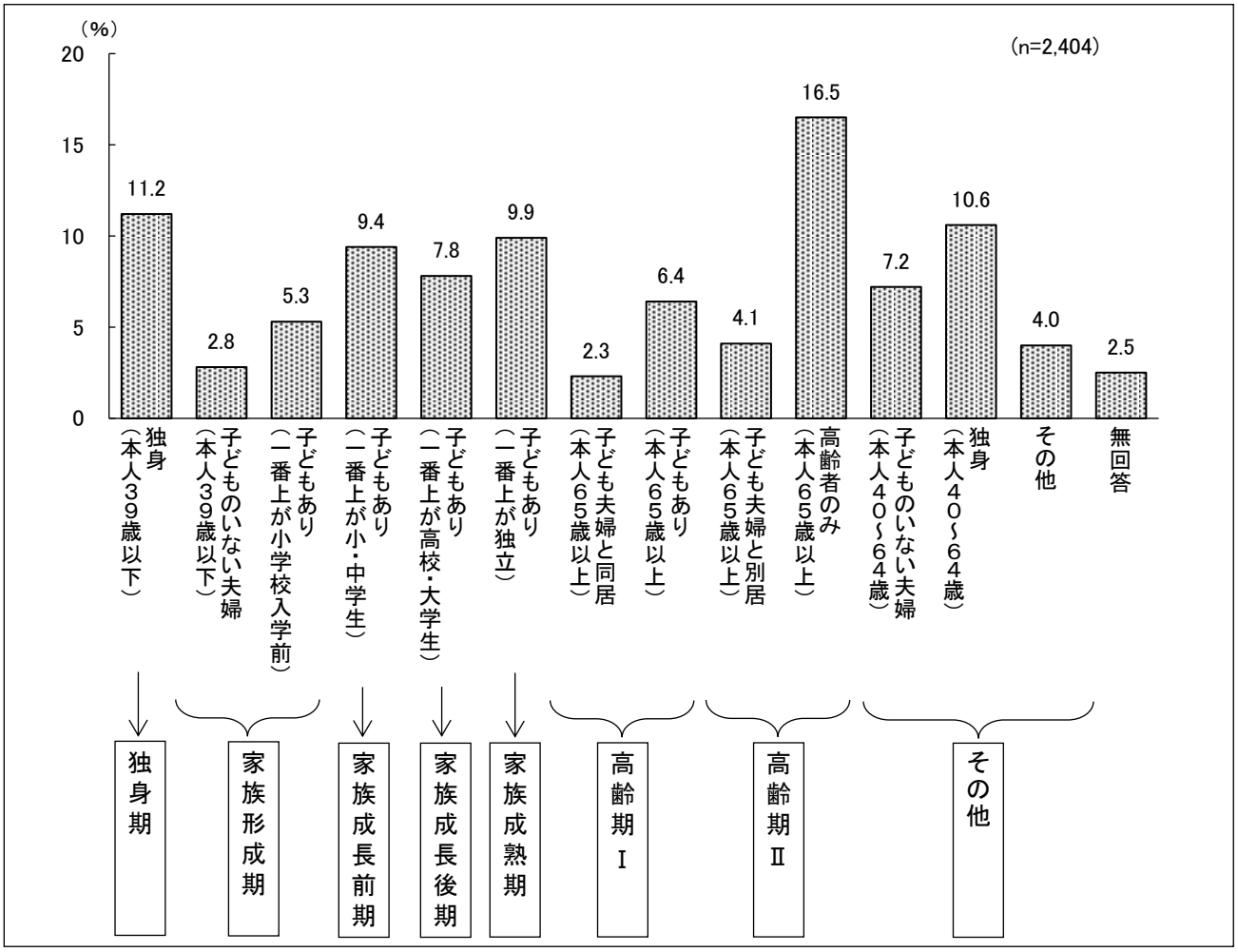
（７）共働きの有無



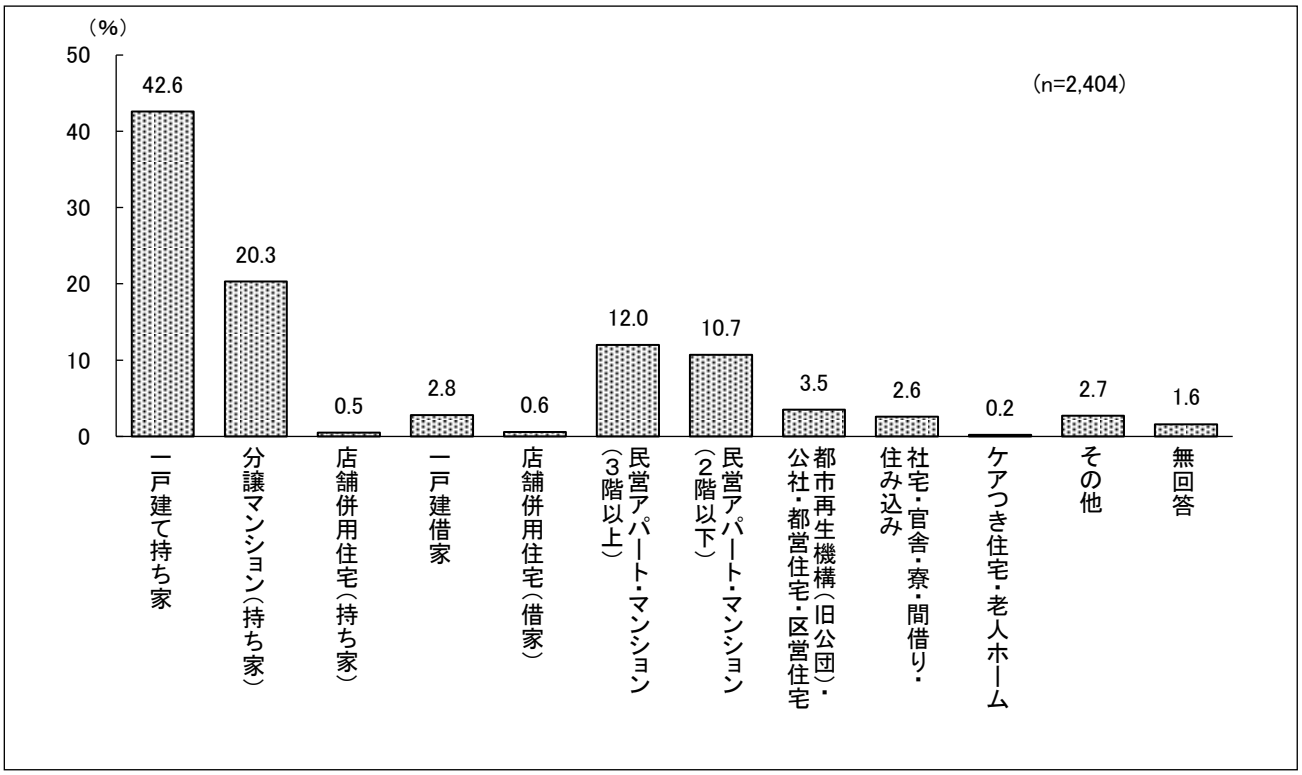
（８）居住地区



（９）ライフステージ



（１０）住居形態



質　問　と　回　答

この調査は世田谷区役所が実施しています

令和６年度　世田谷区民意識調査　調査票

【ご回答にあたってのお願い】

１．封筒の宛名に書かれているご本人がお答えください。
　ただし、事情によりご本人による記入やインターネット操作が難しい場合は、
　ご家族の方が代わりに行っていただいても構いません。
２．回答は、最初から１問ずつ、最後までお答えください。
３．回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
４．質問によって、○をつける数を（１つ）（いくつでも）などと指定していますので、
　その範囲内でお答えください。
５．回答は郵送またはインターネットで行うことができます。

６月５日（水）までに、ご回答いただくようお願いいたします。

≫≫調査の内容などについては下記へお問い合わせください。

せたがやコール　　電話　０３－５４３２－３３３３
午前８時～午後９時（年中無休）

≫≫調査主体　　世田谷区 政策経営部 広報広聴課

郵送による回答方法

１．記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
２．回答のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストに投函してください。

インターネットによる回答方法（文面は日本語と英語です）

パソコン、スマートフォンからご回答いただけます。

ＵＲＬ：https://○○○○/

あなたのＩＤ番号　：　a12345

SAMPLE

１．回答を途中で終了した場合も、再度、ＩＤでログインすることで、続きから回答を再開できます。
２．このＩＤは無作為に配布していますので、個人を特定するものではありません。どなたがどのＩＤであるかは照合できません。
３．インターネットで回答した場合は調査用紙の提出は不要です。

＜インターネットによる回答の手順＞

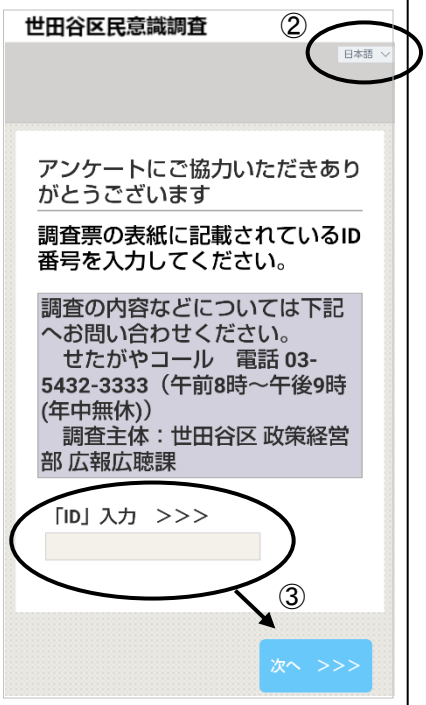
①この調査票の表紙に書かれているＵＲＬまたは二次元コードから回答ページにアクセスしてください。

②画面上に表示する言語は、画面右上の「日本語」または「English」の文字をクリックすると変更することができます。

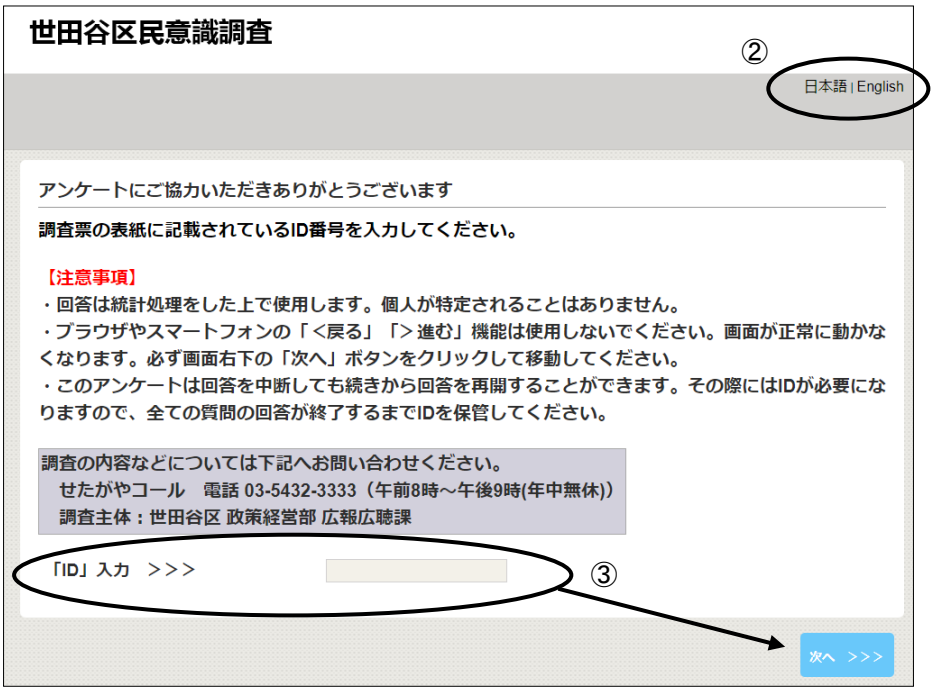
③表紙に書かれている「あなたのＩＤ番号」を入力して、画面右下の「次へ」ボタンをクリックしてください。

④画面の指示に従って回答してください。全ての質問を回答後、「送信」ボタンを押すと、回答が完了します。

［スマートフォン］



［パソコン・タブレット］



n=2, 404

定 住 性

（全員の方に）

問１　あなたは、世田谷区に住んで何年くらいになりますか。（○は１つ）

1	１年未満	2.6	5	１０～１８年未満	15.3
2	１～３年未満	6.8	6	１８～３０年未満	21.8
3	３～６年未満	6.9	7	３０年以上	38.3
4	６～１０年未満	7.5		(無回答)	0.7

（全員の方に）

問２　あなたは、現在の暮らしについてどのように思っていますか。（○は１つ）

1	十分満足している	27.5	3	まだまだ不満だ	8.9
2	十分とはいえないが満足している	59.7	4	きわめて不満だ	1.5
			5	わからない	1.6
				(無回答)	0.9

（全員の方に）

問３　あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。（○は１つ）

1	とても住みやすい	44.3	4	やや住みにくい	3.7
2	やや住みやすい	41.3	5	とても住みにくい	0.6
3	どちらともいえない	9.2		(無回答)	0.9

（全員の方に）

問４　あなたは、これからも世田谷区に住みたいと思いますか。（○は１つ）

1	住みたいと思う	83.1
2	あまり住みたいとは思わない	4.1
3	住みたくない	0.5
4	どちらともいえない	11.4
	(無回答)	0.9

問４－１にお答えください。

→問４－２にお答えください。

→問５にお答えください。

（問４で「１」と答えた方に）(n=1, 998)

問４－１　これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。（○はいくつでも）

1	住み慣れているから	70.0	8	人間関係がよいから	17.7
2	生まれた時からずっと住んでいるから	14.5	9	教育や文化、その他の社会施設などがよく整備されているから	20.2
3	自分の土地（住宅）だから	39.4	10	仕事や商売の関係で	7.4
4	住まいが広いなど住宅事情がよいから	9.3	11	家賃など経済的負担が適当だから	2.2
5	自然や街並みなど生活環境がよいから	48.3	12	子育てがしやすいから	10.0
6	交通や買物など生活に便利だから	65.7	13	その他	2.7
7	通勤・通学など交通の便がよいから	38.7	14	わからない	0.1
				(無回答)	0.2

（問４で「２～３」と答えた方に）(n=110)

問４－２　世田谷区に住みたくない理由はどんなことですか。（○はいくつでも）

1	土地柄になじめないから	13.6	8	地域・近隣との交流がほとんどないから	10.9
2	生まれ育った土地ではないから	22.7	9	教育や文化、その他の社会施設などが整備されていないから	20.9
3	自分の土地（住宅）でないから	9.1	10	仕事や商売の関係で	4.5
4	住まいが狭いなど住宅事情が悪いから	30.9	11	家賃など経済的負担が多いから	40.9
5	自然や街並みなど生活環境が悪いから	21.8	12	子育てがしにくいから	13.6
6	交通や買物など生活に不便だから	21.8	13	その他	18.2
7	通勤・通学など交通の便が悪いから	8.2	14	わからない	0.9
				(無回答)	0.9

（全員の方に）

問５　あなたは、普段生活している地域でどんなことにお困りですか。（○は３つまで）

《街づくり・暮らし》

1	公園やスポーツのできるところがない	9.0
2	住宅が密集しすぎている	16.3
3	放置自転車が多くて迷惑	4.5
4	災害時の避難場所が近くにない	4.4
5	地域の治安が悪い	1.2
6	落書き、違法広告、風俗関係のチラシ	2.0
7	子育て環境が整備されていない	2.9
8	区民利用施設が使用しにくい	11.4
9	高齢者施設が使用しにくい	4.0
10	買い物が不便	9.2

《交通》

11	交通が不便	8.2
12	車など交通が激しい	11.4
13	電車の踏み切りがなかなか渡れない	14.9
14	道路が狭くて危険	25.0

《環境・ごみ》

15	騒音や振動が気になる	9.4
16	空気の汚れがひどい	3.5
17	空き缶・たばこなどのポイ捨て	9.6
18	路上喫煙などのたばこマナーが悪い	10.4
19	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない	7.7
20	カラスなどの鳥獣による被害	20.9
21	犬、猫などのペット公害	6.0
22	その他	7.1
23	特にない	14.9
	(無回答)	2.8

区　　政

（全員の方に）

問６　あなたは、今後世田谷区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思いますか。（○は３つまで）

《健康・福祉》

1	健康づくりの推進	12.1
2	見守り施策や地域支えあいの推進など、区民・事業者との協働による地域づくり	14.0
3	高齢者福祉の充実	24.8
4	障害者福祉の充実	5.6
5	生活困窮者への支援	7.7

《子ども若者・教育》

6	若者が力を発揮する地域づくり	12.3
7	生涯学習の充実	5.9
8	ＩＣＴ（情報通信技術）の推進	6.3
9	子どもが育つ環境づくり	19.8
10	質の高い学校教育の推進	13.0
11	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	11.2

《暮らし・コミュニティ》

12	地域コミュニティの促進	7.8
13	防犯・地域安全の対策	24.5
14	消費者の支援	11.4
15	多様性の尊重（人権尊重・男女共同参画の推進など）	4.6
16	文化・芸術の推進	9.0
17	生涯スポーツの推進	5.0
18	清掃・資源リサイクルの推進	8.5
19	産業振興・雇用促進	2.9

《都市づくり》

20	災害に強いまちづくり	33.5
21	住宅政策	5.9
22	公園・緑地の整備	11.7
23	自然環境の保護	10.7
24	都市景観の保全や創出	4.7
25	交通ネットワークの整備	11.7
26	道路の管理保全	10.1
27	その他	1.7
28	特にない	3.7
	(無回答)	1.3

職 員 応 対

（全員の方に）

問７　区の窓口や応対について印象はいかがでしたか。（○は１つ）

１	とても良かった	*31.6*	問７－１にお答えください。
２	やや良かった	*35.6*	
３	どちらともいえない	*26.3*	→問８にお答えください。
４	やや悪かった	*3.2*	→問７－２にお答えください。
５	とても悪かった	*0.6*	
	（無回答）	*2.8*	

（問７で「１～２」と答えた方に）　*(n=1,614)*

問７－１　印象が良かった点はどれですか。（○は２つまで）

１	説明がわかりやすかった	*27.9*	４	親切・丁寧な対応だった	*60.5*
２	応対が正確・迅速だった	*38.0*	５	言葉遣いが丁寧だった	*9.4*
３	さわやかな対応だった	*8.8*		*（無回答）*	*1.0*

（問７で「４～５」と答えた方に）　*(n=91)*

問７－２　印象が悪かった点はどれですか。（○は２つまで）

１	説明がわかりにくい	*24.2*	４	不親切な対応だった	*52.7*
２	応対で待たされた	*31.9*	５	言葉遣いが悪い	*14.3*
３	たらい回しにされた	*30.8*		*（無回答）*	*1.1*

（全員の方に）

問８　今後、職員応対について、どのような点に注意すべきだと思いますか。（○は３つまで）

１	身だしなみ	*2.9*	６	待たせない事務処理の工夫	*45.3*
２	わかりやすい説明	*38.1*	７	窓口を明るい雰囲気に変える	*9.5*
３	名札の着用	*2.1*	８	プライバシーへの配慮	*12.9*
４	さわやかな挨拶	*6.6*	９	その他	*2.9*
５	親切・丁寧な対応	*36.7*	10	特にない	*19.1*
				（無回答）	*6.9*

広　　報

区では、区の取り組みや地域の身近な情報などを広報紙やホームページ、ＳＮＳなどを使って配信しています。

（全員の方に）

問９　あなたは、区の取り組みや地域の身近な情報をどこから得ていますか。（○はいくつでも）

1	区のおしらせ「せたがや」（広報紙）	*43.8*	9	エフエム世田谷	*1.3*
2	区のホームページ	*25.6*	10	せたがや便利帳	*7.5*
3	区公式Ｘ（旧Ｔｗｉｔｔｅｒ）	*3.2*	11	せたがやコール（お問い合わせセンター）	*1.5*
4	区公式Ｆａｃｅｂｏｏｋ	*0.3*	12	区広報板（区が設置している掲示板）	*13.4*
5	区公式ＬＩＮＥ	*3.8*	13	区作成のチラシ・パンフレット	*8.4*
6	区公式Ｉｎｓｔａｇｒａｍ	*0.3*	14	町会・自治会の回覧板	*21.6*
7	メール配信サービス（メールマガジン）	*3.3*	15	その他	*1.8*
8	マチイロ（スマートフォン用アプリ）	*0.2*	16	特に入手していない	*25.2*
				（無回答）	*1.0*

（全員の方に）

問１０　区が発信する取り組みや情報の中で、もっと知らせてほしいと思うものはどれですか。（○はいくつでも）

1	区の施策や計画・財政状況	*16.8*	9	ごみ収集・リサイクル	*22.1*
2	区の手続き（届出や証明、申請など）	*25.7*	10	環境・エネルギー	*5.0*
3	税金・年金・保険	*29.8*	11	区施設の利用に関する情報	*22.0*
4	防犯や災害対策	*22.0*	12	区の催し物・イベント情報	*30.6*
5	子ども・子育てや教育	*15.6*	13	身近な地域の紹介	*13.2*
6	健康・医療や福祉	*25.8*	14	オンラインサービス情報（申請・相談など）	*17.2*
7	住まいや道路・交通、まちづくり	*16.5*	15	その他	*1.1*
8	仕事・就労	*8.0*	16	特にない	*10.5*
				（無回答）	*1.8*

福祉と医療

（全員の方に）

問１１　あなたは、介護や医療が必要になっても世田谷区に住み続けたいですか。（○は１つ）

1	そう思う	*36.0*	3	あまりそう思わない	*8.5*
2	どちらかといえばそう思う	*34.6*	4	そう思わない	*2.6*
			5	わからない	*17.6*
				（無回答）	*0.6*

（全員の方に）

問１２　あなたは、区内２８地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会が連携して相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。（○は１つ）

1	利用したことがある	*17.4*
2	名称は知っている	*26.5*
3	名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている	*9.1*
4	知らない	*46.4*
	（無回答）	*0.6*

（全員の方に）

問１３　あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。（○は１つ）

1	自分、または身近な人が利用している	*10.7*
2	利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）	*19.6*
3	利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いは知らない）	*36.2*
4	知らない	*32.9*
	（無回答）	*0.6*

人生の最終段階にどのような治療やケアを望むのかを、医療・介護関係者や家族などの信頼できる身近な人と繰り返し話し合うプロセスを「ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）」といいます。

（全員の方に）

問１４　あなたは、「ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）」を知っていますか。（○は１つ）

1	知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある	*4.3*
2	知っているが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはない	*10.0*
3	「ＡＣＰ」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する治療やケアについて話し合ったことはある	*13.9*
4	知らないし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともない	*71.2*
	（無回答）	*0.6*

区は、誰もが安心して暮らすことができ、誰一人取り残さない世田谷をつくるため、包括的な支援体制を構築し、地域福祉を推進しています。

（全員の方に）

問１５　あなたは、あなたに不安や悩みが生じた場合、身近に相談相手はいますか。（○は１つ）

1	いる	*82.1*	2	いない	*17.2*	*（無回答）*	*0.7*

（全員の方に）

問１６　あなたは現在日常生活において不安や悩みを感じることはありますか。（○は１つ）

１　ある	*51.3*	問１６－１にお答えください。
２　ない	*46.4*	→問１７にお答えください。
（無回答）	*2.3*	

（問１６で「１」と答えた方に）　*(n=1,234)*

問１６－１　あなたは、日常生活における不安や悩みについて、行政機関やＮＰＯなどの民間団体から支援を受けていますか。（○は１つ）

１　受けている	*7.2*	２　受けていない	*92.8*	*（無回答）*	*0.0*

（全員の方に）

問１７　不安や悩みを抱えている周りの人へ声掛けをするなどの地域住民同士の支え合いについて、最も近い考え方はどれですか。（○は１つ）

１　必要であり、積極的に声掛けをしたい	*18.9*	３　地域住民同士の支え合いは必要ない	*5.2*
２　必要だと思うが、自分では声掛けはできない	*52.7*	４　その他	*3.5*
		５　わからない	*16.6*
		（無回答）	*3.1*

認知症とは、脳の病気や様々な原因によって脳の働きが低下し、日常生活や社会生活を送るうえで支障が出てくる状態（暮らしの障害）をいいます。区では、一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまちを目指して、令和２年に「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」を制定しました。

（全員の方に）

問１８　あなたは、認知症についてどのような印象・考えをお持ちですか。（○はいくつでも）

１　認知症は、高齢者がなるもので、自分には関係がない	*1.9*
２　認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある	*88.5*
３　認知症になってからも、自分なりにできることがある	*22.8*
４　認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる	*15.5*
５　あてはまるものはない	*4.0*
（無回答）	*1.4*

子　育　て

（全員の方に）

問１９　あなたは、世田谷区は子育てをしやすいまちだと感じますか。（○は１つ）

１　とても子育てしやすいと感じる	*7.3*	３　あまり子育てしやすいと感じない	*12.1*
２　子育てしやすいと感じる	*42.2*	４　まったく子育てしやすいと感じない	*1.2*
		５　わからない	*34.7*
		（無回答）	*2.5*

災害時の備え

（全員の方に）

問２０　あなたは、防災に対して日頃から心がけていることはありますか。次の（１）から（３）の項目について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

	心がけている	どちらかといえば心がけている	どちらかといえば心がけていない	心がけていない	わからない	*(無回答)*
（１）防災知識の向上	*15.1*	*51.5*	*20.9*	*7.0*	*4.0*	*1.5*
（２）地区での避難所運営訓練や防災塾への参加	*3.0*	*12.1*	*24.8*	*44.1*	*13.6*	*2.4*
（３）※避難行動要支援者の支援	*3.4*	*13.9*	*22.3*	*33.0*	*24.6*	*2.8*

※避難行動要支援者・・要介護高齢者などや障害者のうち、身体の障害などの理由により、災害時に自力で自宅外へ避難することが困難な方や、自ら救出を求めることが困難な方

区では、水害から身を守るために、日頃の備えとして役立てていただくため、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を作成しています。「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」とは、水害リスクと区民のとるべき行動が確認できるよう、浸水のおそれがある範囲や浸水の深さ、避難所、避難行動、情報収集方法などを掲載しているものです。令和２年９月に区内全戸へ配布したほか、令和３年８月からは玉川・砧地域の転入届窓口でも配布しています。

（全員の方に）

問２１　あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を持っていますか。（○は１つ）

１	持っている	*48.3*
２	持ってはいないが、見たことがある	*25.8*
３	持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある	*13.3*
４	持っていないし、聞いたこともない	*11.2*
	(無回答)	*1.3*

区では在宅避難を推奨しています。震災時の避難所は、火災や倒壊により自宅で生活できなくなった方々を受け入れる施設です。自宅が無事である場合は、家庭で備蓄した水や食料などを使いながら、自宅で過ごす「在宅避難」が原則となります。在宅避難にご協力いただくことが、避難所の過密化対策のためにとても大切です。

（全員の方に）

問２２　あなたは区が在宅避難を推奨していることを知っていましたか。（○は１つ）

１	知っている	*37.0*	２	知らない	*61.8*	*(無回答)* *1.2*

（全員の方に）

問２３　あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。（○は１つ）

１	１～２日分	*22.3*	４	１週間分以上	*10.4*
２	３日分	*31.9*	５	水や食料の備蓄はしていない	*14.3*
３	４～６日分	*20.3*		*(無回答)*	*0.9*

（全員の方に）

問２４　あなたのご家庭では、災害に備えて非常用電力の備蓄をしていますか。（○はいくつでも）

１	小型発電機を備蓄している	*3.0*	５	太陽光蓄電池を設置している	*4.3*
２	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	*7.0*	６	ＥＶ車などから電源を確保することができる	*2.5*
３	モバイルバッテリーを備蓄している	*26.9*	７	備蓄していない	*58.0*
４	手回し発電機を備蓄している	*10.0*		*(無回答)*	*1.9*

（全員の方に）

問２５　あなたのご家庭では、携帯トイレを何日分備蓄していますか。（○は１つ）

１	１～２日分	*18.0*	４	１週間分以上	*8.8*
２	３日分	*13.5*	５	携帯トイレの備蓄はしていない	*47.5*
３	４～６日分	*11.1*		*(無回答)*	*1.0*

地 域 コミュニティ

（全員の方に）

問２６　あなたは、※身近な地域の活動に参加していますか。（○は１つ）

１	参加している	*15.9*
２	今は参加していないが、今後参加してみたい	*15.2*
３	参加していない	*67.9*
	(無回答)	*1.0*

※身近な地域の活動・・町会・自治会、ＮＰＯ・ボランティア、子育て支援活動、青少年健全育成活動、高齢者支援活動、お祭り・イベント、防犯・防災活動、介護予防・健康づくり活動、スポーツ活動、文化・芸術活動、環境美化・リサイクル活動、交通安全活動、コミュニティ・ビジネスなど

文　化　活　動

（全員の方に）

問２７　あなたは、区内にある美術館や文学館、劇場、文化財・史跡などの文化資源について、どの程度、ご存知ですか。次の（１）から（３）の項目について、あてはまるものを選んでください。
（○はそれぞれ１つずつ）

	行ったことがある	知っているが、行ったことはない	聞いたことがある	知らない	*(無回答)*
（１）世田谷美術館や世田谷文学館、世田谷パブリックシアターなどの公立の文化施設	*56.1*	*26.1*	*6.1*	*10.5*	*1.2*
（２）五島美術館や大学付属の博物館などの民間の文化施設	*23.7*	*35.1*	*9.4*	*30.5*	*1.3*
（３）世田谷代官屋敷や郷土資料館、次大夫堀公園民家園、野毛大塚古墳などの歴史的な文化資源	*42.2*	*27.0*	*8.0*	*21.6*	*1.1*

多　文　化　共　生

（全員の方に）

問２８　あなたは、「外国人住民と日本人住民が共に暮らす」という視点からみて、世田谷区は多文化共生が進んでいると思いますか。（○は１つ）

１　そう思う	*8.0*	３　どちらかといえばそう思わない	*17.7*
２　どちらかといえばそう思う	*36.3*	４　そう思わない	*7.6*
		５　わからない	*29.6*
		(無回答)	*0.7*

（全員の方に）

問２９　区では、外国人等が地域住民の一人として地域社会に参加・活躍できるように、地域のおまつりや防災訓練、ボランティア活動などへの参加を促進しています。
あなたは、外国人等の地域活動への参加が進んでいると思いますか。（○は１つ）

１　そう思う	*2.9*	３　どちらかといえばそう思わない	*22.5*
２　どちらかといえばそう思う	*14.7*	４　そう思わない	*11.6*
		５　わからない	*47.5*
		(無回答)	*0.8*

（全員の方に）

問３０　区では、多様な文化を理解し合える交流イベントなどを開催し、区民一人ひとりが互いの文化について理解を深め、偏見や差別を解消することで、多文化共生社会の実現を目指しています。
あなたは、区内において外国人等に対する偏見や差別が減少していると思いますか。（○は１つ）

１　そう思う	*6.4*	３　どちらかといえばそう思わない	*11.3*
２　どちらかといえばそう思う	*29.2*	４　そう思わない	*4.8*
		５　わからない	*47.5*
		(無回答)	*0.8*

健　康　づくり

区は、区民一人ひとりが自身の健康に関心を持ち、主体的な健康づくりへの取り組みを推進するとともに、区民や地域団体、事業者とともに安全で安心して生活できる環境やしくみの整備を進めることで、生涯にわたり健やかでこころ豊かに暮らすことができるまちの実現を目指しています。

（全員の方に）

問３１　あなたは、１日にあわせてどのくらい歩きますか。（通学・通勤のための徒歩や室内の移動、散歩を含む）（○は１つ）

1	３０分未満	*26.8*	4	１時間以上１時間３０分未満	*13.7*
2	３０分以上４５分未満	*25.4*	5	１時間３０分以上	*14.1*
3	４５分以上１時間未満	*18.9*		*（無回答）*	*1.0*

スポーツ

区では、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、楽しむことのできる生涯スポーツ社会の実現を目指しています。

（全員の方に）

問３２　あなたがこの１年間にスポーツや運動（ウォーキングや軽い体操、介護予防のためのトレーニング、様々なレクリエーションなどを含む）を行った回数はどのくらいですか。（○は１つ）

1	週に３回以上	*21.5*	5	３か月に１～２回	*5.5*
2	週に２回程度	*16.2*	6	年に１～３回	*4.7*
3	週に１回程度	*17.3*	7	行わなかった	*21.3*
4	月に１～３回	*12.5*		*（無回答）*	*0.9*

（全員の方に）

問３３　あなたは、スポーツが生活の質の向上に役立っていると感じますか。（○は１つ）

1	とても役立っていると感じる	*25.5*	3	あまり役立っていると感じない	*6.0*
2	役立っていると感じる	*50.5*	4	まったく役立っていると感じない	*1.6*
			5	わからない	*15.5*
				（無回答）	*0.9*

（全員の方に）

問３４　あなたは、スポーツを通じて新たな交流が生まれていると感じますか。（○は１つ）

1	とても感じる	*16.8*	3	あまり感じない	*19.3*
2	どちらかといえば感じる	*35.7*	4	まったく感じない	*6.7*
			5	わからない	*20.6*
				（無回答）	*1.0*

（全員の方に）

問３５　あなたは、スポーツが地域の活性化に役立っていると思いますか。（○は１つ）

1	とても役立っていると思う	*9.7*	3	あまり役立っていると思わない	*14.0*
2	役立っていると思う	*39.6*	4	まったく役立っていると思わない	*3.0*
			5	わからない	*32.6*
				（無回答）	*1.0*

ユニバーサルスポーツとは、誰もが楽しむことができるスポーツを指します。（ボッチャをはじめとしたパラスポーツや、レクリエーションスポーツなど）

（全員の方に）

問３６　あなたは、ユニバーサルスポーツに関心がありますか。（○は１つ）

１　とても関心がある	*3.4*	３　あまり関心がない	*42.1*
２　関心がある	*26.0*	４　まったく関心がない	*11.3*
		５　わからない	*16.0*
		（無回答）	*1.2*

交　　通

区では、区民、交通事業者、区が協力・連携して総合的に「交通まちづくり」に取り組み、交通ネットワークの充実や、公共交通が不便な地域における移動環境の改善などを図ることで、様々な交通手段を活用し、誰もが快適に安全・安心な移動ができるまちを目指しています。

（全員の方に）

問３７　あなたは、区内の交通手段（移動手段）に満足していますか。（○は１つ）

１　満足している	*20.5*	３　どちらかといえば満足していない	*21.0*
２　どちらかといえば満足している	*48.8*	４　満足していない	*8.4*
		（無回答）	*1.2*

（全員の方に）

問３８　あなたは、ふだん、どのくらい自転車を利用していますか。（○は１つ）

１　週５日以上	*21.3*	
２　週３日程度	*12.1*	問３８－１にお答えください。
３　週１日程度	*11.4*	
４　（あまり）利用していない	*53.2*	→ 問３９にお答えください。
（無回答）	*2.1*	

（問３８で「１～３」と答えた方に）　*（n=1,075）*

問３８－１　自転車を利用する主な用途は何ですか。（○は１つ）

１　通勤・通学（鉄道駅までの間）	*14.0*	４　子どもの送り迎え	*9.4*
２　通勤・通学（目的地までの間）	*14.2*	５　レジャー、スポーツ	*7.2*
３　買い物	*44.9*	６　その他	*5.0*
		（無回答）	*5.2*

（全員の方に）

問３９　あなたは、ここ１年間で歩行時に自転車とぶつかった、あるいはぶつかりそうになったことがありますか。（○は１つ）

１　ある	*41.1*	２　ない	*57.7*	*（無回答）*	*1.2*

み　ど　り

区では２０３２年（区制１００周年）までに区内の※1みどり率３３パーセントの達成を目標に掲げて「世田谷みどり３３」を推進しています。

また、私たちの暮らしは、食べ物や水、自然とのふれあい、気候の調整など、多様な生きものが関わり合いながらつくる※2生物多様性の恵みに支えられています。区は、生きものと共存し、生物多様性の恵みをみんなが実感できる環境づくりを目指しています。

※1み　ど　り・・土、植物、生物、水など自然を構成する要素と、人とのかかわりによる文化や歴史的な要素

　み ど り 率・・緑が地表を被う部分（樹木地、草地、農地、屋上緑地）に河川などの水面と公園内の緑に被われていない部分を加えた面積が、区の総面積に占める割合

※2生物多様性・・様々な場所で様々な生きものが互いに関係しながら生きていること

（全員の方に）

問４０　みどりを守り増やすために、区に取り組んでほしいことは何ですか。（○はいくつでも）

1	公園や緑地の新たな整備	*52.1*
2	国分寺崖線周辺にある樹林地の保全や回復	*15.8*
3	農業の振興や農地の保全、農業公園の整備	*23.3*
4	民有地における緑化に対する助成制度の拡充	*18.0*
5	樹木の維持管理に対する支援の充実	*39.8*
6	公共施設における更なる緑化の推進	*33.9*
7	条例などによる建築時の規制強化	*18.4*
8	多様な生きものが生息できる環境の保全・創出	*33.2*
9	みどりや公園緑地に関する情報の発信やイベントなどの開催	*17.8*
10	区民参加によるみどりの保全活動への支援や制度の充実	*11.7*
11	みどりの循環の仕組みづくり（落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など）	*27.5*
12	その他	*3.9*
	（無回答）	*3.1*

ふるさと納税

ふるさと納税とは、個人による自治体への寄附であり、原則として、寄附額のうち自己負担額の２，０００円を超える部分が税金の控除対象となります（一定の上限があります）。
ふるさと納税をしていただいた寄附者にお礼として返礼品を用意している自治体が多いです。

（全員の方に）

問４１　世田谷区民も世田谷区にふるさと納税（寄附）をすることができ、所得税や住民税の控除も受けることができます。このことを知っていますか。（○は１つ）

１	知っている	*58.2*	２	知らない	*41.2*
				（無回答）	*0.6*

（全員の方に）

問４２　あなたは令和５年にふるさと納税（寄附）をしましたか。（○は１つ）

１	世田谷区に寄附をした	*0.7*	３	世田谷区と他自治体の両方に寄附をした	*0.5*
２	他自治体に寄附をした	*27.7*	４	寄附はしていない	*70.3*
				（無回答）	*0.8*

（全員の方に）

問４３　制度上、世田谷区から区民の方には返礼品などをお贈りすることはできません。一方、区外からの寄附者へは返礼品をお贈りしています。この区の姿勢として、あなたのお考えに近いものをお選びください。（○は１つ）

１	積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき	*22.8*
２	減収額が大きいので返礼品競争への参加もやむを得ない	*18.7*
３	返礼品競争には加わらず、返礼品の拡充は必要ない	*20.3*
４	その他	*3.3*
５	わからない	*33.5*
	（無回答）	*1.4*

（全員の方に）

問４４　「ふるさと納税」による世田谷区の区民税の減収額は、年々増加し、令和５年度では約９９億円に上ります。この現状を知っていますか。（○は１つ）

１	知っている	*27.7*
２	減収ということは知っていたが、規模（９９億円）までは知らなかった	*31.0*
３	知らなかった	*39.7* → 問45にお答えください。
	（無回答）	*1.5*

問４４－１にお答えください。

（問４４で「１～２」と答えた方に）　*(n=1,413)*

問４４－１　減収の状況を何でお知りになりましたか。（○はいくつでも）

１	テレビや新聞などの報道	*61.1*	５	区公式ＳＮＳ	*1.1*
２	インターネットの記事	*32.1*	６	区長記者会見	*5.9*
３	区のおしらせ	*27.2*	７	その他	*9.6*
４	区のホームページ	*4.7*		*（無回答）*	*1.0*

せたがや Pay

「せたがや Pay」は、区の支援のもと、世田谷区商店街振興組合連合会が２０２１年２月に提供を開始した、世田谷区内で使えるキャッシュレス決済アプリです。

（全員の方に）

問４５　せたがやPay を知っていますか。また、利用したことがありますか。（○は１つ）

１	現在（直近３か月以内）、利用している	*18.1* → Ｆ1にお答えください。
２	過去に利用したことがあるが、現在（直近３か月以内）は利用していない	*6.8* 問４５－１にお答えください。
３	知っているが、利用したことはない	*49.0*
４	知らない	*24.2* → Ｆ1にお答えください。
	（無回答）	*2.0*

（問４５で「２～３」と答えた方に）　*（n=1,341）*

問４５－１　せたがやPay を利用していない理由を教えてください。（○はいくつでも）

１	大型の還元キャンペーンを実施していないため	*10.4*
２	チャージ方法が限られているため	*19.1*
３	使えるお店が少ないため	*27.8*
４	使いたいお店がせたがやPay を導入していないため	*15.1*
５	せたがやPay アプリが使いづらいため	*6.9*
６	決済方法がユーザースキャン方式（客側がコード読込）のみで、ストアスキャン方式（店側がコード読込）がないため	*2.2*
７	そもそもスマートフォンを使用してない、持っていないため	*3.1*
８	アプリのインストール方法や使い方などがわからないため	*16.2*
９	既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため	*44.9*
10	キャッシュレス決済の利用に抵抗があるため	*12.9*
11	個人情報の流出や不正使用などのおそれを感じるため	*14.0*
12	その他	*9.2*
	（無回答）	*0.7*

＊＊＊ 基本項目（フェイスシート）＊＊＊

（全員の方に）

Ｆ１　あなたの性別はどちらですか。（○は１つ）

1	男　性	*38.1*	2	女　性	*60.2*	3	その他　*0.5*　*（無回答）* *1.2*

Ｆ２　あなたの年齢はいくつですか。（○は１つ）

1	１８～１９歳	*0.8*	7	４５～４９歳	*9.5*	13	７５～７９歳	*7.1*
2	２０～２４歳	*2.8*	8	５０～５４歳	*10.2*	14	８０～８４歳	*5.5*
3	２５～２９歳	*4.5*	9	５５～５９歳	*10.2*	15	８５～８９歳	*3.0*
4	３０～３４歳	*5.4*	10	６０～６４歳	*8.9*	16	９０～９４歳	*1.5*
5	３５～３９歳	*6.7*	11	６５～６９歳	*7.7*	17	９５～９９歳	*0.2*
6	４０～４４歳	*7.2*	12	７０～７４歳	*7.7*	18	１００歳以上	*0.1*
							（無回答）	*0.9*

Ｆ３　あなたのご職業は次のどれですか。（○は１つ）

1	自営業・事業主	*11.2*	4	その他就業者（家族従業者、農業従業者など）	*0.4*
2	会社員、公務員、団体職員	*38.0*	5	家事専業	*13.9*
3	パート・臨時		6	学生	*2.5*
	（非常勤、嘱託、派遣などを含む）	*14.0*	7	無職	*16.8*
			8	その他	*2.2*
				（無回答）	*1.1*

Ｆ４　あなたの世帯構成（同居している方）は次のどれですか。（○は１つ）

1	夫婦だけ（一世代世帯）	*27.8*	4	一人暮らし	*19.7*
2	親と子ども（二世代世帯）	*41.3*	5	その他	*6.2*
3	親と子どもと孫（三世代世帯）	*3.6*		*（無回答）*	*1.3*

Ｆ５　回答者ご本人も含めて、同居している方の中に高齢者（６５歳以上の方）はいらっしゃいますか。（○は１つ）

1	い　る	*44.0*	2	いない	*55.4*	*（無回答）*	*0.6*

Ｆ６　配偶者はいらっしゃいますか。（○は１つ）

1	な　し（離婚・死別を含む）　*35.4*	→ **Ｆ７**にお答えください。
2	あ　り　*63.1*	**Ｆ６－１**にお答えください。
（無回答）	*1.6*	

（Ｆ６で「２」と答えた方に）　*（n=1,516）*

Ｆ６－１　あなたと配偶者は、２人とも働いていますか。（○は１つ）

1	働いている	*53.3*	2	働いていない	*46.4*　*（無回答）* *0.3*

（全員の方に）

Ｆ７　あなたご自身は、次のどれにあたりますか。（○は１つ）

1	独　身	25.4	6	子ども夫婦と同居（本人が６５歳以上）	2.3
2	子どもあり（一番上が小学校入学前）	5.3	7	子ども夫婦と別居（本人が６５歳以上）	4.1
3	子どもあり（一番上が小・中学生）	9.4	8	高齢者のみ（本人が６５歳以上）	6.8
4	子どもあり（一番上が高校・大学生）	8.0	9	夫婦のみ	16.2
5	子どもあり（一番上が独立：学校卒業、就職、結婚など）	16.3	10	その他	4.0
				（無回答）	2.2

Ｆ８　あなたの住居形態は次のどれにあたりますか。（○は１つ）

1	一戸建て持ち家	42.6	8	都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅	3.5
2	分譲マンション（持ち家）	20.3	9	社宅・官舎・寮・間借り・住み込み	2.6
3	店舗併用住宅（持ち家）	0.5	10	ケアつき住宅・老人ホーム	0.2
4	一戸建借家	2.8	11	その他	2.7
5	店舗併用住宅（借家）	0.6		*（無回答）*	1.6
6	民営アパート・マンション（３階以上）	12.0			
7	民営アパート・マンション（２階以下）	10.7			

Ｆ９　あなたのお住まいの地域は次のどれですか。（○は１つ）

1	世田谷東部	（池尻、下馬、三宿、太子堂、三軒茶屋、野沢、若林、上馬、駒沢１～２丁目）	15.6
2	世田谷西部	（世田谷、弦巻、宮坂、桜、経堂、桜丘）	11.4
3	北沢東部	（北沢、代沢、大原、羽根木、代田）	7.6
4	北沢西部	（松原、梅丘、豪徳寺、赤堤、桜上水）	8.3
5	玉川北部	（駒沢公園、駒沢３～５丁目、新町、深沢、桜新町、用賀、上用賀、玉川台）	9.7
6	玉川南部	（奥沢、東玉川、玉川田園調布、等々力、尾山台、玉堤）	9.5
7	玉川西部	（中町、野毛、瀬田、上野毛、玉川）	6.1
8	砧北部	（船橋、千歳台、祖師谷、砧、成城）	12.6
9	砧南部	（大蔵、砧公園、岡本、鎌田、喜多見、宇奈根）	5.0
10	烏山	（八幡山、南烏山、粕谷、北烏山、給田、上祖師谷、上北沢）	12.6
		（無回答）	1.7

ご協力ありがとうございました。

※ ご記入いただいた調査用紙は、６月５日までにお送りいただきますようお願いします。

調　査　結　果

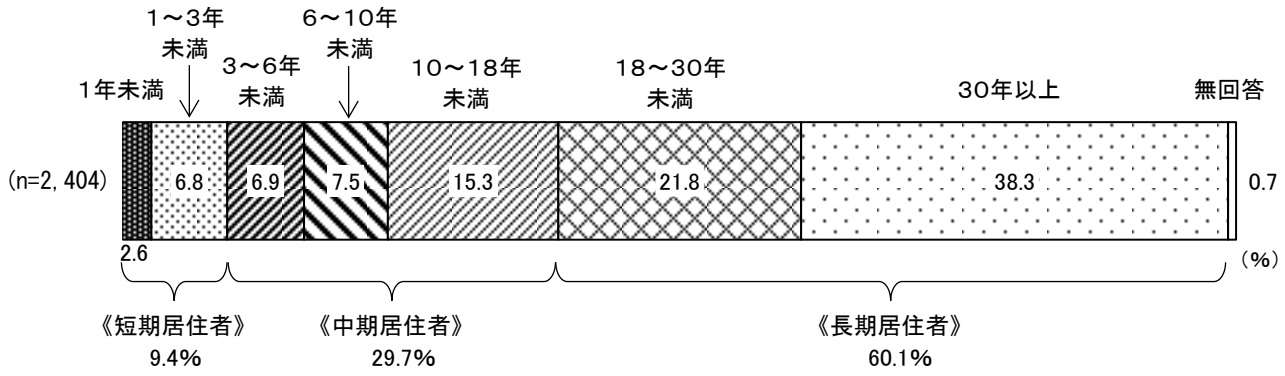
１．定住性

（１）居住年数

◎居住年数 18 年以上の《長期居住者》は６割

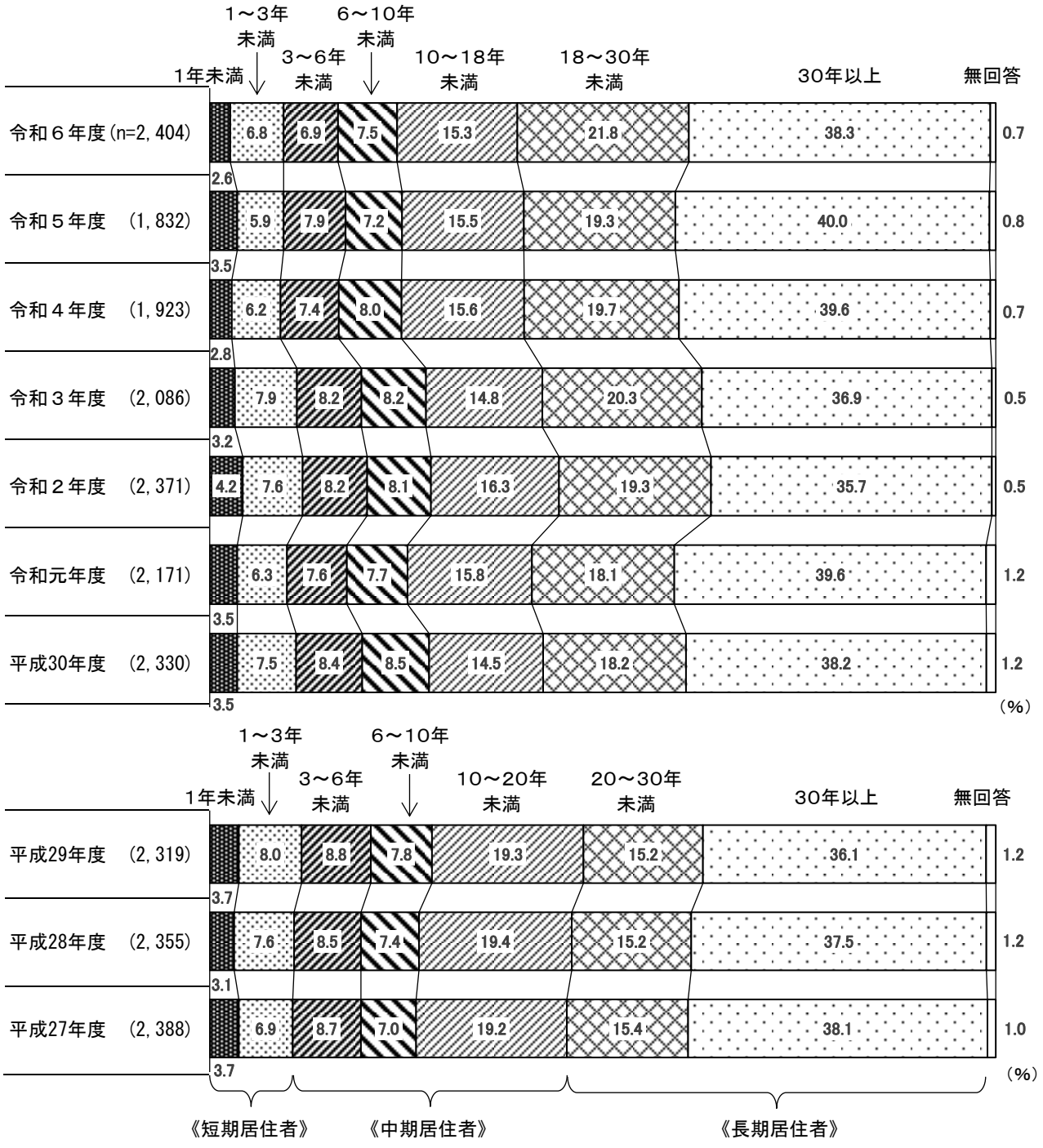
問１　あなたは、世田谷区に住んで何年くらいになりますか。（○は１つ）

図１－１－１



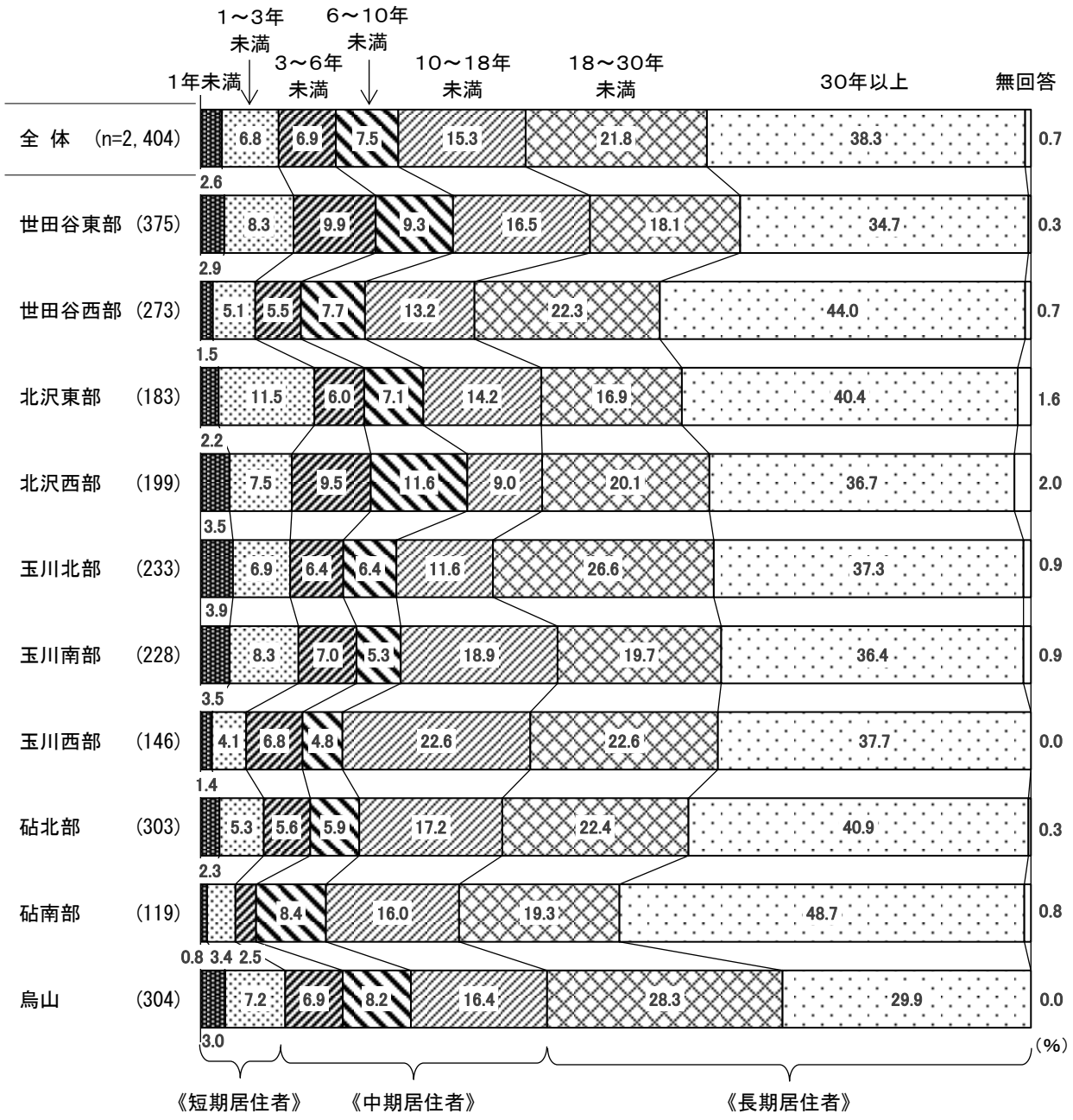
世田谷区での居住年数は、「１年未満」（2.6%）と「１～３年未満」（6.8%）を合わせた《短期居住者》（9.4%）がほぼ１割、「３～６年未満」（6.9%）、「６～10 年未満」（7.5%）、「10～18 年未満」（15.3%）を合わせた《中期居住者》（29.7%）が３割、「18～30 年未満」（21.8%）と「30 年以上」（38.3%）を合わせた《長期居住者》（60.1%）が６割となっている。（図１－１－１）

図１－１－２　居住年数（時系列）



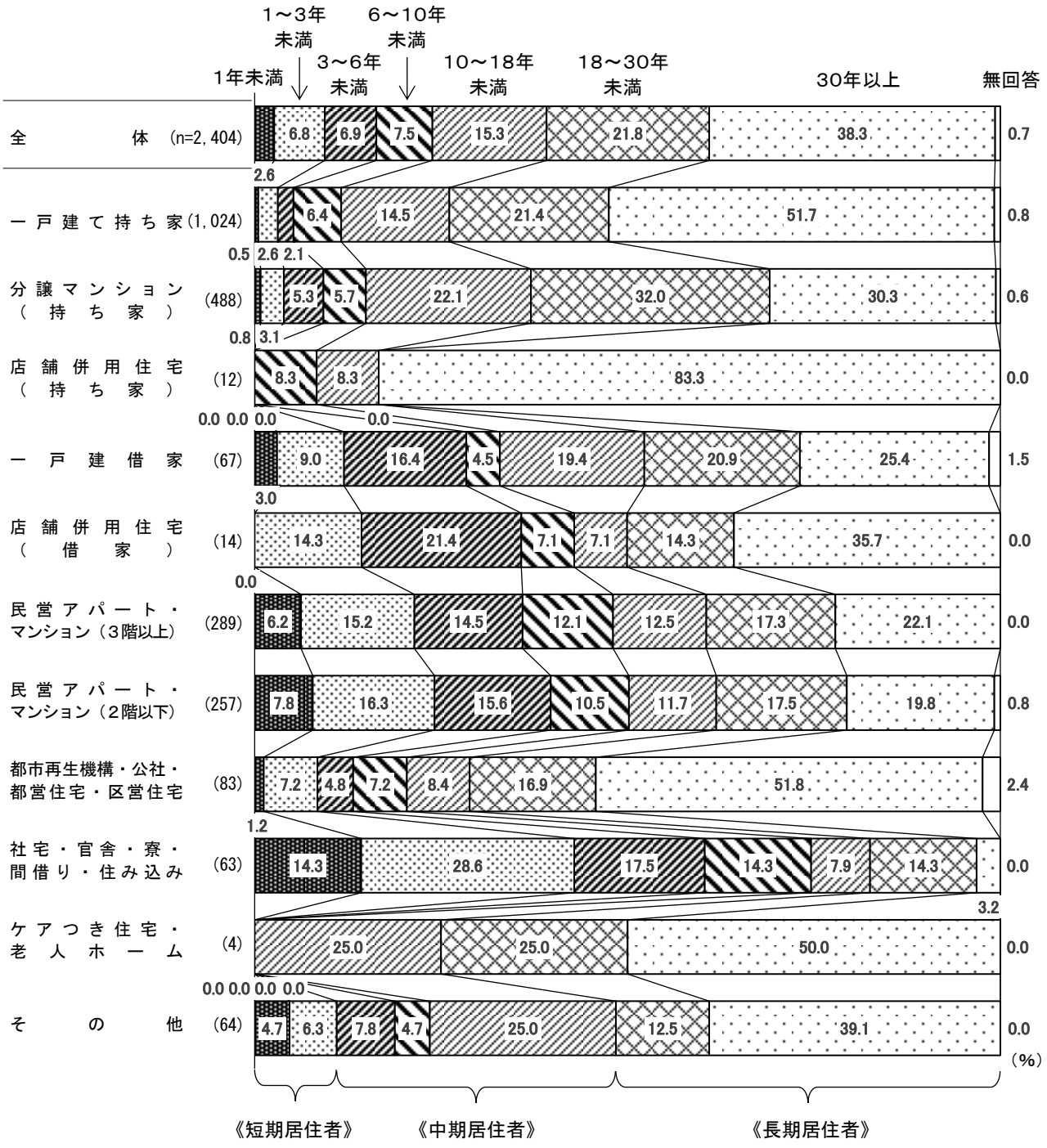
平成 30 年度以降と平成 29 年度以前では、「10～18 年未満」と「18～30 年未満」の区分が異なるが、平成 27 年度からの時系列の変化をみると、《短期居住者》、《中期居住者》、《長期居住者》ともに割合に大きな変化は見られない。《長期居住者》は令和４年度以降は６割前後で推移している。（図１－１－２）

図１－１－３　居住年数（地域別）



地域別にみると、《長期居住者》は砧南部が７割近くで最も高く、世田谷西部で６割半ば、玉川北部、砧北部で６割を超え、玉川西部で６割となっている。《短期居住者》は北沢東部、玉川南部、世田谷東部、北沢西部で１割を超えている。（図１－１－３）

図１－１－４　居住年数（住居形態別）



住居形態別にみると、《長期居住者》は、一戸建て持ち家で７割を超え、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅で７割近くとなっている。《短期居住者》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みで４割を超えている。（図１－１－４）

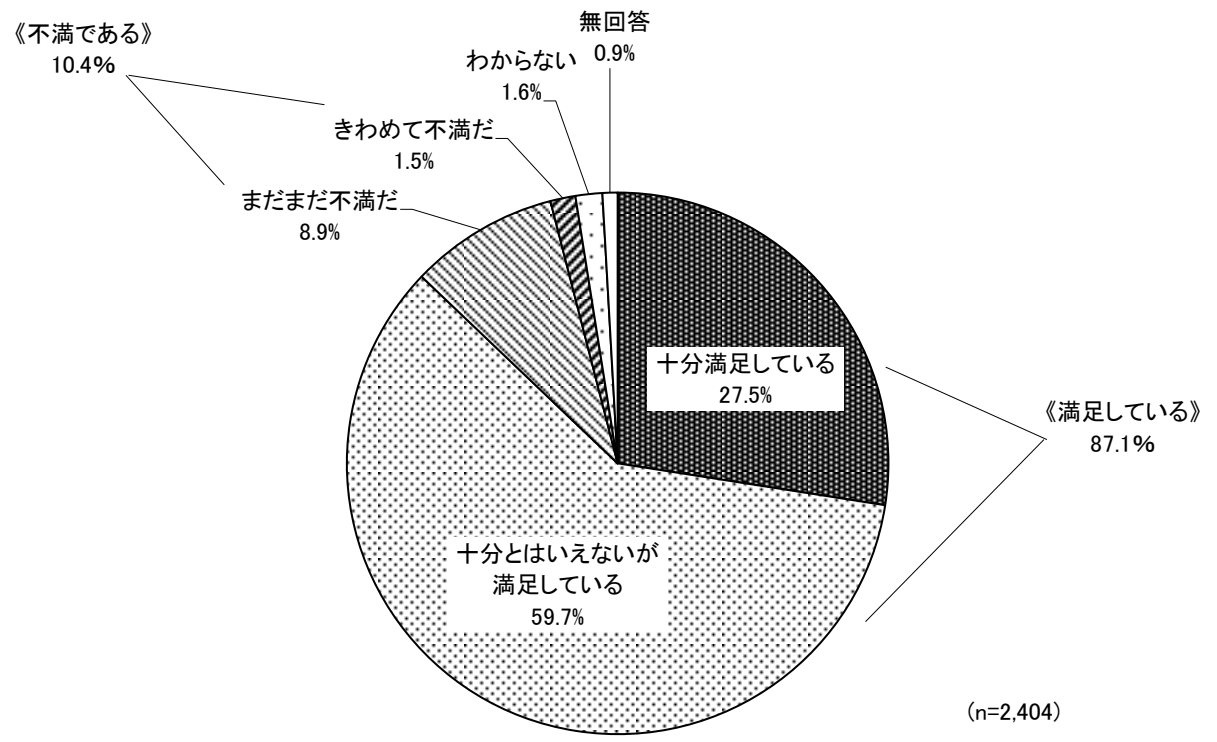
なお、基数(n)が 30 に満たない層については参考値とする。

（２）暮らしの満足度

◎《満足している》が９割近く

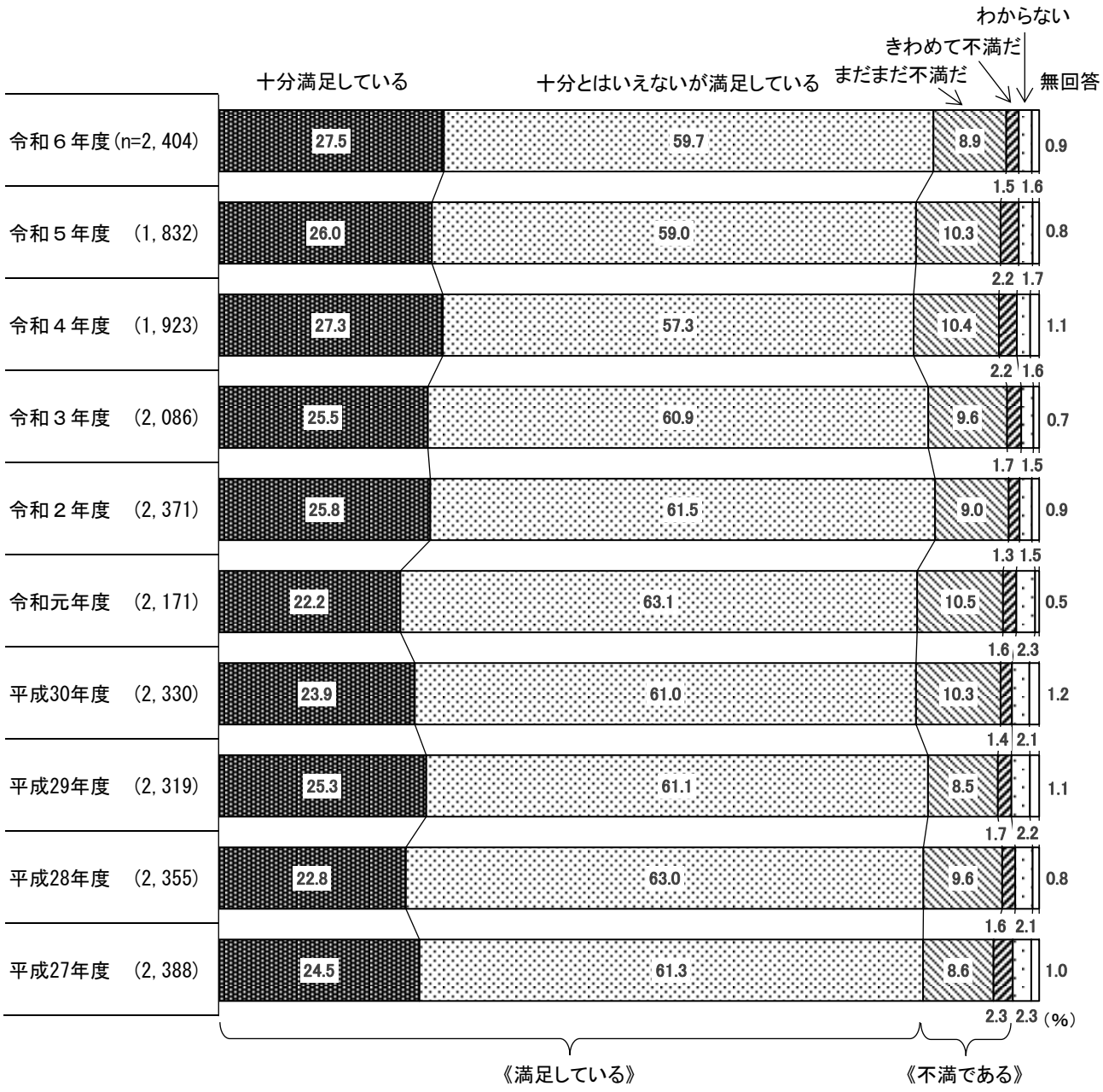
問２　あなたは、現在の暮らしについてどのように思っていますか。（○は１つ）

図１－２－１



現在の暮らしについてどのように思っているか聞いたところ、「十分満足している」（27.5%）と「十分とはいえないが満足している」（59.7%）を合わせた《満足している》（87.1%）が９割近くとなり、「まだまだ不満だ」(8.9%)と「きわめて不満だ」(1.5%)を合わせた《不満である》(10.4%)を大きく上回っている。（図１－２－１）

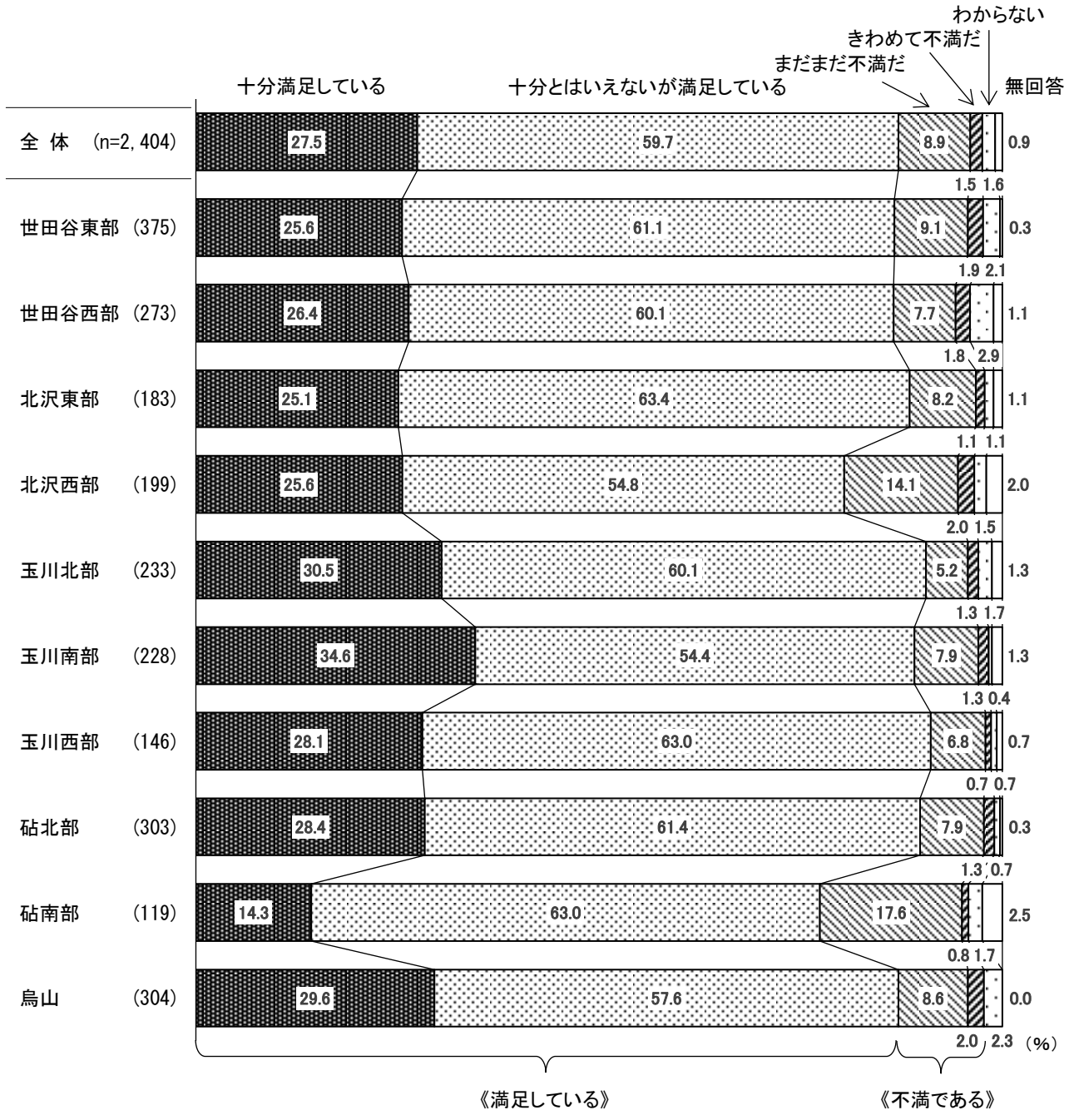
図１－２－２　暮らしの満足度（時系列）



平成 27 年度からの時系列の変化をみると、《満足している》が多数を占める傾向に変化はない。

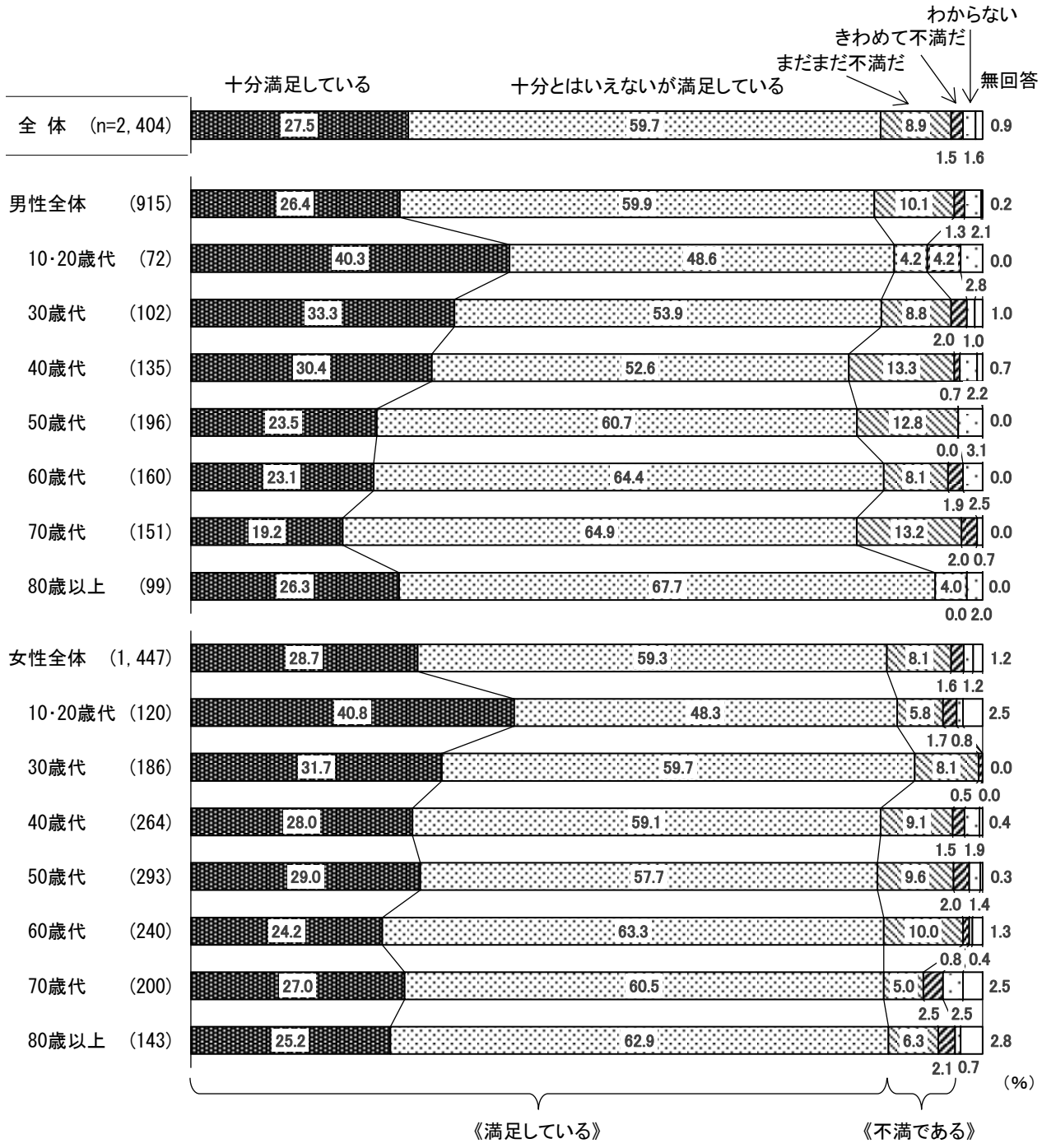
（図１－２－２）

図１－２－３　暮らしの満足度（地域別）



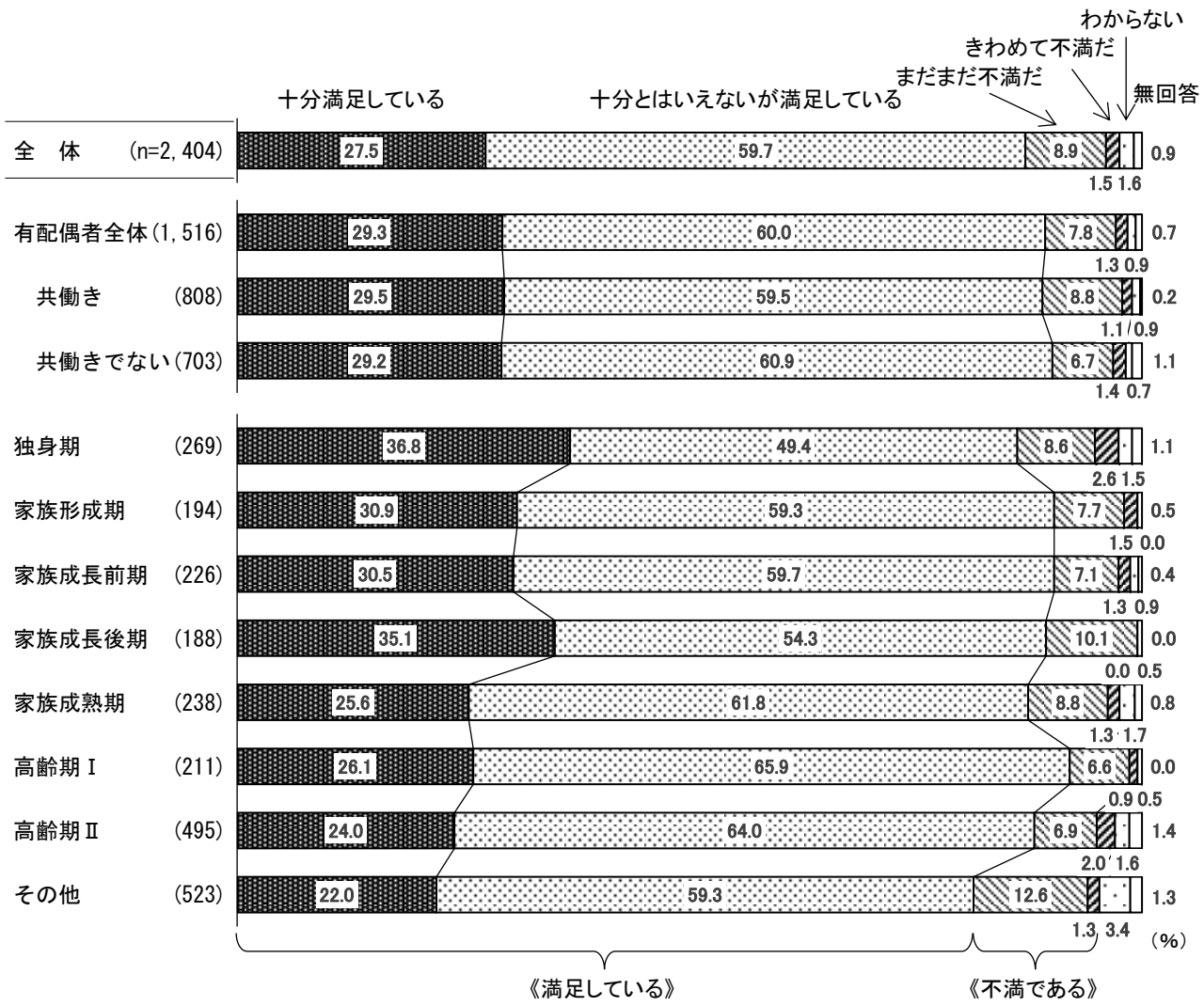
地域別にみると、いずれの地域も《満足している》が多数を占めており、「十分満足している」は玉川南部で３割半ば、玉川北部でほぼ３割、烏山で３割となっている。一方、《不満である》は砧南部で２割近く、北沢西部で１割半ばとなっている。（図１－２－３）

図１－２－４　暮らしの満足度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《満足している》は男性の 80 歳以上、女性の 30 歳代で９割を超えている。「十分満足している」は女性の 10・20 歳代でほぼ４割、男性の 10・20 歳代で４割となっている。《不満である》は、男性の 40 歳代と 70 歳代で１割半ばとなっている。（図１－２－４）

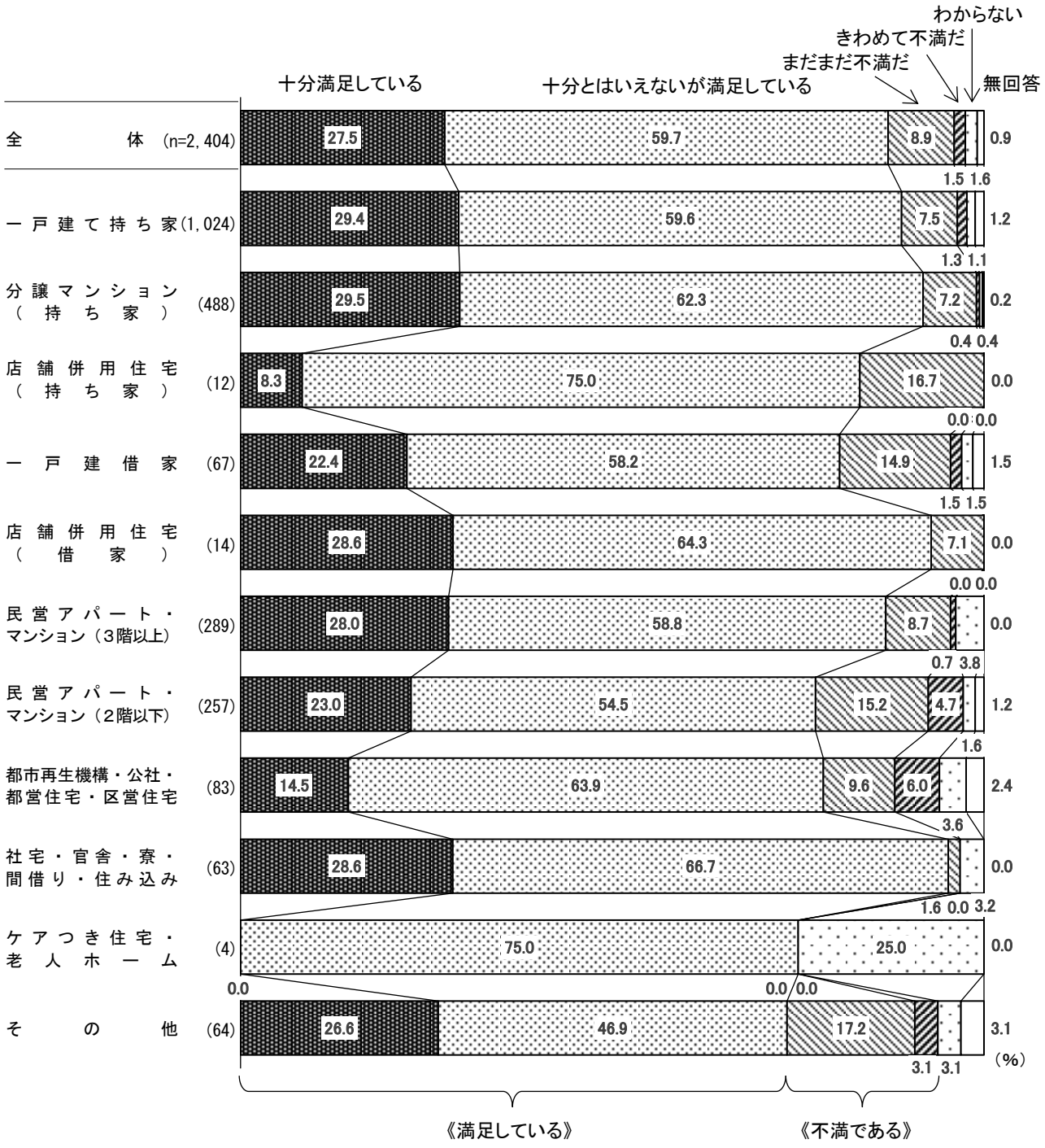
図１－２－５　暮らしの満足度（共働きの有無別・ライフステージ別）



共働きの有無別にみると、《満足している》は共働きでない世帯で９割、共働き世帯もほぼ９割とほとんど差はみられない。

ライフステージ別にみると、《満足している》は高齢期Ⅰで９割を超え、家族形成期、家族成長前期で９割、家族成長後期でほぼ９割となっている。「十分満足している」は独身期で４割近く、家族成長後期で３割半ばとなっている。（図１－２－５）

図１－２－６　暮らしの満足度（住居形態別）



住居形態別にみると、《満足している》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みで９割半ば、分譲マンション（持ち家）で９割を超えている。《不満である》は、その他、民営アパート・マンション（２階以下）で２割となっている。（図１－２－６）

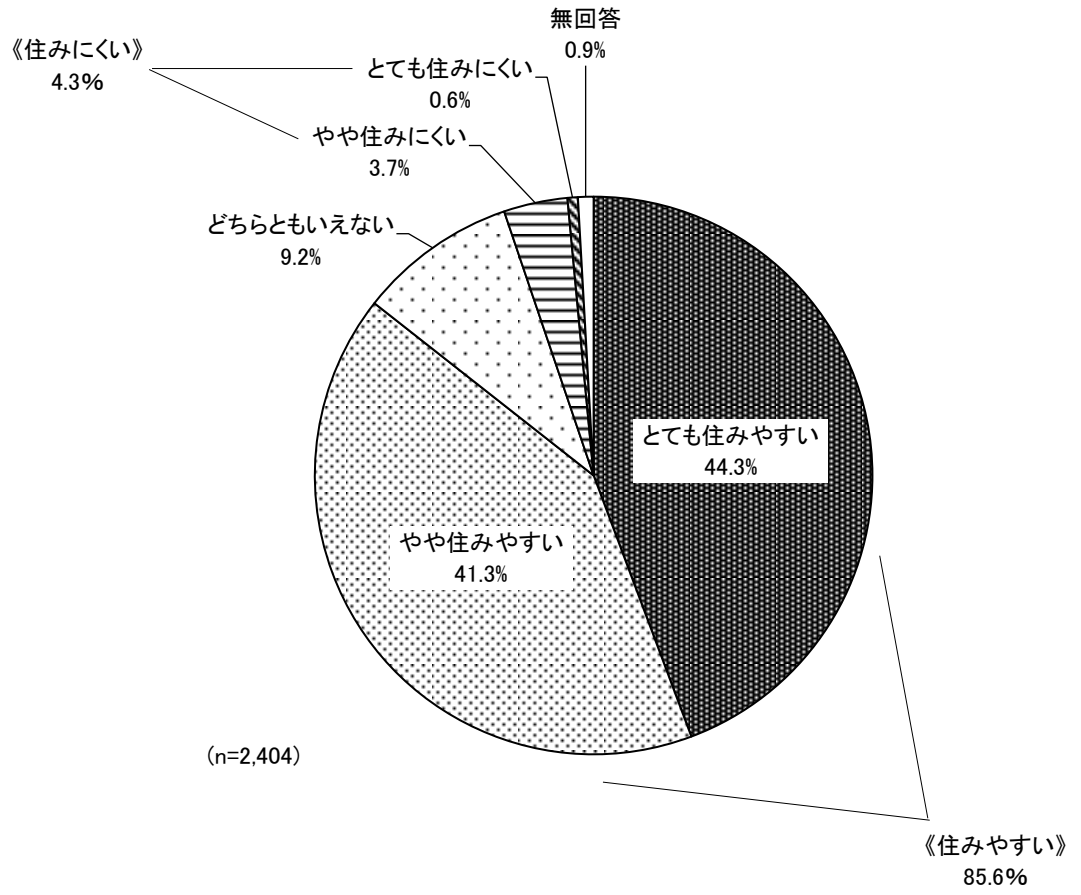
なお、基数(n)が 30 に満たない層については参考値とする。

（３）住みやすさ

◎《住みやすい》が８割半ば

問３　あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。（○は１つ）

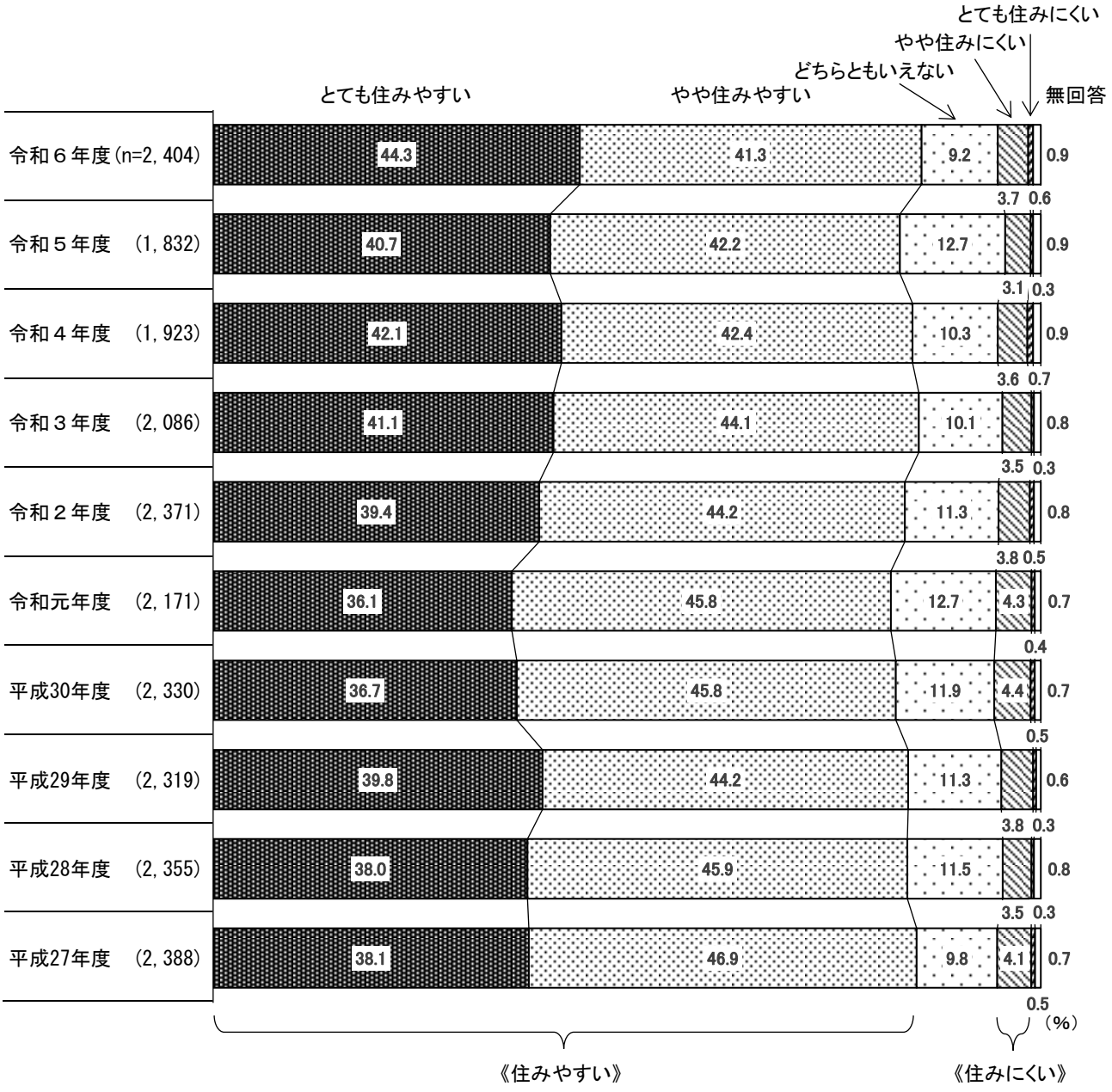
図１－３－１



世田谷区の住みやすさについて聞いたところ、「とても住みやすい」（44.3%）と「やや住みやすい」（41.3%）を合わせた《住みやすい》（85.6%）が８割半ばで、「やや住みにくい」（3.7%）と「とても住みにくい」（0.6%）を合わせた《住みにくい》（4.3%）を大きく上回っている。

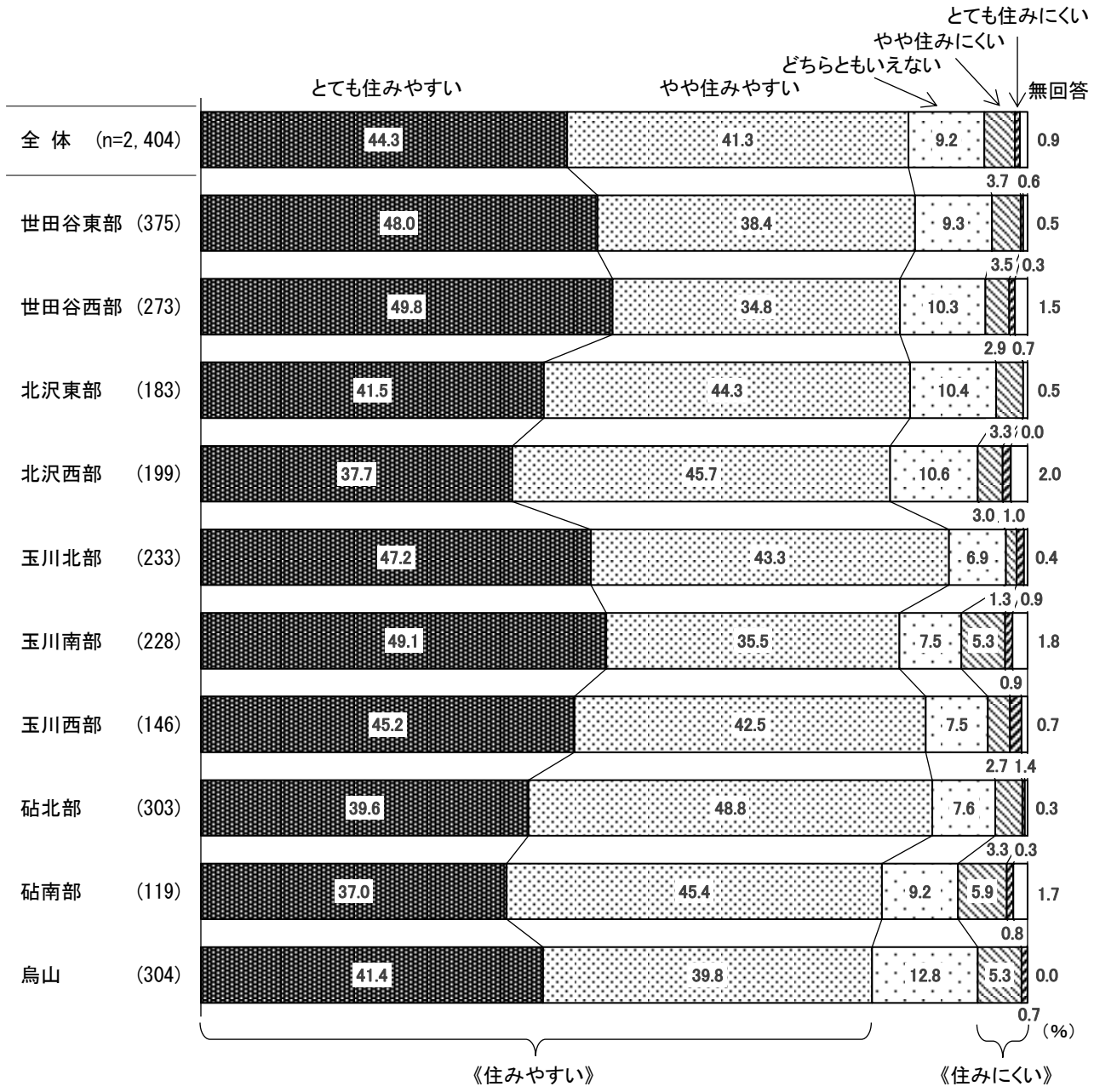
（図１－３－１）

図１－３－２　住みやすさ（時系列）



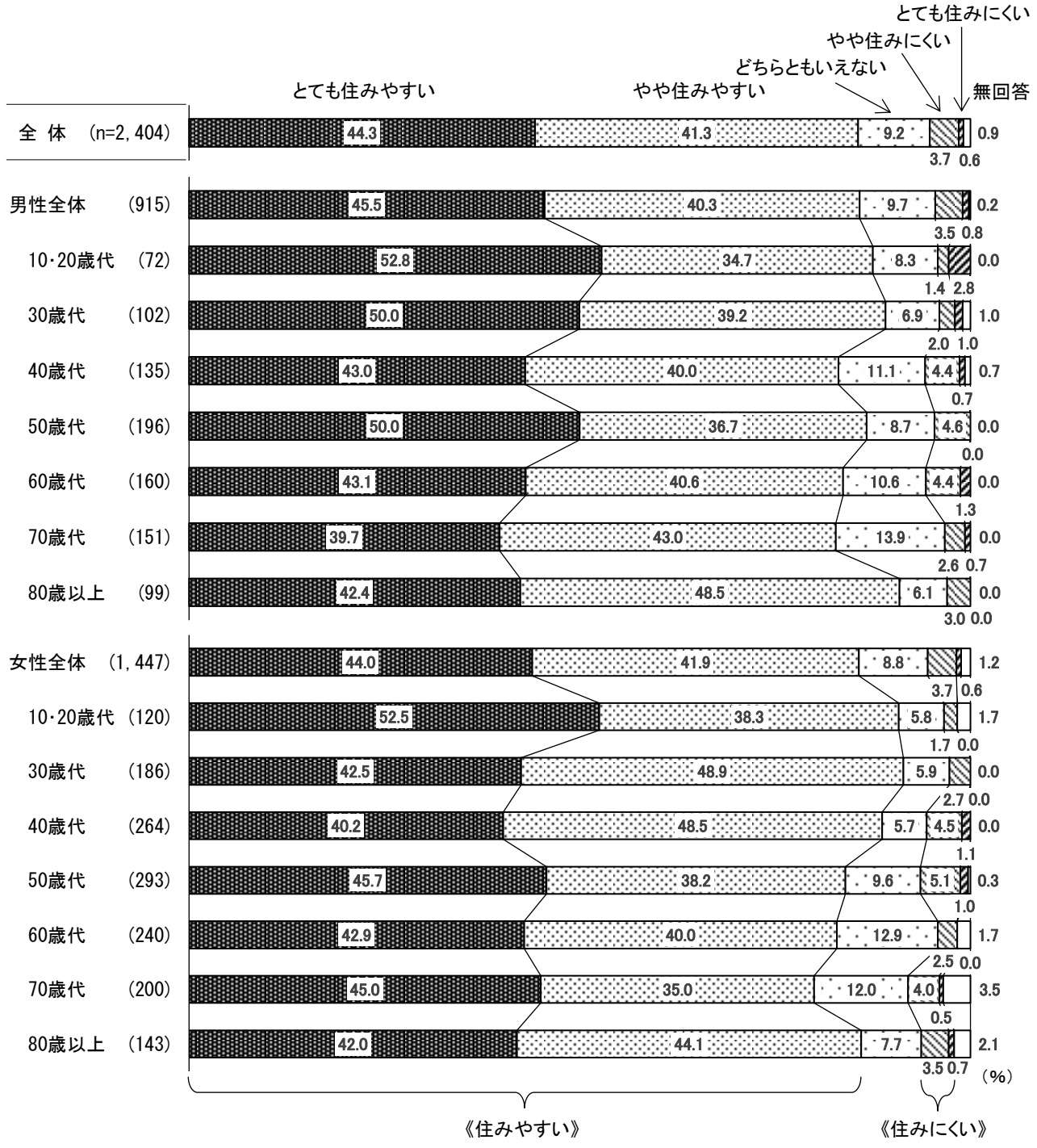
平成 27 年度からの時系列の変化をみると、《住みやすい》の割合は、いずれの年も８割台となっている。「とても住みやすい」の割合は、３割台後半で推移し、令和３年度から４割台となっている。（図１－３－２）

図１－３－３　住みやすさ（地域別）



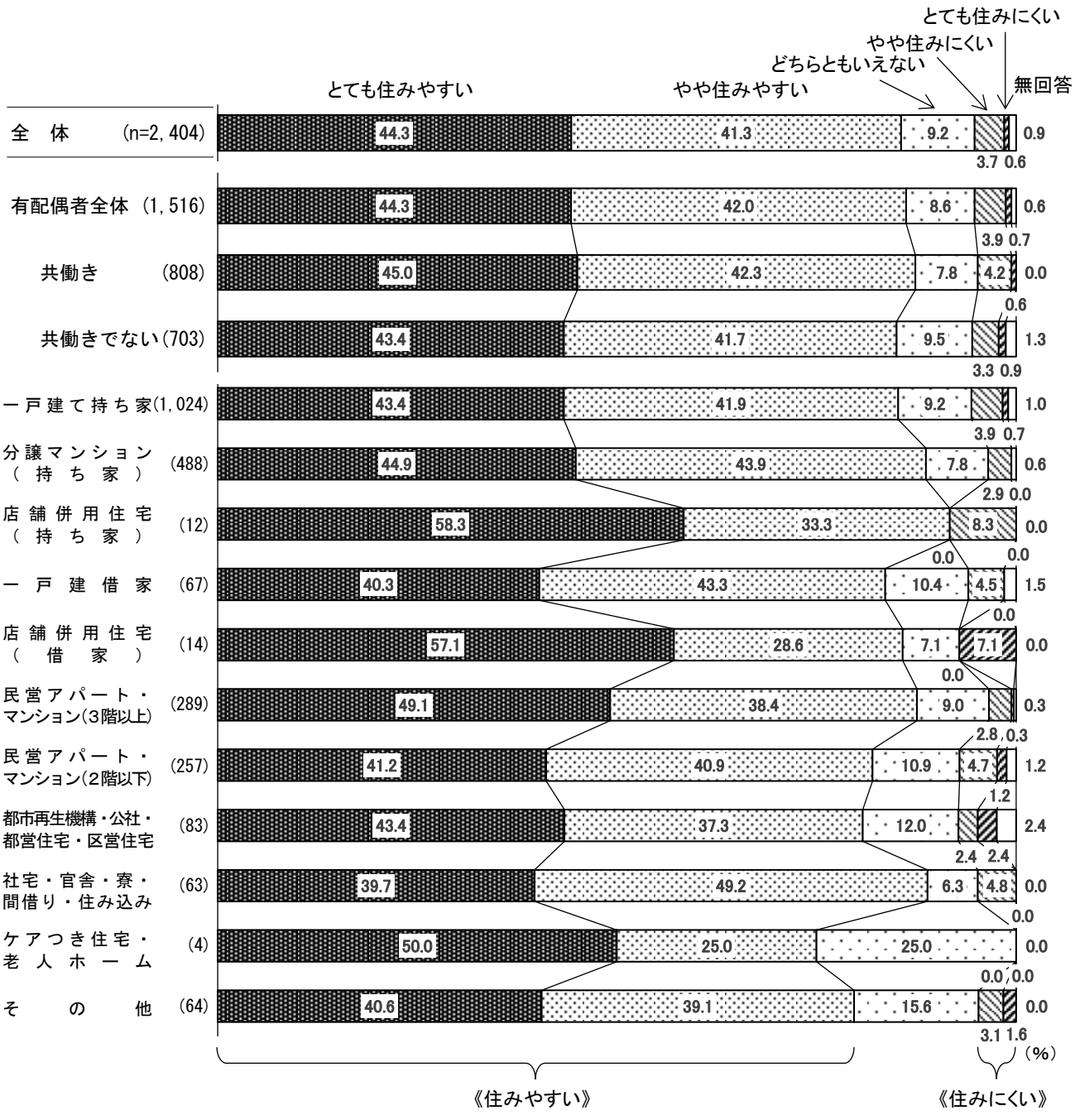
地域別にみると、いずれの地域も《住みやすい》が多数を占めており、「とても住みやすい」は世田谷西部で５割、玉川南部でほぼ５割、世田谷東部、玉川北部で５割近くとなっている。《住みにくい》は、いずれの地域でも１割に満たなかった。（図１－３－３）

図１－３－４　住みやすさ（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《住みやすい》は女性の 30 歳代で９割を超え、男性の 30 歳代と 80 歳以上、女性の 10・20 歳代でほぼ９割となっている。「とても住みやすい」は男女とも 10・20 歳代で５割を超え、男性の 30 歳代と 50 歳代で５割となっている。《住みにくい》は、どの年代でも１割に満たなかった。（図１－３－４）

図１－３－５　住みやすさ（共働きの有無別・住居形態別）



共働きの有無別にみると、共働き世帯と共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。

住居形態別にみると、《住みやすい》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込み、分譲マンション（持ち家）で９割近く、「とても住みやすい」は民営アパート・マンション（３階以上）でほぼ５割となっている。（図１－３－５）

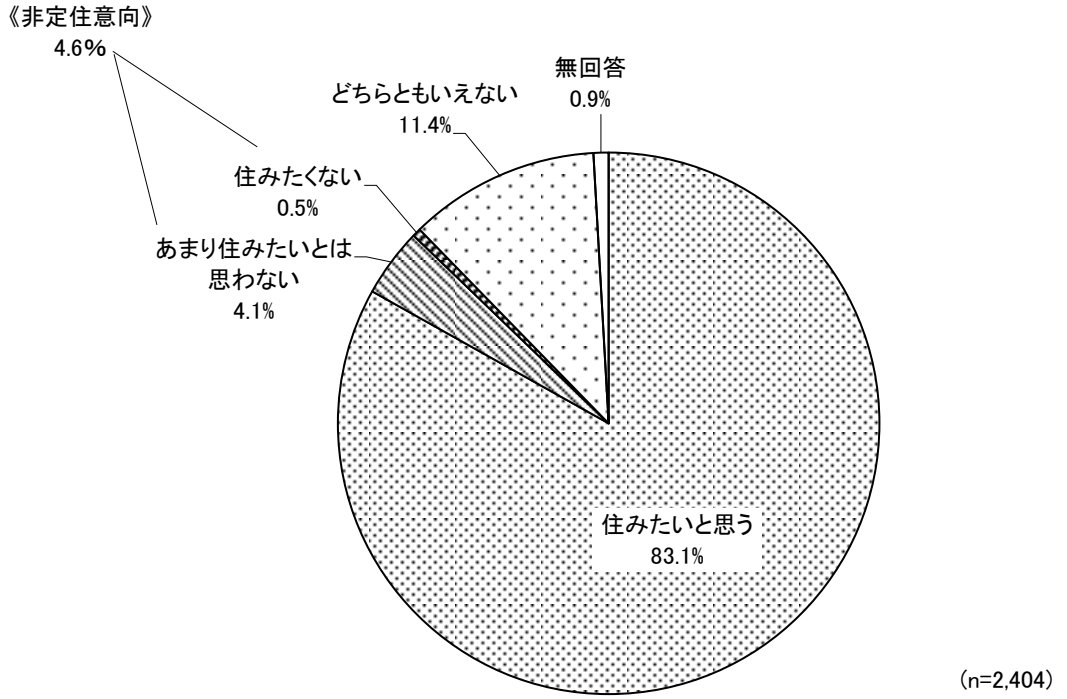
なお、基数(n)が 30 に満たない層については参考値とする。

（４）定住意向

◎「住みたいと思う」が８割を超える

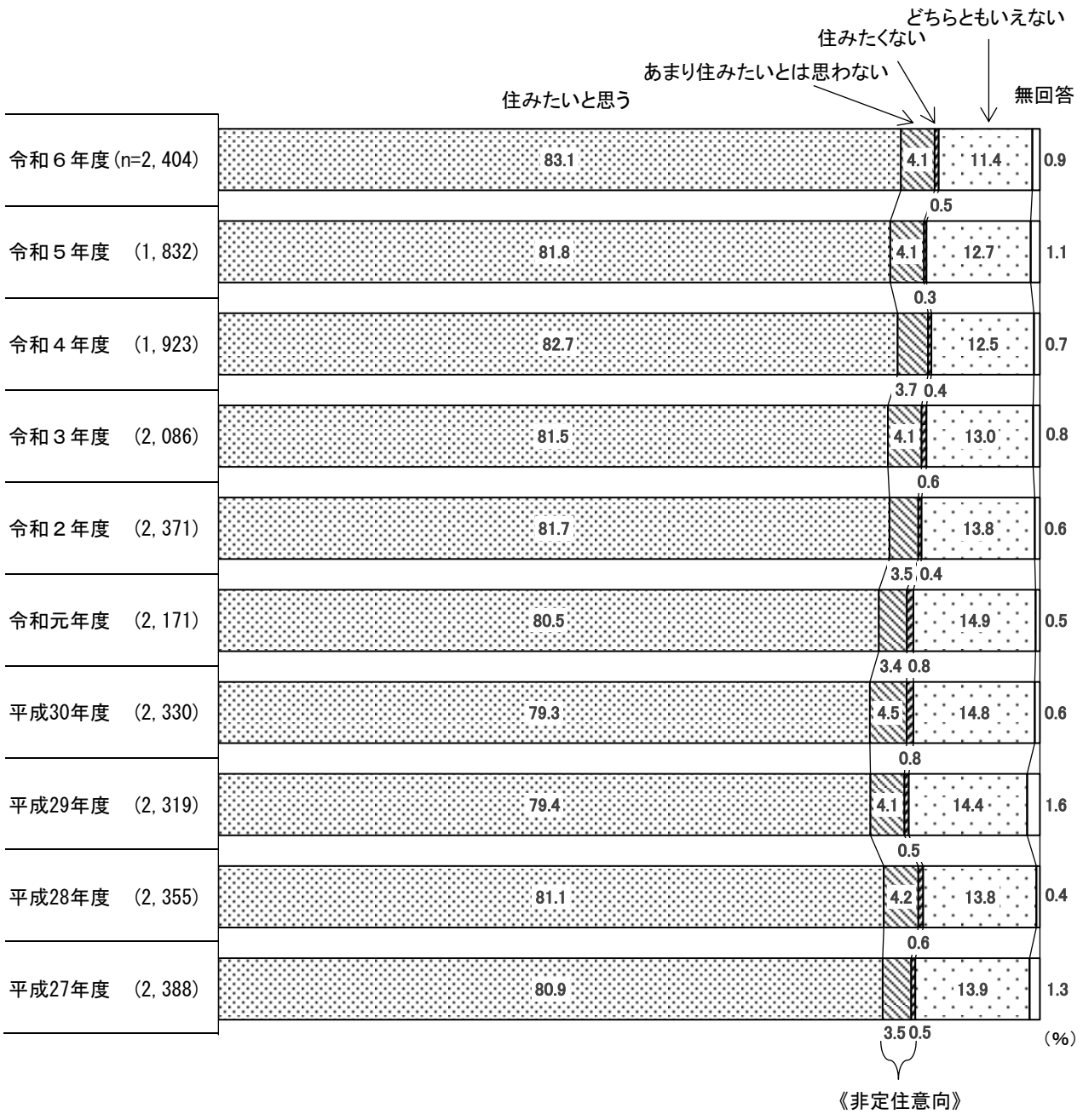
問４　あなたは、これからも世田谷区に住みたいと思いますか。（○は１つ）

図１－４－１



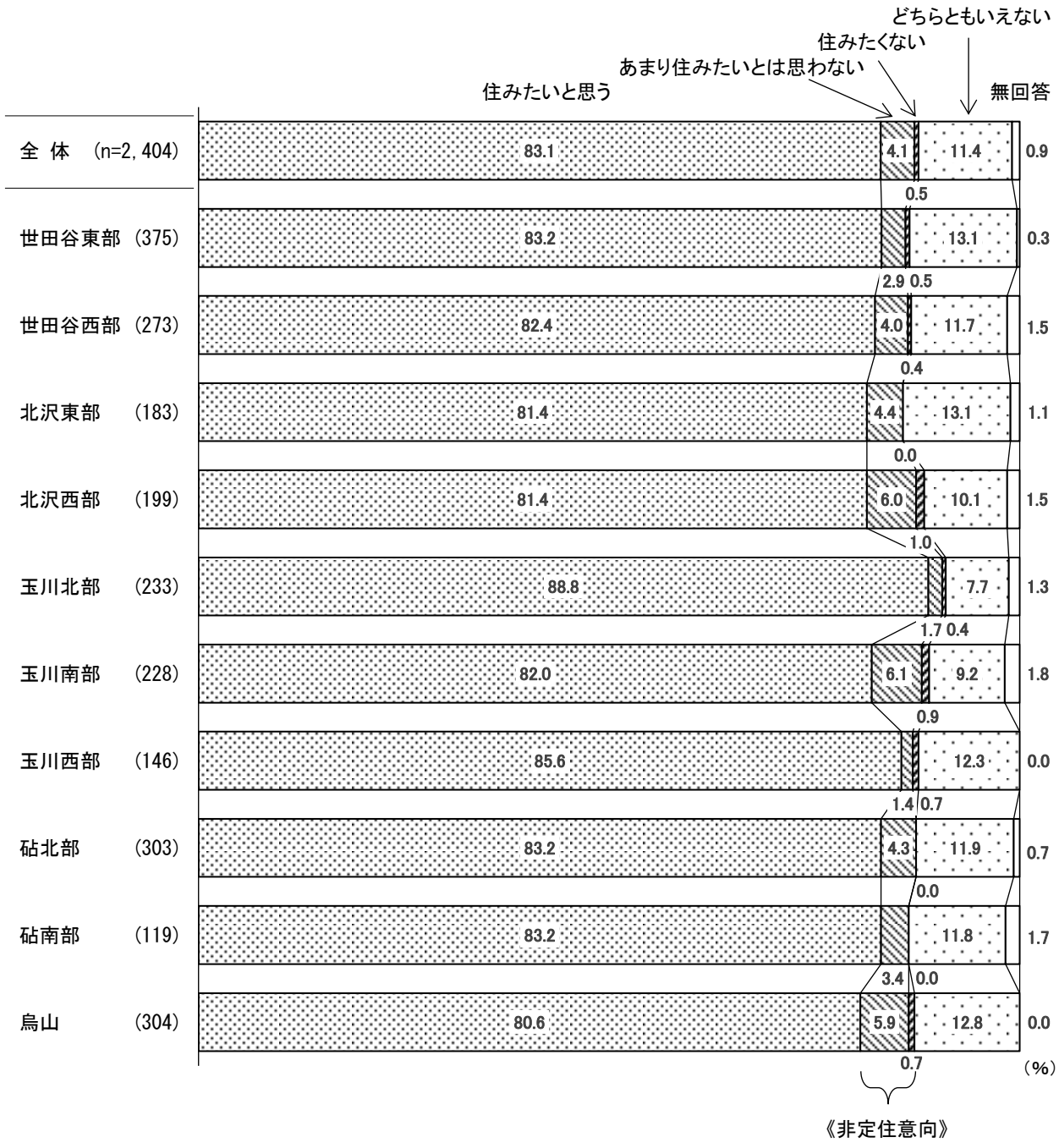
今後の世田谷区への定住意向を聞いたところ、「住みたいと思う」（83.1%）が８割を超えている。「あまり住みたいとは思わない」（4.1%）と「住みたくない」（0.5%）を合わせた《非定住意向》（4.6%）は１割に満たなかった。（図１－４－１）

図１－４－２　定住意向（時系列）



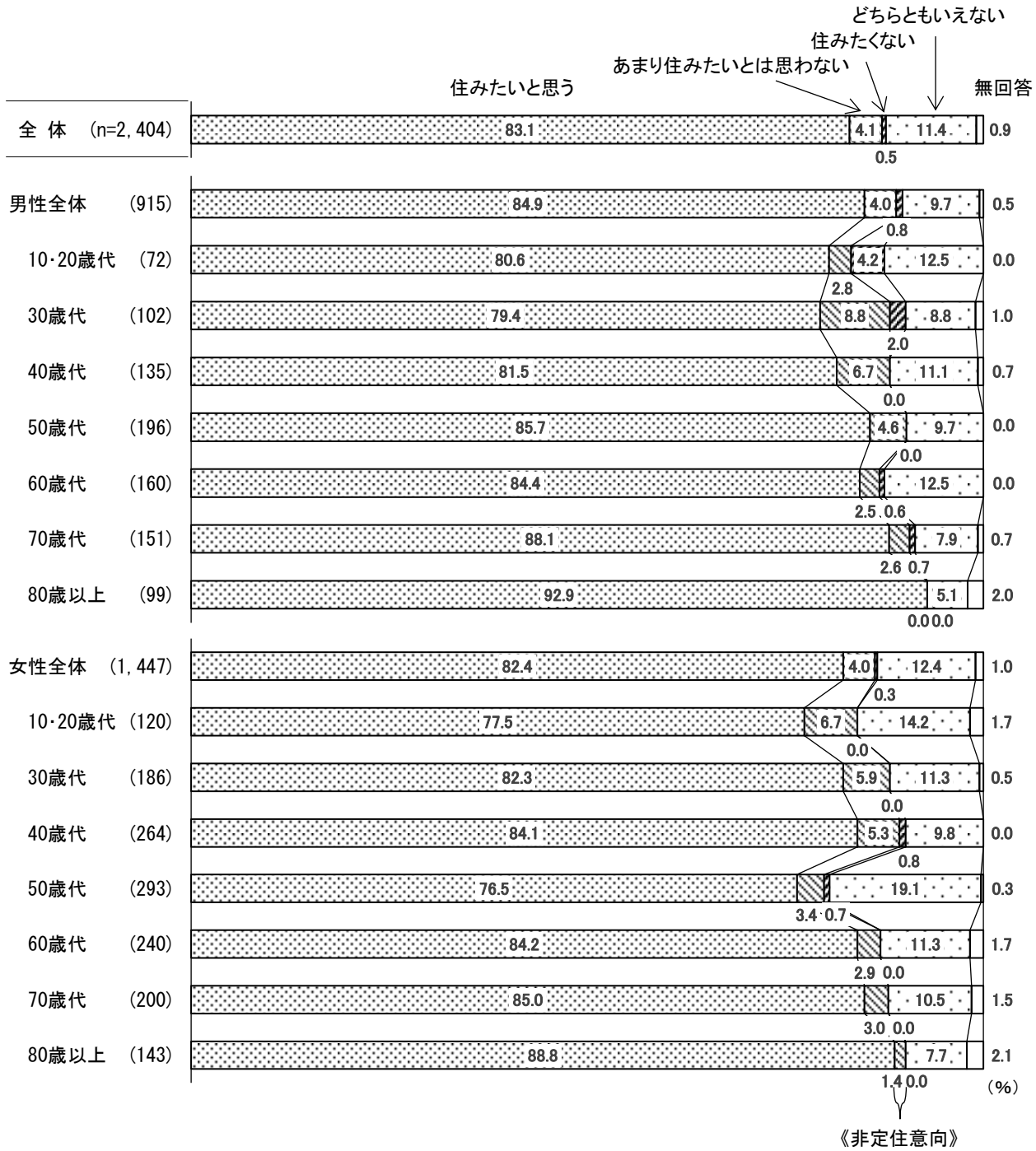
平成 27 年度からの時系列の変化をみると、「住みたいと思う」は、若干の変動はあるものの、８割前後で推移している。（図１－４－２）

図１－４－３　定住意向（地域別）



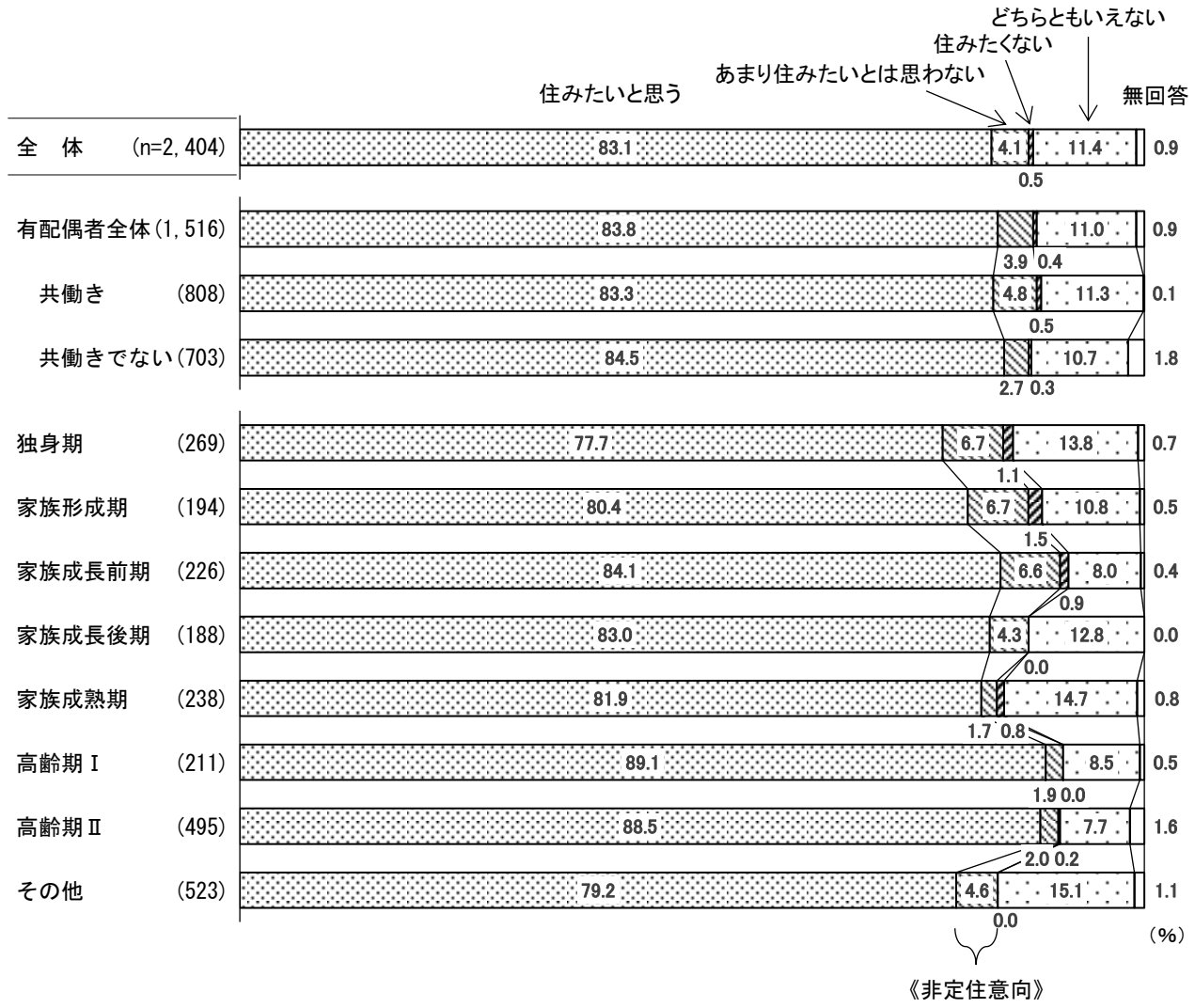
地域別にみると、「住みたいと思う」は、玉川北部で９割近く、玉川西部で８割半ばとなっている。いずれの地域でも《非定住意向》は１割に満たなかった。（図１－４－３）

図１－４－４　定住意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「住みたいと思う」は男性の 80 歳以上で９割を超え、男性の 70 歳代、女性の 80 歳以上で９割近くとなっている。《非定住意向》は男性の 30 歳代でほぼ１割となっている。定住意向は高年層で高く、若年層で低い傾向が見られる。（図１－４－４）

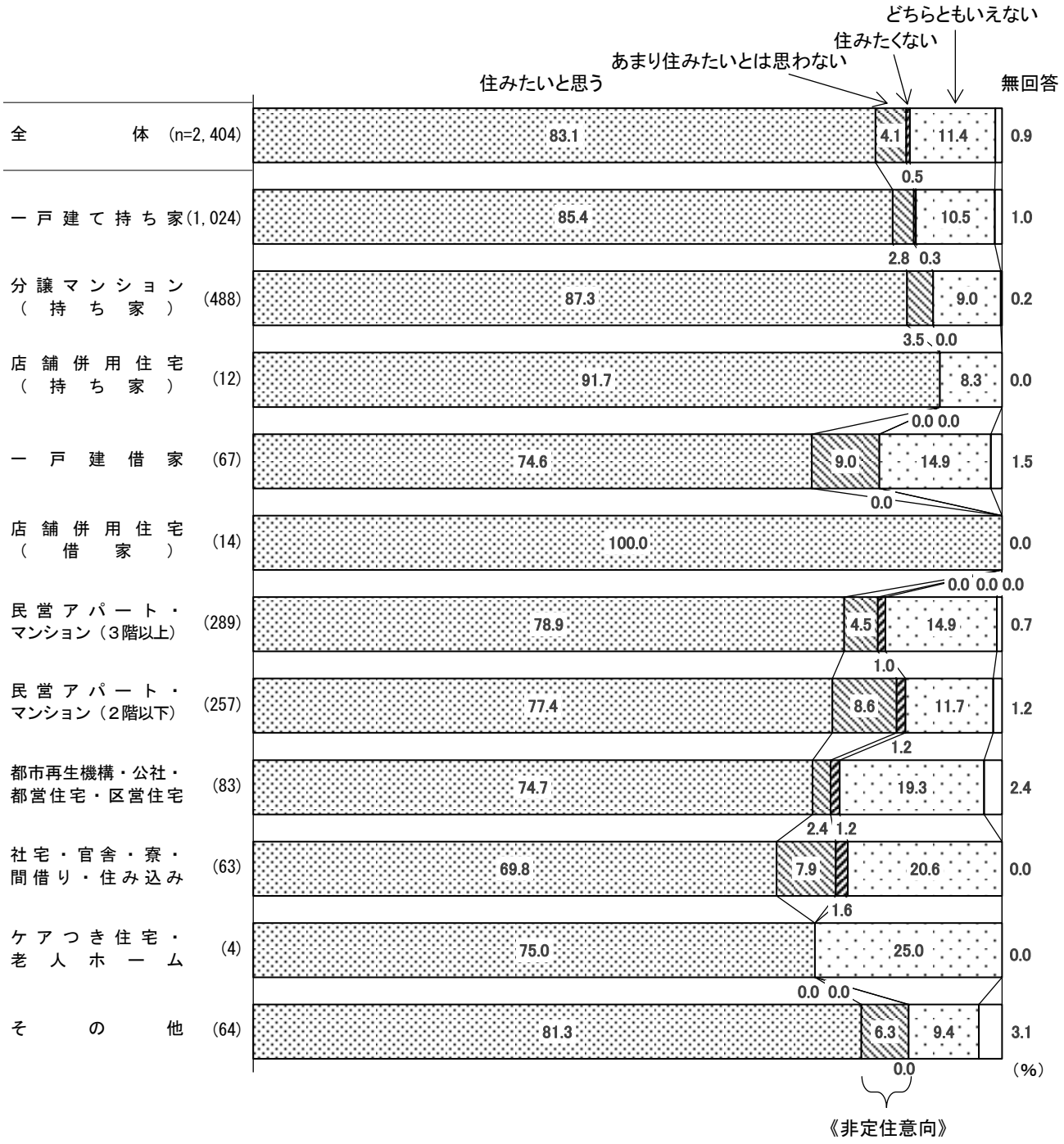
図１－４－５　定住意向（共働きの有無別・ライフステージ別）



共働きの有無別にみると、「住みたいと思う」は共働きでない世帯で８割半ば、共働き世帯も８割を超えている。《非定住意向》は共働き世帯と共働きでない世帯で大きな差はみられない。

ライフステージ別にみると、「住みたいと思う」は高齢期Ⅰでほぼ９割、高齢期Ⅱで９割近く、家族成長前期で８割半ばとなっている。《非定住意向》はいずれのライフステージも１割に満たなかった。（図１－４－５）

図１－４－６　定住意向（住居形態別）



住居形態別にみると、「住みたいと思う」は分譲マンション（持ち家）で９割近く、一戸建て持ち家で８割半ばとなっている。《非定住意向》は民営アパート・マンション（２階以下）で１割となっている。（図１－４－６）

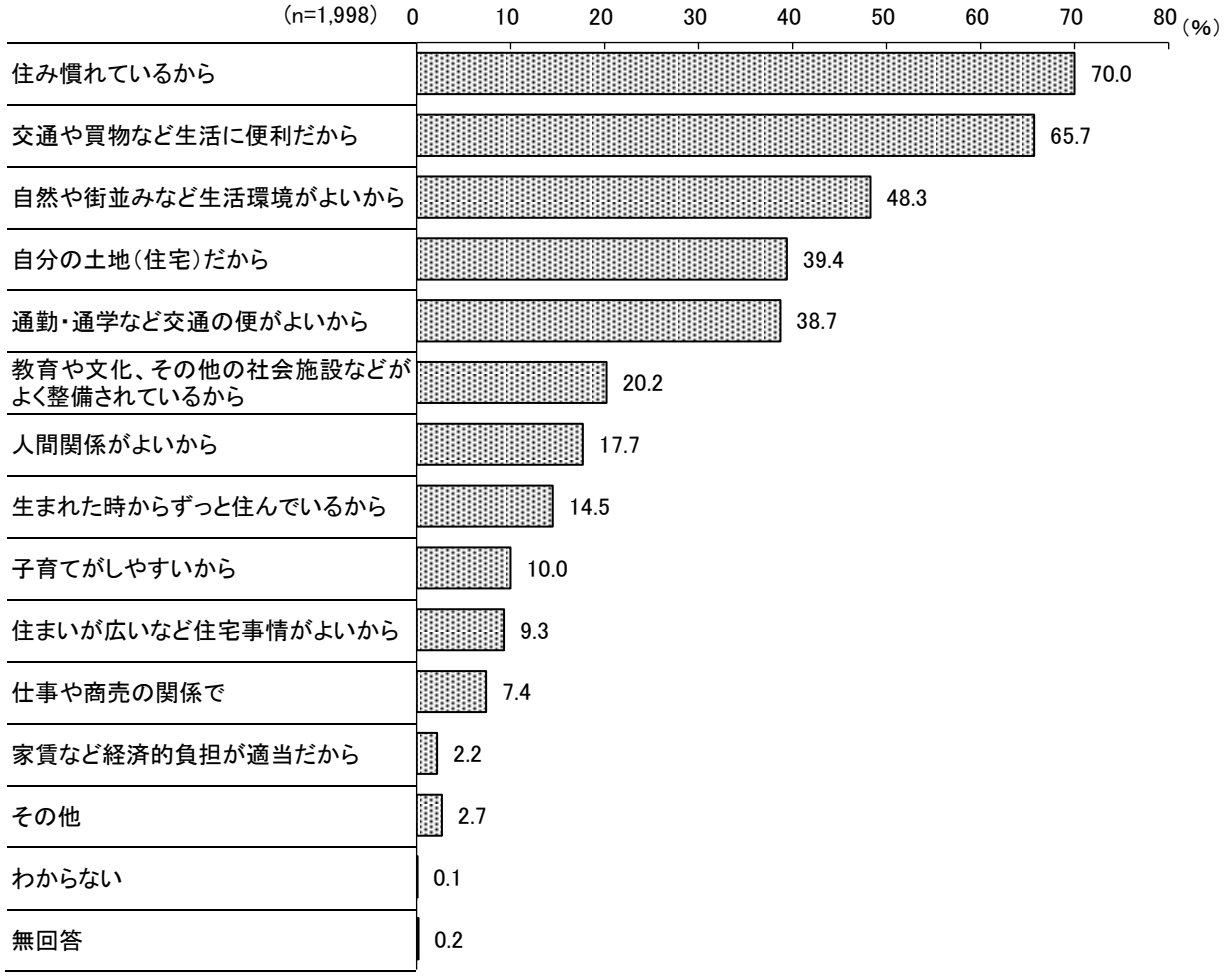
なお、基数(n)が 30 に満たない層については参考値とする。

（５）定住意向理由

◎世田谷区に住みたい理由の第１位は「住み慣れているから」

（問４で「住みたいと思う」と答えた方に）
問４－１　これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。（○はいくつでも）

図１－５－１



今後も世田谷区に「住みたいと思う」と答えた方（1,998 人）に、その理由を聞いたところ、「住み慣れているから」（70.0%）が７割で最も高く、以下、「交通や買物など生活に便利だから」（65.7%）、「自然や街並みなど生活環境がよいから」（48.3%）、「自分の土地（住宅）だから」（39.4%）、「通勤・通学など交通の便がよいから」（38.7%）などと続く。（図１－５－１）

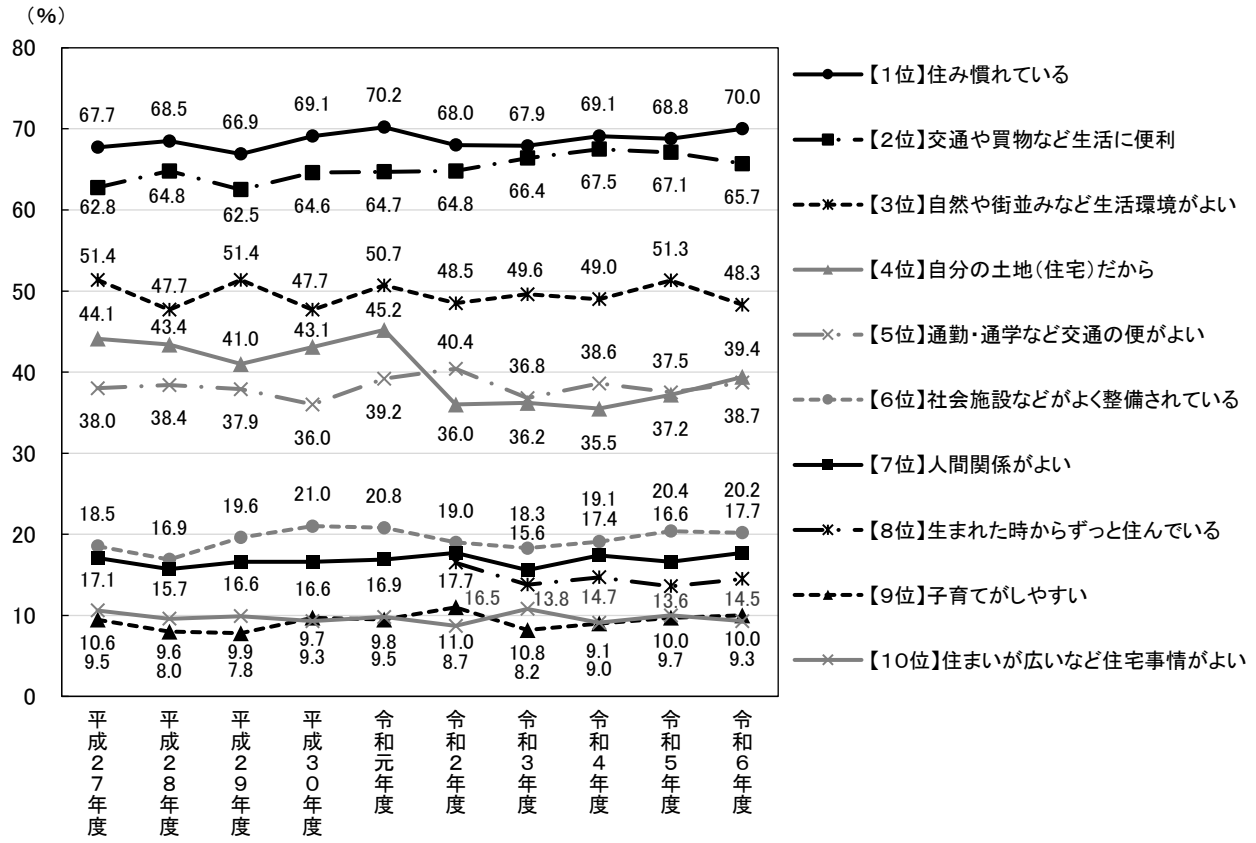
表１－５－１　定住意向理由（時系列）

（%）

理　由	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
n	1,931	1,909	1,841	1,848	1,747	1,936	1,700	1,590	1,498	1,998
【1位】 住み慣れている	67.7	68.5	66.9	69.1	70.2	68.0	67.9	69.1	68.8	70.0
【2位】 交通や買物など生活に便利	62.8	64.8	62.5	64.6	64.7	64.8	66.4	67.5	67.1	65.7
【3位】 自然や街並みなど生活環境がよい	51.4	47.7	51.4	47.7	50.7	48.5	49.6	49.0	51.3	48.3
【4位】 自分の土地（住宅）だから	44.1	43.4	41.0	43.1	45.2	36.0	36.2	35.5	37.2	39.4
【5位】 通勤・通学など交通の便がよい	38.0	38.4	37.9	36.0	39.2	40.4	36.8	38.6	37.5	38.7
【6位】 社会施設などがよく整備されている	18.5	16.9	19.6	21.0	20.8	19.0	18.3	19.1	20.4	20.2
【7位】 人間関係がよい	17.1	15.7	16.6	16.6	16.9	17.7	15.6	17.4	16.6	17.7
【8位】 生まれた時からずっと住んでいる	－	－	－	－	－	16.5	13.8	14.7	13.6	14.5
【9位】 子育てがしやすい	9.5	8.0	7.8	9.7	9.5	11.0	8.2	9.0	9.7	10.0
【10位】 住まいが広いなど住宅事情がよい	10.6	9.6	9.9	9.3	9.8	8.7	10.8	9.1	10.0	9.3

注）令和6年度の値で順位付けを行った。

図１－５－２　定住意向理由（時系列）



平成 27 年度からの時系列の変化をみると、「住み慣れているから」と「交通や買物など生活に便利だから」の２項目が６割台以上で上位に挙げられ、「自然や街並みなど生活環境がよいから」が５割前後となっている。「自分の土地（住宅）だから」は令和元年度以前は４割台、令和２年度以降は３割台となっている。（表１－５－１、図１－５－２）

表１－５－２　定住意向理由（地域別）

（%）

	n	１ 位	２ 位	３ 位	４ 位	５ 位	６ 位	７ 位	８ 位	９ 位	１０ 位
全 体	1,998	住み慣れている 70.0	交通や買物など生活に便利 65.7	自然や街並みなど生活環境がよい 48.3	自分の土地(住宅)だから 39.4	通勤・通学など交通の便がよい 38.7	社会施設などがよく整備されている 20.2	人間関係がよい 17.7	生まれた時からずっと住んでいる 14.5	子育てがしやすい 10.0	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.3
世田谷東部	312	交通や買物など生活に便利 75.6	住み慣れている 68.3	通勤・通学など交通の便がよい 45.8	自分の土地(住宅)だから 37.8	自然や街並みなど生活環境がよい 36.9	人間関係がよい 17.9	社会施設などがよく整備されている 15.4	生まれた時からずっと住んでいる 13.5	子育てがしやすい 11.9	仕事や商売の関係で 11.2
世田谷西部	225	住み慣れている 74.2	交通や買物など生活に便利 64.4	自然や街並みなど生活環境がよい 46.7	自分の土地(住宅)だから 40.4	通勤・通学など交通の便がよい 34.2	社会施設などがよく整備されている 20.4	人間関係がよい 17.8	生まれた時からずっと住んでいる 16.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 8.9	仕事や商売の関係で 8.0
北沢東部	149	交通や買物など生活に便利 74.5	住み慣れている 70.5	通勤・通学など交通の便がよい 49.7	自分の土地(住宅)だから 40.3	自然や街並みなど生活環境がよい 32.9	社会施設などがよく整備されている 19.5	人間関係がよい 18.1	生まれた時からずっと住んでいる 15.4	仕事や商売の関係で 10.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 8.1
北沢西部	162	交通や買物など生活に便利 72.2	住み慣れている 65.4	通勤・通学など交通の便がよい 48.1	自然や街並みなど生活環境がよい 41.4	自分の土地(住宅)だから 36.4	社会施設などがよく整備されている 20.4	生まれた時からずっと住んでいる 16.0	人間関係がよい 14.2	住まいが広いなど住宅事情がよい 8.6	子育てがしやすい 8.0
玉川北部	207	住み慣れている 70.5	自然や街並みなど生活環境がよい 58.9	交通や買物など生活に便利 58.0	自分の土地(住宅)だから 38.2	通勤・通学など交通の便がよい 36.7	社会施設などがよく整備されている 23.2	人間関係がよい 16.9	生まれた時からずっと住んでいる 15.9	住まいが広いなど住宅事情がよい／子育てがしやすい 11.1	
玉川南部	187	住み慣れている 72.7	交通や買物など生活に便利 66.3	自然や街並みなど生活環境がよい 52.4	自分の土地(住宅)だから／通勤・通学など交通の便がよい 39.6		人間関係がよい 21.4	社会施設などがよく整備されている 18.2	生まれた時からずっと住んでいる 16.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.7	子育てがしやすい 9.1
玉川西部	125	交通や買物など生活に便利 73.6	住み慣れている 67.2	自然や街並みなど生活環境がよい 65.6	通勤・通学など交通の便がよい 42.4	自分の土地(住宅)だから 37.6	社会施設などがよく整備されている 21.6	生まれた時からずっと住んでいる 16.8	人間関係がよい 15.2	住まいが広いなど住宅事情がよい 8.0	子育てがしやすい 6.4
砧北部	252	住み慣れている 70.2	交通や買物など生活に便利 60.7	自然や街並みなど生活環境がよい 55.2	自分の土地(住宅)だから 41.3	通勤・通学など交通の便がよい 27.4	社会施設などがよく整備されている 21.4	人間関係がよい 18.7	子育てがしやすい 13.1	生まれた時からずっと住んでいる 12.7	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.9
砧南部	99	住み慣れている 71.7	自然や街並みなど生活環境がよい 69.7	交通や買物など生活に便利 41.4	自分の土地(住宅)だから 40.4	社会施設などがよく整備されている 29.3	人間関係がよい 22.2	通勤・通学など交通の便がよい 18.2	生まれた時からずっと住んでいる 15.2	子育てがしやすい 13.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.1
烏山	245	住み慣れている 67.8	交通や買物など生活に便利 62.0	自然や街並みなど生活環境がよい 42.0	自分の土地(住宅)だから 41.2	通勤・通学など交通の便がよい 40.8	社会施設などがよく整備されている 20.0	人間関係がよい 14.7	生まれた時からずっと住んでいる／子育てがしやすい 11.0		住まいが広いなど住宅事情がよい 7.8

地域別にみると、「住み慣れているから」と「交通や買物など生活に便利だから」はすべての地域で３位以内に挙げられている。世田谷東部、北沢東部、北沢西部は「通勤・通学など交通の便がよいから」が３位になっており、それ以外の地域は「自然や街並みなど生活環境がよいから」が３位以内に挙げられている。（表１－５－２）

表１－５－３　定住意向理由（性・年齢別）

（%）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	1,998	住み慣れている 70.0	交通や買物など生活に便利 65.7	自然や街並みなど生活環境がよい 48.3	自分の土地(住宅)だから 39.4	通勤・通学など交通の便がよい 38.7	社会施設などがよく整備されている 20.2	人間関係がよい 17.7	生まれた時からずっと住んでいる 14.5	子育てがしやすい 10.0	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.3
男 性 全 体	777	住み慣れている 71.8	交通や買物など生活に便利 64.7	自然や街並みなど生活環境がよい 48.9	自分の土地(住宅)だから 40.4	通勤・通学など交通の便がよい 40.2	社会施設などがよく整備されている 21.4	生まれた時からずっと住んでいる 17.0	人間関係がよい 14.4	子育てがしやすい 9.7	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.1
10・20歳代	58	住み慣れている 62.1	交通や買物など生活に便利／通勤・通学など交通の便がよい 60.3		自然や街並みなど生活環境がよい 53.4	社会施設などがよく整備されている 25.9	自分の土地(住宅)だから 17.2	生まれた時からずっと住んでいる／住まいが広いなど住宅事情がよい／人間関係がよい 13.8			仕事や商売の関係で 6.9
30歳代	81	住み慣れている 63.0	交通や買物など生活に便利 60.5	自然や街並みなど生活環境がよい 49.4	通勤・通学など交通の便がよい 45.7	自分の土地(住宅)だから 24.7	子育てがしやすい 21.0	社会施設などがよく整備されている 18.5	生まれた時からずっと住んでいる／人間関係がよい 11.1		仕事や商売の関係で 8.6
40歳代	110	住み慣れている 63.6	交通や買物など生活に便利 60.0	自然や街並みなど生活環境がよい 50.9	通勤・通学など交通の便がよい 50.0	自分の土地(住宅)だから 32.7	子育てがしやすい 24.5	社会施設などがよく整備されている 22.7	人間関係がよい 17.3	生まれた時からずっと住んでいる 14.5	仕事や商売の関係で 12.7
50歳代	168	住み慣れている 73.8	交通や買物など生活に便利 66.7	通勤・通学など交通の便がよい 52.4	自然や街並みなど生活環境がよい 48.2	自分の土地(住宅)だから 38.1	社会施設などがよく整備されている 21.4	生まれた時からずっと住んでいる 18.5	人間関係がよい 17.9	子育てがしやすい 11.3	仕事や商売の関係で 10.7
60歳代	135	住み慣れている 79.3	交通や買物など生活に便利 69.6	自分の土地(住宅)だから 59.3	自然や街並みなど生活環境がよい 51.1	通勤・通学など交通の便がよい 41.5	生まれた時からずっと住んでいる 22.2	社会施設などがよく整備されている 20.7	人間関係がよい 8.9	住まいが広いなど住宅事情がよい 8.1	仕事や商売の関係で 6.7
70歳代	133	住み慣れている 72.2	交通や買物など生活に便利 64.7	自然や街並みなど生活環境がよい 46.6	自分の土地(住宅)だから 44.4	社会施設などがよく整備されている 19.5	生まれた時からずっと住んでいる 18.8	通勤・通学など交通の便がよい 18.0	人間関係がよい 15.0	仕事や商売の関係で 7.5	住まいが広いなど住宅事情がよい 6.8
80歳以上	92	住み慣れている 80.4	交通や買物など生活に便利 66.3	自分の土地(住宅)だから 48.9	自然や街並みなど生活環境がよい 44.6	社会施設などがよく整備されている 22.8	通勤・通学など交通の便がよい 18.5	住まいが広いなど住宅事情がよい／人間関係がよい 15.2		生まれた時からずっと住んでいる 14.1	家賃など経済的負担が適当／子育てがしやすい 3.3
女 性 全 体	1,192	住み慣れている 68.6	交通や買物など生活に便利 66.6	自然や街並みなど生活環境がよい 48.2	自分の土地(住宅)だから 38.9	通勤・通学など交通の便がよい 38.2	人間関係がよい 20.1	社会施設などがよく整備されている 19.6	生まれた時からずっと住んでいる 12.9	子育てがしやすい 10.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.6
10・20歳代	93	交通や買物など生活に便利 66.7	住み慣れている 54.8	通勤・通学など交通の便がよい 51.6	自然や街並みなど生活環境がよい 46.2	生まれた時からずっと住んでいる 29.0	自分の土地(住宅)だから／住まいが広いなど住宅事情がよい／社会施設などがよく整備されている 17.2			人間関係がよい 11.8	仕事や商売の関係で 9.7
30歳代	153	交通や買物など生活に便利 68.0	通勤・通学など交通の便がよい 51.6	自然や街並みなど生活環境がよい 47.7	住み慣れている 42.5	自分の土地(住宅)だから／社会施設などがよく整備されている 23.5		子育てがしやすい 21.6	人間関係がよい 20.9	生まれた時からずっと住んでいる 11.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.8
40歳代	222	住み慣れている 65.3	交通や買物など生活に便利 60.8	自然や街並みなど生活環境がよい／通勤・通学など交通の便がよい 50.0		自分の土地(住宅)だから 35.6	社会施設などがよく整備されている 23.9	子育てがしやすい 22.5	人間関係がよい 21.6	生まれた時からずっと住んでいる 12.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.4
50歳代	224	交通や買物など生活に便利 71.4	住み慣れている 67.9	自然や街並みなど生活環境がよい 54.5	通勤・通学など交通の便がよい 44.2	自分の土地(住宅)だから 37.5	社会施設などがよく整備されている 21.4	人間関係がよい 19.2	仕事や商売の関係で 10.7	生まれた時からずっと住んでいる 10.3	子育てがしやすい 9.8
60歳代	202	住み慣れている 80.2	交通や買物など生活に便利 73.3	自然や街並みなど生活環境がよい 51.0	自分の土地(住宅)だから 48.0	通勤・通学など交通の便がよい 34.7	人間関係がよい 21.3	社会施設などがよく整備されている 18.3	生まれた時からずっと住んでいる 15.3	仕事や商売の関係で 7.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 6.9
70歳代	170	住み慣れている 80.6	交通や買物など生活に便利 68.8	自分の土地(住宅)だから 54.7	自然や街並みなど生活環境がよい 46.5	人間関係がよい 21.8	通勤・通学など交通の便がよい 18.8	社会施設などがよく整備されている 17.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 12.9	生まれた時からずっと住んでいる 8.8	仕事や商売の関係で 5.3
80歳以上	127	住み慣れている 82.7	交通や買物など生活に便利 52.8	自分の土地(住宅)だから 46.5	自然や街並みなど生活環境がよい 34.6	人間関係がよい 18.9	通勤・通学など交通の便がよい 11.8	社会施設などがよく整備されている 11.0	生まれた時からずっと住んでいる 10.2	住まいが広いなど住宅事情がよい 7.9	家賃など経済的負担が適当 3.1

性・年齢別にみると、女性の 30 歳代以外は各年代とも「住み慣れているから」、「交通や買物など生活に便利だから」が２位以内に挙げられている。女性の 30 歳代は「通勤・通学など交通の便がよいから」が２位、「自然や街並みなど生活環境がよいから」が３位となっている。（表１－５－３）

表１－５－４　定住意向理由（共働きの有無別・ライフステージ別）

（%）

	n	１ 位	２ 位	３ 位	４ 位	５ 位	６ 位	７ 位	８ 位	９ 位	１０ 位
全 体	1,998	住み慣れている 70.0	交通や買物など生活に便利 65.7	自然や街並みなど生活環境がよい 48.3	自分の土地(住宅)だから 39.4	通勤・通学など交通の便がよい 38.7	社会施設などがよく整備されている 20.2	人間関係がよい 17.7	生まれた時からずっと住んでいる 14.5	子育てがしやすい 10.0	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.3
有配偶者全体	1,270	住み慣れている 67.6	交通や買物など生活に便利 66.1	自然や街並みなど生活環境がよい 50.6	自分の土地(住宅)だから 46.1	通勤・通学など交通の便がよい 38.9	社会施設などがよく整備されている 22.4	人間関係がよい 19.3	子育てがしやすい 14.4	生まれた時からずっと住んでいる 11.3	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.8
共働き	673	交通や買物など生活に便利 64.6	住み慣れている 62.9	自然や街並みなど生活環境がよい 51.4	通勤・通学など交通の便がよい 46.1	自分の土地(住宅)だから 41.0	社会施設などがよく整備されている 22.1	人間関係がよい 20.5	子育てがしやすい 19.3	生まれた時からずっと住んでいる 11.3	仕事や商売の関係で 10.4
共働きでない	594	住み慣れている 73.1	交通や買物など生活に便利 67.8	自分の土地(住宅)だから 51.7	自然や街並みなど生活環境がよい 49.8	通勤・通学など交通の便がよい 30.8	社会施設などがよく整備されている 22.4	人間関係がよい 17.7	住まいが広いなど住宅事情がよい 11.4	生まれた時からずっと住んでいる 11.3	子育てがしやすい 8.8
独身期	209	交通や買物など生活に便利 70.8	住み慣れている 63.6	通勤・通学など交通の便がよい 57.4	自然や街並みなど生活環境がよい 46.4	生まれた時からずっと住んでいる 25.4	社会施設などがよく整備されている 17.7	自分の土地(住宅)だから 16.7	住まいが広いなど住宅事情がよい 12.4	人間関係がよい 11.5	仕事や商売の関係で 9.6
家族形成期	156	交通や買物など生活に便利 62.2	自然や街並みなど生活環境がよい 53.2	通勤・通学など交通の便がよい 48.1	住み慣れている 39.7	子育てがしやすい 34.0	社会施設などがよく整備されている 25.6	自分の土地(住宅)だから 21.8	人間関係がよい 19.2	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.6	仕事や商売の関係で 7.7
家族成長前期	190	住み慣れている 62.1	自然や街並みなど生活環境がよい 57.4	交通や買物など生活に便利 54.7	自分の土地(住宅)だから 52.6	通勤・通学など交通の便がよい 48.9	子育てがしやすい 40.0	社会施設などがよく整備されている 31.1	人間関係がよい 25.8	生まれた時からずっと住んでいる 11.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.5
家族成長後期	156	住み慣れている 73.1	交通や買物など生活に便利 69.9	通勤・通学など交通の便がよい 53.8	自然や街並みなど生活環境がよい 47.4	自分の土地(住宅)だから 39.1	社会施設などがよく整備されている 25.6	人間関係がよい 25.0	子育てがしやすい 20.5	仕事や商売の関係で 9.6	生まれた時からずっと住んでいる 9.0
家族成熟期	195	住み慣れている 73.8	交通や買物など生活に便利 71.8	自然や街並みなど生活環境がよい 52.3	自分の土地(住宅)だから 46.7	通勤・通学など交通の便がよい 44.1	社会施設などがよく整備されている 23.1	人間関係がよい 12.8	生まれた時からずっと住んでいる 11.8	仕事や商売の関係で 10.8	住まいが広いなど住宅事情がよい 6.7
高齢期Ⅰ	188	住み慣れている 77.7	交通や買物など生活に便利 70.7	自分の土地(住宅)だから 54.8	自然や街並みなど生活環境がよい 45.7	通勤・通学など交通の便がよい 26.6	人間関係がよい 19.7	社会施設などがよく整備されている 16.0	生まれた時からずっと住んでいる 14.9	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.6	仕事や商売の関係で 6.9
高齢期Ⅱ	438	住み慣れている 78.1	交通や買物など生活に便利 64.6	自分の土地(住宅)だから 48.6	自然や街並みなど生活環境がよい 45.9	社会施設などがよく整備されている 20.8	通勤・通学など交通の便がよい 20.3	人間関係がよい 17.6	生まれた時からずっと住んでいる 14.8	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.4	仕事や商売の関係で 4.6
その他	414	住み慣れている 72.7	交通や買物など生活に便利 64.5	自然や街並みなど生活環境がよい 45.4	通勤・通学など交通の便がよい 38.9	自分の土地(住宅)だから 31.4	生まれた時からずっと住んでいる 16.7	人間関係がよい 15.2	社会施設などがよく整備されている 12.1	仕事や商売の関係で 9.2	住まいが広いなど住宅事情がよい 7.2

共働きの有無別にみると、いずれも「住み慣れているから」、「交通や買物など生活に便利だから」が２位以内に挙げられている。共働き世帯は「自然や街並みなど生活環境がよいから」が３位、共働きでない世帯は「自分の土地（住宅）だから」が３位となっている。

ライフステージ別にみると、「交通や買物など生活に便利だから」はすべてのライフステージで３位以内に入っている。「自然や街並みなど生活環境がよいから」は家族形成期と家族成長前期で２位、「通勤・通学など交通の便がよいから」は独身期、家族形成期、家族成長後期で３位となっている。

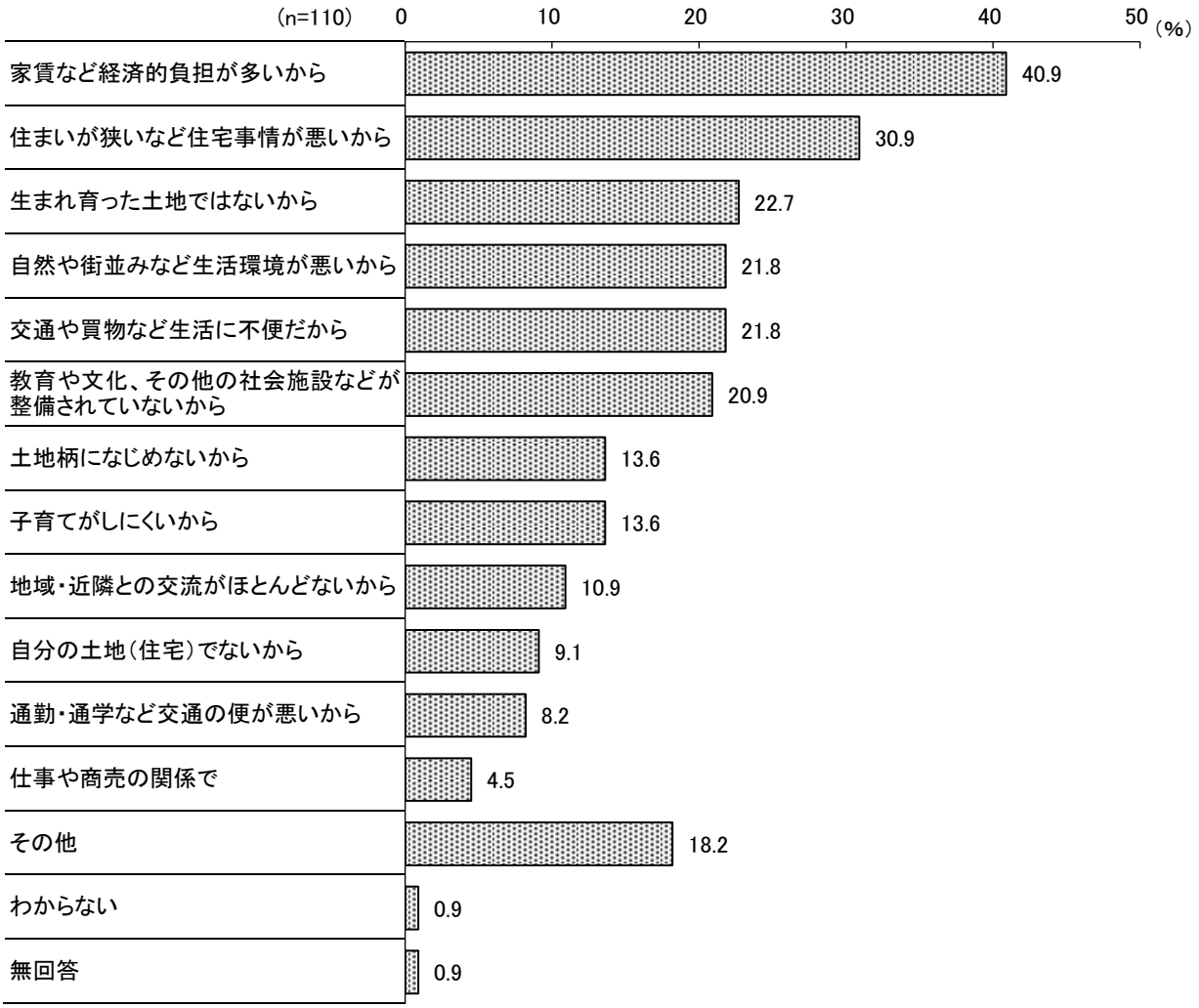
（表１－５－４）

（６）非定住意向理由

◎世田谷区に住みたくない理由の第１位は「家賃など経済的負担が多いから」

（問４で「あまり住みたいとは思わない」または「住みたくない」と答えた方に）
問４－２　世田谷区に住みたくない理由はどんなことですか。（○はいくつでも）

図１－６－１



今後は世田谷区に「あまり住みたいとは思わない」または「住みたくない」と答え、《非定住意向》を示した方（110 人）に、その理由を聞いたところ、「家賃など経済的負担が多いから」（40.9%）がほぼ４割、「住まいが狭いなど住宅事情が悪いから」（30.9%）がほぼ３割となっている。以下、「生まれ育った土地ではないから」（22.7%）、「自然や街並みなど生活環境が悪いから」（21.8%）、「交通や買物など生活に不便だから」（21.8%）、「教育や文化、その他の社会施設などが整備されていないから」（20.9%）などと続く。（図１－６－１）

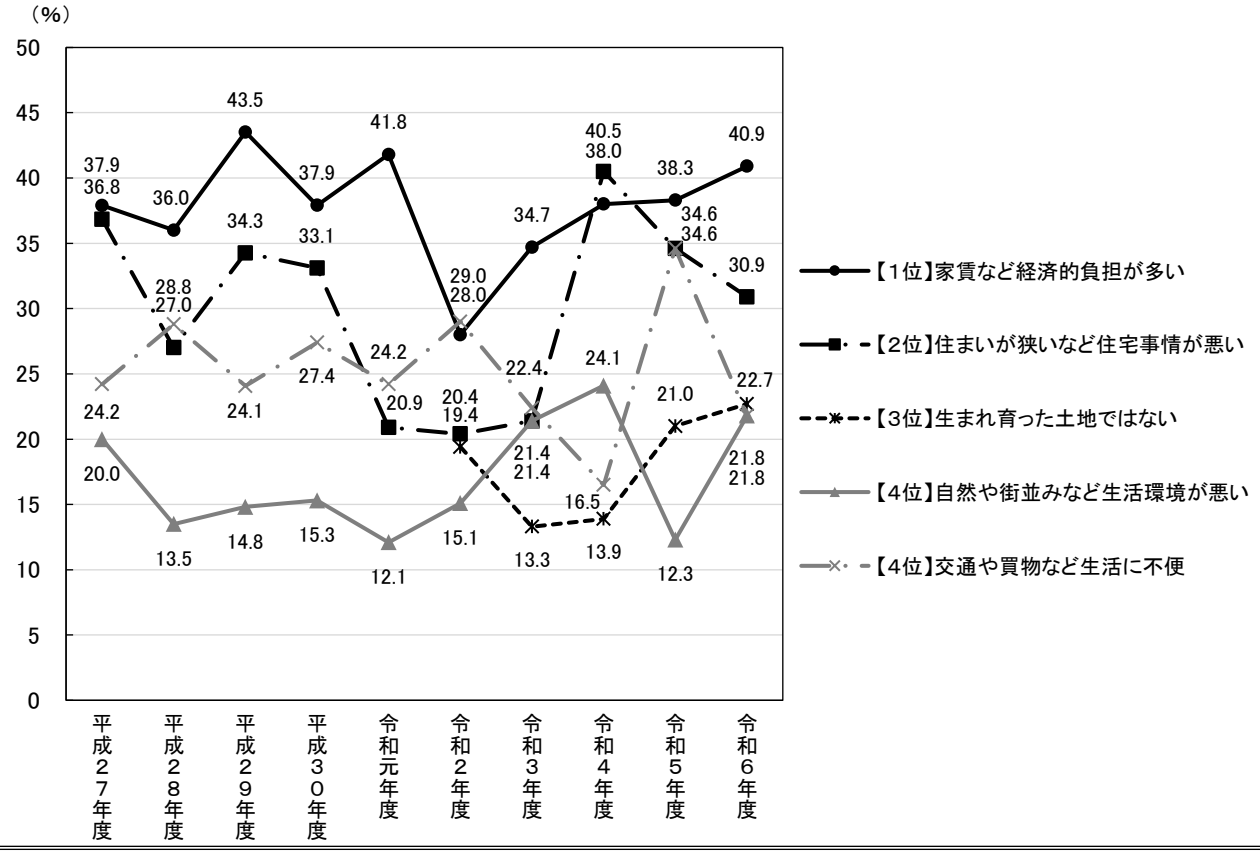
表１－６－１　非定住意向理由（時系列）

（%）

理　由	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
n	95	111	108	124	91	93	98	79	81	110
【1位】 家賃など経済的負担が多い	37.9	36.0	43.5	37.9	41.8	28.0	34.7	38.0	38.3	40.9
【2位】 住まいが狭いなど住宅事情が悪い	36.8	27.0	34.3	33.1	20.9	20.4	21.4	40.5	34.6	30.9
【3位】 生まれ育った土地ではない	－	－	－	－	－	19.4	13.3	13.9	21.0	22.7
【4位】 自然や街並みなど生活環境が悪い	20.0	13.5	14.8	15.3	12.1	15.1	21.4	24.1	12.3	21.8
【4位】 交通や買物など生活に不便	24.2	28.8	24.1	27.4	24.2	29.0	22.4	16.5	34.6	21.8
【6位】 社会施設などが整備されていない	16.8	17.1	14.8	16.9	15.4	11.8	11.2	16.5	22.2	20.9
【7位】 土地柄になじめない	15.8	14.4	13.0	12.1	15.4	10.8	12.2	7.6	13.6	13.6
【7位】 子育てがしにくい	22.1	15.3	13.9	21.8	16.5	9.7	17.3	16.5	14.8	13.6
【9位】 地域・近隣との交流がほとんどない	13.7	10.8	13.9	15.3	11.0	12.9	9.2	19.0	14.8	10.9
【10位】自分の土地（住宅）でない	18.9	18.9	24.1	19.4	24.2	17.2	12.2	11.4	13.6	9.1

注）令和6年度の値で順位付けを行った。

図１－６－２　非定住意向理由（時系列）



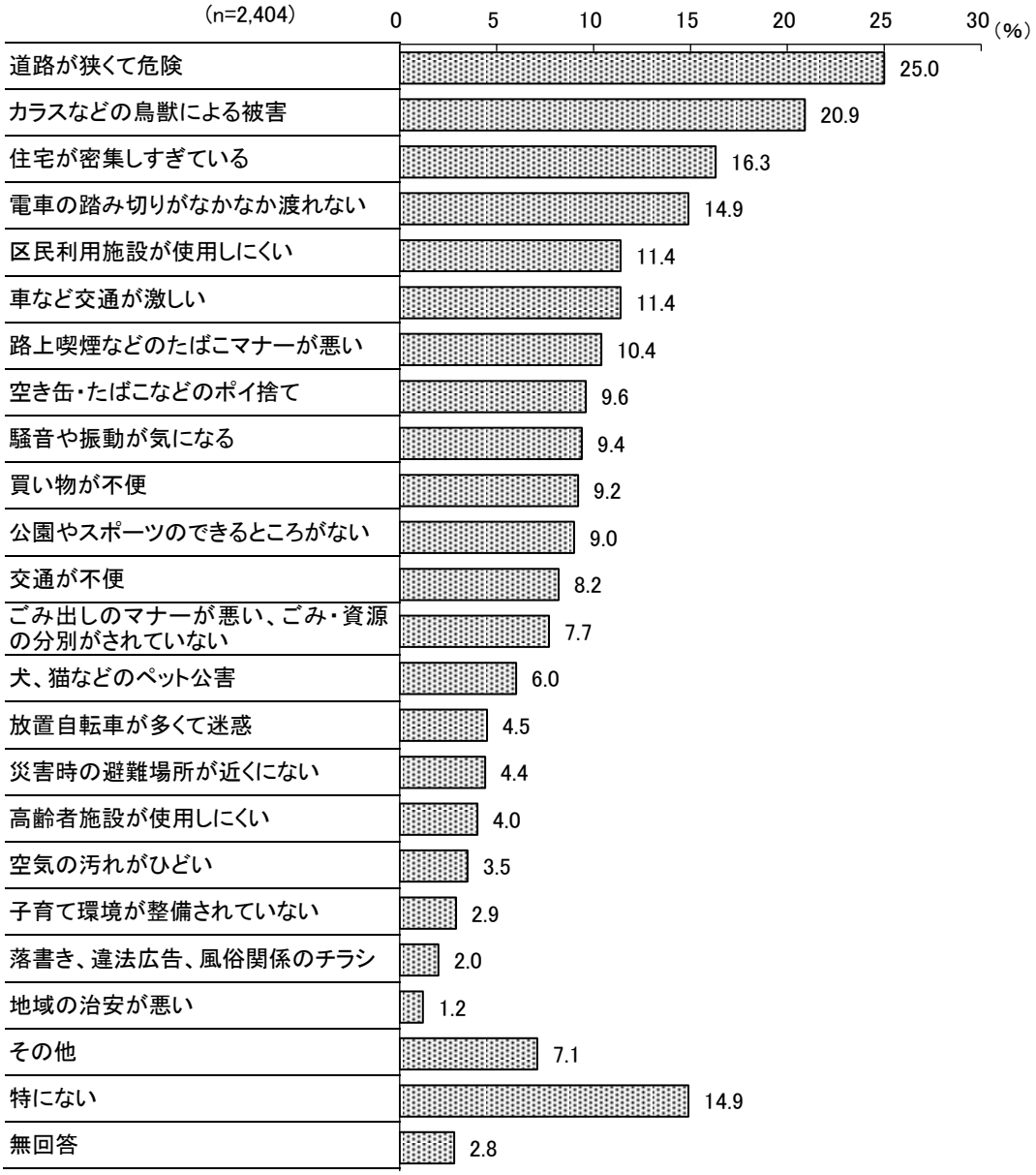
平成 27 年度からの時系列の変化をみると、「家賃など経済的負担が多いから」は令和２年度を除くすべての年度で３割～４割台で、常に２位以内に挙げられている。（表１－６－１、図１－６－２）

（７）地域における日常生活での困りごと

◎「道路が狭くて危険」が２割半ば

問５　あなたは、普段生活している地域でどんなことにお困りですか。（○は３つまで）

図１－７－１



地域内での日常生活で困っていることを聞いたところ、「道路が狭くて危険」（25.0%）が２割半ばで最も高く、以下、「カラスなどの鳥獣による被害」(20.9%)、「住宅が密集しすぎている」(16.3%)、「電車の踏み切りがなかなか渡れない」（14.9%）、「区民利用施設が使用しにくい」（11.4%）、「車など交通が激しい」（11.4%）、「路上喫煙などのたばこマナーが悪い」（10.4%）などと続く。（図１－７－１）

表１－７－１　地域における日常生活での困りごと（時系列）

（%）

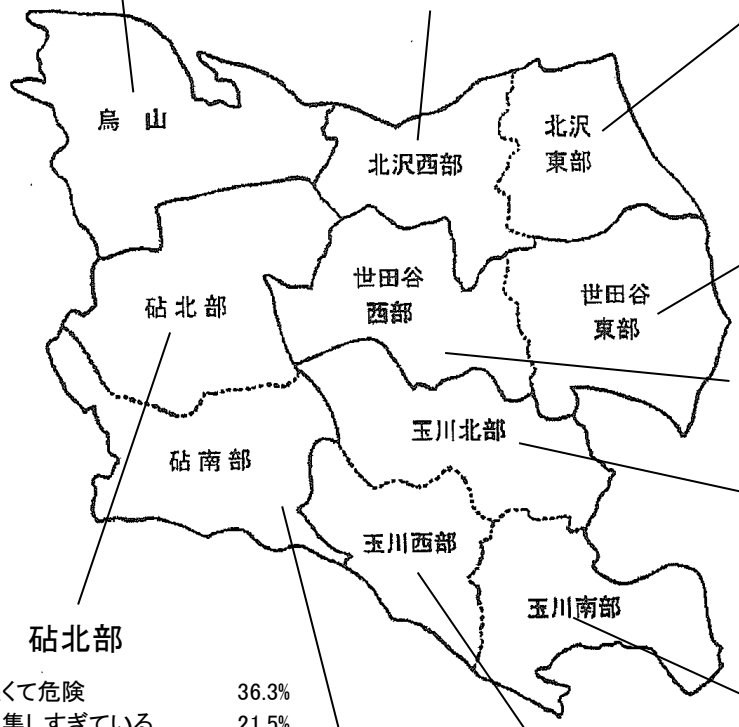
	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
令和6年度	2,404	道路が狭くて危険 25.0	カラスなどの鳥獣による被害 20.9	住宅が密集しすぎている 16.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.9	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 11.4		路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.6	騒音や振動が気になる 9.4	買い物が不便 9.2
令和5年度	1,832	道路が狭くて危険 26.3	カラスなどの鳥獣による被害 20.2	住宅が密集しすぎている 16.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.1	区民利用施設が使用しにくい 12.9	車など交通が激しい 12.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.5	公園やスポーツのできるところがない 10.3	空き缶・たばこなどのポイ捨て 10.2	買い物が不便／交通が不便 9.2
令和4年度	1,923	道路が狭くて危険 25.1	住宅が密集しすぎている 16.6	カラスなどの鳥獣による被害 15.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.4	車など交通が激しい 9.9	公園やスポーツのできるところがない 9.5	区民利用施設が使用しにくい 9.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.4	空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.0	交通が不便 7.6
令和3年度	2,086	道路が狭くて危険 24.4	住宅が密集しすぎている 17.2	カラスなどの鳥獣による被害 14.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.7	車など交通が激しい 10.7	区民利用施設が使用しにくい 10.5	公園やスポーツのできるところがない 10.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.1	空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.3	買い物が不便 7.6
令和2年度	2,371	道路が狭くて危険 28.2	住宅が密集しすぎている 19.3	カラスなどの鳥獣による被害 18.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	区民利用施設が使用しにくい 13.3	車など交通が激しい 12.7	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.9	公園やスポーツのできるところがない 10.0	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.7	騒音や振動が気になる 9.0
令和元年度	2,171	道路が狭くて危険 26.7	カラスなどの鳥獣による被害 19.2	住宅が密集しすぎている 17.0	車など交通が激しい 13.8	区民利用施設が使用しにくい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.7		空き缶・たばこなどのポイ捨て 12.4	騒音や振動が気になる 9.7	公園やスポーツのできるところがない 9.5	ごみ出しのマナーが悪い 8.8
平成29年度	2,319	道路が狭くて危険 26.0	車など交通が激しい 16.1	住宅が密集しすぎている 15.9	カラスなどの鳥獣による被害 15.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.4	区民利用施設が使用しにくい 10.1	交通が不便 9.1	騒音や振動が気になる 8.8	買い物が不便 8.6	公園やスポーツのできるところがない／空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.1
平成28年度	2,355	道路が狭くて危険 23.4	住宅が密集しすぎている 15.1	カラスなどの鳥獣による被害 14.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	車など交通が激しい 13.2	区民利用施設が使用しにくい 10.2	公園やスポーツのできるところがない／交通が不便 8.0		買い物が不便 7.6	犬、猫などのペット公害 7.3
平成27年度	2,388	道路が狭くて危険 25.3	住宅が密集しすぎている 15.7	カラスなどの鳥獣による被害 14.7	車など交通が激しい 14.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.9	区民利用施設が使用しにくい 11.6	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.0	交通が不便／犬、猫などのペット公害 8.6		買い物が不便 8.5
平成26年度	2,362	道路が狭くて危険 24.1	カラスなどの鳥獣による被害 15.9	住宅が密集しすぎている 15.5	車など交通が激しい 15.4	区民利用施設が使用しにくい 11.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.1	放置自転車が多くて迷惑 9.6	公園やスポーツのできるところがない 8.7	交通が不便 8.5	騒音や振動が気になる 8.4

注）平成30年度は質問項目がなかった。

平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「道路が狭くて危険」はいずれの年も１位で、２割半ば前後で推移している。「住宅が密集しすぎている」はいずれの年も３位以内に挙げられ、「カラスなどの鳥獣による被害」も平成 29 年度の４位を除くと常に３位以内に挙げられている。

（表１－７－１）

図１－７－２　地域における日常生活での困りごと－地域別（上位３項目）



烏　山

1位：電車の踏み切りがなかなか渡れない　49.3%
2位：道路が狭くて危険　33.9%
3位：カラスなどの鳥獣による被害　13.5%

北沢西部

1位：電車の踏み切りがなかなか渡れない　35.7%
2位：道路が狭くて危険　25.1%
3位：カラスなどの鳥獣による被害　21.1%

北沢東部

1位：道路が狭くて危険　31.7%
2位：住宅が密集しすぎている　18.6%
3位：空き缶・たばこなどのポイ捨て　15.3%

世田谷東部

1位：カラスなどの鳥獣による被害　29.9%
2位：道路が狭くて危険　19.5%
3位：住宅が密集しすぎている　18.9%

世田谷西部

1位：道路が狭くて危険　23.8%
2位：住宅が密集しすぎている　22.7%
3位：カラスなどの鳥獣による被害　22.0%

玉川北部

1位：カラスなどの鳥獣による被害　24.9%
2位：騒音や振動が気になる　15.0%
3位：道路が狭くて危険　14.2%

玉川南部

1位：電車の踏み切りがなかなか渡れない　28.9%
2位：公園やスポーツのできるところがない　18.0%
3位：道路が狭くて危険　14.9%

玉川西部

1位：カラスなどの鳥獣による被害　28.8%
2位：車など交通が激しい　18.5%
3位：道路が狭くて危険　15.1%

砧南部

1位：道路が狭くて危険　37.0%
2位：交通が不便　32.8%
3位：買い物が不便　26.1%

砧北部

1位：道路が狭くて危険　36.3%
2位：住宅が密集しすぎている　21.5%
3位：カラスなどの鳥獣による被害　19.5%

表１－７－２　地域における日常生活での困りごと（地域別）

（%）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	道路が狭くて危険 25.0	カラスなどの鳥獣による被害 20.9	住宅が密集しすぎている 16.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.9	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 11.4		路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.6	騒音や振動が気になる 9.4	買い物が不便 9.2
世田谷東部	375	カラスなどの鳥獣による被害 29.9	道路が狭くて危険 19.5	住宅が密集しすぎている 18.9	車など交通が激しい 17.1	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 15.5	区民利用施設が使用しにくい 13.3	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 12.3	空き缶・たばこなどのポイ捨て 12.0	騒音や振動が気になる 11.2	公園やスポーツのできるところがない 7.5
世田谷西部	273	道路が狭くて危険 23.8	住宅が密集しすぎている 22.7	カラスなどの鳥獣による被害 22.0	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 13.9	空き缶・たばこなどのポイ捨て 10.3	車など交通が激しい 9.9	区民利用施設が使用しにくい 8.8	公園やスポーツのできるところがない／犬、猫などのペット公害 8.4		買い物が不便 7.3
北沢東部	183	道路が狭くて危険 31.7	住宅が密集しすぎている 18.6	空き缶・たばこなどのポイ捨て 15.3	車など交通が激しい／カラスなどの鳥獣による被害 14.2		公園やスポーツのできるところがない 12.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない／騒音や振動が気になる 10.9		区民利用施設が使用しにくい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4	
北沢西部	199	電車の踏み切りがなかなか渡れない 35.7	道路が狭くて危険 25.1	カラスなどの鳥獣による被害 21.1	住宅が密集しすぎている 17.1	区民利用施設が使用しにくい 12.6	空き缶・たばこなどのポイ捨て／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.6		公園やスポーツのできるところがない／買い物が不便／騒音や振動が気になる 10.1		
玉川北部	233	カラスなどの鳥獣による被害 24.9	騒音や振動が気になる 15.0	道路が狭くて危険 14.2	住宅が密集しすぎている 13.3	交通が不便 12.4	区民利用施設が使用しにくい 12.0	車など交通が激しい 11.2	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.6	買い物が不便／犬、猫などのペット公害 8.2	
玉川南部	228	電車の踏み切りがなかなか渡れない 28.9	公園やスポーツのできるところがない 18.0	道路が狭くて危険 14.9	カラスなどの鳥獣による被害 13.2	区民利用施設が使用しにくい 12.7	買い物が不便／車など交通が激しい 11.4		住宅が密集しすぎている 11.0	騒音や振動が気になる 10.1	交通が不便 7.0
玉川西部	146	カラスなどの鳥獣による被害 28.8	車など交通が激しい 18.5	道路が狭くて危険 15.1	買い物が不便 13.0	公園やスポーツのできるところがない／区民利用施設が使用しにくい 11.6		住宅が密集しすぎている 10.3	空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.9	騒音や振動が気になる／空気の汚れがひどい／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 6.8	
砧北部	303	道路が狭くて危険 36.3	住宅が密集しすぎている 21.5	カラスなどの鳥獣による被害 19.5	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.2	車など交通が激しい 10.6	区民利用施設が使用しにくい／交通が不便 10.2		空き缶・たばこなどのポイ捨て 7.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない 6.9	騒音や振動が気になる／犬、猫などのペット公害 6.3
砧南部	119	道路が狭くて危険 37.0	交通が不便 32.8	買い物が不便 26.1	カラスなどの鳥獣による被害 22.7	住宅が密集しすぎている 13.4	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 9.2		騒音や振動が気になる 8.4	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない／犬、猫などのペット公害 7.6	
烏山	304	電車の踏み切りがなかなか渡れない 49.3	道路が狭くて危険 33.9	カラスなどの鳥獣による被害 13.5	公園やスポーツのできるところがない 12.2	区民利用施設が使用しにくい 11.5	住宅が密集しすぎている 11.2	放置自転車が多くて迷惑 10.9	交通が不便 9.9	路上喫煙などのたばこマナーが悪い／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 9.2	

地域別にみると、「道路が狭くて危険」は世田谷西部、北沢東部、砧北部、砧南部の４つの地域で１位となっている。「カラスなどの鳥獣による被害」は世田谷東部、玉川北部、玉川西部の３つの地域で、「電車の踏み切りがなかなか渡れない」は北沢西部、玉川南部、烏山の３つの地域で１位となっている。（表１－７－２）

表１－７－３　地域における日常生活での困りごと（性・年齢別）

（%）

	n	１ 位	２ 位	３ 位	４ 位	５ 位	６ 位	７ 位	８ 位	９ 位	１０ 位
全 体	2,404	道路が狭くて危険 25.0	カラスなどの鳥獣による被害 20.9	住宅が密集しすぎている 16.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.9	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 11.4		路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.6	騒音や振動が気になる 9.4	買い物が不便 9.2
男性全体	915	道路が狭くて危険 28.1	カラスなどの鳥獣による被害 20.9	住宅が密集しすぎている 18.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.7	車など交通が激しい 12.7	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.0	騒音や振動が気になる 9.8	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.7	区民利用施設が使用しにくい 9.3	公園やスポーツのできるところがない 8.6
10・20歳代	72	道路が狭くて危険 34.7	住宅が密集しすぎている 19.4	公園やスポーツのできるところがない 18.1	車など交通が激しい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 16.7		カラスなどの鳥獣による被害 15.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない／騒音や振動が気になる 13.9		交通が不便 11.1	空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.3
30歳代	102	道路が狭くて危険 33.3	車など交通が激しい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 16.7		カラスなどの鳥獣による被害 13.7	住宅が密集しすぎている／騒音や振動が気になる／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 12.7			公園やスポーツのできるところがない 11.8	子育て環境が整備されていない 9.8	買い物が不便／交通が不便 7.8
40歳代	135	道路が狭くて危険 31.1	住宅が密集しすぎている 22.2	カラスなどの鳥獣による被害 19.3	車など交通が激しい 18.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.8	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 12.6	区民利用施設が使用しにくい 11.1	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 10.4	騒音や振動が気になる／空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.6	
50歳代	196	道路が狭くて危険 26.0	カラスなどの鳥獣による被害 24.0	住宅が密集しすぎている 18.4	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.8	車など交通が激しい 13.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.2	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 9.7	交通が不便／騒音や振動が気になる 9.2		区民利用施設が使用しにくい／買い物が不便 8.2
60歳代	160	道路が狭くて危険 26.9	カラスなどの鳥獣による被害 26.3	住宅が密集しすぎている 20.0	区民利用施設が使用しにくい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 13.1		車など交通が激しい／空き缶・たばこなどのポイ捨て 11.3		電車の踏み切りがなかなか渡れない 10.0	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない／犬、猫などのペット公害 9.4	
70歳代	151	道路が狭くて危険 27.2	カラスなどの鳥獣による被害 21.9	住宅が密集しすぎている 18.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.2	空き缶・たばこなどのポイ捨て 12.6	高齢者施設が使用しにくい 11.9	区民利用施設が使用しにくい 9.3	騒音や振動が気になる 8.6	車など交通が激しい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない／犬、猫などのペット公害 7.9	
80歳以上	99	道路が狭くて危険 21.2	高齢者施設が使用しにくい／カラスなどの鳥獣による被害 18.2		区民利用施設が使用しにくい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.1		住宅が密集しすぎている 12.1	空き缶・たばこなどのポイ捨て 11.1	騒音や振動が気になる 10.1	買い物が不便／犬、猫などのペット公害 9.1	
女性全体	1,447	道路が狭くて危険 23.1	カラスなどの鳥獣による被害 20.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 15.8	住宅が密集しすぎている 15.3	区民利用施設が使用しにくい 12.5	買い物が不便／車など交通が激しい 10.7		路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.0	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.5	公園やスポーツのできるところがない 9.4
10・20歳代	120	カラスなどの鳥獣による被害 22.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 20.8	住宅が密集しすぎている 16.7	道路が狭くて危険 15.0	買い物が不便／騒音や振動が気になる 14.2		公園やスポーツのできるところがない 10.8	車など交通が激しい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.2		交通が不便 8.3
30歳代	186	道路が狭くて危険 30.6	住宅が密集しすぎている／電車の踏み切りがなかなか渡れない／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 17.2			カラスなどの鳥獣による被害 15.6	買い物が不便 15.1	車など交通が激しい 14.0	公園やスポーツのできるところがない／交通が不便／騒音や振動が気になる 11.8		
40歳代	264	道路が狭くて危険 35.2	カラスなどの鳥獣による被害 21.6	住宅が密集しすぎている 20.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 20.1	車など交通が激しい 18.6	公園やスポーツのできるところがない／区民利用施設が使用しにくい 13.6		騒音や振動が気になる 12.5	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.2	買い物が不便／交通が不便 9.8
50歳代	293	道路が狭くて危険 24.2	カラスなどの鳥獣による被害 22.2	住宅が密集しすぎている 15.4	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.3	車など交通が激しい 11.9	区民利用施設が使用しにくい 10.9	買い物が不便／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.9		交通が不便 9.6	公園やスポーツのできるところがない 8.9
60歳代	240	カラスなどの鳥獣による被害 27.1	道路が狭くて危険 22.1	住宅が密集しすぎている 17.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 15.4	区民利用施設が使用しにくい／空き缶・たばこなどのポイ捨て 15.0		路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.0	騒音や振動が気になる 9.2	買い物が不便 8.8	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 7.9
70歳代	200	カラスなどの鳥獣による被害 20.0	区民利用施設が使用しにくい 18.0	災害時の避難場所が近くにない 12.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない／道路が狭くて危険 12.0		空き缶・たばこなどのポイ捨て 11.0	高齢者施設が使用しにくい 9.5	住宅が密集しすぎている／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 9.0		犬、猫などのペット公害 8.5
80歳以上	143	買い物が不便 14.0	道路が狭くて危険／カラスなどの鳥獣による被害 12.6		区民利用施設が使用しにくい 11.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない 10.5	高齢者施設が使用しにくい 9.8	災害時の避難場所が近くにない 9.1	住宅が密集しすぎている／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 7.7		車など交通が激しい／空き缶・たばこなどのポイ捨て 7.0

性・年齢別にみると、男性は各年代とも「道路が狭くて危険」が１位となっている。女性は 30 歳代～50 歳代で「道路が狭くて危険」、10・20 歳代、60 歳代、70 歳代で「カラスなどの鳥獣による被害」、80 歳以上で「買い物が不便」が１位となっている。「電車の踏み切りがなかなか渡れない」は男性の 30 歳代、女性の 10・20 歳代と 30 歳代で２位となっている。（表１－７－３）

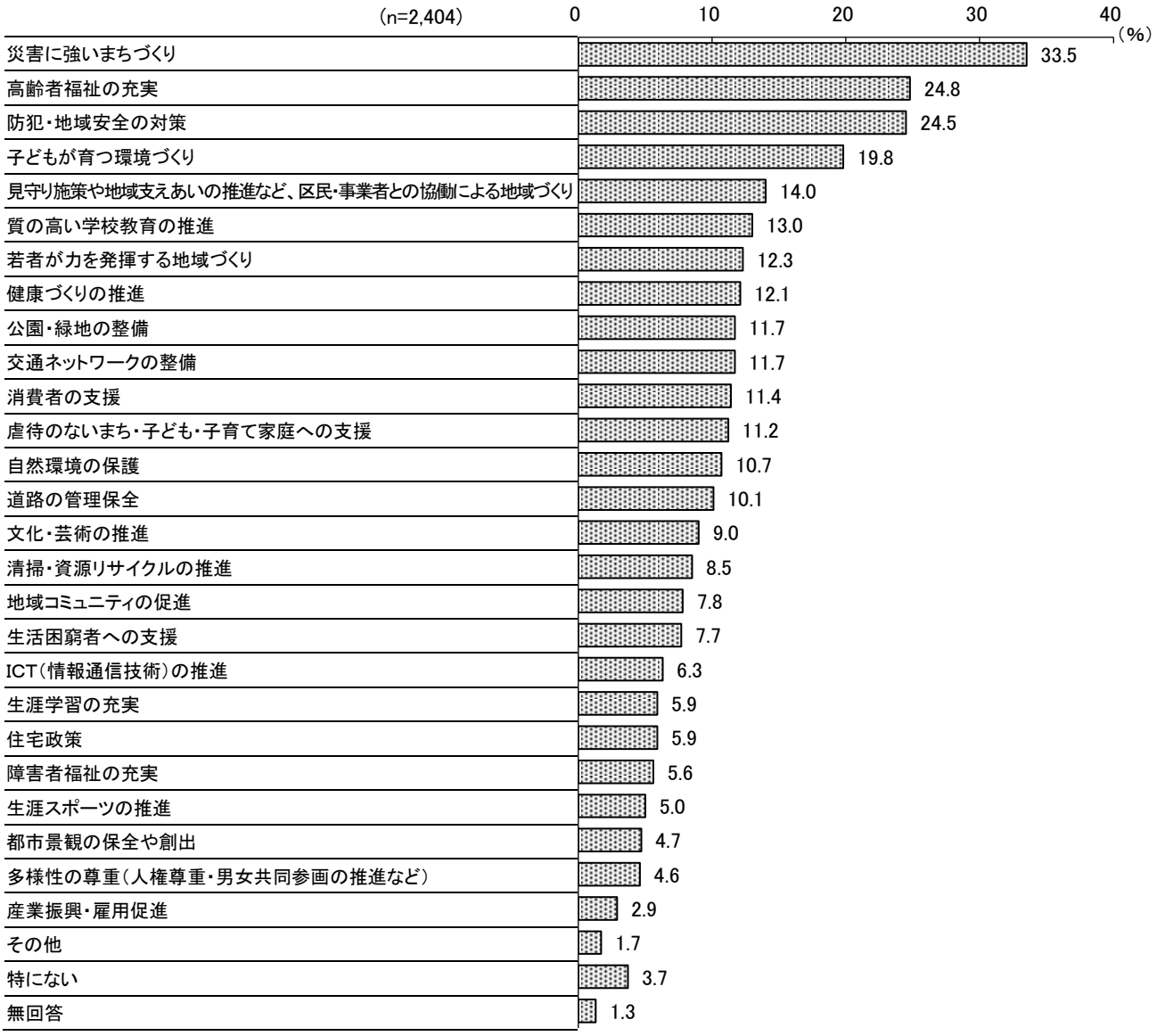
２．区政

（１）区が積極的に取り組むべき事業

◎「災害に強いまちづくり」が第１位、「高齢者福祉の充実」が第２位、
「防犯・地域安全の対策」が第３位

問６　あなたは、今後世田谷区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思いますか。
（○は３つまで）

図２－１－１



今後区が積極的に取り組むべき事業について聞いたところ、「災害に強いまちづくり」（33.5%）が３割を超え、「高齢者福祉の充実」（24.8%）と「防犯・地域安全の対策」（24.5%）が２割半ば、「子どもが育つ環境づくり」（19.8%）が２割となっている。（図２－１－１）

表２－１－１　区が積極的に取り組むべき事業（時系列）

（%）

	n	１ 位	２ 位	３ 位	４ 位	５ 位	６ 位	７ 位	８ 位	９ 位	１０ 位
令和6年度	2,404	災害に強いまちづくり 33.5	高齢者福祉の充実 24.8	防犯・地域安全の対策 24.5	子どもが育つ環境づくり 19.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.0	質の高い学校教育の推進 13.0	若者が力を発揮する地域づくり 12.3	健康づくりの推進 12.1	公園・緑地の整備／交通ネットワークの整備 11.7	
令和5年度	1,832	災害に強いまちづくり 31.5	防犯・地域安全の対策 28.5	高齢者福祉の充実 25.4	子どもが育つ環境づくり 20.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.7	若者が力を発揮する地域づくり 13.0	質の高い学校教育の推進／公園・緑地の整備 12.4		自然環境の保護 12.2	健康づくりの推進 12.0
令和4年度	1,923	災害に強いまちづくり 28.1	高齢者福祉の充実 21.1	防犯・地域安全の対策 18.7	子どもが育つ環境づくり 16.5	区民・事業者との協働による地域づくり 11.2	若者が力を発揮する地域づくり 10.5	質の高い学校教育の推進 10.1	健康づくりの推進 9.4	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.0	
令和3年度	2,086	災害に強いまちづくり 29.8	防犯・地域安全の対策 21.3	高齢者福祉の充実 19.4	子どもが育つ環境づくり 16.9	区民・事業者との協働による地域づくり 9.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.4		健康づくりの推進 9.3	質の高い学校教育の推進 9.0	ICT（情報通信技術）の推進 8.7
令和2年度	2,371	災害に強いまちづくり 42.9	防犯・地域安全の対策 26.9	高齢者福祉の充実 25.3	子どもが育つ環境づくり 18.6	ICT（情報通信技術）の推進 13.6	健康づくりの推進 13.1	自然環境の保護 12.4	区民・事業者との協働による地域づくり 12.2	質の高い学校教育の推進／交通ネットワークの整備 12.1	
令和元年度	2,171	災害に強いまちづくり 32.8	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 31.2	子どもが育つ環境づくり 21.1	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 15.3	区民・事業者との協働による地域づくり 13.4	質の高い学校教育の推進 12.2	健康づくりの推進 11.7	交通ネットワークの整備 11.3	公園・緑地の整備／自然環境の保護 10.6
平成30年度	2,330	防犯・地域安全の対策 35.7	高齢者福祉の充実 35.2	災害に強いまちづくり 34.6	子どもが育つ環境づくり 27.8	健康づくりの推進／区民・事業者との協働による地域づくり 16.1		自然環境の保護 13.6	交通ネットワークの整備 13.4	質の高い学校教育の推進 13.0	公園・緑地の整備 12.7
平成28年度	2,355	災害に強いまちづくり 32.0	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 26.2	子どもが育つ環境づくり 22.9	区民・事業者との協働による地域づくり 13.0	健康づくりの推進 11.6	質の高い学校教育の推進 9.9	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 9.3	交通ネットワークの整備 8.8	若者が力を発揮する地域づくり 8.3
平成27年度	2,388	高齢者福祉の充実 33.8	災害に強いまちづくり 27.2	防犯・地域安全の対策 24.0	子ども子育て家庭への支援 16.8	児童（保育）福祉の充実 16.0	区民・事業者との協働による地域づくり／若者が力を発揮する地域づくり 11.9		自然環境の保護 11.6	健康づくりの推進 10.7	交通ネットワークの整備 10.2
平成26年度	2,362	災害に強いまちづくり 46.3	防犯・地域安全の対策 37.9	高齢者福祉の充実 29.2	児童（保育）福祉の充実 19.3	自然環境の保護 18.0	道路の管理保全 14.9	公園・緑地の整備 12.1	消費者の支援 8.1	住宅施策 8.0	健康づくり 7.7

注）平成29年度は質問項目がなかった。

平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「災害に強いまちづくり」、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」が常に３位以内に挙げられている。また、「子どもが育つ環境づくり」は平成 28 年度以降、４位となっている。（表２－１－１）

表２－１－２　区が積極的に取り組むべき事業（地域別）

（%）

	n	１ 位	２ 位	３ 位	４ 位	５ 位	６ 位	７ 位	８ 位	９ 位	１０ 位
全 体	2,404	災害に強いまちづくり 33.5	高齢者福祉の充実 24.8	防犯・地域安全の対策 24.5	子どもが育つ環境づくり 19.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.0	質の高い学校教育の推進 13.0	若者が力を発揮する地域づくり 12.3	健康づくりの推進 12.1	公園・緑地の整備／交通ネットワークの整備 11.7	
世田谷東部	375	災害に強いまちづくり 33.1	高齢者福祉の充実 26.4	防犯・地域安全の対策 20.3	子どもが育つ環境づくり 18.7	消費者の支援 13.9	質の高い学校教育の推進 13.1	公園・緑地の整備 12.5	清掃・資源リサイクルの推進 11.5	区民・事業者との協働による地域づくり／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 11.2	
世田谷西部	273	災害に強いまちづくり 41.0	防犯・地域安全の対策 26.4	高齢者福祉の充実 22.3	子どもが育つ環境づくり 18.7	健康づくりの推進 15.4	質の高い学校教育の推進／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 13.2		若者が力を発揮する地域づくり 12.5	交通ネットワークの整備 11.0	消費者の支援 10.6
北沢東部	183	防犯・地域安全の対策 36.1	災害に強いまちづくり 33.3	高齢者福祉の充実 20.8	子どもが育つ環境づくり 20.2	公園・緑地の整備 15.3	区民・事業者との協働による地域づくり 14.8	質の高い学校教育の推進 14.2	若者が力を発揮する地域づくり 13.1	文化・芸術の推進 12.0	健康づくりの推進／消費者の支援 11.5
北沢西部	199	災害に強いまちづくり 33.2	高齢者福祉の充実 28.6	子どもが育つ環境づくり 20.6	防犯・地域安全の対策 18.1	区民・事業者との協働による地域づくり 17.1	質の高い学校教育の推進 13.1	消費者の支援 12.6	公園・緑地の整備／交通ネットワークの整備 12.1		健康づくりの推進／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 10.6
玉川北部	233	災害に強いまちづくり 32.6	子どもが育つ環境づくり 22.3	防犯・地域安全の対策 19.7	高齢者福祉の充実 18.9	区民・事業者との協働による地域づくり 15.9	質の高い学校教育の推進 13.3	若者が力を発揮する地域づくり／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 12.9		清掃・資源リサイクルの推進／自然環境の保護 10.7	
玉川南部	228	災害に強いまちづくり 32.5	高齢者福祉の充実 21.9	子どもが育つ環境づくり 21.5	防犯・地域安全の対策 20.2	区民・事業者との協働による地域づくり 15.4	質の高い学校教育の推進／自然環境の保護 14.0		若者が力を発揮する地域づくり 13.2	公園・緑地の整備 12.7	健康づくりの推進 12.3
玉川西部	146	災害に強いまちづくり 32.9	防犯・地域安全の対策 26.0	高齢者福祉の充実 25.3	子どもが育つ環境づくり 19.9	区民・事業者との協働による地域づくり 18.5	自然環境の保護 17.1	若者が力を発揮する地域づくり／質の高い学校教育の推進 13.0		健康づくりの推進／文化・芸術の推進／公園・緑地の整備 11.6	
砧北部	303	災害に強いまちづくり 34.3	高齢者福祉の充実 27.7	防犯・地域安全の対策 27.1	子どもが育つ環境づくり 22.1	道路の管理保全 13.9	若者が力を発揮する地域づくり 13.5	健康づくりの推進／区民・事業者との協働による地域づくり／消費者の支援／交通ネットワークの整備 12.9			
砧南部	119	災害に強いまちづくり 37.0	防犯・地域安全の対策 26.9	高齢者福祉の充実 25.2	交通ネットワークの整備 21.0	質の高い学校教育の推進 18.5	区民・事業者との協働による地域づくり 17.6	若者が力を発揮する地域づくり／消費者の支援 13.4		健康づくりの推進 12.6	子どもが育つ環境づくり 11.8
烏山	304	災害に強いまちづくり 28.3	高齢者福祉の充実 27.6	防犯・地域安全の対策 27.0	子どもが育つ環境づくり 20.1	交通ネットワークの整備 17.1	健康づくりの推進 14.1	公園・緑地の整備 13.2	若者が力を発揮する地域づくり／道路の管理保全 12.5		区民・事業者との協働による地域づくり 12.2

地域別にみると、北沢東部は「防犯・地域安全の対策」が１位、その他の地域はすべて「災害に強いまちづくり」が１位となっている。「子どもが育つ環境づくり」は玉川北部で２位、北沢西部と玉川南部で３位となっている。（表２－１－２）

表２－１－３　区が積極的に取り組むべき事業（性・年齢別）

（%）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	災害に強いまちづくり 33.5	高齢者福祉の充実 24.8	防犯・地域安全の対策 24.5	子どもが育つ環境づくり 19.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.0	質の高い学校教育の推進 13.0	若者が力を発揮する地域づくり 12.3	健康づくりの推進 12.1	公園・緑地の整備／交通ネットワークの整備 11.7	
男 性 全 体	915	災害に強いまちづくり 29.4	高齢者福祉の充実 23.7	防犯・地域安全の対策 23.2	子どもが育つ環境づくり 21.6	公園・緑地の整備 14.4	健康づくりの推進 13.7	質の高い学校教育の推進 13.2	区民・事業者との協働による地域づくり 13.1	若者が力を発揮する地域づくり 12.9	道路の管理保全 11.4
10・20歳代	72	若者が力を発揮する地域づくり 26.4	ICT(情報通信技術)の推進 25.0	子どもが育つ環境づくり 23.6	質の高い学校教育の推進 20.8	消費者の支援／公園・緑地の整備 19.4		虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／災害に強いまちづくり 16.7		道路の管理保全 13.9	交通ネットワークの整備 12.5
30歳代	102	子どもが育つ環境づくり 45.1	質の高い学校教育の推進 27.5	若者が力を発揮する地域づくり／公園・緑地の整備 23.5		災害に強いまちづくり 22.5	交通ネットワークの整備 18.6	ICT(情報通信技術)の推進／防犯・地域安全の対策／文化・芸術の推進 12.7			健康づくりの推進／住宅政策 10.8
40歳代	135	子どもが育つ環境づくり 31.1	質の高い学校教育の推進 25.9	災害に強いまちづくり 23.0	防犯・地域安全の対策 19.3	若者が力を発揮する地域づくり／公園・緑地の整備 15.6		地域コミュニティの促進 13.3	生涯スポーツの推進 12.6	ICT(情報通信技術)の推進／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 11.9	
50歳代	196	災害に強いまちづくり 29.6	高齢者福祉の充実 21.9	防犯・地域安全の対策 20.4	区民・事業者との協働による地域づくり／交通ネットワークの整備 16.3		子どもが育つ環境づくり 15.8	消費者の支援 13.8	健康づくりの推進 12.8	道路の管理保全 11.7	若者が力を発揮する地域づくり／地域コミュニティの促進 11.2
60歳代	160	防犯・地域安全の対策 34.4	災害に強いまちづくり 33.1	高齢者福祉の充実 31.3	子どもが育つ環境づくり 18.8	健康づくりの推進 18.1	公園・緑地の整備 17.5	区民・事業者との協働による地域づくり 16.9	自然環境の保護 13.8	道路の管理保全 12.5	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 10.6
70歳代	151	高齢者福祉の充実 40.4	災害に強いまちづくり 37.1	防犯・地域安全の対策 30.5	区民・事業者との協働による地域づくり 18.5	健康づくりの推進 15.9	子どもが育つ環境づくり／地域コミュニティの促進 13.9		虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 12.6	清掃・資源リサイクルの推進 11.9	道路の管理保全 11.3
80歳以上	99	高齢者福祉の充実 46.5	災害に強いまちづくり 36.4	防犯・地域安全の対策 25.3	健康づくりの推進 18.2	区民・事業者との協働による地域づくり 17.2	生活困窮者への支援／自然環境の保護 15.2		道路の管理保全 14.1	質の高い学校教育の推進 12.1	子どもが育つ環境づくり／公園・緑地の整備 11.1
女 性 全 体	1,447	災害に強いまちづくり 36.2	防犯・地域安全の対策 25.6	高齢者福祉の充実 25.2	子どもが育つ環境づくり 19.0	区民・事業者との協働による地域づくり 14.7	質の高い学校教育の推進 12.8	若者が力を発揮する地域づくり 12.2	交通ネットワークの整備 12.0	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 11.8	消費者の支援 11.5
10・20歳代	120	災害に強いまちづくり 25.0	防犯・地域安全の対策 24.2	若者が力を発揮する地域づくり 23.3	子どもが育つ環境づくり 22.5	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 15.0	消費者の支援 13.3	文化・芸術の推進 12.5	交通ネットワークの整備 10.8	ICT(情報通信技術)の推進／自然環境の保護 10.0	
30歳代	186	子どもが育つ環境づくり 40.3	災害に強いまちづくり 30.1	質の高い学校教育の推進 26.3	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／防犯・地域安全の対策／消費者の支援 16.1			若者が力を発揮する地域づくり 14.5	公園・緑地の整備／交通ネットワークの整備 13.4		文化・芸術の推進 10.8
40歳代	264	災害に強いまちづくり 37.9	防犯・地域安全の対策 26.1	子どもが育つ環境づくり 25.4	質の高い学校教育の推進 24.6	交通ネットワークの整備 21.2	公園・緑地の整備 15.2	高齢者福祉の充実 14.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 13.6	若者が力を発揮する地域づくり 12.9	文化・芸術の推進 12.5
50歳代	293	災害に強いまちづくり 39.6	高齢者福祉の充実 27.6	防犯・地域安全の対策 26.3	健康づくりの推進 15.7	自然環境の保護 14.7	区民・事業者との協働による地域づくり 13.7	交通ネットワークの整備 11.3	子どもが育つ環境づくり 10.9	消費者の支援 10.2	若者が力を発揮する地域づくり 9.6
60歳代	240	災害に強いまちづくり 41.7	高齢者福祉の充実 33.8	防犯・地域安全の対策 32.5	区民・事業者との協働による地域づくり 21.3	子どもが育つ環境づくり 17.9	健康づくりの推進 12.9	交通ネットワークの整備 10.0	清掃・資源リサイクルの推進 9.6	若者が力を発揮する地域づくり／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／公園・緑地の整備 9.2	
70歳代	200	高齢者福祉の充実／災害に強いまちづくり 39.0		防犯・地域安全の対策 25.0	区民・事業者との協働による地域づくり 24.5	自然環境の保護 14.5	若者が力を発揮する地域づくり 13.5	消費者の支援 13.0	子どもが育つ環境づくり／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 11.5		健康づくりの推進 11.0
80歳以上	143	高齢者福祉の充実 44.1	災害に強いまちづくり 30.1	防犯・地域安全の対策 25.9	区民・事業者との協働による地域づくり 21.0	消費者の支援 14.0	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／自然環境の保護 12.6		道路の管理保全 11.2	地域コミュニティの促進 9.8	健康づくりの推進／清掃・資源リサイクルの推進／公園・緑地の整備 8.4

性・年齢別にみると、「災害に強いまちづくり」は男性の 40 歳代以上と女性のすべての年代で３位以内に挙げられている。「子どもが育つ環境づくり」は男性の 30 歳代と 40 歳代、女性の 30 歳代で１位となっている。「若者が力を発揮する地域づくり」は男性の 30 歳代以下、女性の 10・20 歳代で３位以内に挙げられている。（表２－１－３）

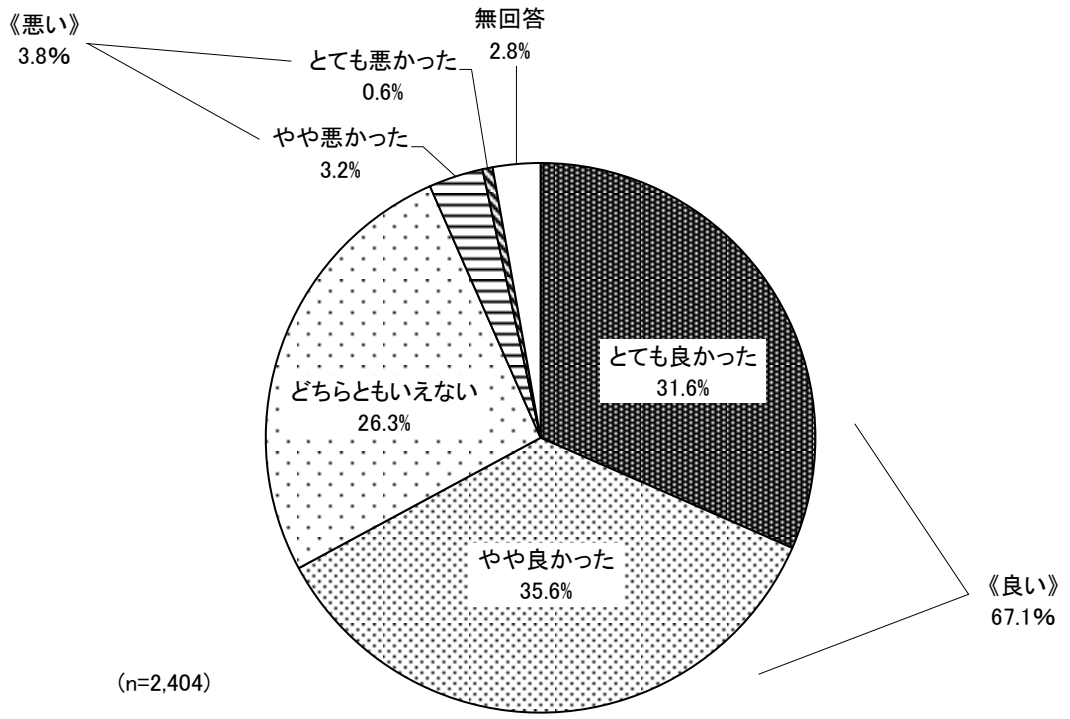
３．職員応対

（１）窓口応対

◎窓口応対が《良い》と感じている人が７割近く

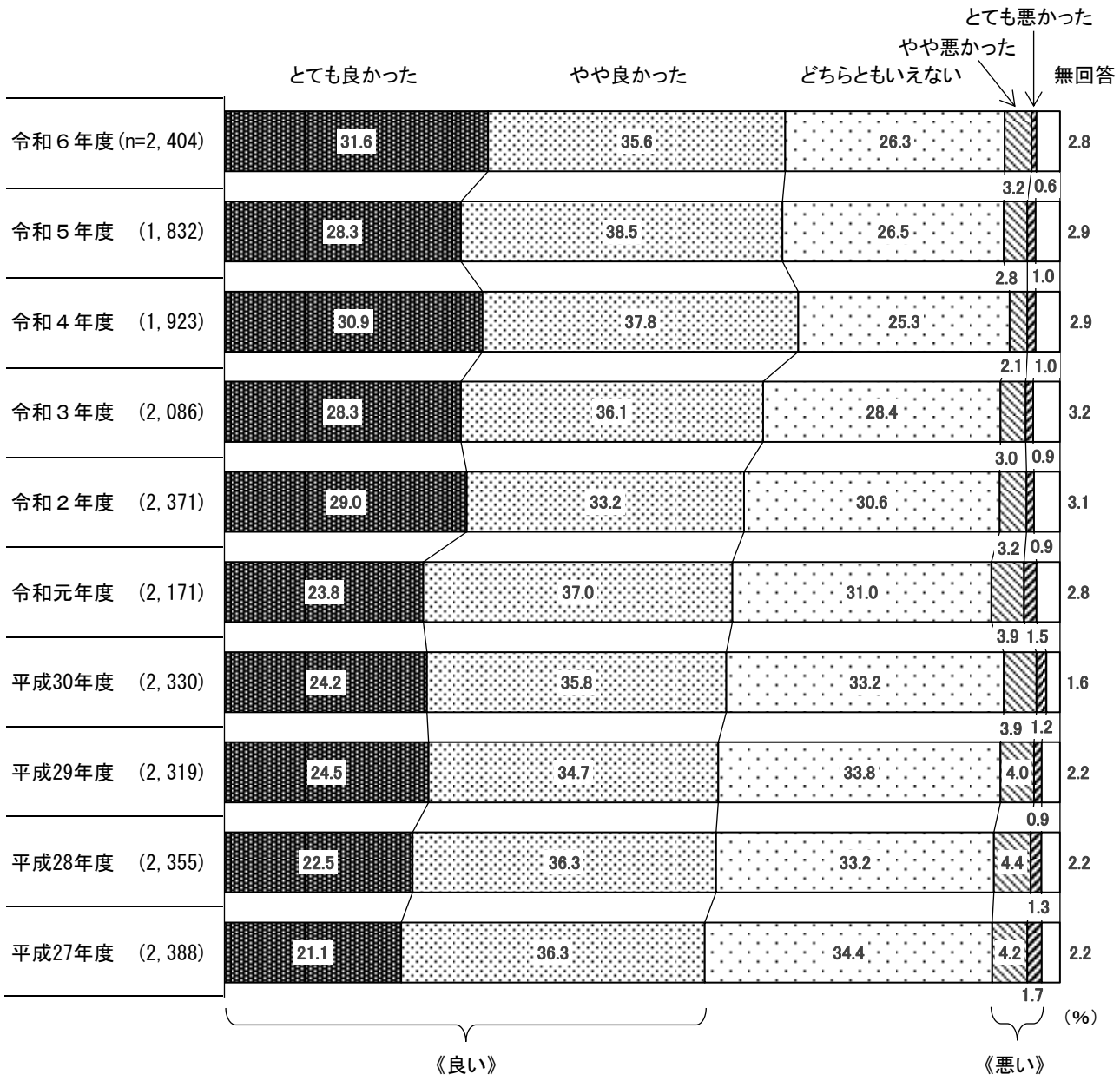
問７　区の窓口や応対について印象はいかがでしたか。（○は１つ）

図３－１－１



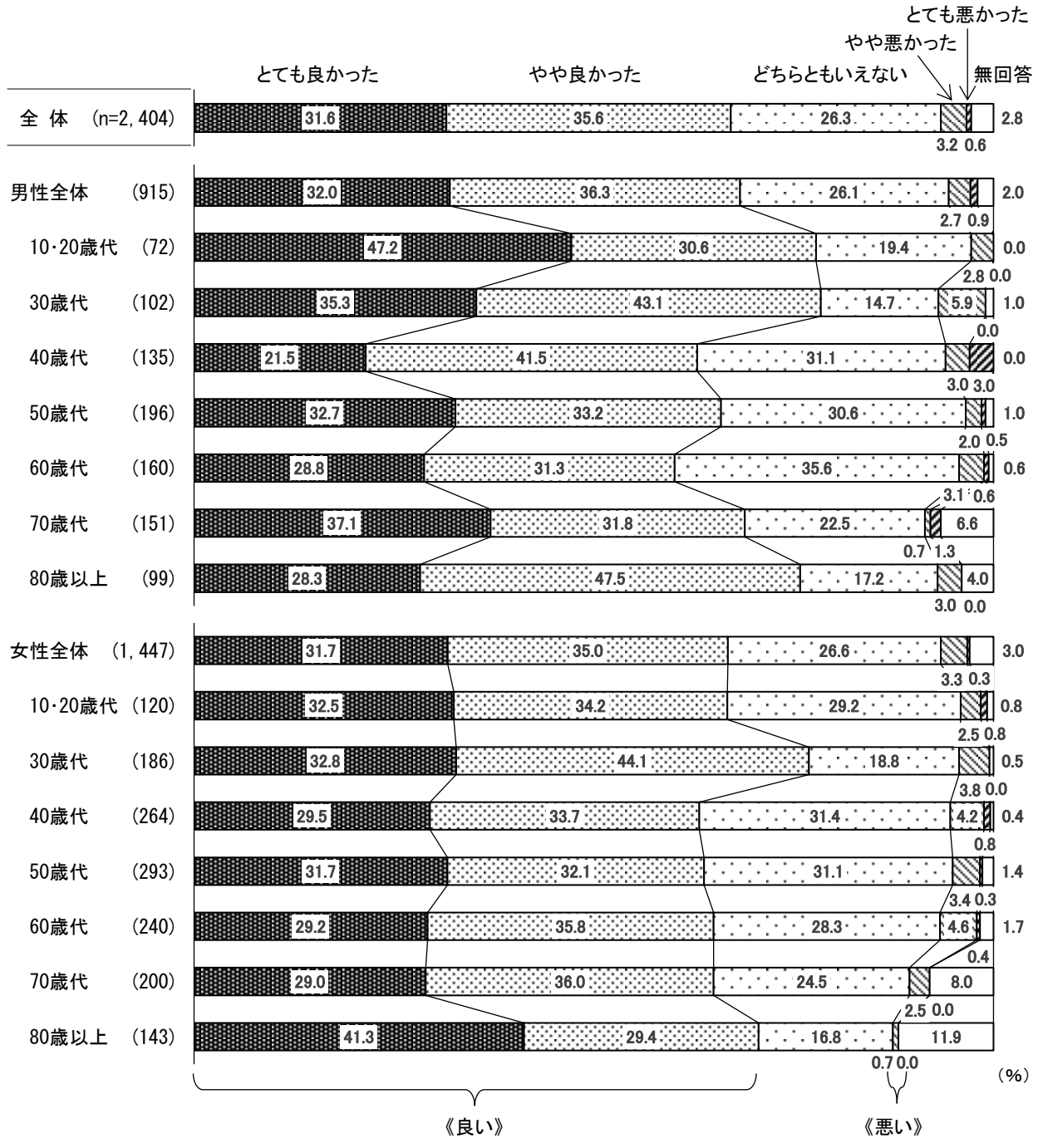
世田谷区の窓口や応対についての印象を聞いたところ、「とても良かった」（31.6%）と「やや良かった」（35.6%）を合わせた《良い》（67.1%）が７割近くとなっている。「どちらともいえない」（26.3%）は２割半ば、「やや悪かった」（3.2%）と「とても悪かった」（0.6%）を合わせた《悪い》（3.8%）は１割に満たない。（図３－１－１）

図３－１－２　窓口応対（時系列）



平成 27 年度からの時系列の変化をみると、《良い》は年々増える傾向にあり、令和４年度以降は７割近くで推移している。《悪い》は、いずれの年度も１割に満たない。（図３－１－２）

図３－１－３　窓口応対（性・年齢別）



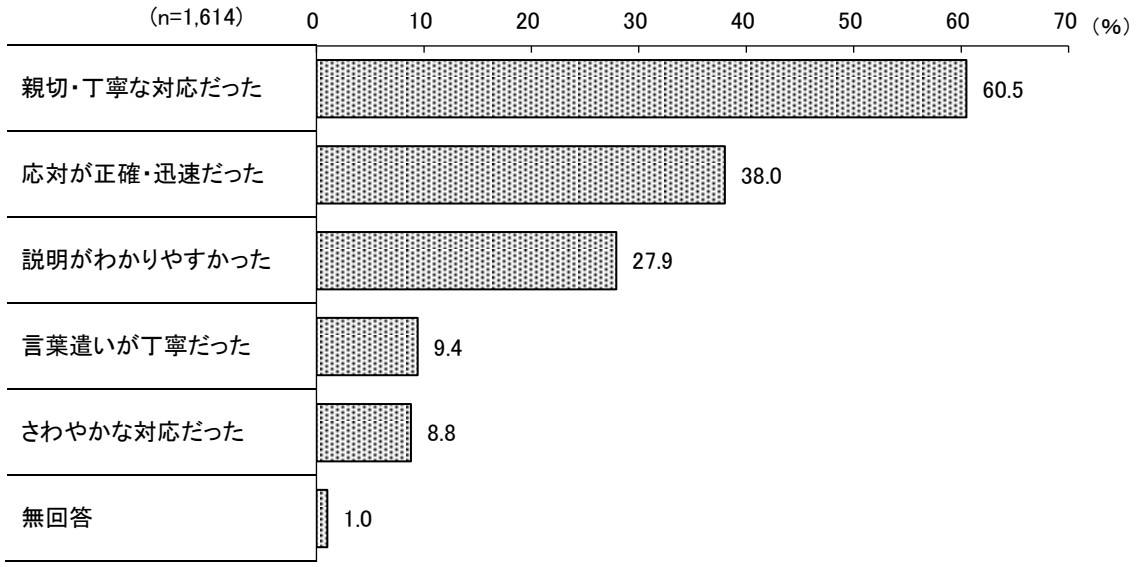
性・年齢別にみると、《良い》は男性の 10・20 歳代と 30 歳代、女性の 30 歳代で８割近く、男性の 80 歳以上で７割半ばとなっている。「とても良かった」は男性の 10・20 歳代で５割近く、女性の 80 歳以上で４割を超えている。（図３－１－３）

（２）印象が良かった点

◎印象が良かった点としては「親切・丁寧な対応だった」がほぼ６割

（問７で「とても良かった」または「やや良かった」と答えた方に）
問７－１　印象が良かった点はどれですか。（○は２つまで）

図３－２－１



区の窓口や応対について「とても良かった」または「やや良かった」と答えた方（1,614 人）に、印象の良かった点を聞いたところ、「親切・丁寧な対応だった」（60.5%）がほぼ６割で最も高い。以下、「応対が正確・迅速だった」（38.0%）、「説明がわかりやすかった」（27.9%）、「言葉遣いが丁寧だった」（9.4%）、「さわやかな対応だった」（8.8%）と続く。（図３－２－１）

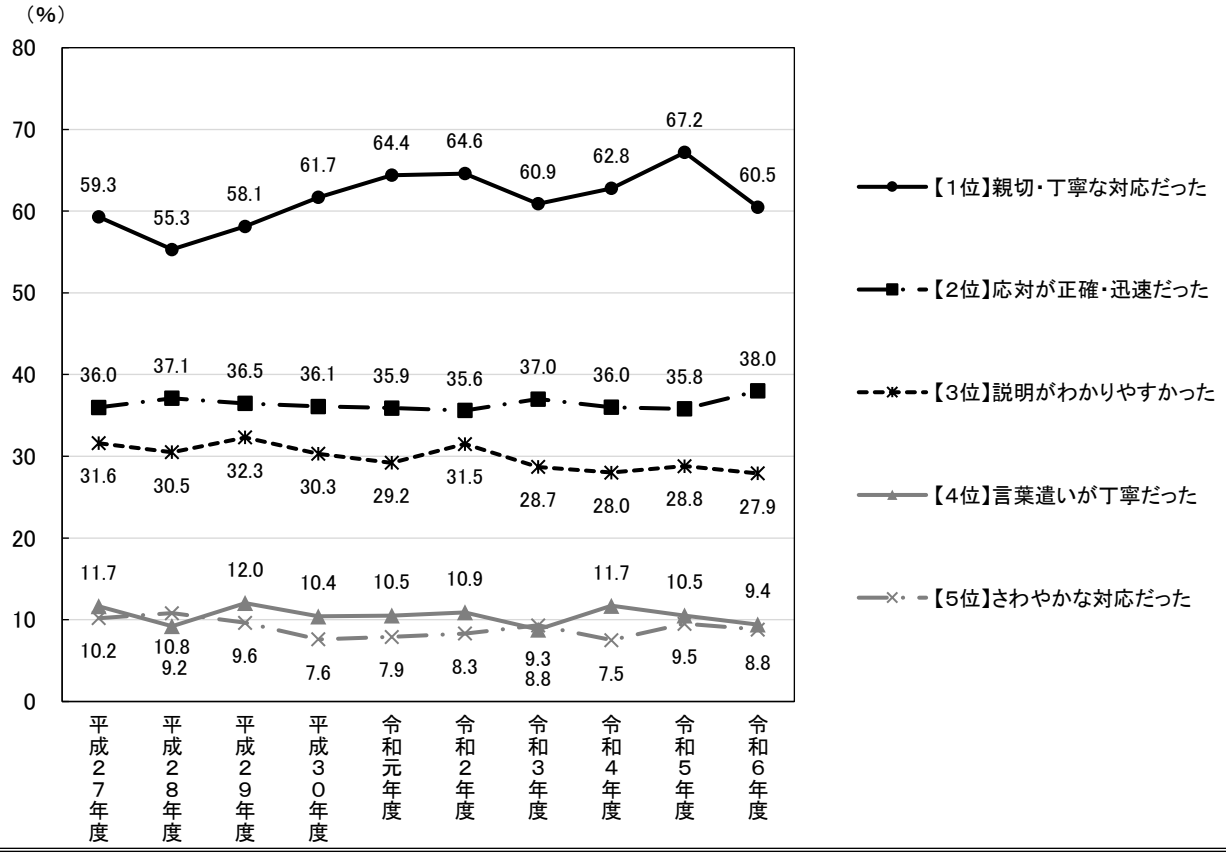
表３－２－１　印象が良かった点（時系列）

（%）

理　由	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
n	1,373	1,386	1,371	1,399	1,319	1,473	1,344	1,320	1,224	1,614
【1位】親切･丁寧な対応だった	59.3	55.3	58.1	61.7	64.4	64.6	60.9	62.8	67.2	60.5
【2位】応対が正確･迅速だった	36.0	37.1	36.5	36.1	35.9	35.6	37.0	36.0	35.8	38.0
【3位】説明がわかりやすかった	31.6	30.5	32.3	30.3	29.2	31.5	28.7	28.0	28.8	27.9
【4位】言葉遣いが丁寧だった	11.7	9.2	12.0	10.4	10.5	10.9	8.8	11.7	10.5	9.4
【5位】さわやかな対応だった	10.2	10.8	9.6	7.6	7.9	8.3	9.3	7.5	9.5	8.8

注）令和6年度の値で順位付けを行った。

図３－２－２　印象が良かった点（時系列）



平成 27 年度からの時系列での変化をみると、「親切・丁寧な対応だった」がいずれの年度も１位で、平成 30 年度以降は６割台で推移している。以下、３位まではすべて同じ順位になっている。「言葉遣いが丁寧だった」は平成 28 年度と令和３年度が５位、その他の年度は４位となっている。

（表３－２－１、図３－２－２）

表３－２－２　印象が良かった点（性・年齢別）

（%）

		n	親切・丁寧な対応だった	応対が正確・迅速だった	説明がわかりやすかった	言葉遣いが丁寧だった	さわやかな対応だった	無回答
全　　体		1,614	60.5	38.0	27.9	9.4	8.8	1.0
性・年齢別	男性全体	625	58.6	38.4	28.2	11.4	10.2	1.1
	10･20歳代	56	48.2	46.4	37.5	7.1	12.5	1.8
	30歳代	80	56.3	42.5	23.8	11.3	17.5	－
	40歳代	85	54.1	34.1	28.2	14.1	7.1	2.4
	50歳代	129	61.2	34.1	30.2	13.2	10.1	1.6
	60歳代	96	57.3	41.7	19.8	13.5	12.5	1.0
	70歳代	104	65.4	35.6	31.7	8.7	4.8	1.0
	80歳以上	75	61.3	40.0	28.0	9.3	9.3	－
	女性全体	965	61.9	37.6	27.7	8.2	7.8	0.8
	10･20歳代	80	40.0	47.5	28.8	10.0	7.5	－
	30歳代	143	53.8	41.3	29.4	10.5	8.4	0.7
	40歳代	167	58.7	40.1	19.8	12.6	11.4	1.2
	50歳代	187	71.7	34.8	22.5	6.4	7.0	0.5
	60歳代	156	67.3	37.2	29.5	7.7	2.6	－
	70歳代	130	70.0	30.8	28.5	5.4	6.2	2.3
	80歳以上	101	58.4	35.6	42.6	4.0	12.9	1.0

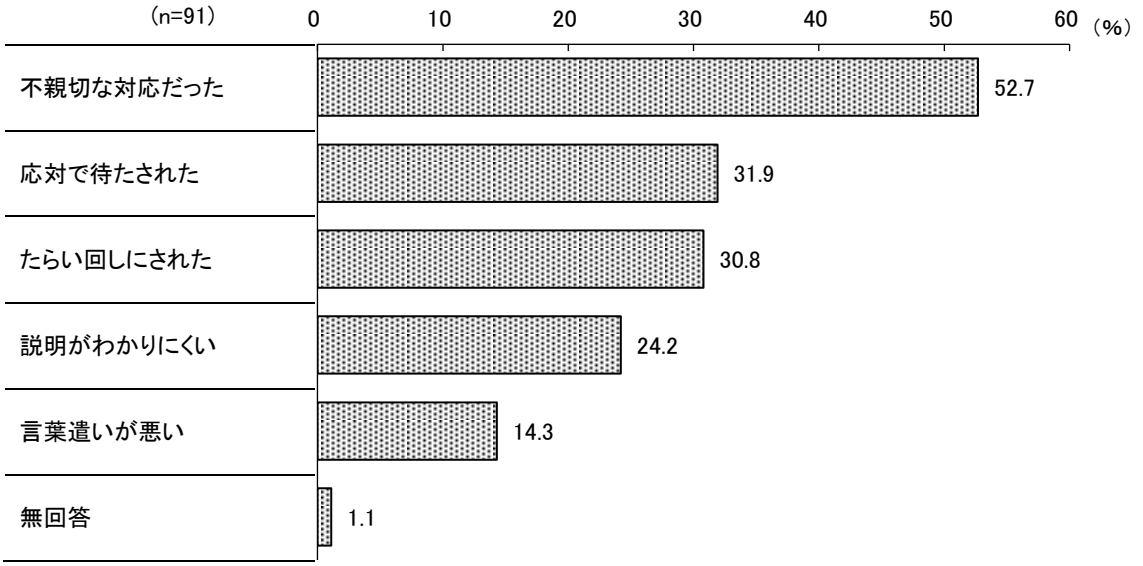
性・年齢別にみると、「親切・丁寧な対応だった」は女性の 50 歳代で７割を超え、女性の 70 歳代で７割、女性の 60 歳代で７割近くとなっている。「応対が正確・迅速だった」は女性の 10・20 歳代で５割近く、男性の 10・20 歳代で４割半ばとなっている。「説明がわかりやすかった」は女性の 80 歳以上で４割を超えている。（表３－２－２）

（３）印象が悪かった点

◎印象が悪かった点としては「不親切な対応だった」が５割を超える

（問７で「やや悪かった」または「とても悪かった」と答えた方に）
問７－２　印象が悪かった点はどれですか。（○は２つまで）

図３－３－１



区の窓口や応対について「やや悪かった」または「とても悪かった」と答えた方（91 人）に、応対の印象が悪かった点を聞いたところ、「不親切な対応だった」（52.7%）が５割を超えて最も高い。以下、「応対で待たされた」（31.9%）、「たらい回しにされた」（30.8%）、「説明がわかりにくい」（24.2%）、「言葉遣いが悪い」（14.3%）と続く。（図３－３－１）

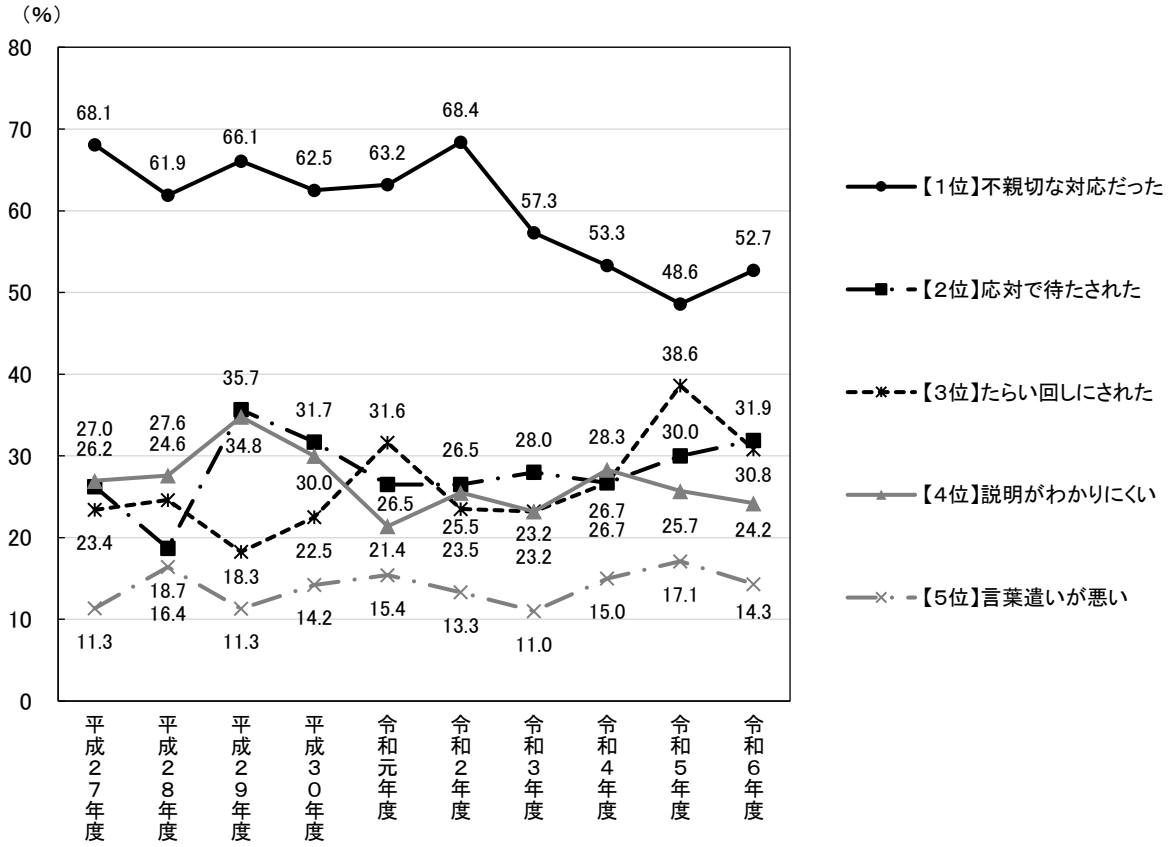
表３－３－１　印象が悪かった点（時系列）

（%）

理　由	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
n	141	134	115	120	117	98	82	60	70	91
【1位】 不親切な対応だった	68.1	61.9	66.1	62.5	63.2	68.4	57.3	53.3	48.6	52.7
【2位】 応対で待たされた	26.2	18.7	35.7	31.7	26.5	26.5	28.0	26.7	30.0	31.9
【3位】 たらい回しにされた	23.4	24.6	18.3	22.5	31.6	23.5	23.2	26.7	38.6	30.8
【4位】 説明がわかりにくい	27.0	27.6	34.8	30.0	21.4	25.5	23.2	28.3	25.7	24.2
【5位】 言葉遣いが悪い	11.3	16.4	11.3	14.2	15.4	13.3	11.0	15.0	17.1	14.3

注）令和6年度の値で順位付けを行った。

図３－３－２　印象が悪かった点（時系列）



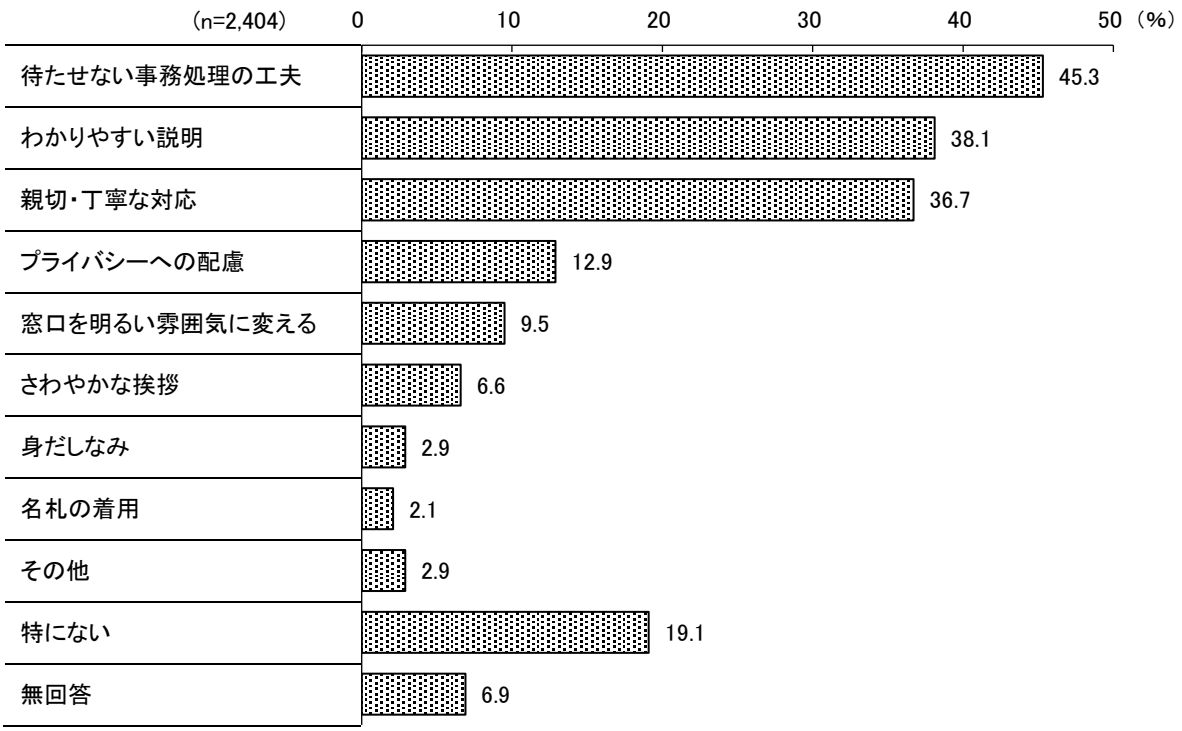
平成 27 年度からの時系列での変化をみると、「不親切な対応だった」がいずれの年度も１位となっているが、令和２年度以降は年々割合が減少し、令和６年度は令和５年度に次いで低い。「応対で待たされた」は令和元年度以降は２割台で推移していたが、令和５年度以降３割台となっている。「たらい回しにされた」は令和５年度が４割近くで過去最も高かったが、令和６年度はほぼ３割まで下がっている。（表３－３－１、図３－３－２）

（４）職員応対での注意点

◎「待たせない事務処理の工夫」「わかりやすい説明」「親切･丁寧な対応」の３点が高い

問８　今後、職員応対について、どのような点に注意すべきだと思いますか。（○は３つまで）

図３－４－１



今後の職員応対で注意すべき点を聞いたところ、「待たせない事務処理の工夫」（45.3%）が４割半ば、「わかりやすい説明」（38.1%）と「親切・丁寧な対応」（36.7%）が４割近くとなっている。以下、「プライバシーへの配慮」（12.9%）、「窓口を明るい雰囲気に変える」（9.5%）、「さわやかな挨拶」（6.6%）などと続いている。「特にない」（19.1%）はほぼ２割となっている。

（図３－４－１）

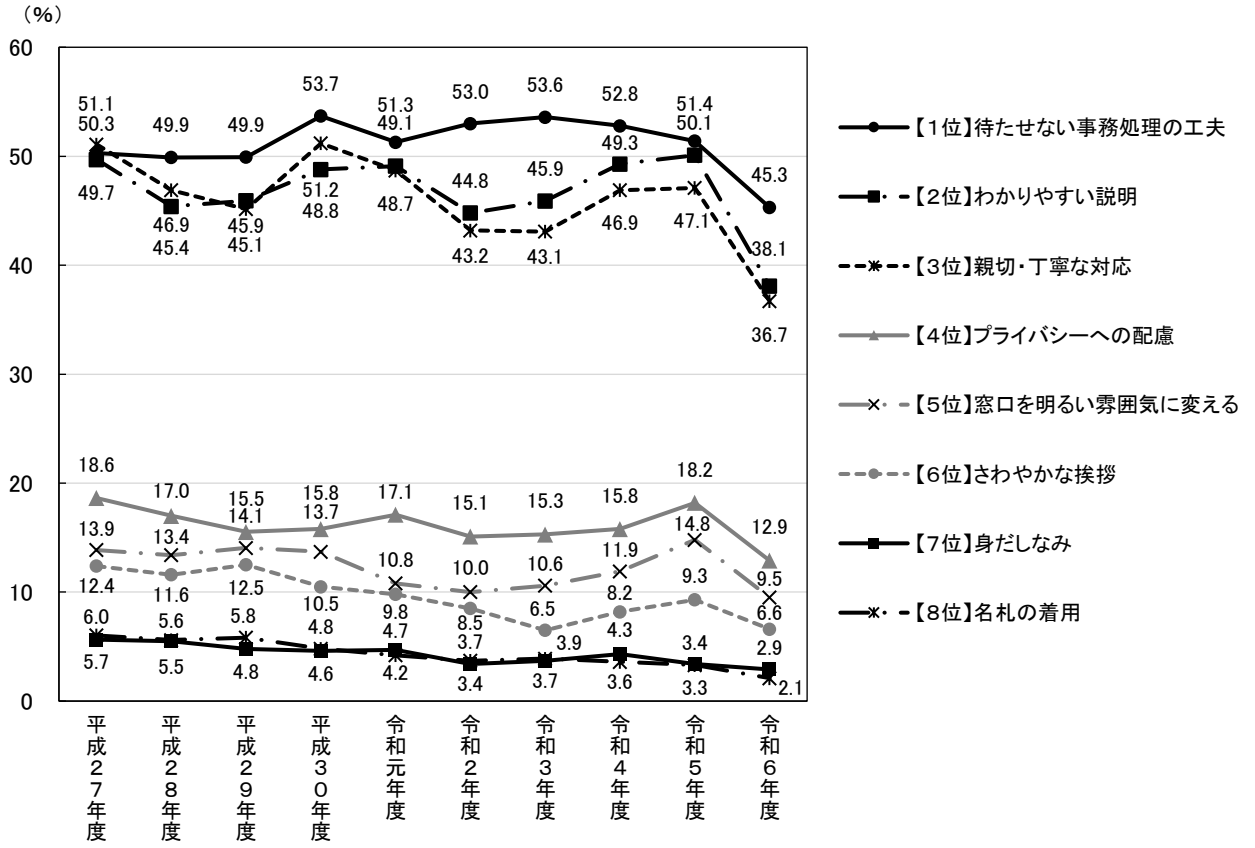
表３－４－１　職員応対での注意点（時系列）

（%）

理　由	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
n	2,388	2,355	2,319	2,330	2,171	2,371	2,086	1,923	1,832	2,404
【1位】 待たせない事務処理の工夫	50.3	49.9	49.9	53.7	51.3	53.0	53.6	52.8	51.4	45.3
【2位】 わかりやすい説明	49.7	45.4	45.9	48.8	49.1	44.8	45.9	49.3	50.1	38.1
【3位】 親切・丁寧な対応	51.1	46.9	45.1	51.2	48.7	43.2	43.1	46.9	47.1	36.7
【4位】 プライバシーへの配慮	18.6	17.0	15.5	15.8	17.1	15.1	15.3	15.8	18.2	12.9
【5位】 窓口を明るい雰囲気に変える	13.9	13.4	14.1	13.7	10.8	10.0	10.6	11.9	14.8	9.5
【6位】 さわやかな挨拶	12.4	11.6	12.5	10.5	9.8	8.5	6.5	8.2	9.3	6.6
【7位】 身だしなみ	5.7	5.5	4.8	4.6	4.7	3.4	3.7	4.3	3.4	2.9
【8位】 名札の着用	6.0	5.6	5.8	4.8	4.2	3.7	3.9	3.6	3.3	2.1

注）令和6年度の値で順位付けを行った。
注）令和6年度は選択肢に「その他」と「特にない」が追加。

図３－４－２　職員応対での注意点（時系列）



注）令和6年度は選択肢に「その他」と「特にない」が追加。

平成 27 年度からの時系列での変化をみると、令和６年度は選択肢に「その他」と「特にない」が追加されたため、割合の数値は全体的に令和５年度に比べ低下しているが、傾向に大きな違いはみられない。「待たせない事務処理の工夫」、「わかりやすい説明」、「親切・丁寧な対応」の３項目がいずれの年度でも上位３位に挙げられている。（表３－４－１、図３－４－２）

表３－４－２　職員応対での注意点（性・年齢別）

（%）

		n	待たせない事務処理の工夫	わかりやすい説明	親切・丁寧な対応	プライバシーへの配慮	窓口を明るい雰囲気に変える	さわやかな挨拶	身だしなみ	名札の着用	その他	特にない	無回答
全　　体		2,404	45.3	38.1	36.7	12.9	9.5	6.6	2.9	2.1	2.9	19.1	6.9
性・年齢別	男性全体	915	45.4	36.6	33.6	10.3	11.1	7.8	3.2	2.2	3.2	20.7	6.8
	10･20歳代	72	34.7	18.1	19.4	9.7	8.3	8.3	2.8	－	5.6	43.1	1.4
	30歳代	102	42.2	26.5	21.6	9.8	12.7	5.9	3.9	2.0	3.9	28.4	6.9
	40歳代	135	51.9	34.1	36.3	8.1	14.8	9.6	3.0	2.2	3.7	22.2	3.0
	50歳代	196	44.4	37.8	31.6	12.2	14.8	8.2	3.1	3.6	1.5	22.4	5.6
	60歳代	160	48.1	45.6	40.0	11.3	7.5	5.6	4.4	1.9	4.4	15.6	6.3
	70歳代	151	49.7	35.1	39.1	11.9	6.6	8.6	2.0	1.3	2.6	11.9	10.6
	80歳以上	99	38.4	49.5	37.4	6.1	12.1	8.1	3.0	3.0	2.0	12.1	13.1
	女性全体	1,447	45.5	39.5	39.2	14.4	8.6	5.9	2.7	2.0	2.6	17.9	6.8
	10･20歳代	120	32.5	23.3	25.0	11.7	9.2	4.2	2.5	0.8	1.7	32.5	9.2
	30歳代	186	44.1	36.0	32.8	10.8	10.8	7.5	3.2	－	2.7	26.3	3.2
	40歳代	264	46.6	40.2	35.2	15.5	12.1	6.1	2.7	1.5	3.4	18.2	3.8
	50歳代	293	43.7	37.9	43.0	18.4	7.5	5.5	2.7	0.7	5.5	17.4	5.8
	60歳代	240	52.1	43.3	47.5	13.3	9.2	5.8	2.5	3.8	1.7	10.8	7.9
	70歳代	200	49.5	46.5	39.5	15.5	4.0	5.5	2.5	3.0	－	13.0	11.5
	80歳以上	143	44.1	42.7	44.1	11.2	6.3	6.3	2.8	4.9	1.4	14.0	9.1

性・年齢別にみると、「待たせない事務処理の工夫」は男性の 40 歳代、女性の 60 歳代で５割を超え、男性の 70 歳代、女性の 70 歳代で５割となっている。「わかりやすい説明」は男性の 80 歳以上で５割、女性の 70 歳代で５割近く、男性 60 歳代で４割半ばとなっている。「親切・丁寧な対応」は女性の 60 歳代で５割近く、女性の 80 歳以上で４割半ばとなっている。（表３－４－２）

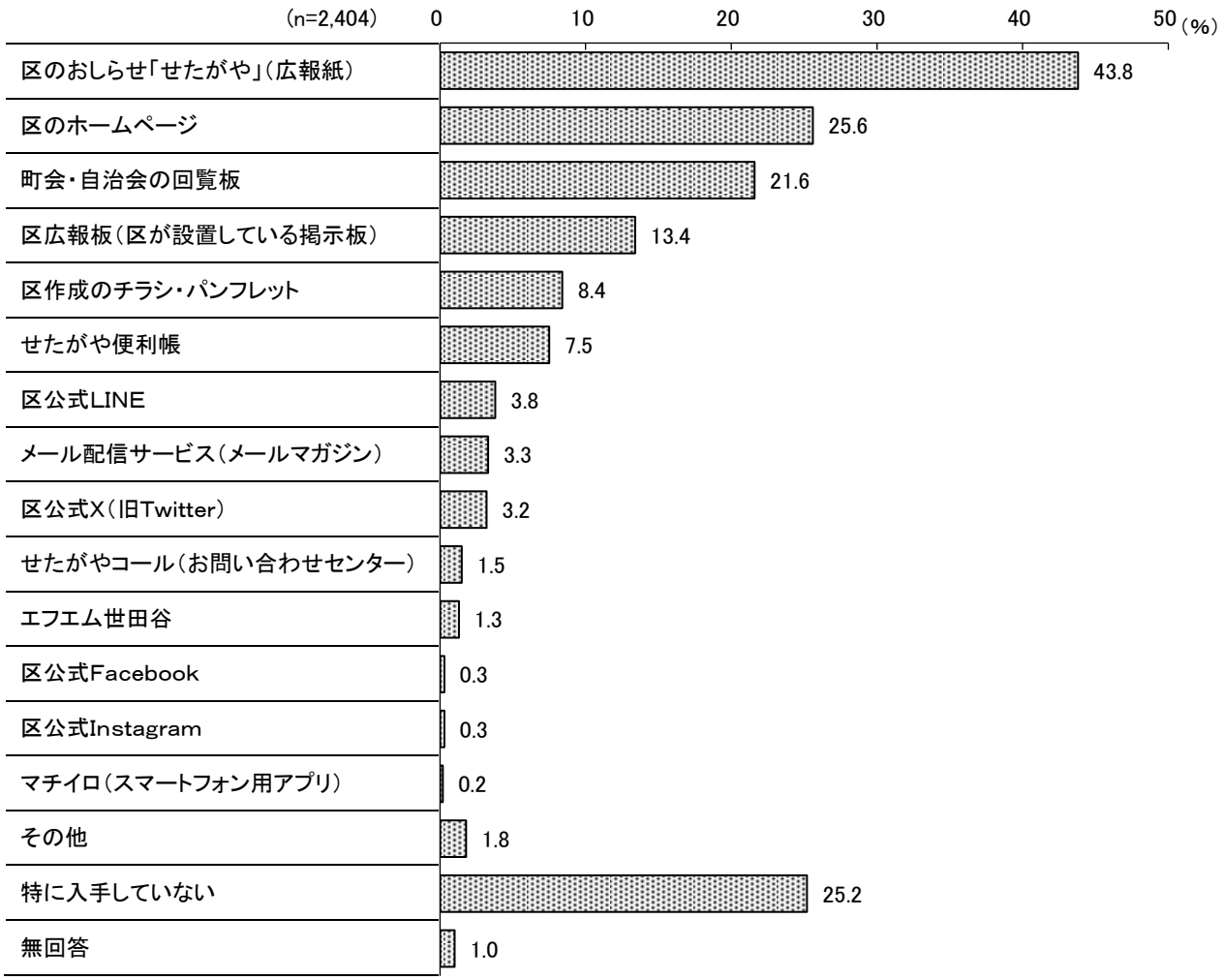
４．広報

（１）区の取り組みや身近な情報の入手経路

◎「区のおしらせ「せたがや」（広報紙）」が４割を超える

問９　あなたは、区の取り組みや地域の身近な情報をどこから得ていますか。（○はいくつでも）

図４－１－１



区の取り組みや身近な情報の入手経路を聞いたところ、「区のおしらせ「せたがや」（広報紙）」（43.8%）が４割を超えて最も高く、以下、「区のホームページ」（25.6%）、「町会・自治会の回覧板」（21.6%）、「区広報板（区が設置している掲示板）」（13.4%）などと続く。一方、「特に入手していない」（25.2%）は２割半ばとなっている。（図４－１－１）

表４－１－１　区の取り組みや身近な情報の入手経路（性・年齢別）

（%）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 43.8	区のホームページ 25.6	町会・自治会の回覧板 21.6	区広報板（区が設置している掲示板） 13.4	区作成のチラシ・パンフレット 8.4	せたがや便利帳 7.5	区公式LINE 3.8	メール配信サービス（メールマガジン） 3.3	区公式X（旧Twitter） 3.2	せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.5
男 性 全 体	915	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 44.2	区のホームページ 25.8	町会・自治会の回覧板 18.7	区広報板（区が設置している掲示板） 11.9	区作成のチラシ・パンフレット 9.8	せたがや便利帳 6.3	区公式X（旧Twitter） 3.4	区公式LINE 2.8	メール配信サービス（メールマガジン） 2.0	エフエム世田谷 1.6
10・20歳代	72	区のホームページ 22.2	区広報板（区が設置している掲示板） 13.9	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 9.7	区作成のチラシ・パンフレット／町会・自治会の回覧板 8.3		区公式X（旧Twitter） 6.9	区公式LINE／せたがや便利帳 4.2		区公式Instagram／エフエム世田谷 2.8	
30歳代	102	区のホームページ 21.6	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 19.6	区広報板（区が設置している掲示板） 8.8	町会・自治会の回覧板 7.8	区公式X（旧Twitter）／区公式LINE 5.9		区作成のチラシ・パンフレット 4.9	区公式Instagram／メール配信サービス（メールマガジン）／エフエム世田谷／せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.0		
40歳代	135	区のホームページ 31.9	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 25.9	町会・自治会の回覧板 12.6	区広報板（区が設置している掲示板） 9.6	区作成のチラシ・パンフレット 7.4	区公式X（旧Twitter）／区公式LINE 5.9		メール配信サービス（メールマガジン）／せたがや便利帳 3.0		区公式Facebook 0.7
50歳代	196	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 40.8	区のホームページ 28.6	区広報板（区が設置している掲示板） 11.2	町会・自治会の回覧板 10.2	区作成のチラシ・パンフレット 8.7	せたがや便利帳 4.6	区公式X（旧Twitter）／メール配信サービス（メールマガジン） 3.6		せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.5	区公式LINE／エフエム世田谷 1.0
60歳代	160	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 51.9	区のホームページ 31.9	町会・自治会の回覧板 20.6	区広報板（区が設置している掲示板） 11.3	区作成のチラシ・パンフレット 8.1	せたがや便利帳 4.4	区公式LINE 3.8	区公式X（旧Twitter） 2.5	エフエム世田谷 1.9	区公式Facebook 1.3
70歳代	151	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 70.2	町会・自治会の回覧板 33.1	区のホームページ 23.8	区作成のチラシ・パンフレット 17.9	区広報板（区が設置している掲示板） 16.6	せたがや便利帳 13.2	エフエム世田谷 4.0	メール配信サービス（メールマガジン） 2.6	せたがやコール（お問い合わせセンター） 2.0	区公式X（旧Twitter）／区公式LINE／区公式Instagram 0.7
80歳以上	99	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 73.7	町会・自治会の回覧板 37.4	せたがや便利帳 15.2	区のホームページ／区広報板（区が設置している掲示板）／区作成のチラシ・パンフレット 12.1			せたがやコール（お問い合わせセンター） 5.1	メール配信サービス（メールマガジン）／エフエム世田谷 1.0		
女 性 全 体	1,447	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 43.5	区のホームページ 25.6	町会・自治会の回覧板 23.2	区広報板（区が設置している掲示板） 14.3	せたがや便利帳 8.1	区作成のチラシ・パンフレット 7.5	区公式LINE 4.4	メール配信サービス（メールマガジン） 4.3	区公式X（旧Twitter） 3.1	せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.5
10・20歳代	120	区のホームページ 19.2	区広報板（区が設置している掲示板） 11.7	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 6.7	町会・自治会の回覧板 5.8	区公式LINE／区作成のチラシ・パンフレット 5.0		区公式X（旧Twitter） 2.5	せたがや便利帳 1.7	せたがやコール（お問い合わせセンター） 0.8	
30歳代	186	区のホームページ 21.0	区公式LINE 17.2	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 13.4	区広報板（区が設置している掲示板） 10.8	町会・自治会の回覧板 9.1	区公式X（旧Twitter） 7.0	メール配信サービス（メールマガジン）／区作成のチラシ・パンフレット 3.8		せたがや便利帳 1.6	マチイロ（スマートフォン用アプリ） 1.1
40歳代	264	区のホームページ 31.1	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 29.9	町会・自治会の回覧板 17.8	区広報板（区が設置している掲示板） 12.9	メール配信サービス（メールマガジン） 10.2	区作成のチラシ・パンフレット 6.8	区公式X（旧Twitter） 6.1	区公式LINE 5.3	せたがや便利帳 0.8	区公式Facebook／マチイロ（スマートフォン用アプリ）／せたがやコール（お問い合わせセンター） 0.4
50歳代	293	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 39.9	区のホームページ 35.8	町会・自治会の回覧板 19.1	区広報板（区が設置している掲示板） 11.9	区作成のチラシ・パンフレット 6.1	メール配信サービス（メールマガジン） 5.8	せたがや便利帳 5.1	区公式X（旧Twitter） 3.8	区公式LINE 3.1	エフエム世田谷 1.7
60歳代	240	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 61.3	区のホームページ 29.6	町会・自治会の回覧板 27.1	区広報板（区が設置している掲示板） 18.3	せたがや便利帳 10.8	区作成のチラシ・パンフレット 10.0	メール配信サービス（メールマガジン） 2.9	せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.3	区公式X（旧Twitter）／エフエム世田谷 0.8	
70歳代	200	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 73.0	町会・自治会の回覧板 44.0	せたがや便利帳 22.5	区のホームページ 20.5	区広報板（区が設置している掲示板） 18.5	区作成のチラシ・パンフレット 10.5	せたがやコール（お問い合わせセンター） 4.5	エフエム世田谷 2.5	メール配信サービス（メールマガジン） 2.0	区公式LINE 1.0
80歳以上	143	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 74.1	町会・自治会の回覧板 38.5	せたがや便利帳 16.8	区広報板（区が設置している掲示板） 16.1	区作成のチラシ・パンフレット 9.8	区のホームページ 6.3	せたがやコール（お問い合わせセンター） 2.8	エフエム世田谷 2.1		

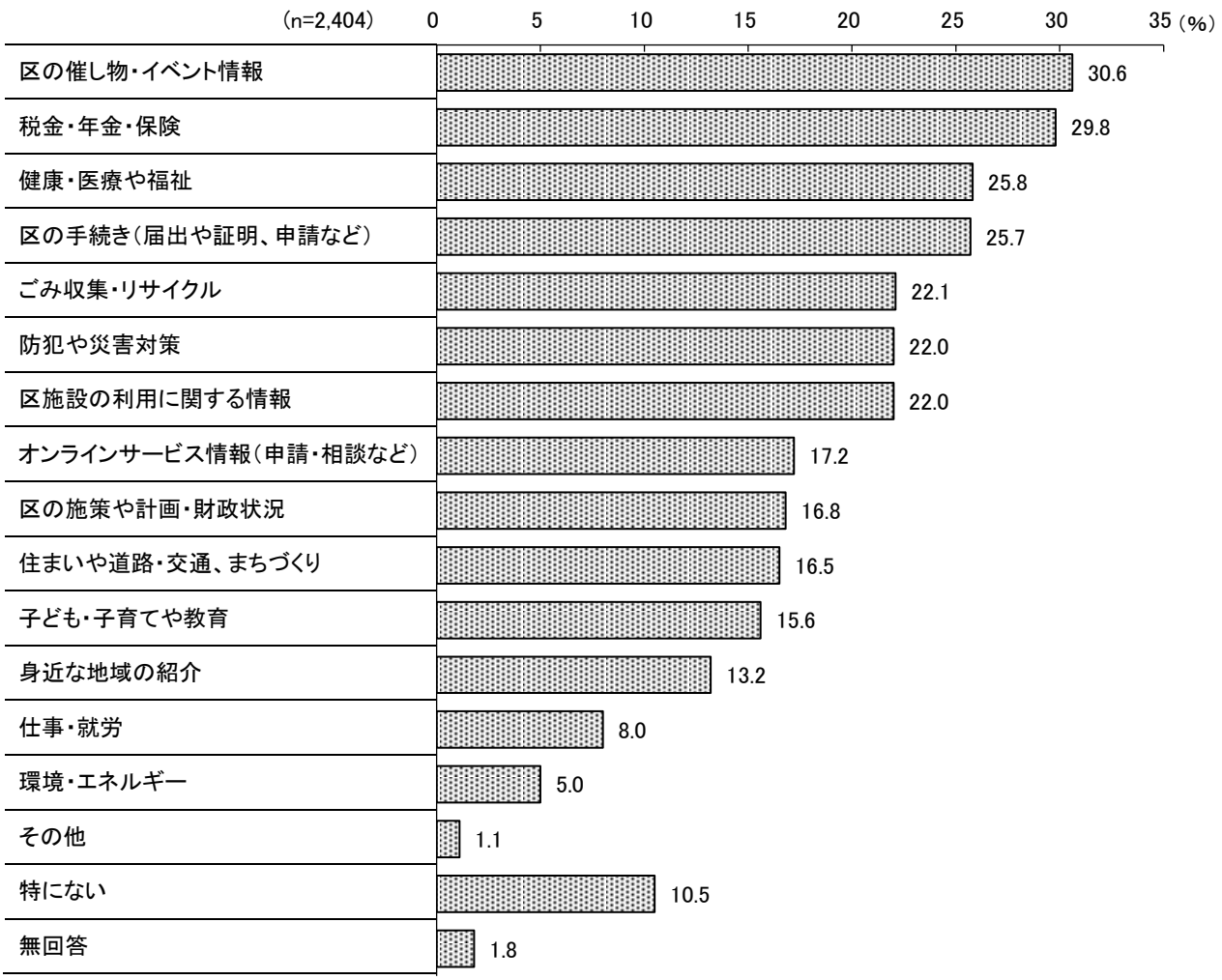
性・年齢別にみると、男女とも 40 歳代以下は「区のホームページ」が１位、「区のおしらせ「せたがや」（広報紙）」も３位以内に挙げられている。50 歳代以上は「区のおしらせ「せたがや」（広報紙）」が１位で、50 歳代、60 歳代は「区のホームページ」が２位となっている。（表４－１－１）

（２）発信してほしい区の取り組みや情報

◎「区の催し物・イベント情報」がほぼ３割

問１０　区が発信する取り組みや情報の中で、もっと知らせてほしいと思うものはどれですか。（〇はいくつでも）

図４－２－１



もっと発信してほしい区の取り組みや情報を聞いたところ、「区の催し物・イベント情報」(30.6%)がほぼ３割、「税金・年金・保険」(29.8%)が３割となっている。以下、「健康・医療や福祉」(25.8%)、「区の手続き（届出や証明、申請など）」（25.7%）、「ごみ収集・リサイクル」（22.1%）、「防犯や災害対策」（22.0%）、「区施設の利用に関する情報」（22.0%）などと続く。（図４－２－１）

表４－２－１　発信してほしい区の取り組みや情報（性・年齢別）

（%）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	区の催し物・イベント情報 30.6	税金・年金・保険 29.8	健康・医療や福祉 25.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 25.7	ごみ収集・リサイクル 22.1	防犯や災害対策／区施設の利用に関する情報 22.0		オンラインサービス情報（申請・相談など） 17.2	区の施策や計画・財政状況 16.8	住まいや道路・交通、まちづくり 16.5
男 性 全 体	915	税金・年金・保険 30.9	区の催し物・イベント情報 27.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 24.5	健康・医療や福祉 22.5	ごみ収集・リサイクル 21.6	区施設の利用に関する情報 21.4	住まいや道路・交通、まちづくり 21.3	区の施策や計画・財政状況 21.2	防犯や災害対策 19.6	オンラインサービス情報（申請・相談など） 17.4
10・20歳代	72	区の施策や計画・財政状況 27.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 26.4	税金・年金・保険／区の催し物・イベント情報／オンラインサービス情報（申請・相談など） 25.0			ごみ収集・リサイクル 20.8	子ども・子育てや教育 16.7	区施設の利用に関する情報 15.3	防犯や災害対策／住まいや道路・交通、まちづくり／仕事・就労 13.9	
30歳代	102	子ども・子育てや教育 44.1	区の催し物・イベント情報 32.4	区の施策や計画・財政状況 25.5	区の手続き（届出や証明、申請など）／区施設の利用に関する情報 21.6		税金・年金・保険 20.6	ごみ収集・リサイクル 19.6	オンラインサービス情報（申請・相談など） 17.6	住まいや道路・交通、まちづくり 16.7	防犯や災害対策 8.8
40歳代	135	税金・年金・保険 36.3	区の催し物・イベント情報 34.1	子ども・子育てや教育 30.4	オンラインサービス情報（申請・相談など） 28.1	区の手続き（届出や証明、申請など） 26.7	防犯や災害対策 25.2	住まいや道路・交通、まちづくり 24.4	区の施策や計画・財政状況／区施設の利用に関する情報 22.2		ごみ収集・リサイクル 20.0
50歳代	196	税金・年金・保険／区の催し物・イベント情報 29.6		住まいや道路・交通、まちづくり 26.5	ごみ収集・リサイクル 24.5	区の施策や計画・財政状況／健康・医療や福祉 24.0		オンラインサービス情報（申請・相談など） 23.0	区の手続き（届出や証明、申請など） 20.9	区施設の利用に関する情報 19.9	防犯や災害対策 17.9
60歳代	160	税金・年金・保険 38.1	区の催し物・イベント情報 28.1	健康・医療や福祉 26.3	区の手続き（届出や証明、申請など） 25.0	住まいや道路・交通、まちづくり 23.8	ごみ収集・リサイクル／区施設の利用に関する情報 23.1		防犯や災害対策 21.9	区の施策や計画・財政状況 18.1	オンラインサービス情報（申請・相談など） 15.0
70歳代	151	税金・年金・保険 31.8	健康・医療や福祉 31.1	防犯や災害対策 24.5	区の手続き（届出や証明、申請など）／ごみ収集・リサイクル／区施設の利用に関する情報 22.5			住まいや道路・交通、まちづくり 21.2	区の催し物・イベント情報 20.5	区の施策や計画・財政状況 19.9	身近な地域の紹介 10.6
80歳以上	99	健康・医療や福祉 34.3	区の手続き（届出や証明、申請など） 32.3	税金・年金・保険 28.3	区施設の利用に関する情報／区の催し物・イベント情報 23.2		身近な地域の紹介 20.2	防犯や災害対策 19.2	ごみ収集・リサイクル 17.2	住まいや道路・交通、まちづくり 13.1	区の施策や計画・財政状況 12.1
女 性 全 体	1,447	区の催し物・イベント情報 32.6	税金・年金・保険 29.2	健康・医療や福祉 28.0	区の手続き（届出や証明、申請など） 26.8	防犯や災害対策 23.8	ごみ収集・リサイクル 22.6	区施設の利用に関する情報 22.3	オンラインサービス情報（申請・相談など） 17.3	子ども・子育てや教育 16.7	身近な地域の紹介 14.6
10・20歳代	120	税金・年金・保険 34.2	区の手続き（届出や証明、申請など） 27.5	区の催し物・イベント情報 26.7	防犯や災害対策 24.2	子ども・子育てや教育 21.7	区の施策や計画・財政状況 20.0	オンラインサービス情報（申請・相談など） 19.2	ごみ収集・リサイクル 16.7	健康・医療や福祉 15.0	住まいや道路・交通、まちづくり／区施設の利用に関する情報 10.0
30歳代	186	子ども・子育てや教育 50.0	区の催し物・イベント情報 42.5	区の手続き（届出や証明、申請など） 30.6	税金・年金・保険 26.9	健康・医療や福祉／オンラインサービス情報（申請・相談など） 23.1		ごみ収集・リサイクル 19.9	区の施策や計画・財政状況 19.4	防犯や災害対策 18.8	住まいや道路・交通、まちづくり／区施設の利用に関する情報 15.6
40歳代	264	区の催し物・イベント情報 42.8	子ども・子育てや教育 29.2	区の手続き（届出や証明、申請など） 25.4	税金・年金・保険 23.5	ごみ収集・リサイクル 22.3	健康・医療や福祉 20.8	区施設の利用に関する情報 20.5	オンラインサービス情報（申請・相談など） 19.7	防犯や災害対策 18.2	住まいや道路・交通、まちづくり 16.3
50歳代	293	税金・年金・保険 35.8	健康・医療や福祉 34.1	区の手続き（届出や証明、申請など）／区の催し物・イベント情報 29.4		ごみ収集・リサイクル 28.3	防犯や災害対策 27.3	区施設の利用に関する情報 26.3	オンラインサービス情報（申請・相談など） 24.9	区の施策や計画・財政状況 16.0	住まいや道路・交通、まちづくり 15.7
60歳代	240	健康・医療や福祉／区の催し物・イベント情報 32.5		税金・年金・保険 32.1	防犯や災害対策 27.1	ごみ収集・リサイクル 26.7	区の手続き（届出や証明、申請など） 26.3	区施設の利用に関する情報 24.2	オンラインサービス情報（申請・相談など） 18.3	身近な地域の紹介 14.2	住まいや道路・交通、まちづくり 11.3
70歳代	200	健康・医療や福祉 33.5	区施設の利用に関する情報 31.0	区の催し物・イベント情報 29.5	防犯や災害対策 29.0	税金・年金・保険 28.5	区の手続き（届出や証明、申請など） 19.5	身近な地域の紹介 19.0	ごみ収集・リサイクル 18.5	住まいや道路・交通、まちづくり 14.5	区の施策や計画・財政状況 13.0
80歳以上	143	健康・医療や福祉 30.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 29.4	区施設の利用に関する情報 21.7	税金・年金・保険 21.0	防犯や災害対策 20.3	ごみ収集・リサイクル 18.2	区の催し物・イベント情報 16.8	身近な地域の紹介 16.1	住まいや道路・交通、まちづくり 6.3	区の施策や計画・財政状況 5.6

性・年齢別にみると、「区の催し物・イベント情報」は男性の 60 歳代以下、女性の 70 歳代以下で３位以内に挙げられている。「税金・年金・保険」は男性の 40 歳代～70 歳代、女性の 10・20 歳代と 50 歳代で１位となっている。「健康・医療や福祉」は男性の 60 歳代以上、女性の 50 歳代以上で３位以内に挙げられている。（表４－２－１）

表４－２－２　発信してほしい区の取り組みや情報（ライフステージ別）

（%）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	区の催し物・イベント情報 30.6	税金・年金・保険 29.8	健康・医療や福祉 25.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 25.7	ごみ収集・リサイクル 22.1	防犯や災害対策／区施設の利用に関する情報 22.0		オンラインサービス情報（申請・相談など） 17.2	区の施策や計画・財政状況 16.8	住まいや道路・交通、まちづくり 16.5
独身期	269	税金・年金・保険 31.6	区の手続き（届出や証明、申請など）／区の催し物・イベント情報 29.0		区の施策や計画・財政状況 24.2	オンラインサービス情報（申請・相談など） 23.0	ごみ収集・リサイクル 21.9	防犯や災害対策 18.6	健康・医療や福祉 16.7	子ども・子育てや教育 16.4	住まいや道路・交通、まちづくり 14.5
家族形成期	194	子ども・子育てや教育 65.5	区の催し物・イベント情報 41.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 26.3	区の施策や計画・財政状況／税金・年金・保険 22.7		区施設の利用に関する情報／オンラインサービス情報（申請・相談など） 21.6		防犯や災害対策 17.5	住まいや道路・交通、まちづくり 16.0	健康・医療や福祉／ごみ収集・リサイクル 15.5
家族成長前期	226	子ども・子育てや教育 54.0	区の催し物・イベント情報 46.0	税金・年金・保険 26.5	住まいや道路・交通、まちづくり 23.5	区の手続き（届出や証明、申請など） 22.6	ごみ収集・リサイクル 21.7	防犯や災害対策 21.2	区施設の利用に関する情報 19.5	健康・医療や福祉／オンラインサービス情報（申請・相談など） 17.7	
家族成長後期	188	区の催し物・イベント情報 33.0	税金・年金・保険 27.1	防犯や災害対策／健康・医療や福祉 24.5		区の手続き（届出や証明、申請など）／オンラインサービス情報（申請・相談など） 22.3		ごみ収集・リサイクル 19.7	区施設の利用に関する情報 19.1	区の施策や計画・財政状況 18.6	住まいや道路・交通、まちづくり 18.1
家族成熟期	238	税金・年金・保険 36.1	健康・医療や福祉 31.5	区の手続き（届出や証明、申請など）／区の催し物・イベント情報 30.3		オンラインサービス情報（申請・相談など） 27.7	防犯や災害対策 26.5	区施設の利用に関する情報 23.1	ごみ収集・リサイクル 21.8	区の施策や計画・財政状況／住まいや道路・交通、まちづくり 15.1	
高齢期Ⅰ	211	税金・年金・保険／健康・医療や福祉 30.3		ごみ収集・リサイクル／区の催し物・イベント情報 28.4		区施設の利用に関する情報 27.5	区の手続き（届出や証明、申請など） 26.5	防犯や災害対策 25.6	住まいや道路・交通、まちづくり 20.9	身近な地域の紹介 12.8	区の施策や計画・財政状況 12.3
高齢期Ⅱ	495	健康・医療や福祉 32.9	税金・年金・保険 30.5	防犯や災害対策 24.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 24.0	区の催し物・イベント情報 23.8	区施設の利用に関する情報 23.4	ごみ収集・リサイクル 18.8	身近な地域の紹介 17.8	区の施策や計画・財政状況 13.7	住まいや道路・交通、まちづくり 12.3
その他	523	税金・年金・保険 31.0	区の催し物・イベント情報 27.9	健康・医療や福祉 27.3	ごみ収集・リサイクル 26.2	区の手続き（届出や証明、申請など） 25.8	区施設の利用に関する情報 24.1	オンラインサービス情報（申請・相談など） 20.3	防犯や災害対策 20.1	住まいや道路・交通、まちづくり 17.2	区の施策や計画・財政状況 15.5

ライフステージ別にみると、「区の催し物・イベント情報」は高齢期Ⅱ以外のライフステージで３位以内に、「税金・年金・保険」は家族形成期以外のライフステージで３位以内に挙げられている。「子ども・子育てや教育」は家族形成期と家族成長前期で１位、「健康・医療や福祉」は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで１位、家族成熟期で２位となっている。（表４－２－２）

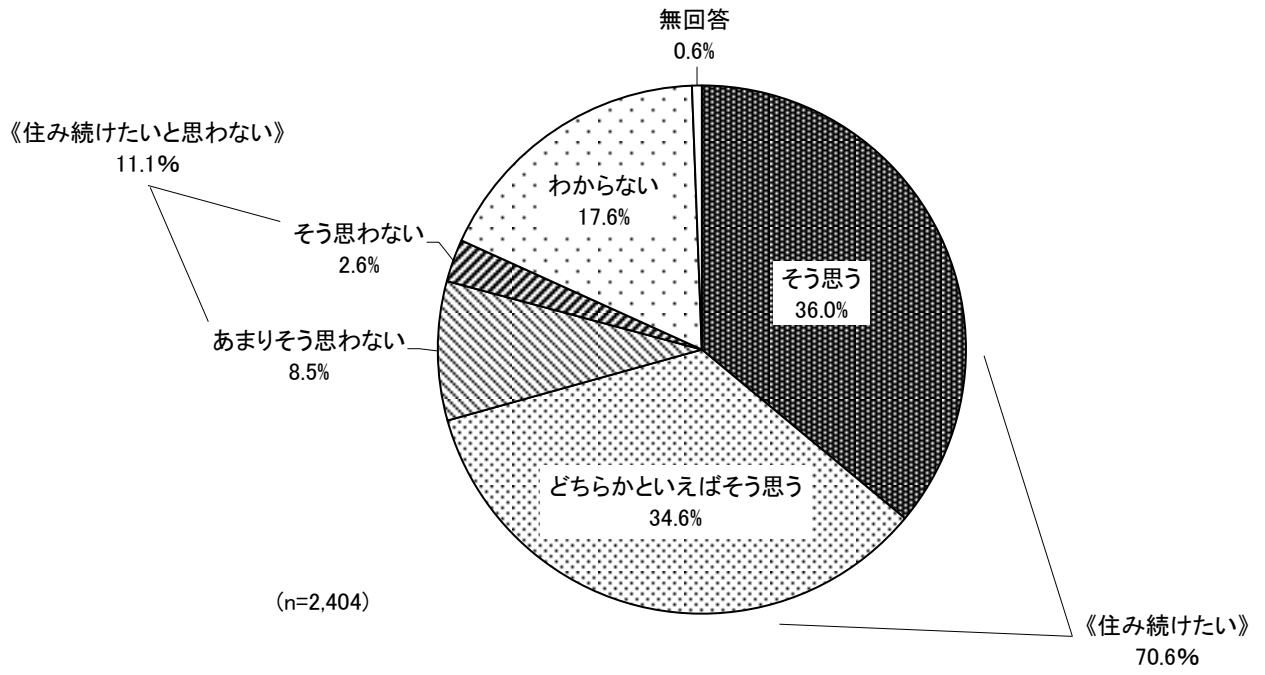
５．福祉と医療

（１）介護や医療必要時の居住意向

◎《住み続けたい》がほぼ７割

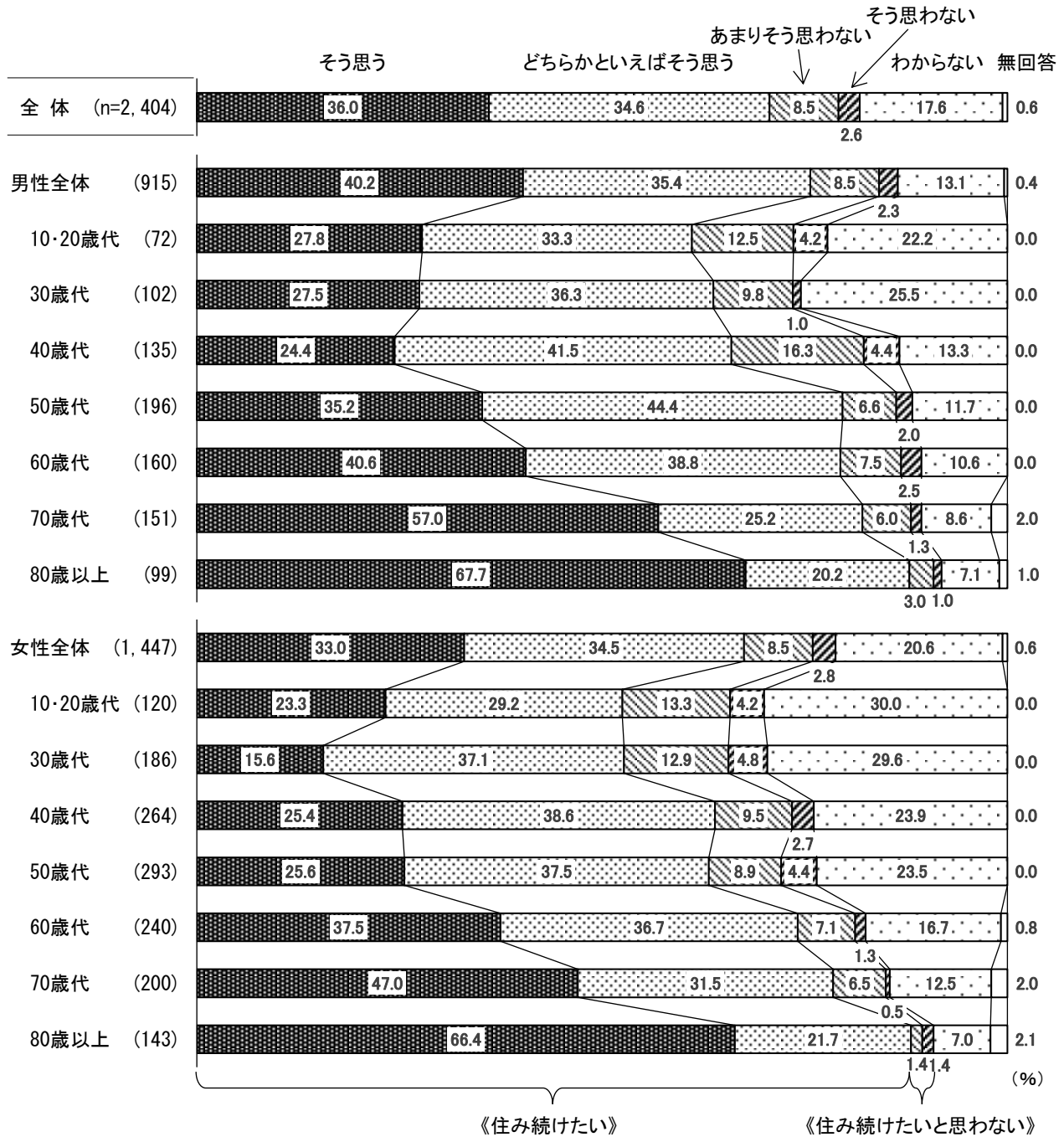
問１１　あなたは、介護や医療が必要になっても世田谷区に住み続けたいですか。（○は１つ）

図５－１－１



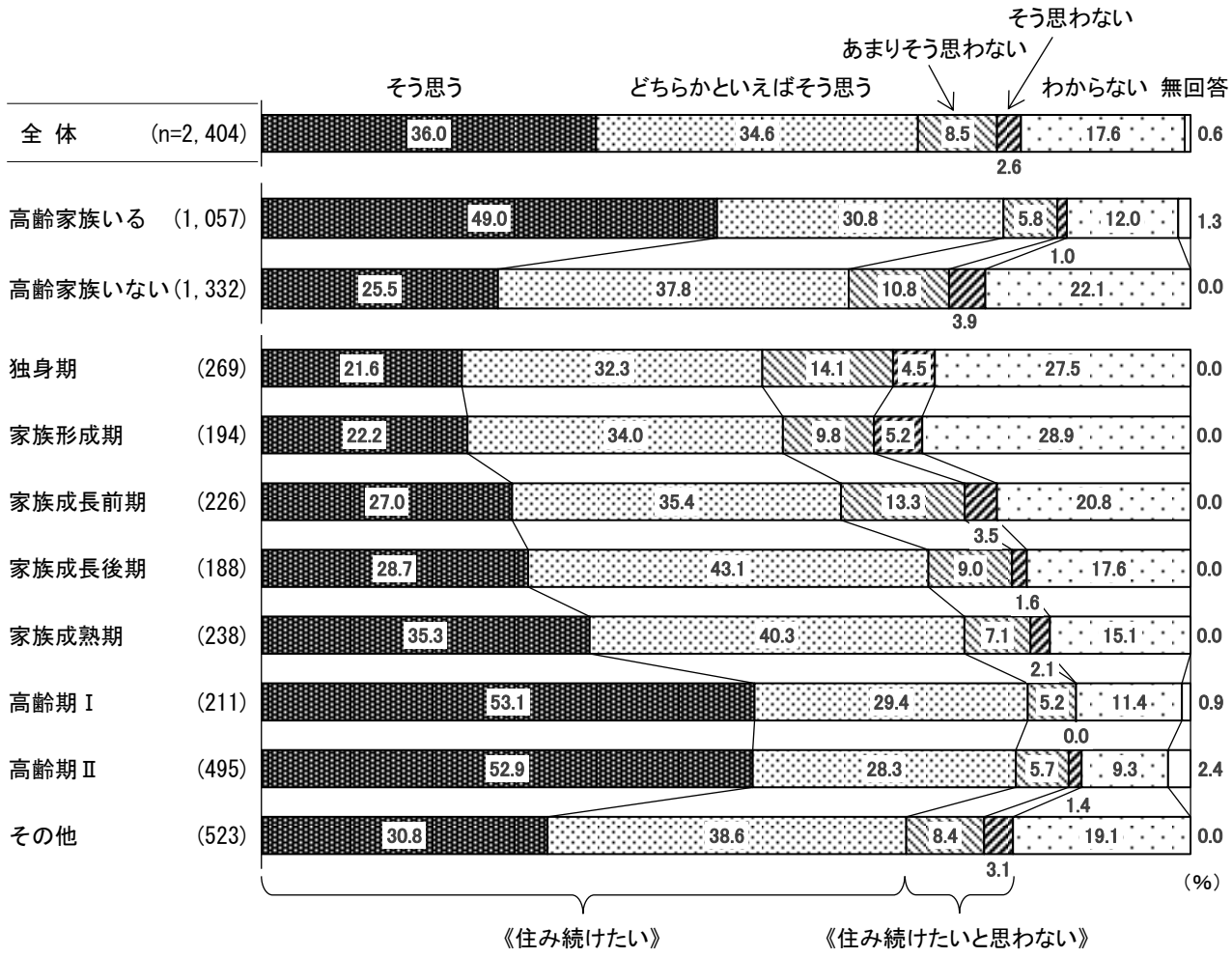
介護や医療必要時にも世田谷区に住み続けたいか聞いたところ、「そう思う」（36.0%）と「どちらかといえばそう思う」（34.6%）を合わせた《住み続けたい》（70.6%）がほぼ７割、「あまりそう思わない」（8.5%）と「そう思わない」（2.6%）を合わせた《住み続けたいと思わない》（11.1%）は１割を超えている。（図５－１－１）

図５－１－２　介護や医療必要時の居住意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、年代が上がるにつれ《住み続けたい》が高くなる傾向にあり、男女とも 80 歳以上で９割近く、男性の 70 歳代で８割を超え、男性の 50 歳代で８割、男性の 60 歳代でほぼ８割、女性の 70 歳代で８割近くとなっている。《住み続けたいと思わない》は男性の 40 歳代でほぼ２割、男性の 10・20 歳代、女性の 10・20 歳代と 30 歳代で２割近くとなっている。（図５－１－２）

図５－１－３　介護や医療必要時の居住意向（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、《住み続けたい》は高齢家族がいる世帯で８割、高齢家族がいない世帯で６割を超えている。「そう思う」は高齢家族がいる世帯でほぼ５割となっている。

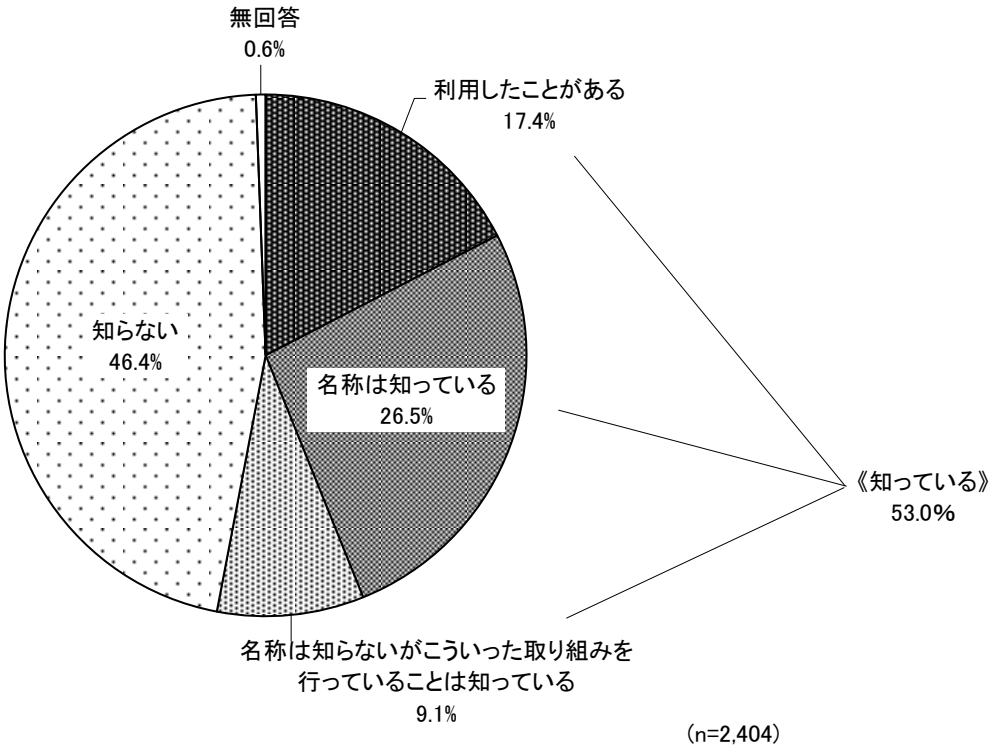
ライフステージ別にみると、《住み続けたい》は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで８割を超え、そのうち、「そう思う」は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱとも５割を超えている。《住み続けたいと思わない》は独身期、家族成長前期で２割近くとなっている。（図５－１－３）

（２）「福祉の相談窓口」の認知度

◎《知っている》が５割を超え、「利用したことがある」は２割近く

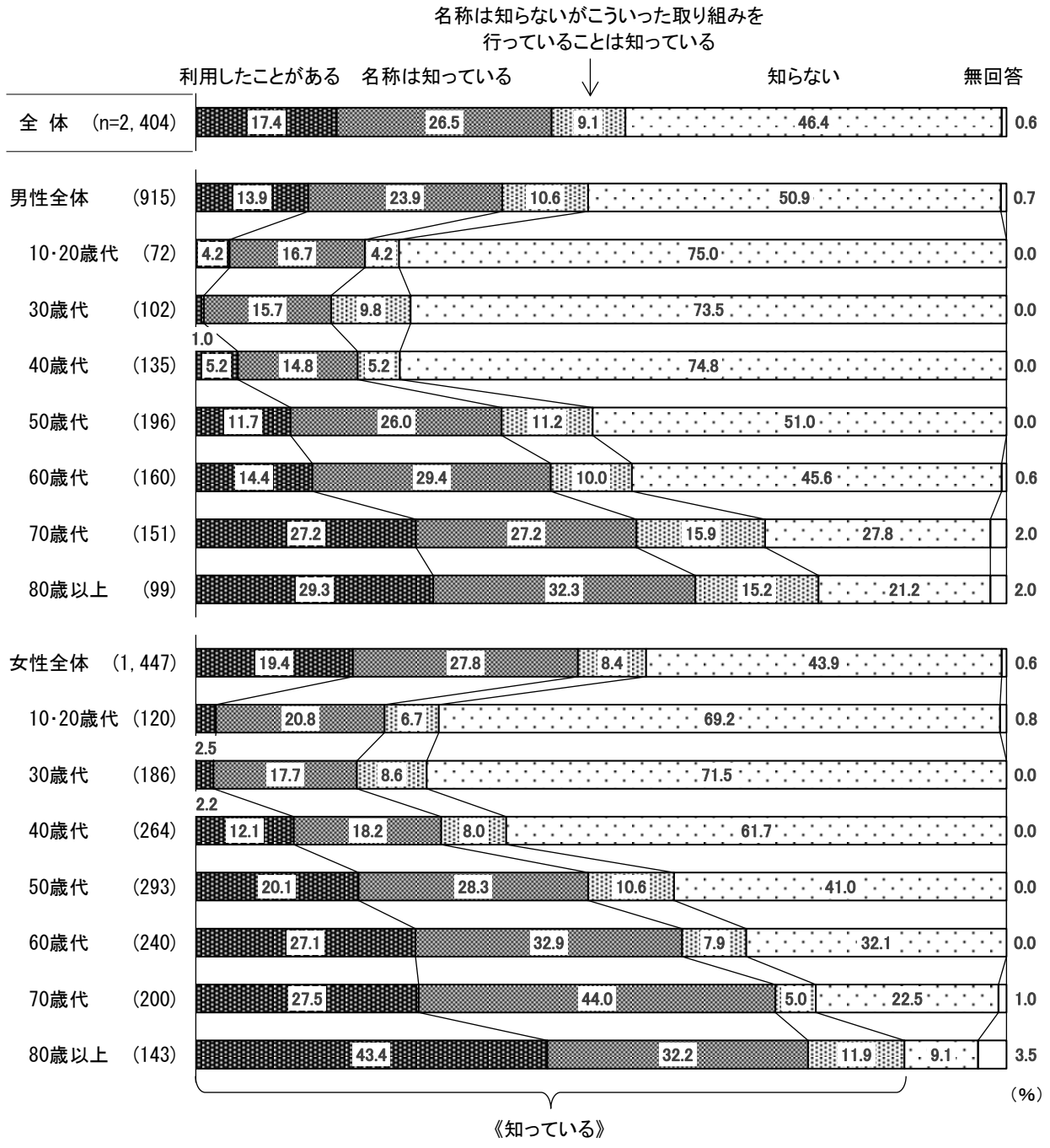
問１２　あなたは、区内２８地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会が連携して相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。（○は１つ）

図５－２－１



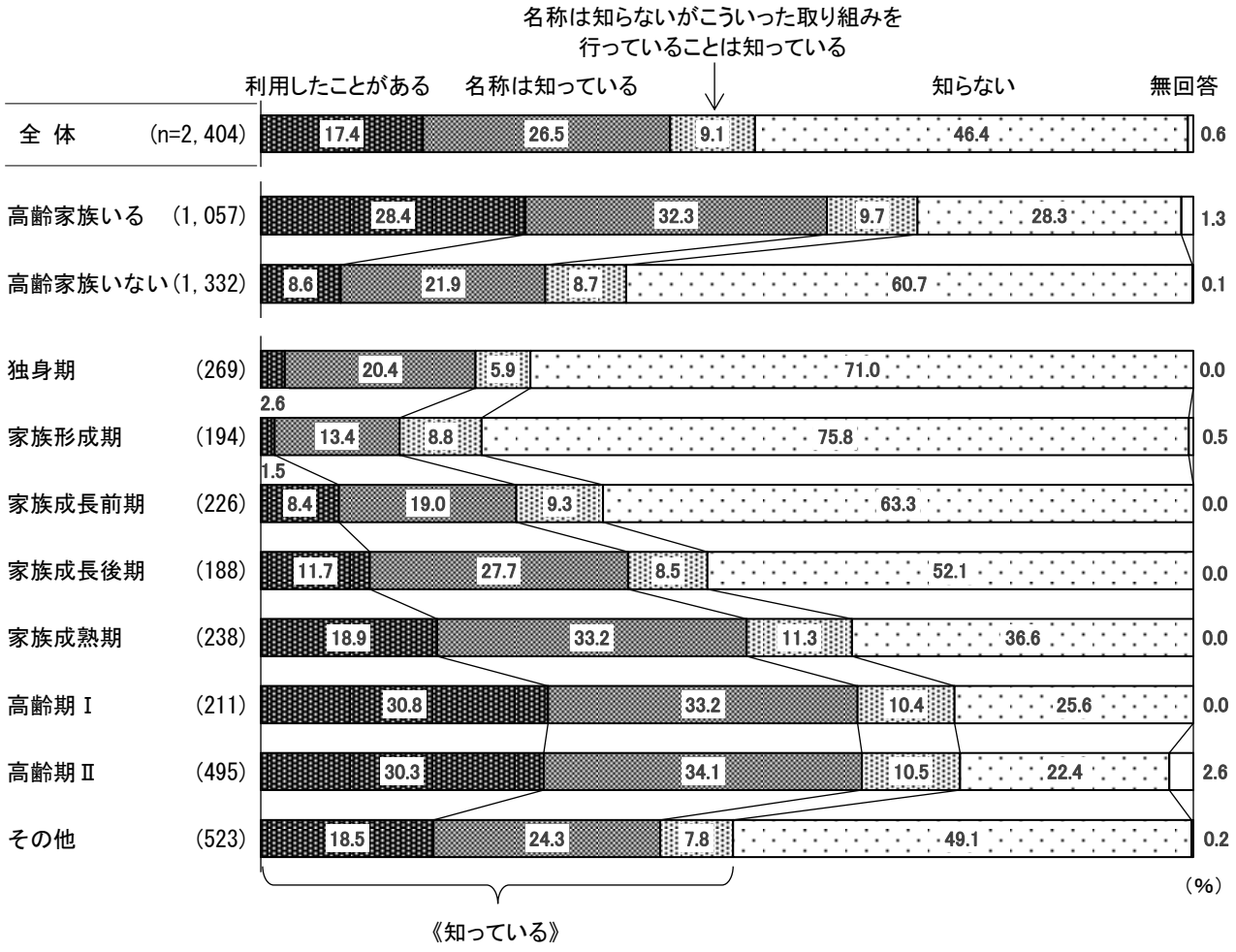
「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」（26.5%）、「利用したことがある」(17.4%)、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」(9.1%)を合わせた《知っている》（53.0%）が５割を超え、「知らない」（46.4%）が４割半ばとなっている。（図５－２－１）

図５－２－２　「福祉の相談窓口」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》は男女ともに年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、女性の 80 歳以上で９割近く、男性の 80 歳以上、女性の 70 歳代で８割近く、男性の 70 歳代で７割となっている。「利用したことがある」は女性の 80 歳以上で４割を超えている。（図５－２－２）

図５－２－３　「福祉の相談窓口」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「利用したことがある」が３割近く、「名称は知っている」が３割を超え、高齢家族がいない世帯より高い。

ライフステージ別にみると、「利用したことがある」は高齢期Ⅰでほぼ３割、高齢期Ⅱで３割となっている。《知っている》は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで７割半ば、家族成熟期で６割を超えている。

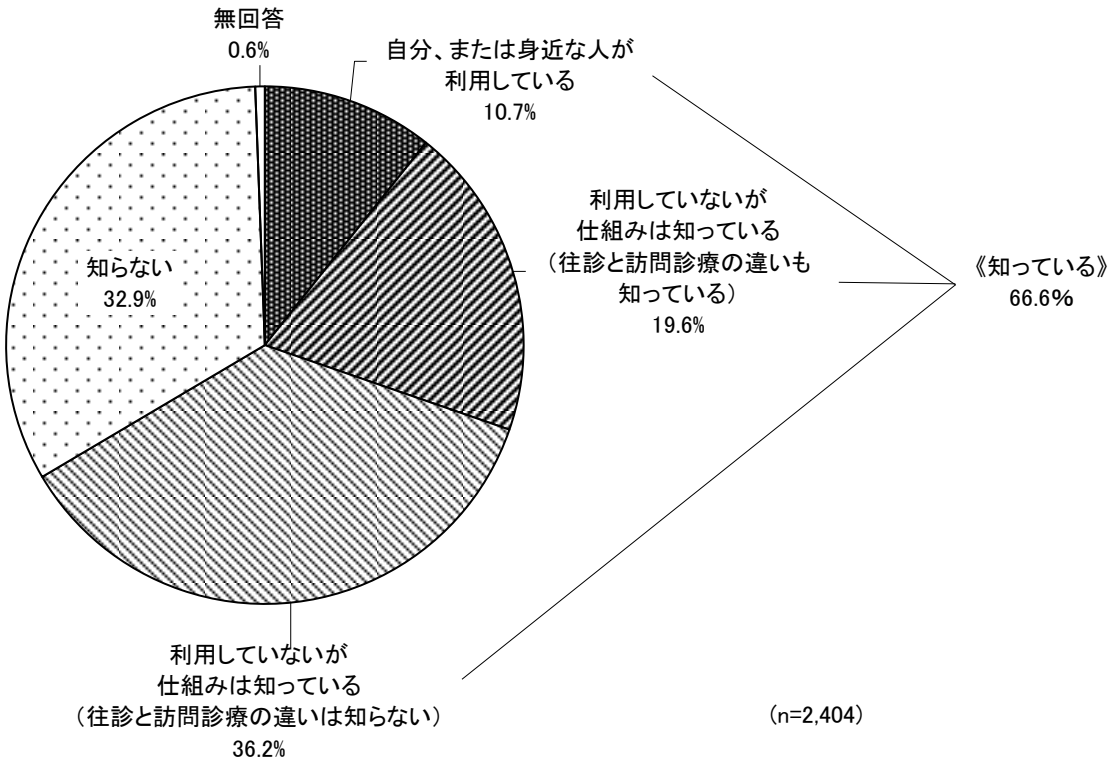
（図５－２－３）

（３）「在宅医療」の認知度

◎《知っている》が７割近く、「自分、または身近な人が利用している」はほぼ１割

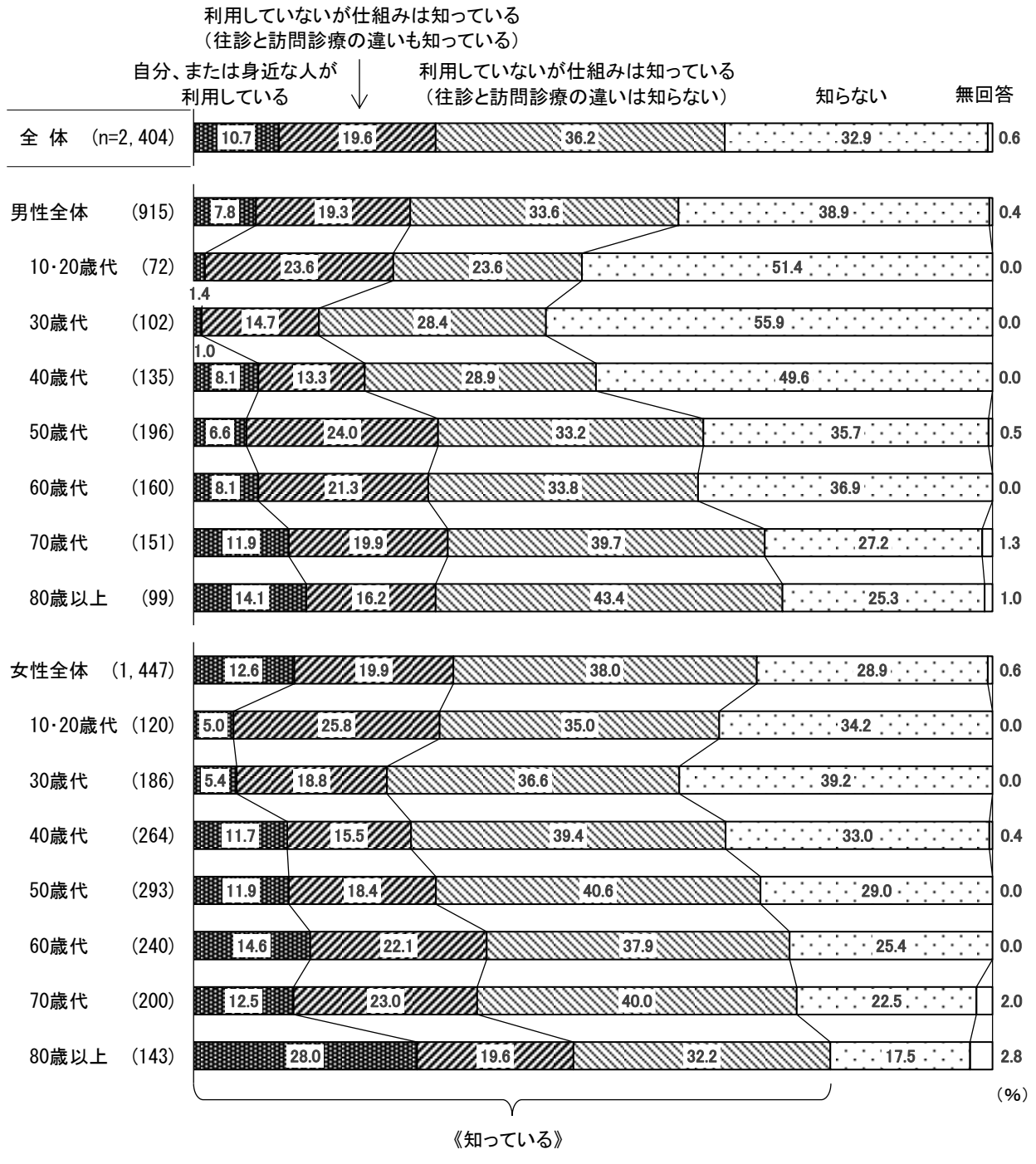
問１３　あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。（○は１つ）

図５－３－１



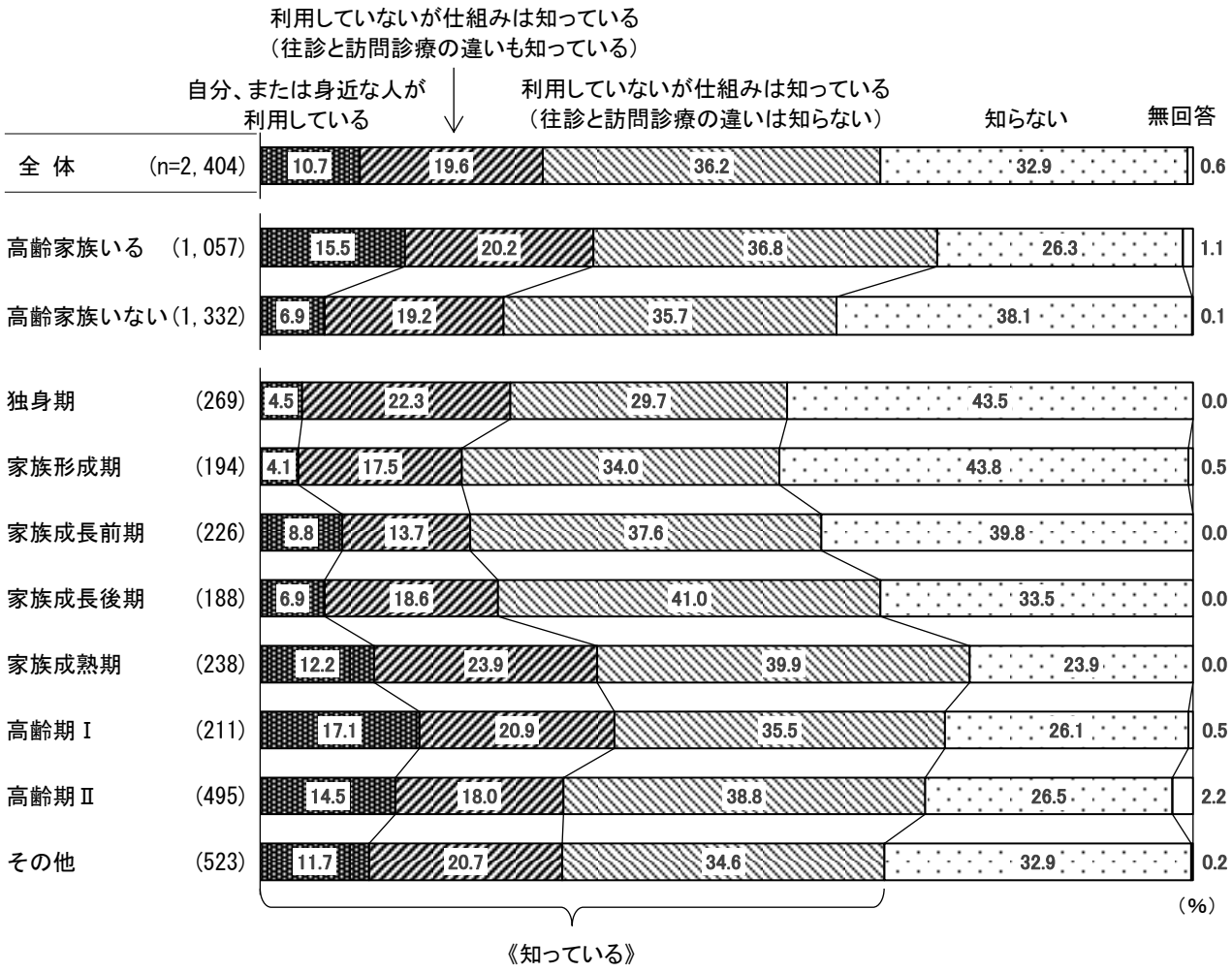
「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いは知らない）」（36.2%）が３割半ば、「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）」（19.6%）、「自分、または身近な人が利用している」（10.7%）と合わせた《知っている》（66.6%）が７割近くとなっている。（図５－３－１）

図５－３－２　「在宅医療」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》はすべての年代で男性より女性の方が高く、特に女性の 80 歳以上で８割となっている。「自分、または身近な人が利用している」は女性の 80 歳以上で３割近くとなっている。（図５－３－２）

図５－３－３　「在宅医療」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、「自分、または身近な人が利用している」は高齢家族がいる世帯が１割半ばで、高齢家族がいない世帯より高い。

ライフステージ別にみると、《知っている》は家族成熟期で７割半ば、高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで７割を超えている。「自分、または身近な人が利用している」は高齢期Ⅰで２割近くとなっている。

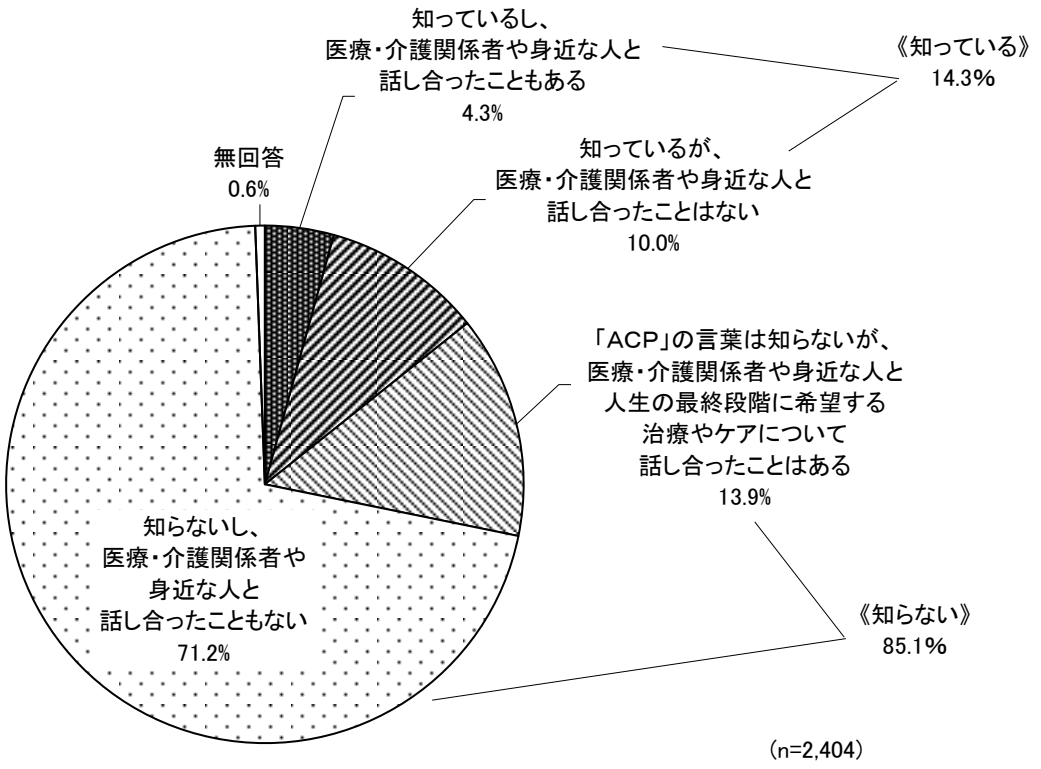
（図５－３－３）

（４）「ＡＣＰ」（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の認知度

◎《知らない》が８割半ば、《知っている》は１割半ば

問１４　あなたは、「ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）」を知っていますか。（○は１つ）

図５－４－１

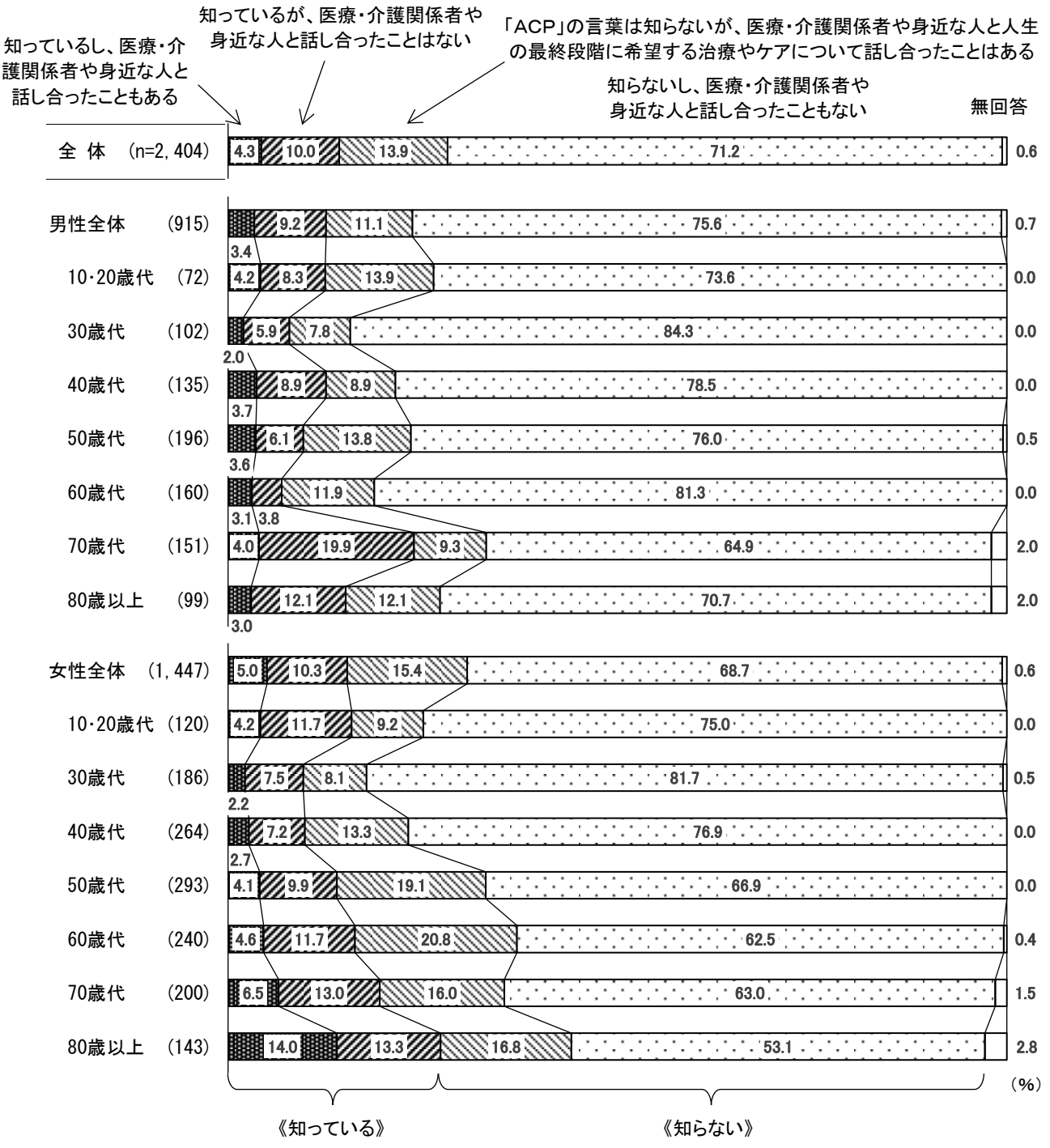


「ＡＣＰ」の認知度を聞いたところ、「知らないし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともない」（71.2%）が７割を超えて最も高く、「「ＡＣＰ」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する治療やケアについて話し合ったことはある」（13.9%）を合わせた《知らない》（85.1%）は８割半ばとなっている。「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」（4.3%）と「知っているが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはない」（10.0%）を合わせた《知っている》（14.3%）は１割半ばとなっている。

「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」と「「ＡＣＰ」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する治療やケアについて話し合ったことはある」を合わせた《話し合ったことがある》（18.2%）は２割近くとなっている。

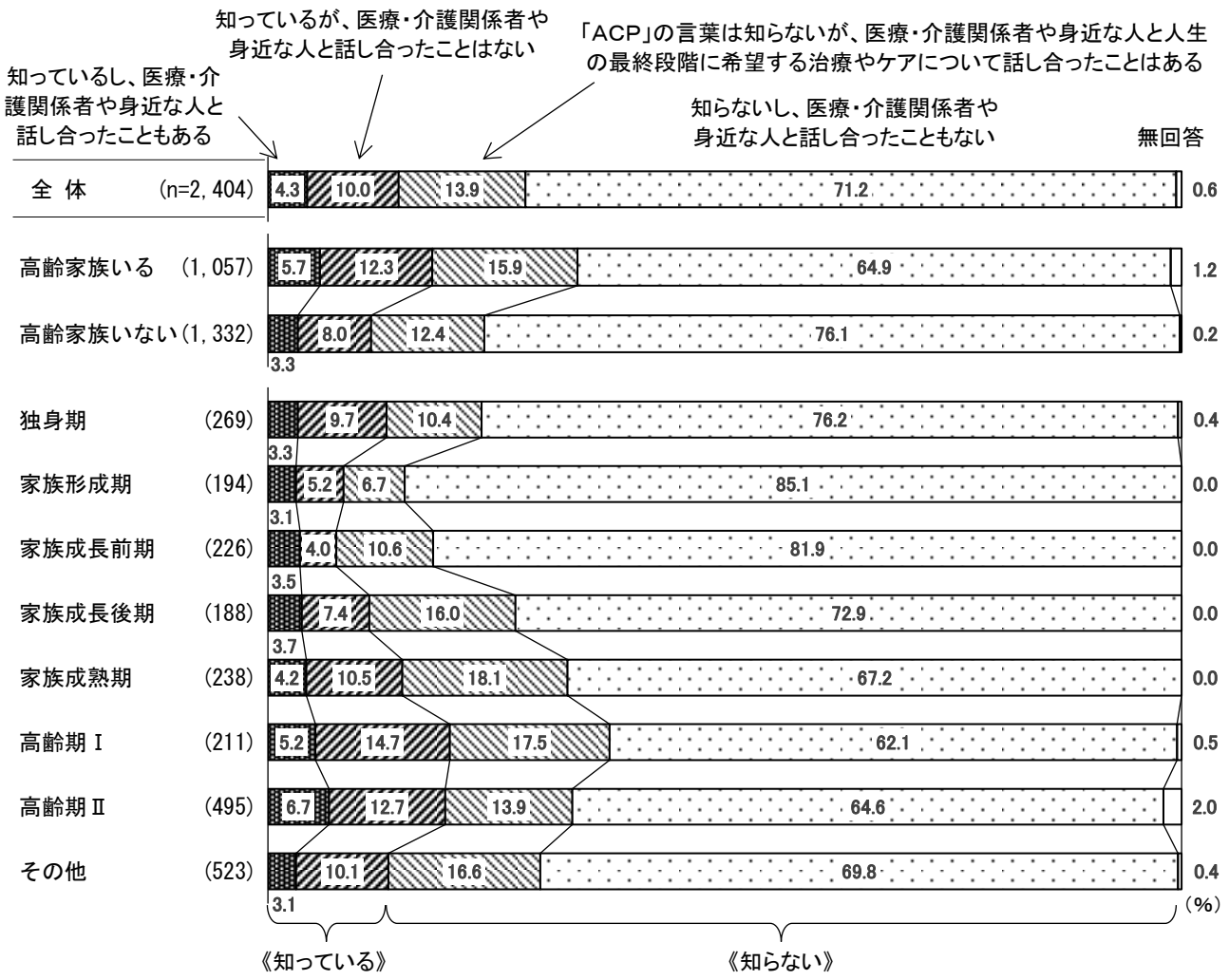
（図５－４－１）

図５－４－２　「ＡＣＰ」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知らない》は男性の 30 歳代と 60 歳代で９割を超え、男性の 50 歳代、女性の 30 歳代と 40 歳代で９割となっている。《知っている》は女性の 80 歳以上で３割近く、男性の 70 歳代で２割を超えている。《話し合ったことがある》は女性の 80 歳以上でほぼ３割、女性の 50 歳代～70 歳代で２割台と高くなっている。（図５－４－２）

図５－４－３　「ＡＣＰ」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は《知っている》が２割近く、《話し合ったことがある》が２割を超え、高齢家族がいない世帯より高い。

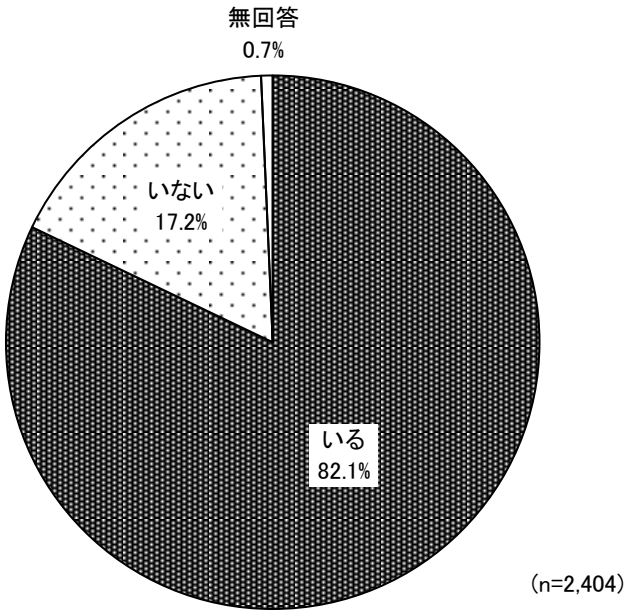
ライフステージ別にみると、《知らない》は家族形成期、家族成長前期で９割を超えている。《知っている》は高齢期Ⅰで２割、高齢期Ⅱでほぼ２割、《話し合ったことがある》は家族成熟期、高齢期Ⅰで２割を超えている。（図５－４－３）

（５）身近な相談相手の有無

◎「いる」が８割を超える

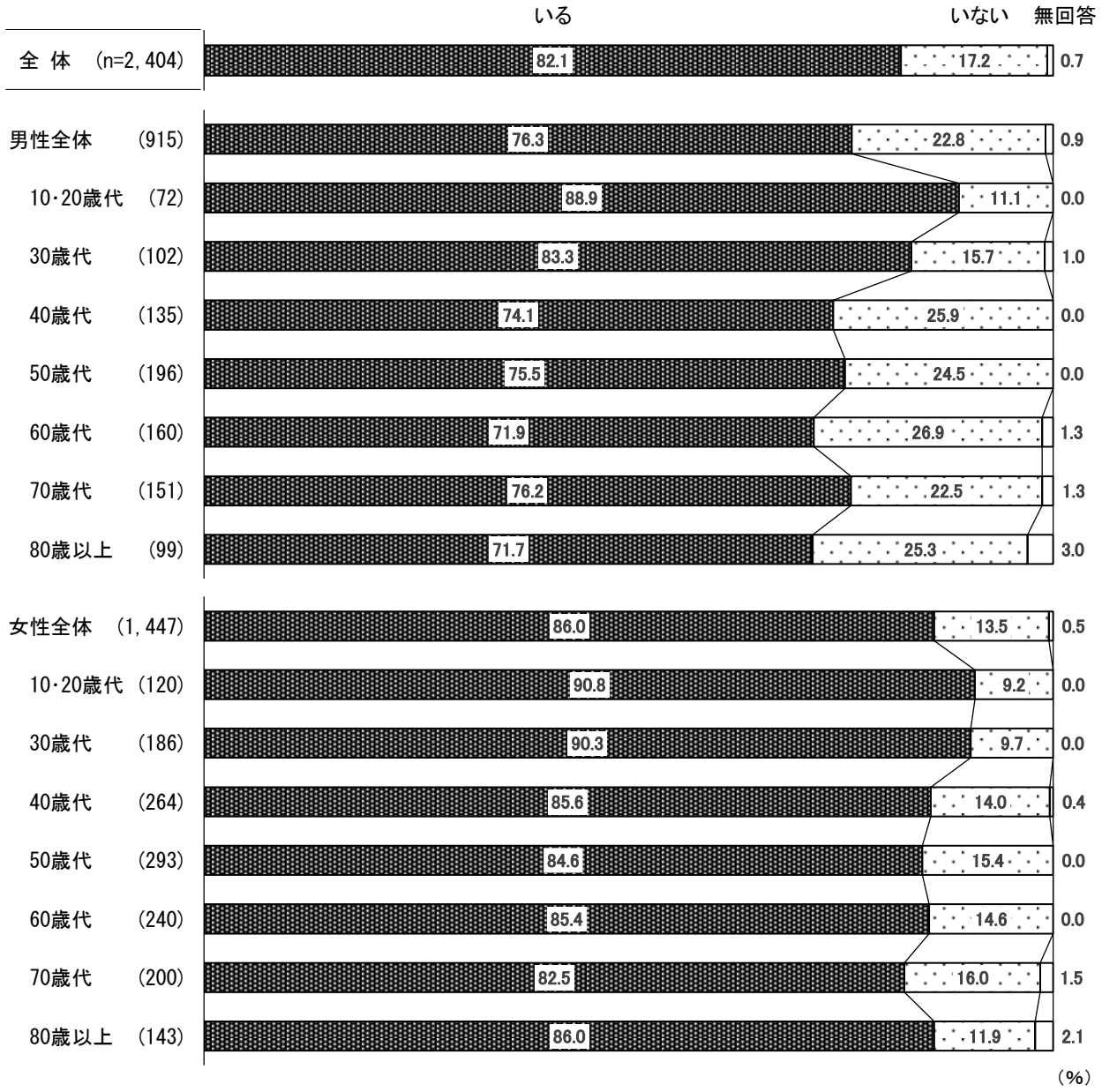
問１５　あなたは、あなたに不安や悩みが生じた場合、身近に相談相手はいますか。（○は１つ）

図５－５－１



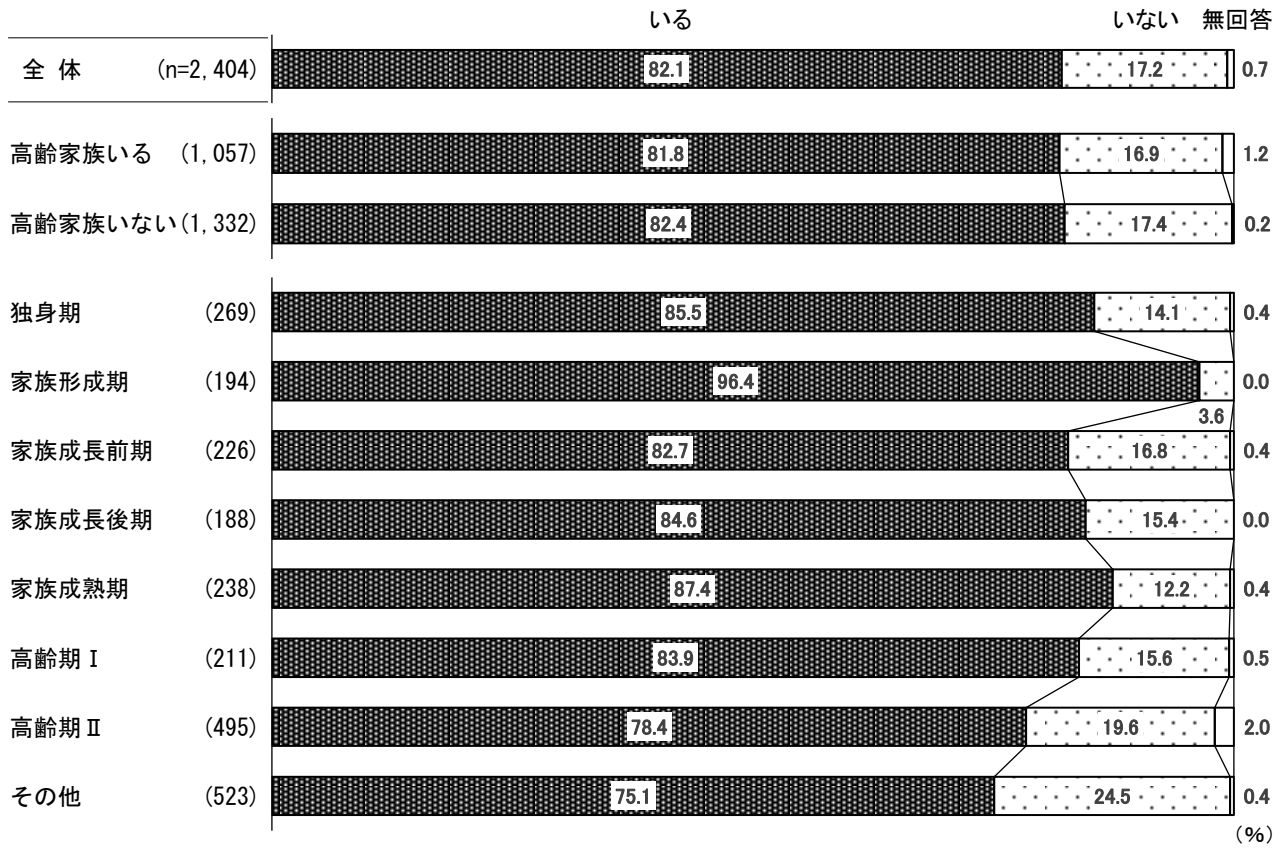
不安や悩みが生じた場合に身近な相談相手がいるかを聞いたところ、「いる」（82.1%）が８割を超え、「いない」（17.2%）は２割近くとなっている。（図５－５－１）

図５－５－２　身近な相談相手の有無（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「いる」は女性の 10・20 歳代でほぼ９割、女性の 30 歳代で９割、男性の 10・20 歳代で９割近くとなっており、男女とも 30 歳代以下が 40 歳代以上より高く、すべての年代で女性の方が男性より高い。「いない」は男性の 40 歳代以上で２割台となっている。（図５－５－２）

図５－５－３　身近な相談相手の有無（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯といない世帯で大きな差はみられない。

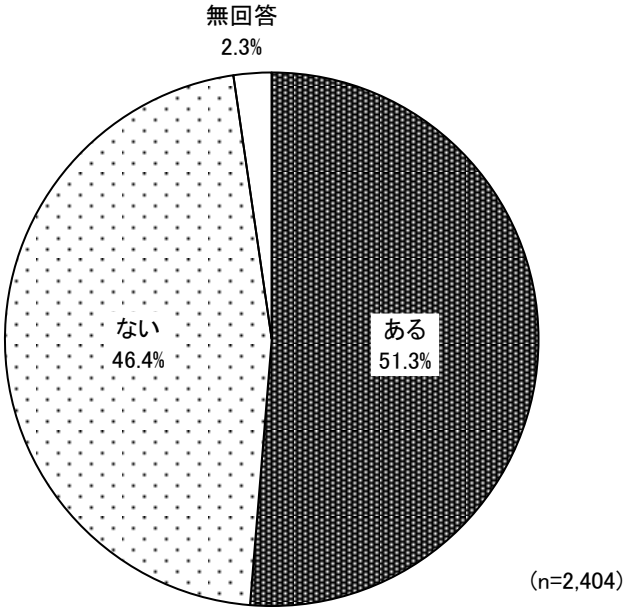
ライフステージ別にみると、「いる」は家族形成期で９割半ばと高い。「いない」はその他が２割半ば、高齢期Ⅱが２割となっている。（図５－５－３）

（６）日常生活の不安や悩みの有無

◎「ある」が５割を超える

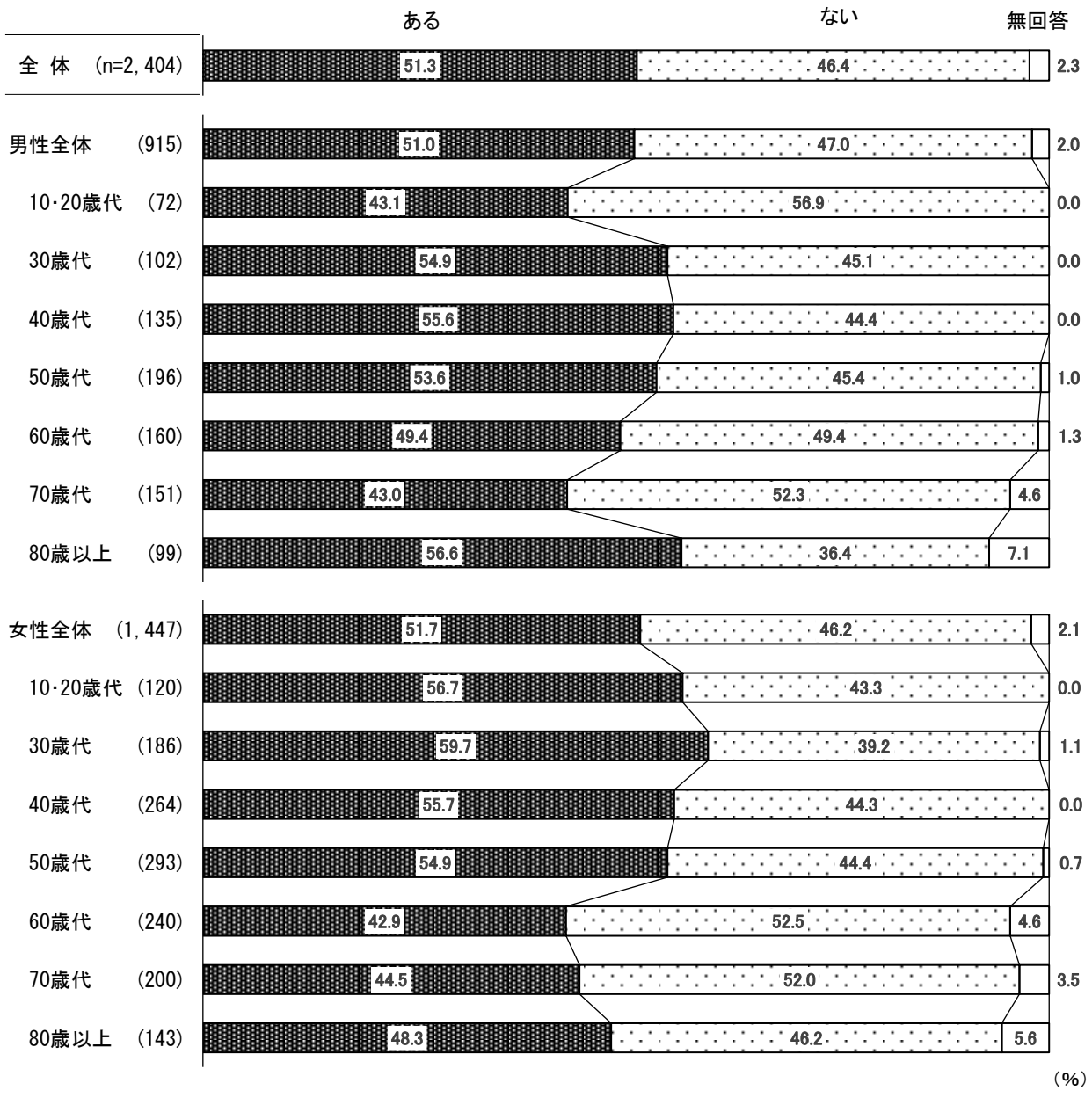
問１６　あなたは現在日常生活において不安や悩みを感じることはありますか。（○は１つ）

図５－６－１



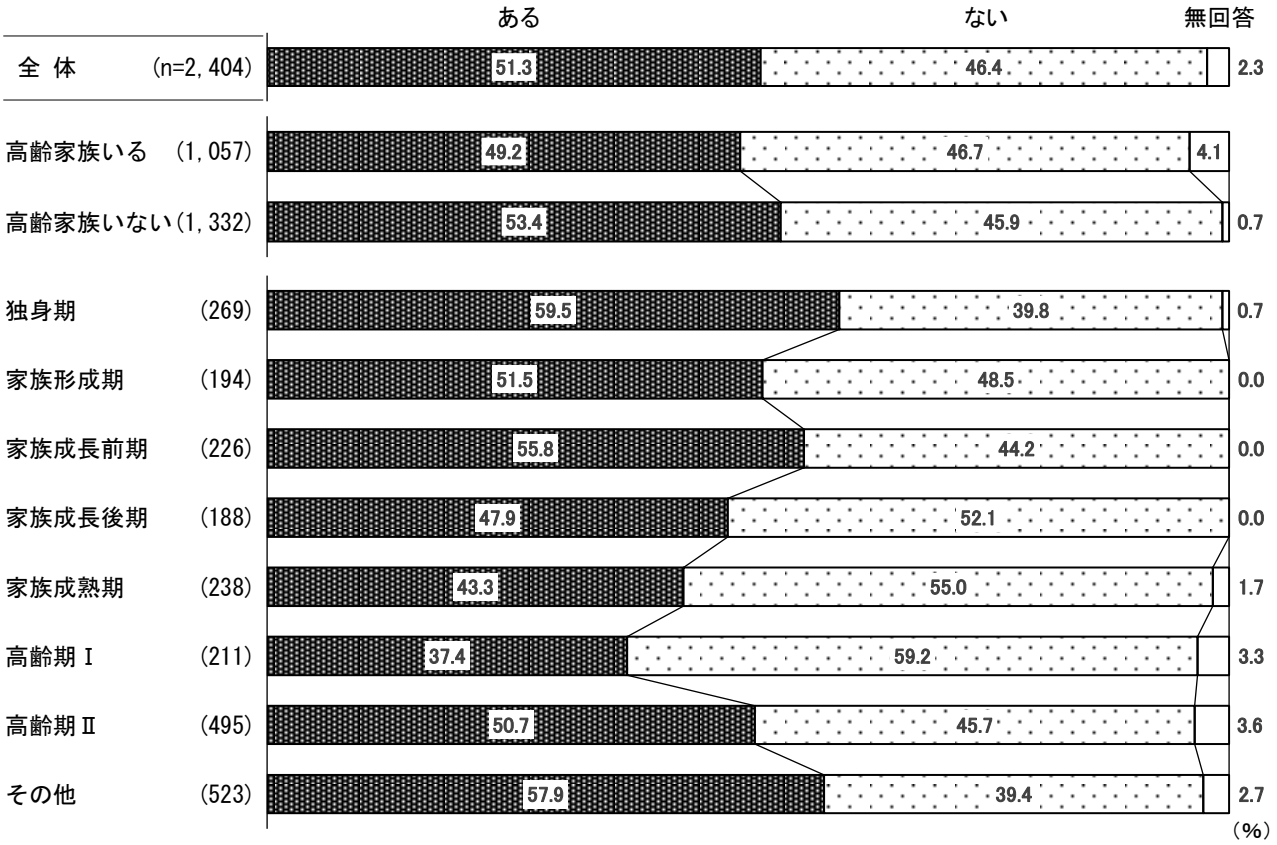
現在、日常生活において不安や悩みを感じることがあるかを聞いたところ、「ある」（51.3%）が５割を超え、「ない」（46.4%）は４割半ばとなっている。（図５－６－１）

図５－６－２　日常生活の不安や悩みの有無（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「ある」は男性の 30 歳代～50 歳代と 80 歳以上、女性の 50 歳代以下で５割台となっている。「ない」は男性の 10・20 歳代で６割近く、男性の 70 歳代、女性の 60 歳代と 70 歳代で５割を超えている。（図５－６－２）

図５－６－３　日常生活の不安や悩みの有無（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、「ある」は高齢家族がいない世帯で５割を超え、高齢家族がいる世帯より高い。

ライフステージ別にみると、「ある」は独身期で６割、その他で６割近く、家族成長前期で５割半ばとなっている。「ない」は高齢期Ⅰでほぼ６割、家族成熟期で５割半ば、家族成長後期で５割を超えている。（図５－６－３）

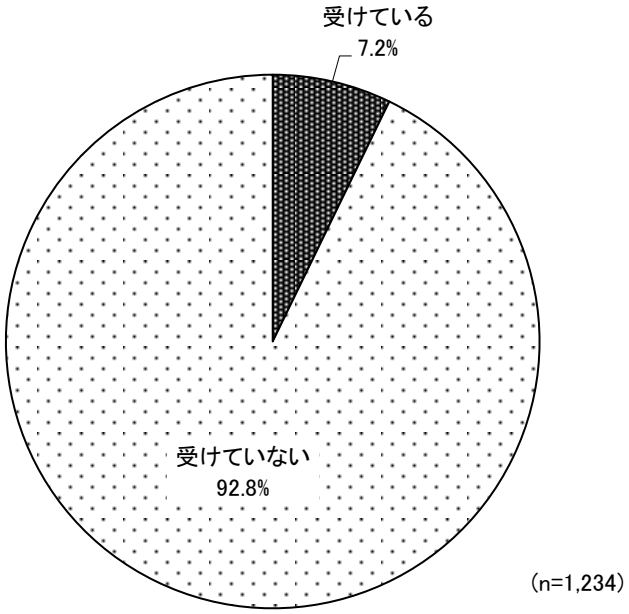
（７）行政機関や民間団体からの支援

◎「受けていない」が９割を超える

（問１６で「ある」と答えた方に）

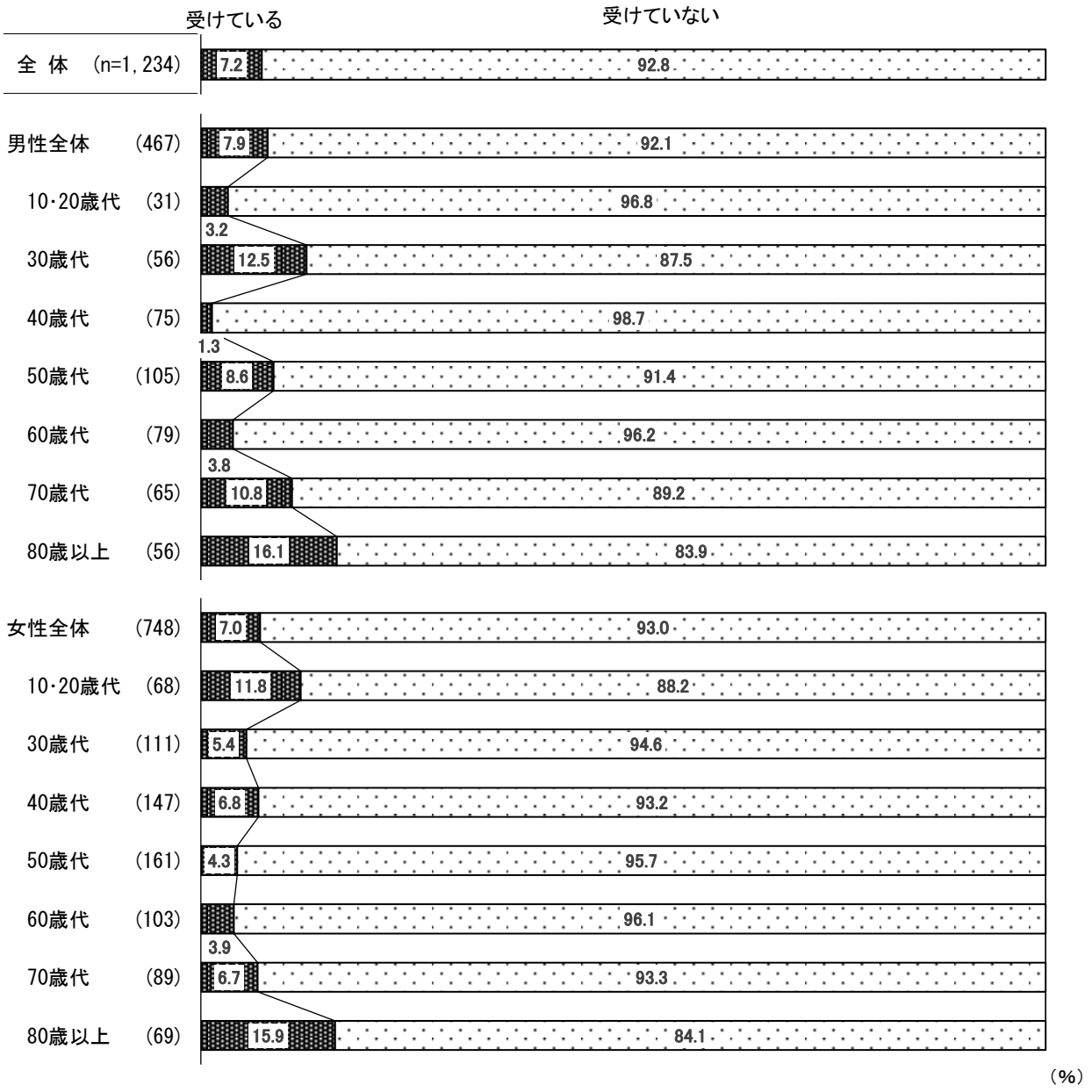
問１６－１　あなたは、日常生活における不安や悩みについて、行政機関やＮＰＯなどの民間団体から支援を受けていますか。（○は１つ）

図５－７－１



日常生活の不安や悩みが「ある」と答えた方（1,234 人）に、日常生活の不安や悩みについて行政機関や民間団体からの支援を受けているか聞いたところ、「受けていない」（92.8%）が９割を超え、「受けている」（7.2%）は１割未満となっている。（図５－７－１）

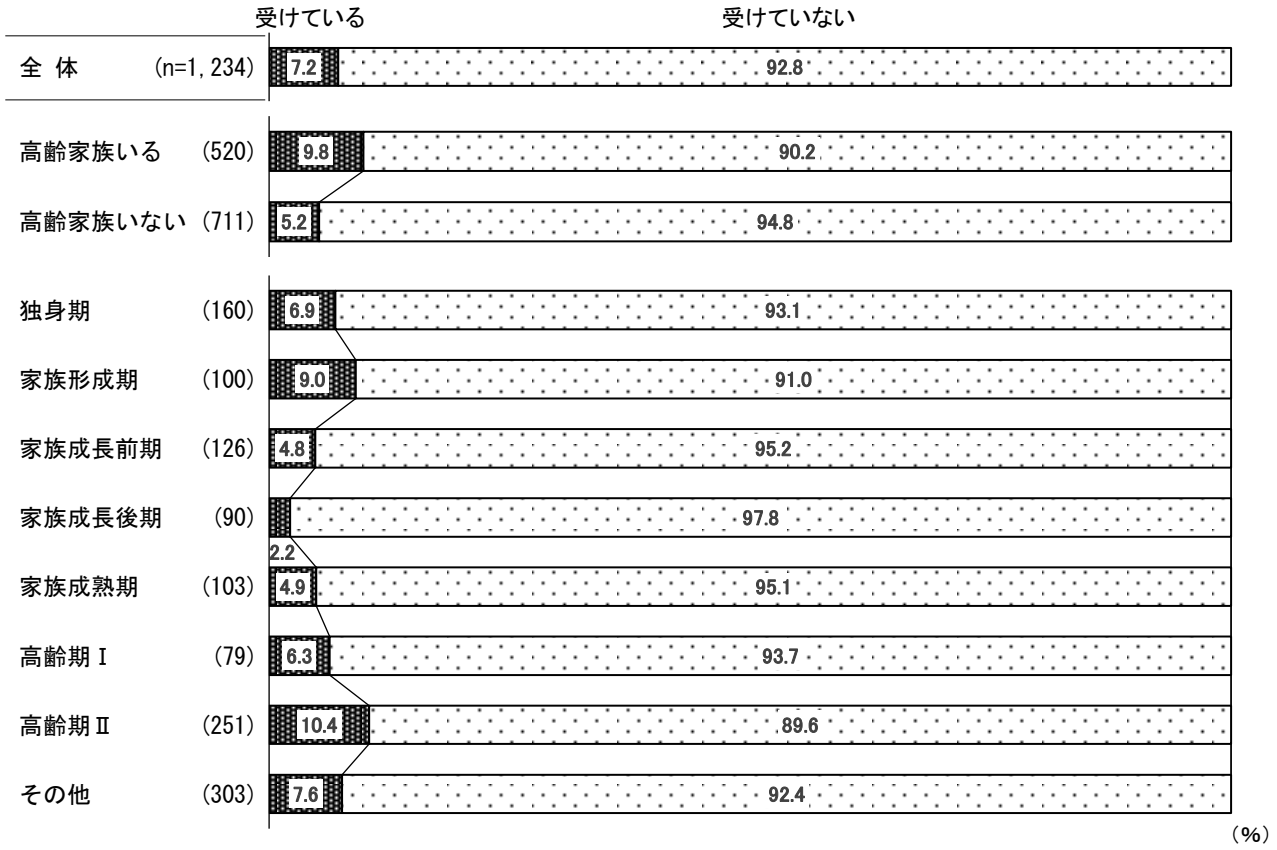
図５－７－２　行政機関や民間団体からの支援（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「受けている」は男女とも 80 歳以上が最も高く１割半ばとなっている。男性の 30 歳代、女性の 10・20 歳代で１割を超え、男性の 70 歳代でほぼ１割となっている。

（図５－７－２）

図５－７－３　行政機関や民間団体からの支援（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「受けている」が１割で、高齢家族がいない世帯より高い。

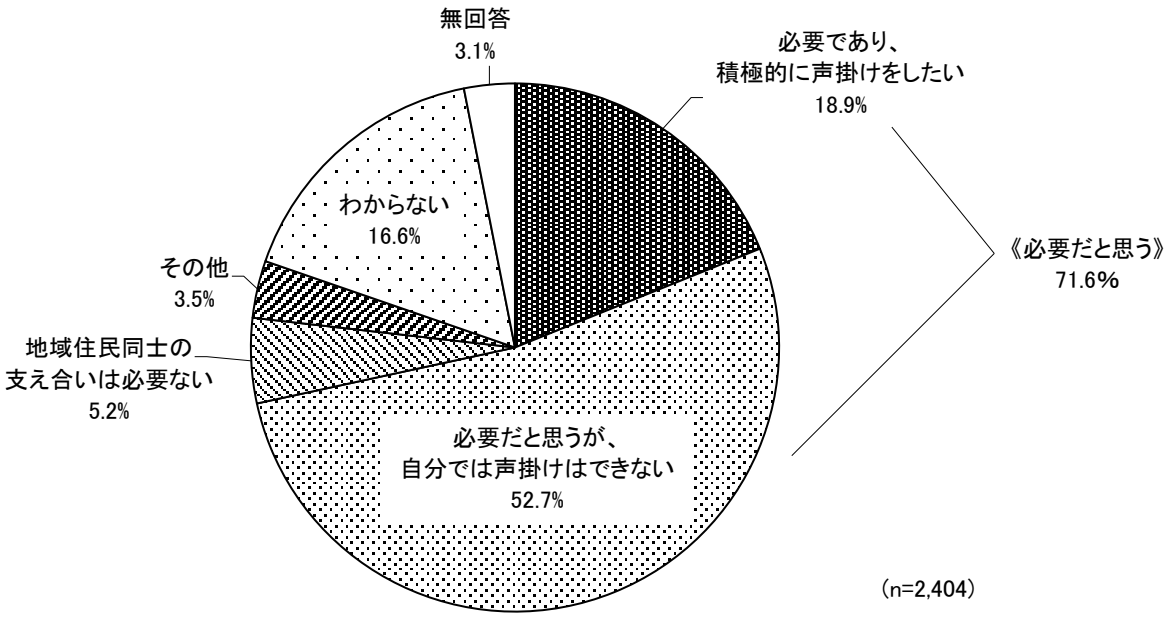
ライフステージ別にみると、「受けている」は高齢期Ⅱで１割、家族形成期でほぼ１割となっている。（図５－７－３）

（８）地域住民同士の支え合いについて

◎「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」が５割を超える

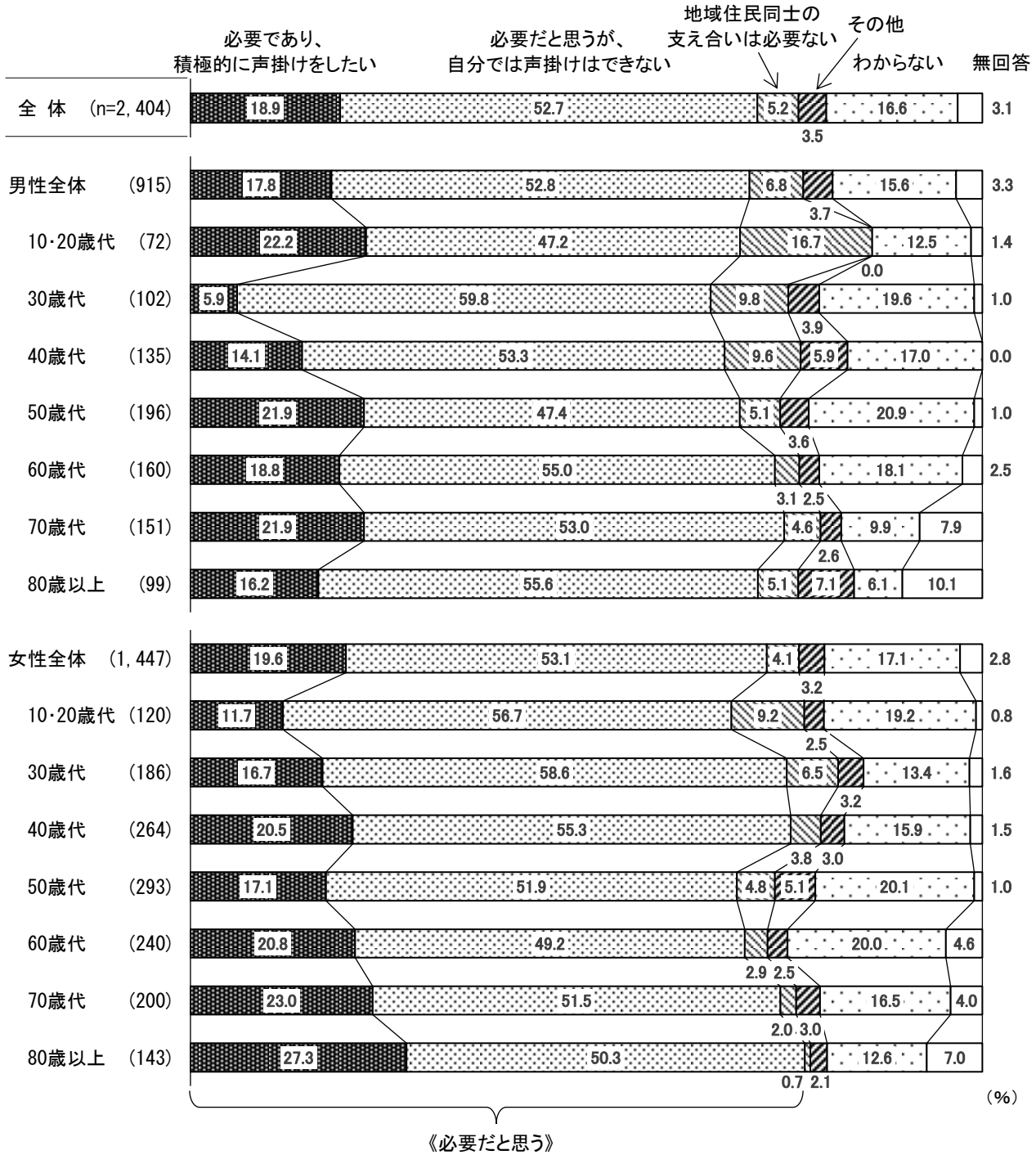
問１７　不安や悩みを抱えている周りの人へ声掛けをするなどの地域住民同士の支え合いについて、最も近い考え方はどれですか。（○は１つ）

図５－８－１



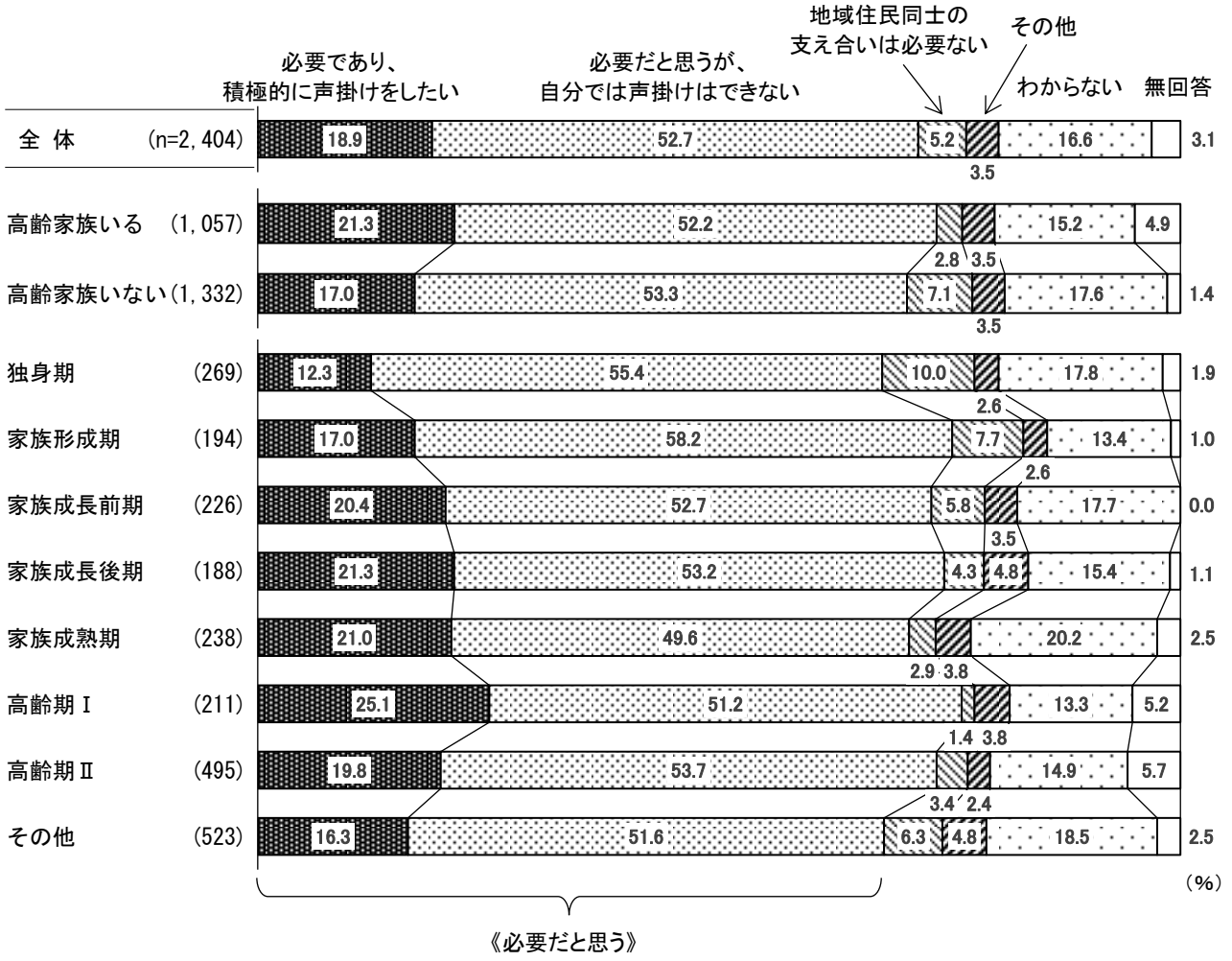
地域住民同士の支え合いについて聞いたところ、「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」（52.7%）が５割を超えて最も高く、次いで「必要であり、積極的に声掛けをしたい」（18.9%）が続く。「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」と「必要であり、積極的に声掛けをしたい」を合わせた《必要だと思う》（71.6%）は７割を超える。（図５－８－１）

図５－８－２　地域住民同士の支え合いについて（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《必要だと思う》は女性の 80 歳以上で８割近く、男性の 70 歳代、女性の 30 歳代と 40 歳代と 70 歳代で７割半ばとなっている。「必要であり、積極的に声掛けをしたい」は女性の 80 歳以上で３割近く、「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」は男性の 30 歳代で６割、女性の 10・20 歳代と 30 歳代で６割近くとなっている。一方、「地域住民同士の支え合いは必要ない」は男性の 10・20 歳代で２割近くとなっている。（図５－８－２）

図５－８－３　地域住民同士の支え合いについて（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、「必要であり、積極的に声掛けをしたい」は高齢家族がいる世帯で２割を超え、高齢家族がいない世帯より高い。

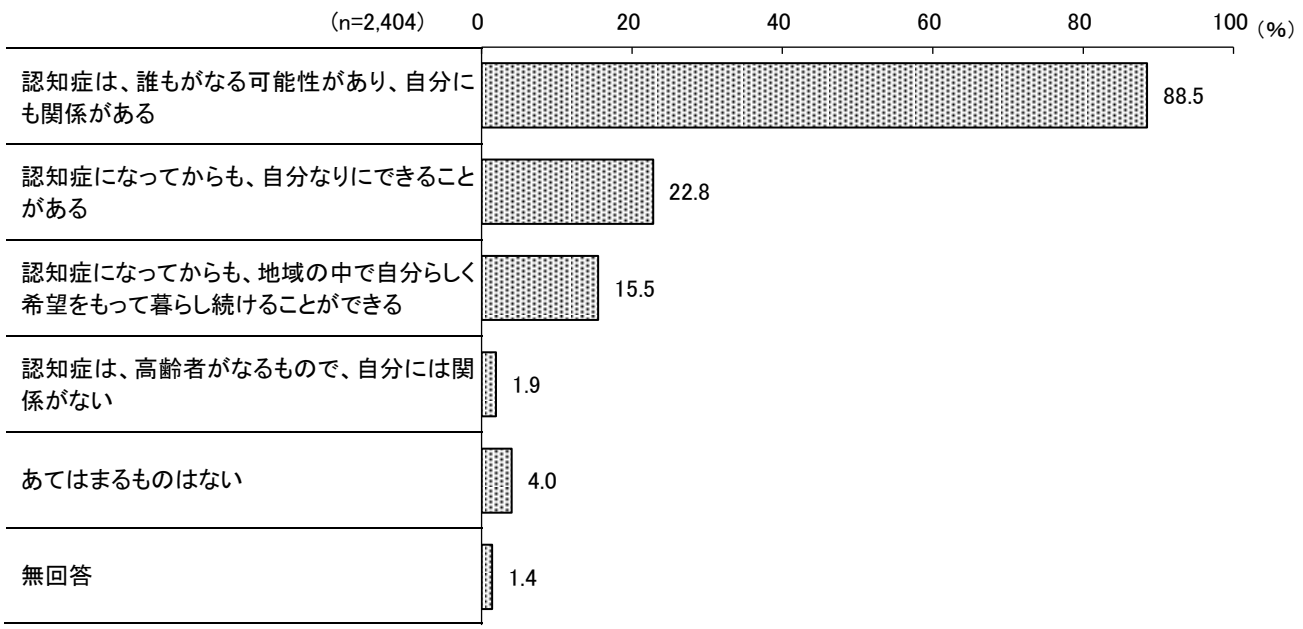
ライフステージ別にみると、「必要であり、積極的に声掛けをしたい」は高齢期Ⅰで２割半ば、家族成長後期、家族成熟期で２割を超える。「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」は家族形成期で６割近く、独身期で５割半ばとなっている。《必要だと思う》は独身期とその他を除くすべてのライフステージで７割台となっている。（図５－８－３）

（９）認知症についての印象

◎「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」と考えている方が９割近く

問１８　あなたは、認知症についてどのような印象・考えをお持ちですか。（○はいくつでも）

図５－９－１



認知症についての印象・考えを聞いたところ、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」（88.5%）が９割近くで最も高く、以下、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」（22.8%）、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」（15.5%）などと続く。（図５－９－１）

表５－９－１　認知症についての印象（性・年齢別）

（%）

		n	認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある	認知症になってからも、自分なりにできることがある	認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる	認知症は、高齢者がなるもので、自分には関係がない	あてはまるものはない	無回答
全　体		2,404	88.5	22.8	15.5	1.9	4.0	1.4
性・年齢別	男性全体	915	86.1	19.6	13.8	1.7	5.4	1.6
	10･20歳代	72	79.2	16.7	12.5	2.8	9.7	1.4
	30歳代	102	83.3	12.7	3.9	4.9	8.8	1.0
	40歳代	135	87.4	13.3	5.9	2.2	4.4	0.7
	50歳代	196	87.8	16.8	12.2	2.6	5.1	1.5
	60歳代	160	91.3	21.3	15.6	－	4.4	1.3
	70歳代	151	88.1	29.8	23.2	0.7	3.3	2.6
	80歳以上	99	77.8	24.2	21.2	－	5.1	3.0
	女性全体	1,447	90.2	24.8	16.5	2.0	3.2	1.1
	10･20歳代	120	78.3	11.7	7.5	10.0	6.7	0.8
	30歳代	186	87.6	12.9	7.0	5.9	5.4	1.1
	40歳代	264	91.3	17.8	14.0	1.1	4.2	－
	50歳代	293	93.2	24.6	16.0	0.7	1.7	0.3
	60歳代	240	91.7	33.8	20.8	－	0.8	3.3
	70歳代	200	94.0	37.5	25.0	－	2.0	0.5
	80歳以上	143	87.4	32.2	22.4	0.7	4.9	2.1

性・年齢別にみると、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」はいずれの年代も７割～９割台と高い。「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は女性の 60 歳代以上で３割台、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」は男性の 70 歳代以上、女性の 60 歳代以上で２割台と高い。（表５－９－１）

表５－９－２　認知症についての印象（高齢家族の有無別・ライフステージ別）

（%）

		n	認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある	認知症になってからも、自分なりにできることがある	認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる	認知症は、高齢者がなるもので、自分には関係がない	あてはまるものはない	無回答
全　体		2,404	88.5	22.8	15.5	1.9	4.0	1.4
高齢家族別	いる	1,057	89.3	28.7	20.0	0.7	2.8	1.9
	いない	1,332	87.9	18.3	12.1	2.9	5.0	0.9
ライフステージ別	独身期	269	81.8	14.1	9.3	6.3	7.8	1.1
	家族形成期	194	85.1	14.4	6.7	6.2	4.6	1.5
	家族成長前期	226	92.0	11.1	7.5	1.8	2.7	－
	家族成長後期	188	92.6	23.4	16.5	0.5	4.3	0.5
	家族成熟期	238	94.5	28.2	16.4	0.4	0.4	1.7
	高齢期Ⅰ	211	90.0	34.1	24.6	－	1.4	2.4
	高齢期Ⅱ	495	88.7	30.3	21.2	0.2	3.4	1.6
	その他	523	88.0	20.8	14.9	1.9	5.4	1.1

高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「認知症になってからも、自分なりにできることがある」が３割近く、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」が２割で、いずれも高齢家族がいない世帯に比べ高い。

ライフステージ別にみると、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」は家族成熟期が９割半ばで最も高い。「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱが３割台で、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」も高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱが２割台となっている。（表５－９－２）

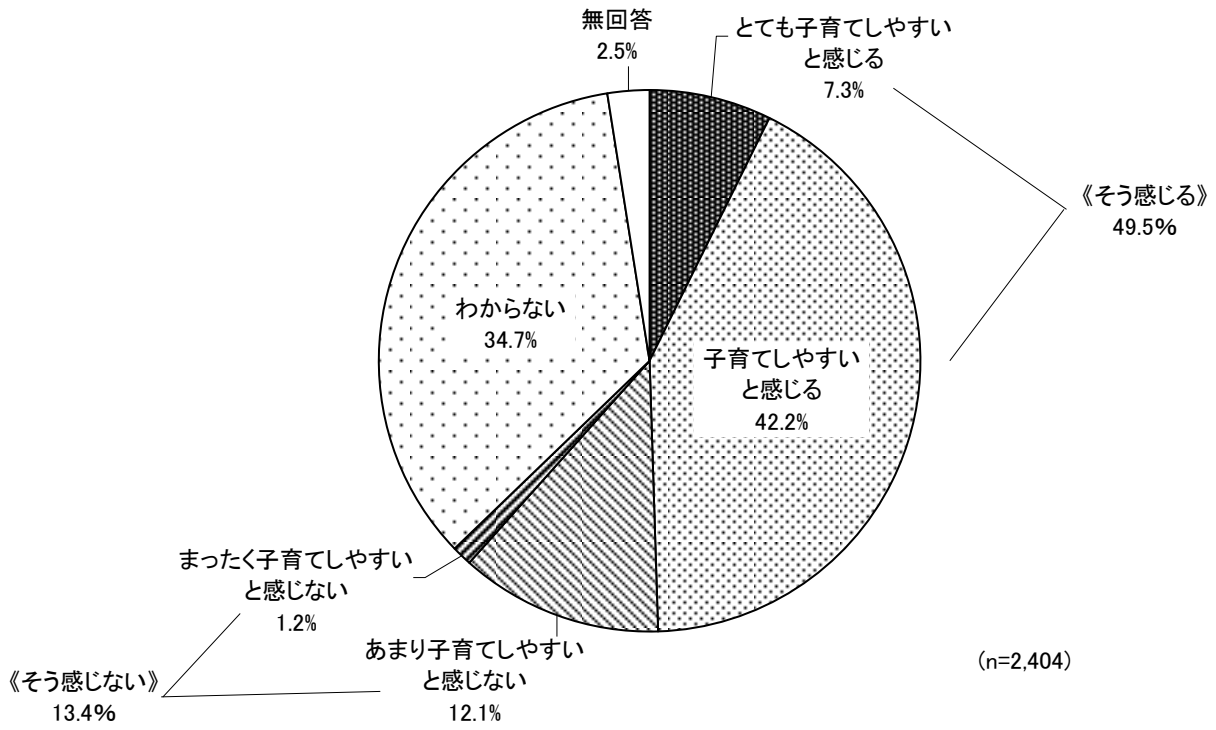
６．子育て

（１）区の子育て環境

◎「とても子育てしやすいと感じる」と「子育てしやすいと感じる」を合わせると５割

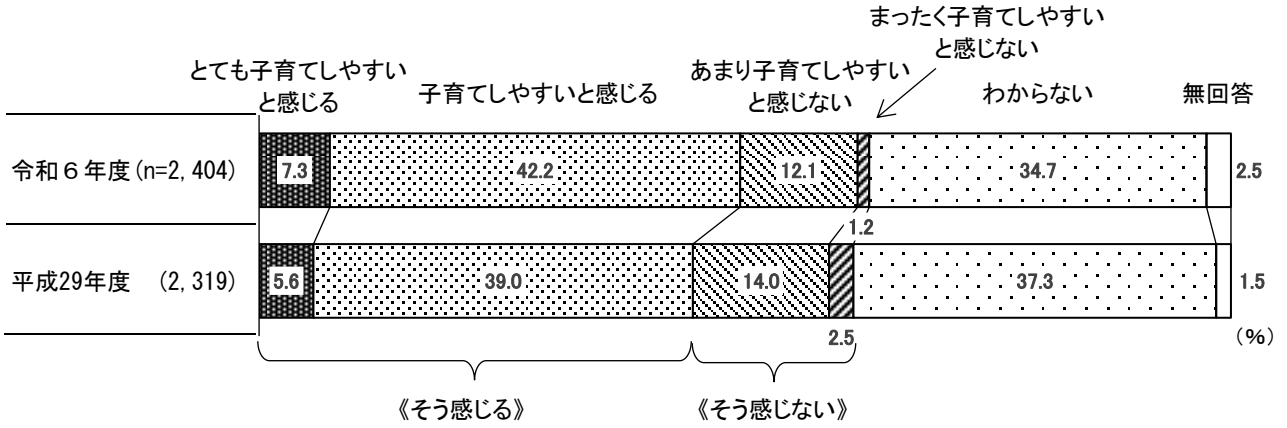
問１９　あなたは、世田谷区は子育てをしやすいまちだと感じますか。（○は１つ）

図６－１－１



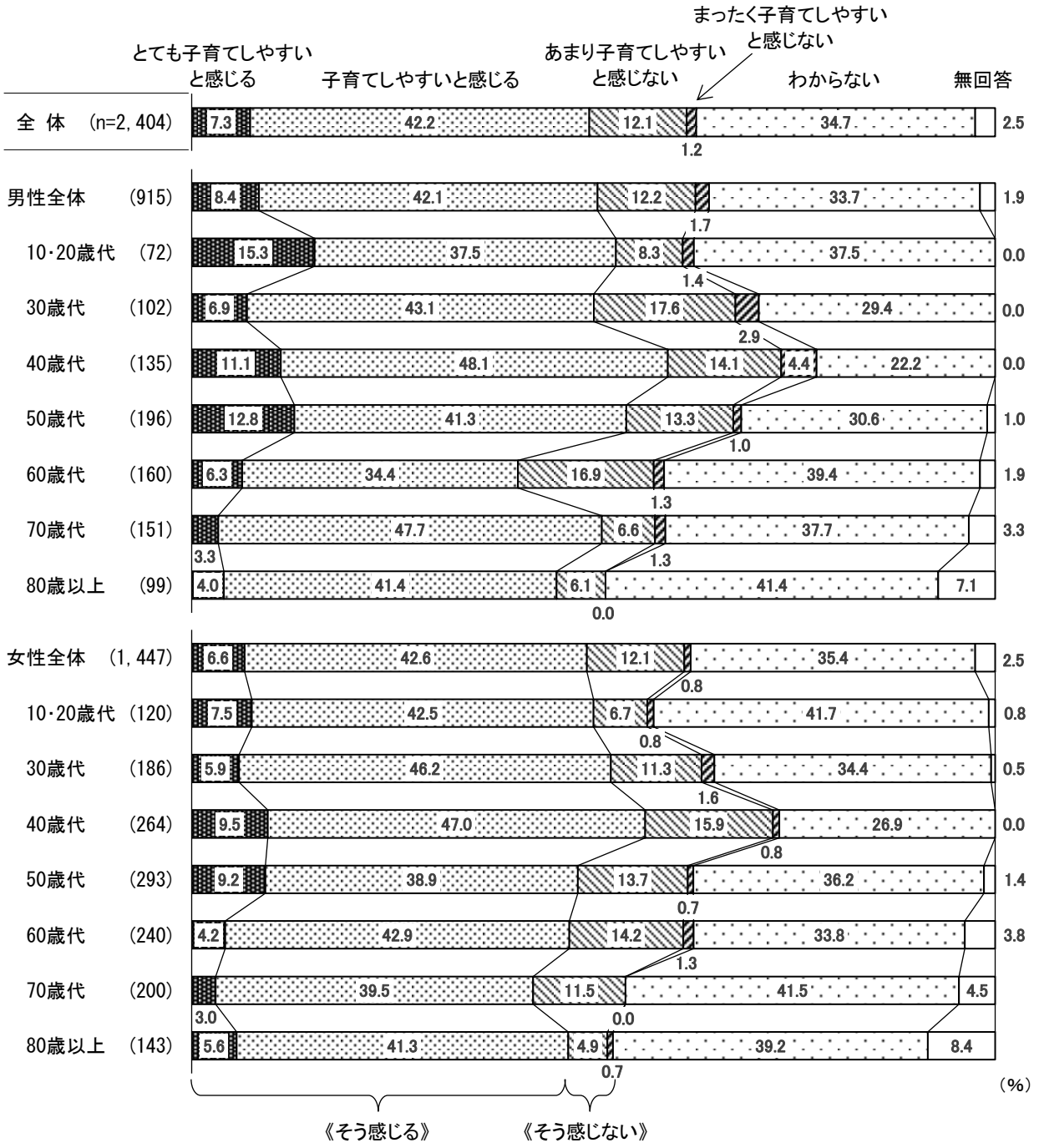
世田谷区の子育て環境について聞いたところ、「子育てしやすいと感じる」（42.2%）が４割を超え、「とても子育てしやすいと感じる」（7.3%）と合わせた《そう感じる》（49.5%）が５割、「あまり子育てしやすいと感じない」（12.1%）と「まったく子育てしやすいと感じない」（1.2%）を合わせた《そう感じない》（13.4%）が１割を超えている。（図６－１－１）

図６－１－２　区の子育て環境（時系列）



平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《そう感じる》は平成 29 年度（44.6%）から令和６年度（49.5%）で増加している。《そう感じない》は平成 29 年度（16.5%）から令和６年度（13.4%）でやや減少している。（図６－１－２）

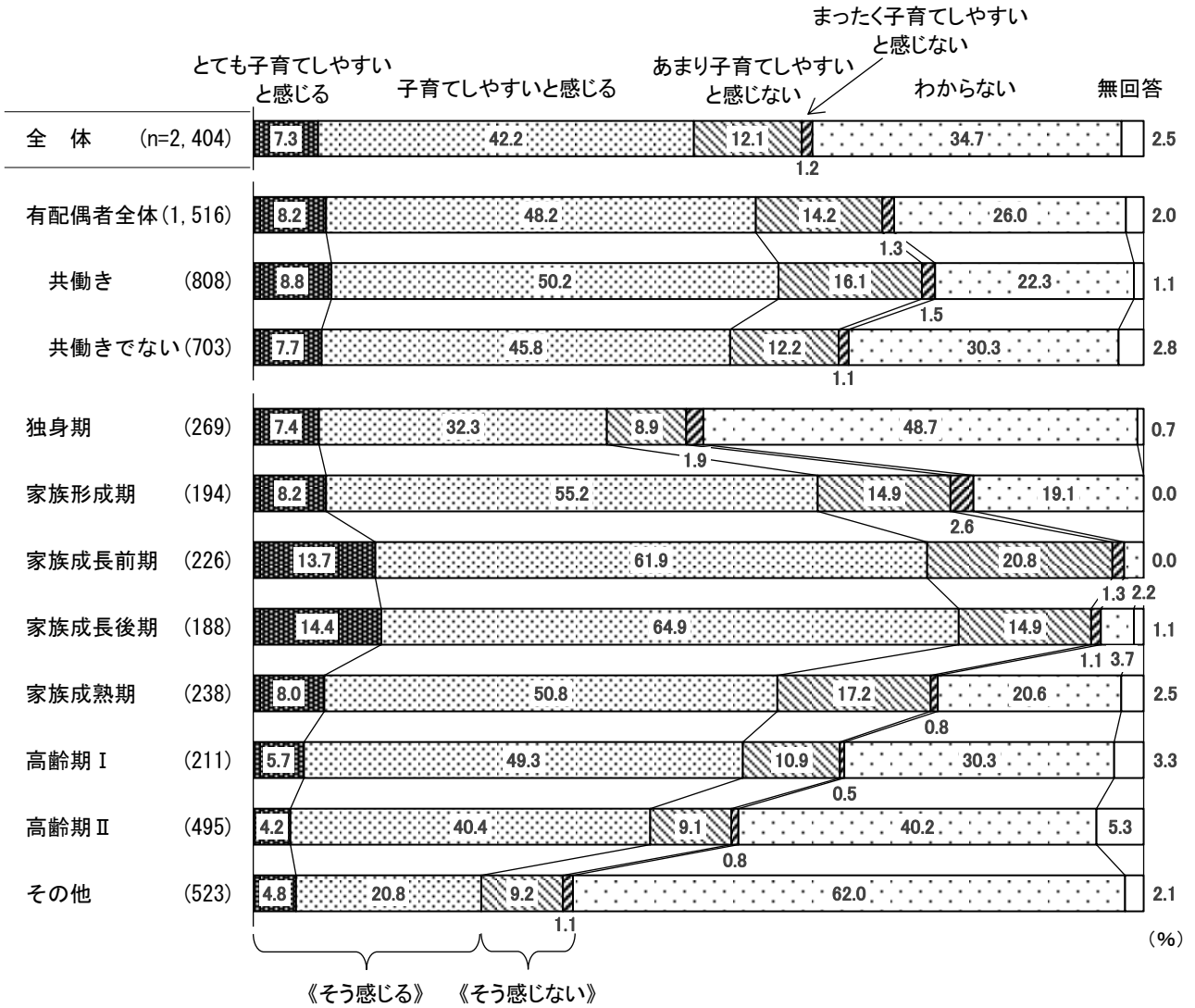
図６－１－３　区の子育て環境（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《そう感じる》は男性の 40 歳代でほぼ６割、男性の 50 歳代、女性の 40 歳代で５割半ば、男性の 10・20 歳代と 70 歳代、女性の 30 歳代で５割を超えている。《そう感じない》は男性の 30 歳代でほぼ２割、男性の 40 歳代と 60 歳代、女性の 40 歳代で２割近くとなっている。

（図６－１－３）

図６－１－４　区の子育て環境（共働きの有無別・ライフステージ別）



共働きの有無別にみると、共働き世帯は《そう感じる》がほぼ６割、《そう感じない》が２割近くで、いずれも共働きでない世帯より高い。

ライフステージ別にみると、《そう感じる》は家族成長後期でほぼ８割、家族成長前期で７割半ばとなっている。一方、《そう感じない》は家族成長前期で２割を超えている。（図６－１－４）

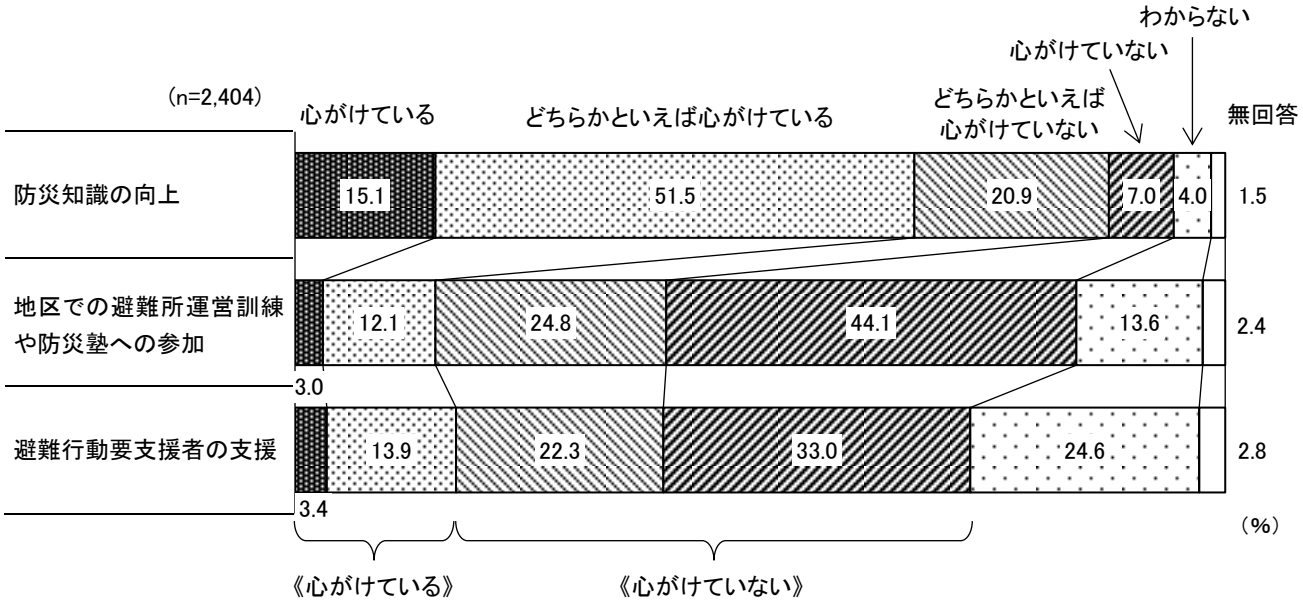
７．災害時の備え

（１）防災への対処

◎「防災知識の向上」は《心がけている》が７割近く

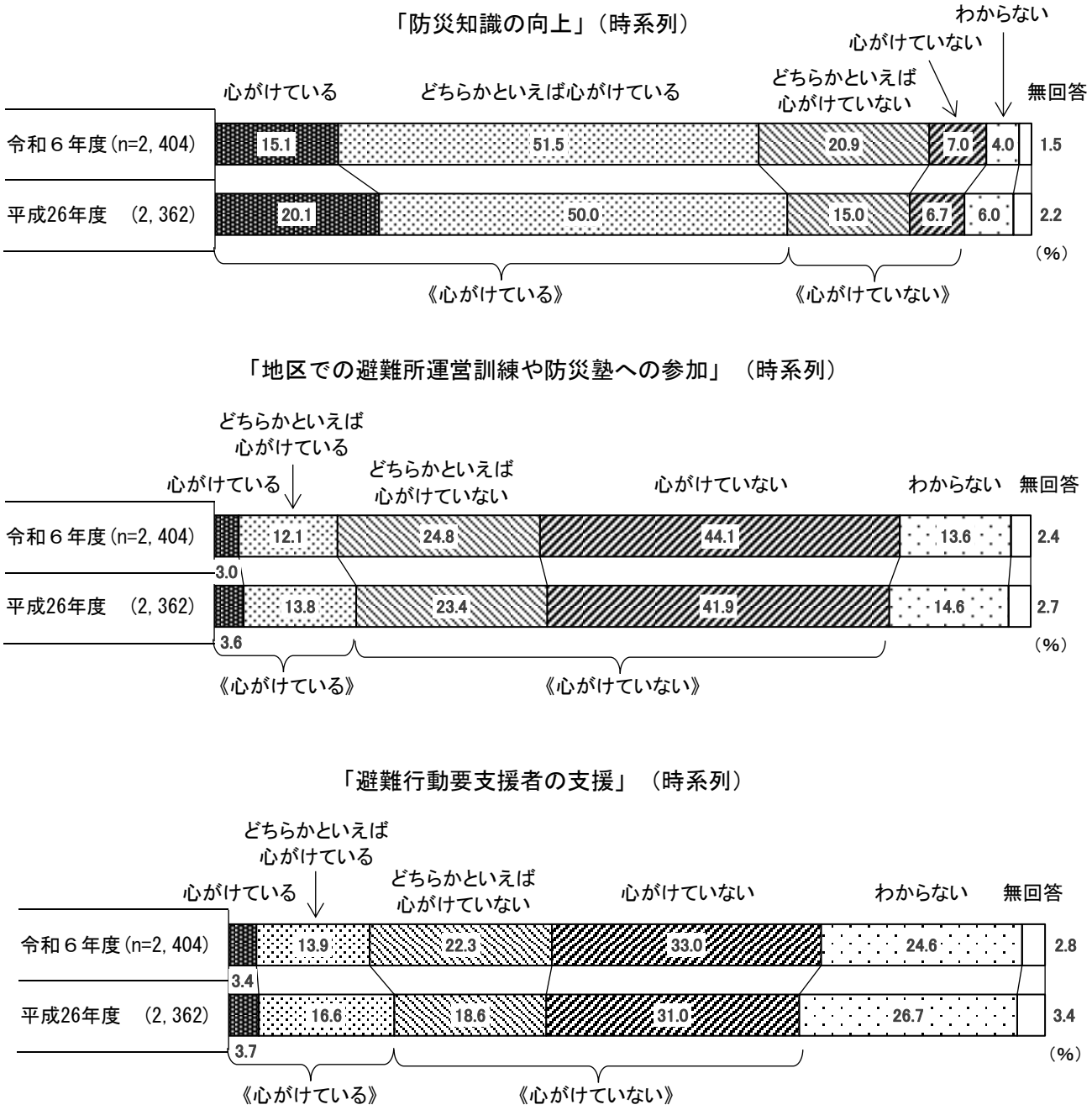
問２０　あなたは、防災に対して日頃から心がけていることはありますか。
次の（１）から（３）の項目について、あてはまるものを選んでください。
（○はそれぞれ１つずつ）

図７－１－１



防災に対して日頃から心がけていることがあるか聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」を合わせた《心がけている》は「防災知識の向上」（66.5%）が７割近く、「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(15.1%)が１割半ば、「避難行動要支援者の支援」(17.3%)が２割近くとなっており、「防災知識の向上」を心がけている人が多い。「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」を合わせた《心がけていない》は「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」（68.8%）が７割近くで、他の２項目より高い。（図７－１－１）

図７－１－２　防災への対処（時系列）



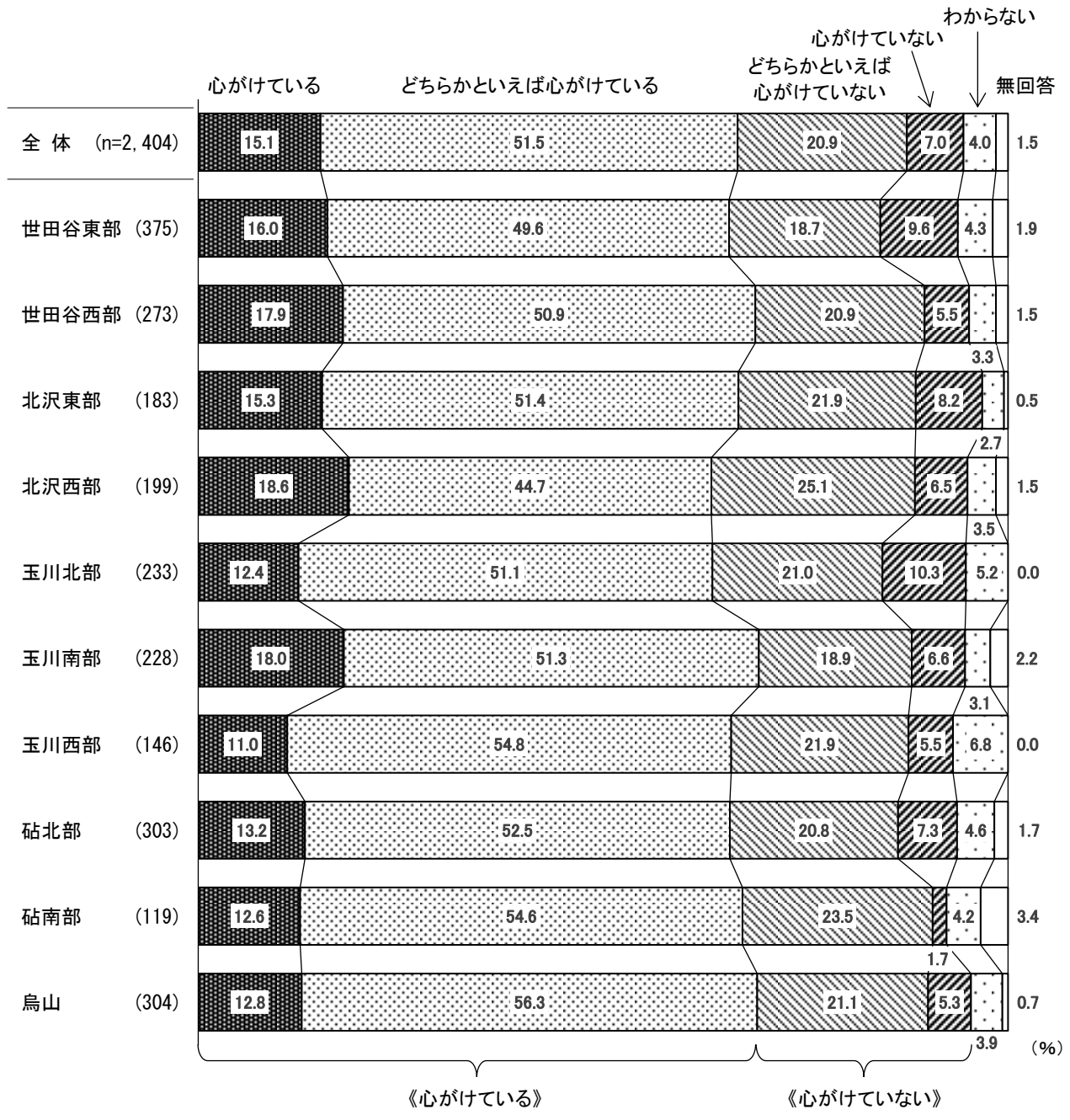
「防災知識の向上」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がけている》は平成 26 年度（70.1%）から令和６年度（66.5%）でやや減少しており、《心がけていない》は平成 26 年度（21.7%）から令和６年度（27.9%）で増加している。

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がけている》は平成 26 年度（17.4%）から令和６年度（15.1%）で大きな違いはみられない。《心がけていない》は平成 26 年度（65.3%）から令和６年度（68.8%）でやや増加している。

「避難行動要支援者の支援」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がけている》は平成 26 年度（20.3%）から令和６年度（17.3%）でやや減少しており、《心がけていない》は平成 26 年度（49.6%）から令和６年度（55.3%）で増加している。（図７－１－２）

図７－１－３　防災への対処

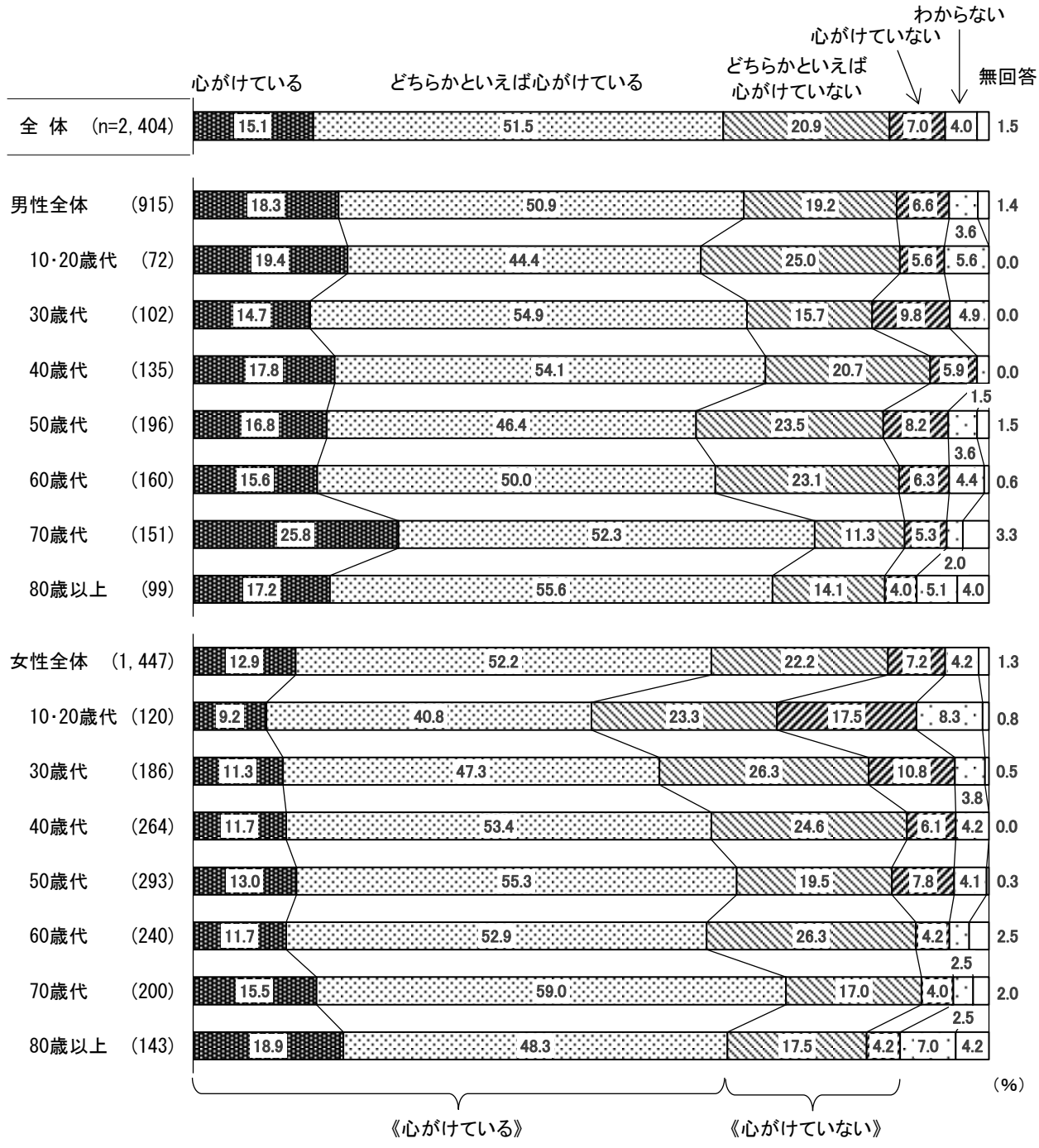
「防災知識の向上」（地域別）



「防災知識の向上」について地域別にみると、《心がけている》は玉川南部、烏山でほぼ７割、世田谷西部、砧南部、北沢東部で７割近くとなっている。《心がけていない》は北沢西部、玉川北部で３割を超えている。（図７－１－３）

図７－１－４　防災への対処

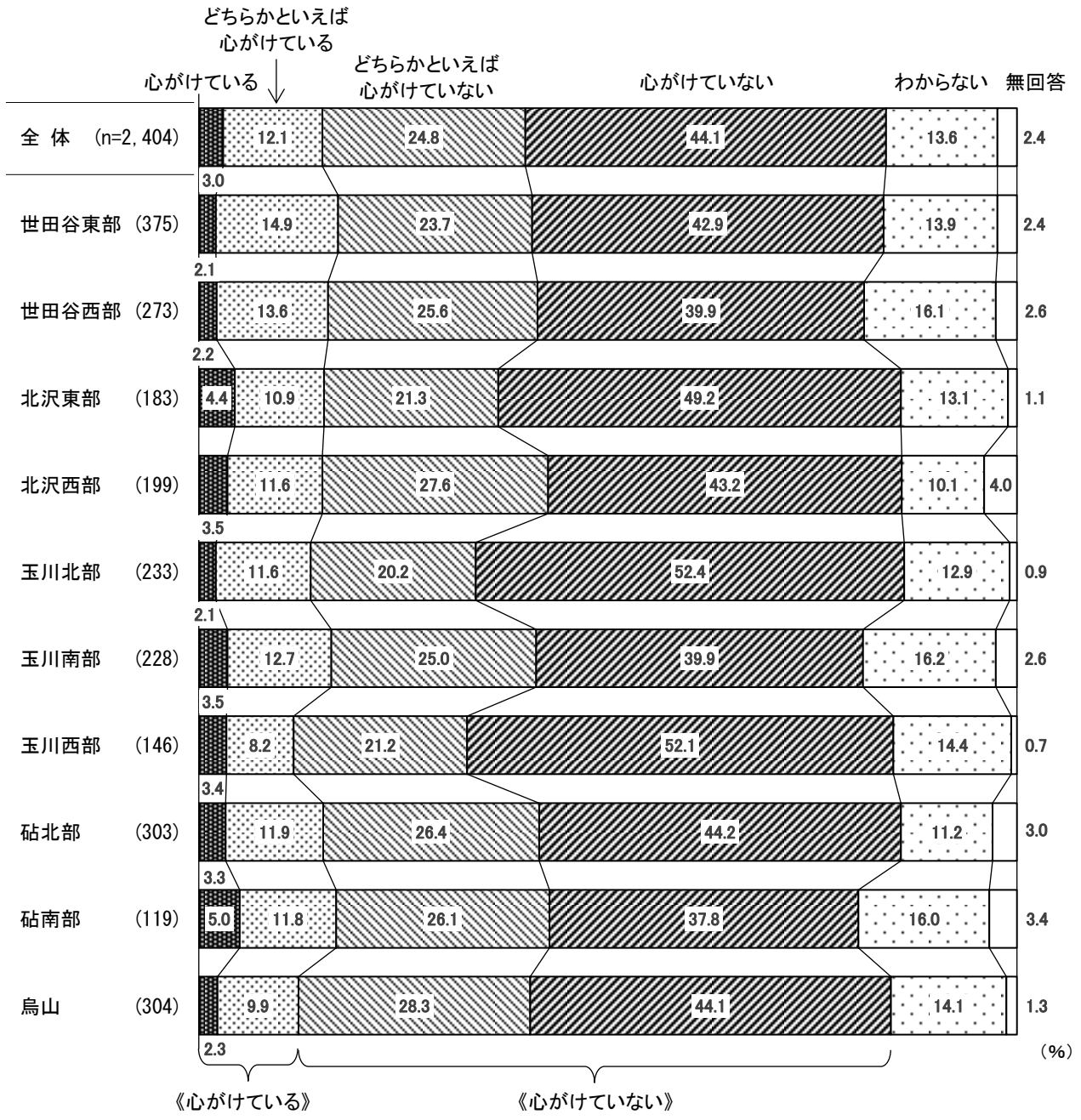
「防災知識の向上」（性・年齢別）



「防災知識の向上」について性・年齢別にみると、《心がけている》は男性の 70 歳代で８割近く、女性の 70 歳代で７割半ばとなっている。一方、《心がけていない》は女性の 10・20 歳代でほぼ４割、女性の 30 歳代で４割近くとなっている。（図７－１－４）

図７－１－５　防災への対処

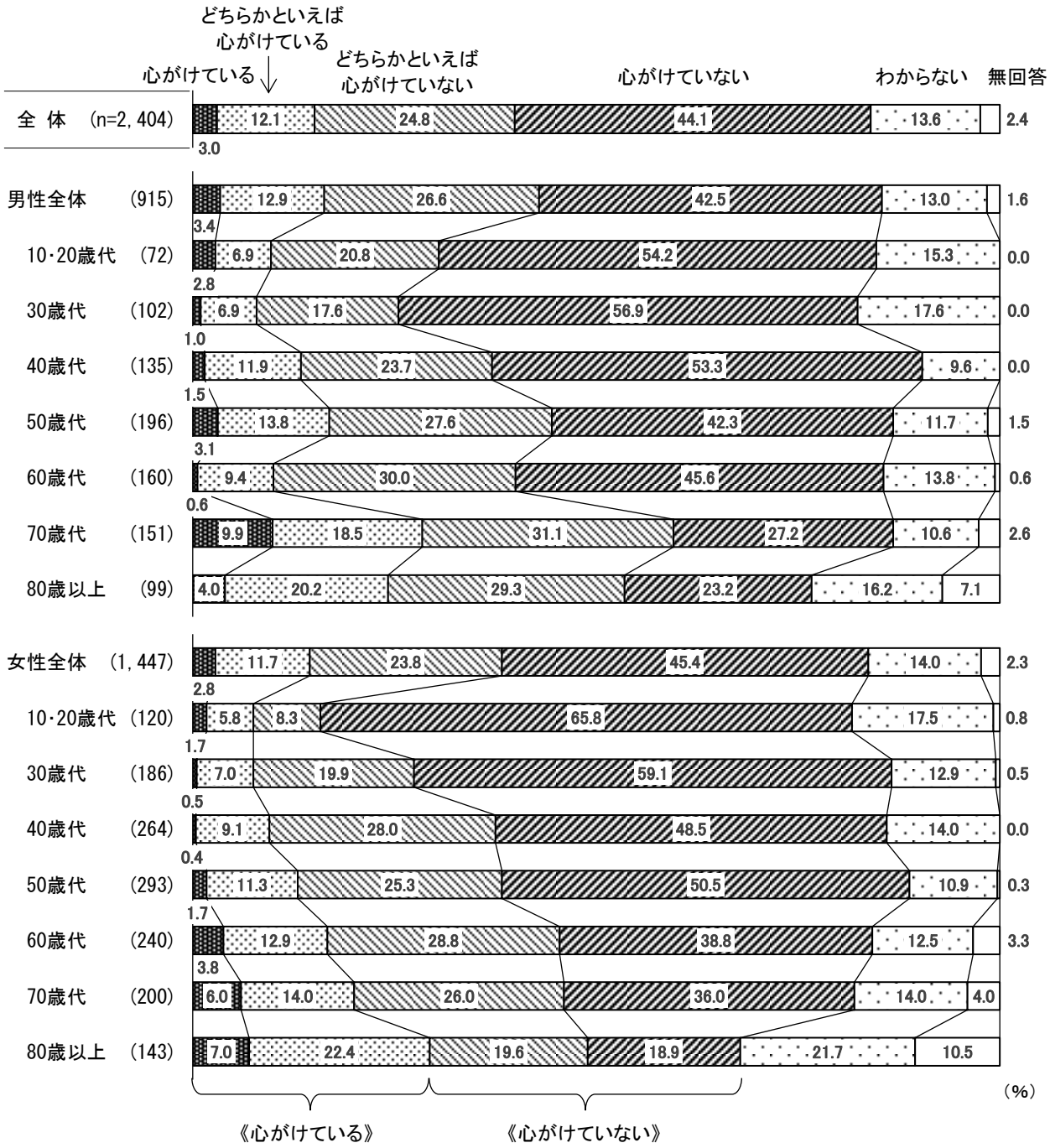
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」（地域別）



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について地域別にみると、《心がけている》は世田谷東部、砧南部で２割近くとなっている。《心がけていない》は玉川西部、玉川北部、烏山で７割を超えている。（図７－１－５）

図７－１－６　防災への対処

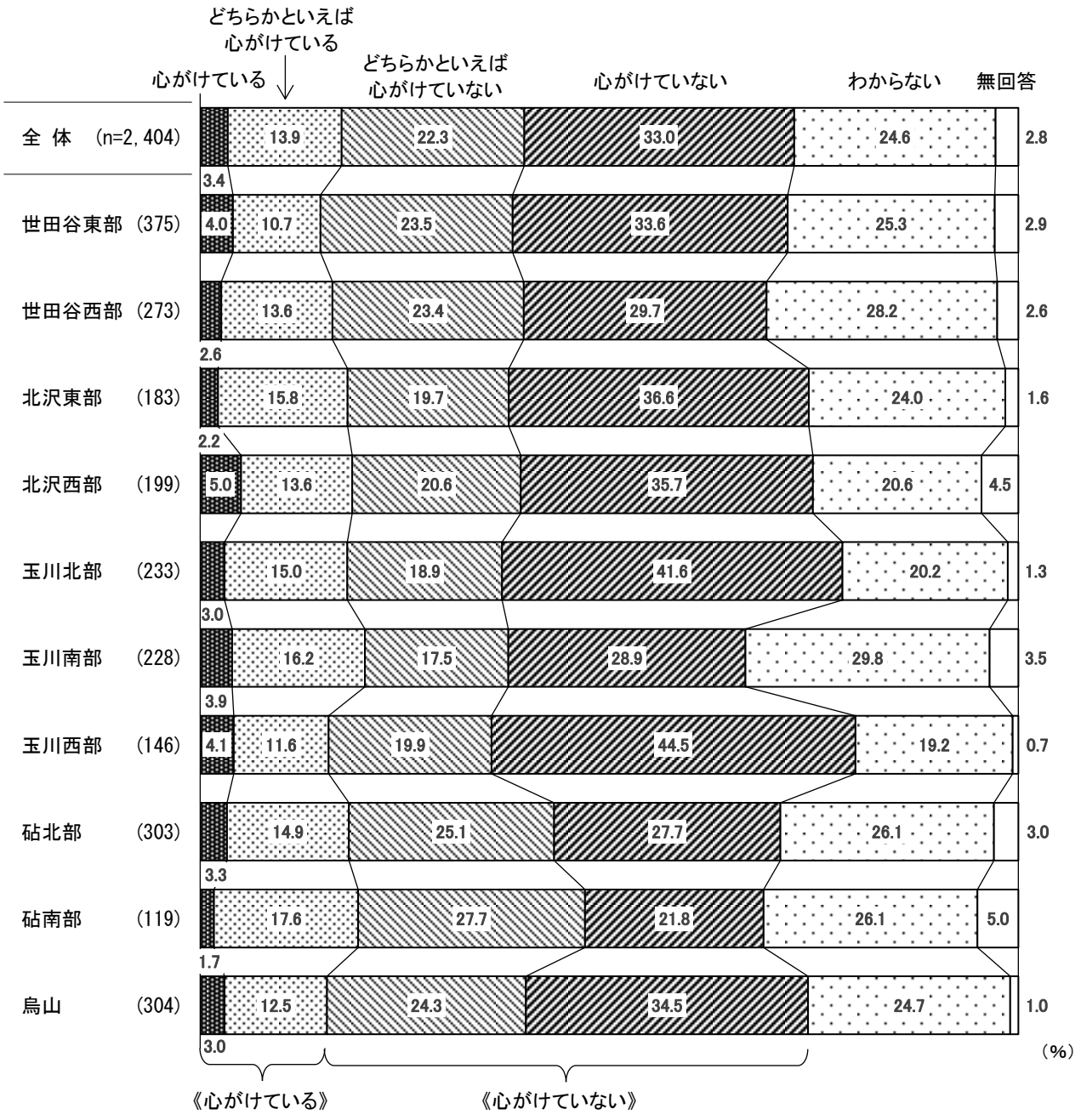
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」（性・年齢別）



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について性・年齢別にみると、《心がけている》は男女とも 70 歳代以上で２割台となっている。《心がけていない》は女性の 30 歳代でほぼ８割、男性の 40 歳代、女性の 40 歳代で８割近く、男性の 30 歳代以下と 60 歳代、女性の 10・20 歳代と 50 歳代で７割半ばとなっている。（図７－１－６）

図７－１－７　防災への対処

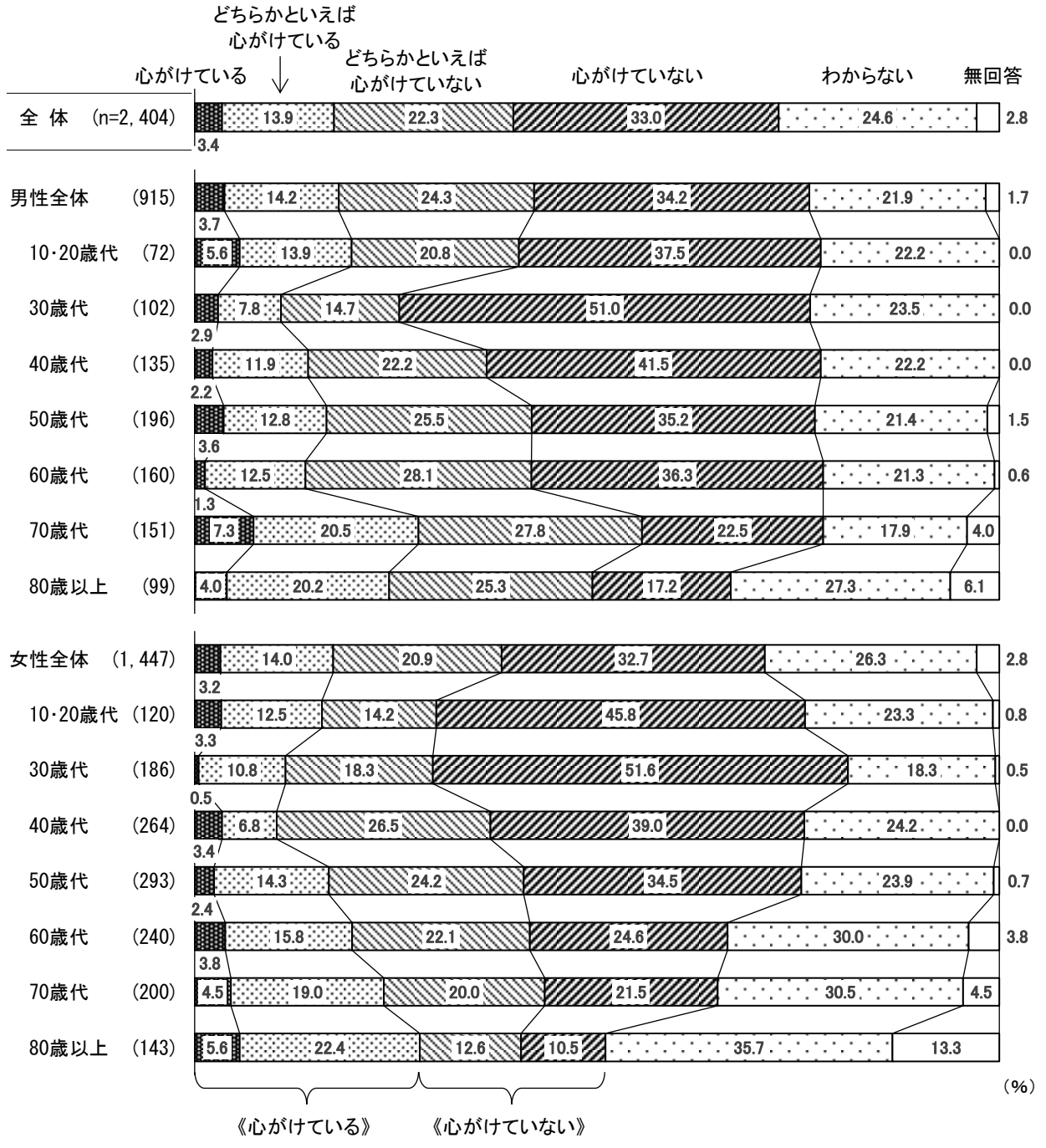
「避難行動要支援者の支援」（地域別）



「避難行動要支援者の支援」について地域別にみると、《心がけている》は玉川南部で２割、砧南部でほぼ２割となっている。《心がけていない》は玉川西部で６割半ば、玉川北部でほぼ６割となっている。（図７－１－７）

図７－１－８　防災への対処

「避難行動要支援者の支援」（性・年齢別）



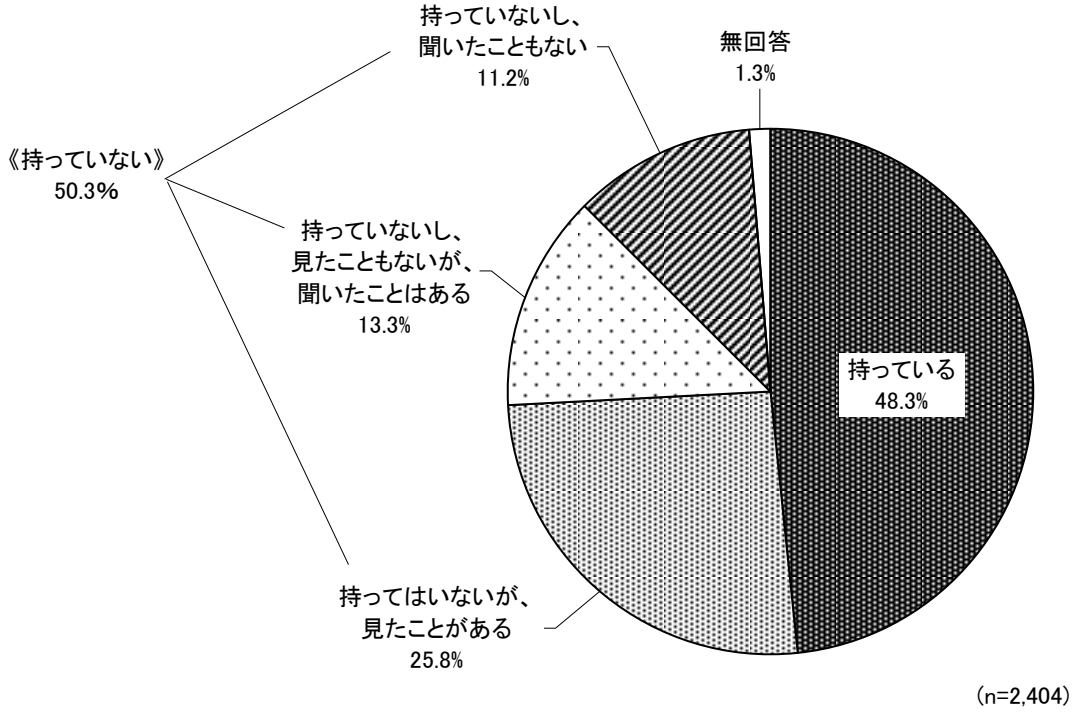
「避難行動要支援者の支援」について性・年齢別にみると、《心がけている》は男女とも 70 歳代以上で２割台となっている。《心がけていない》は女性の 30 歳代で７割、男性の 30 歳代と 60 歳代、女性の 40 歳代で６割半ばとなっている。（図７－１－８）

（２）「ハザードマップ」の認知度

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「持っている」が５割近く

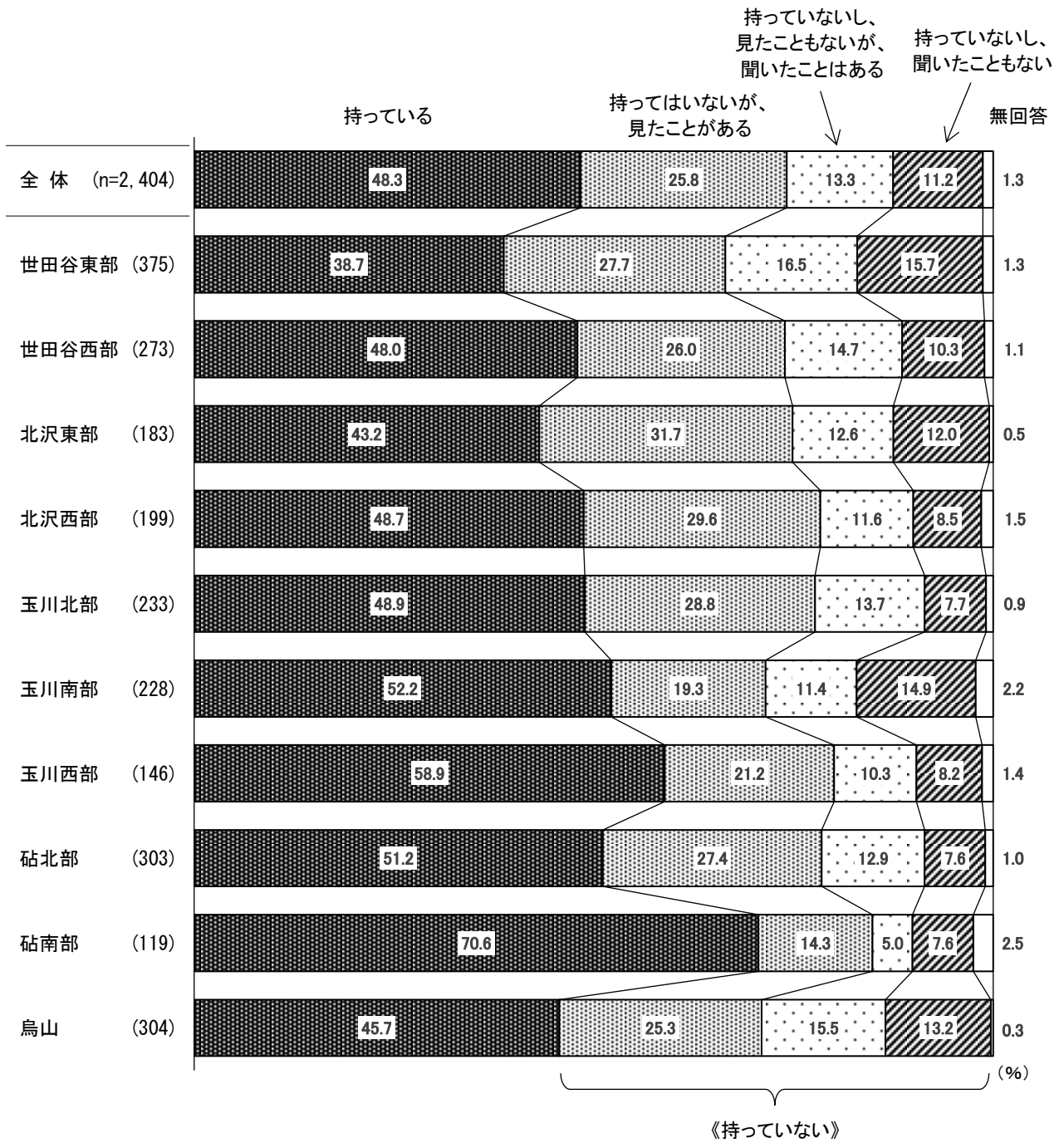
問２１　あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を持っていますか。（○は１つ）

図７－２－１



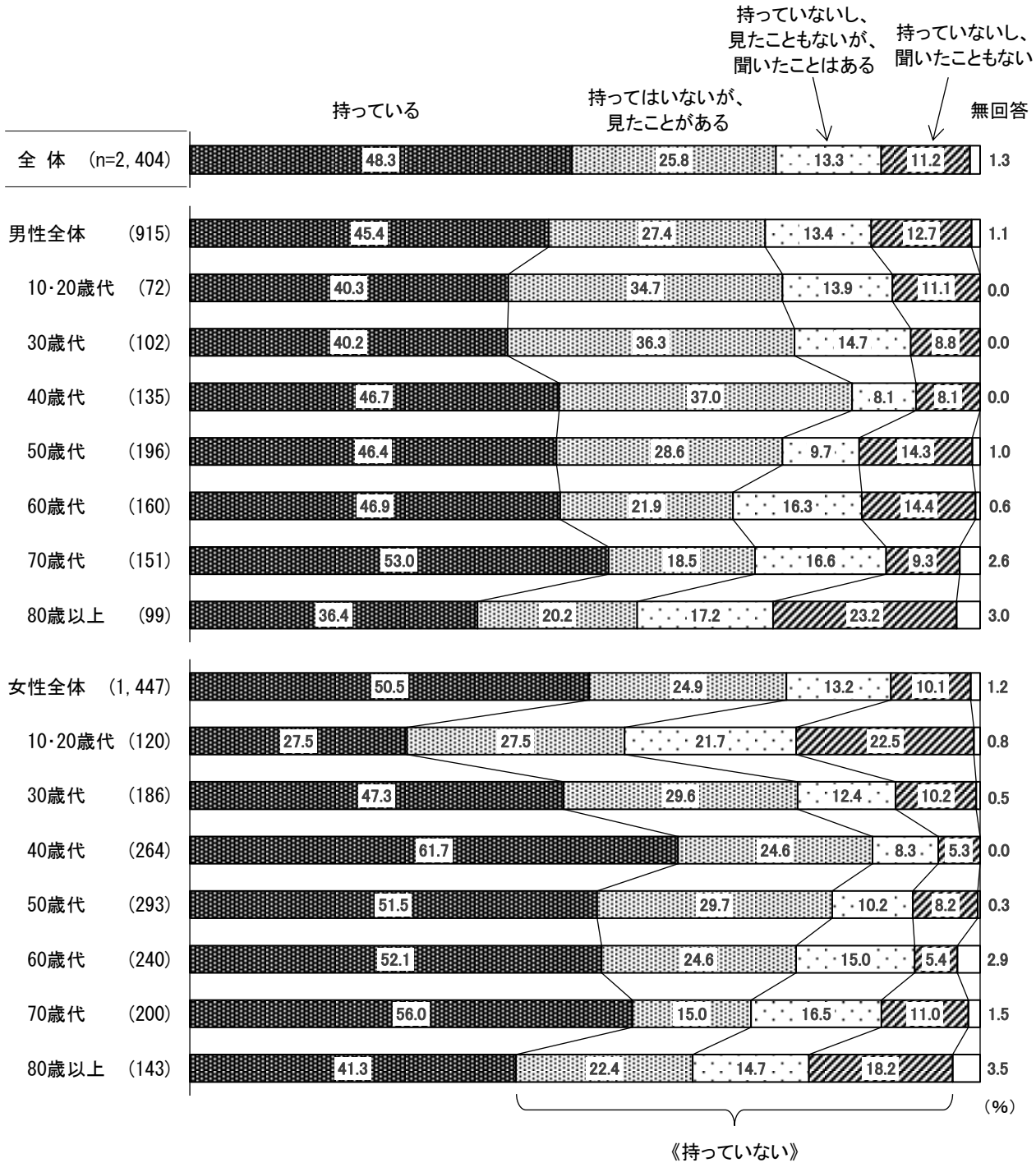
「ハザードマップ」の認知度を聞いたところ、「持っている」（48.3%）が５割近くで、「持ってはいないが、見たことがある」（25.8%）と「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」(13.3%)と「持っていないし、聞いたこともない」(11.2%)を合わせた《持っていない》(50.3%)が５割となっている。（図７－２－１）

図７－２－２　「ハザードマップ」の認知度（地域別）



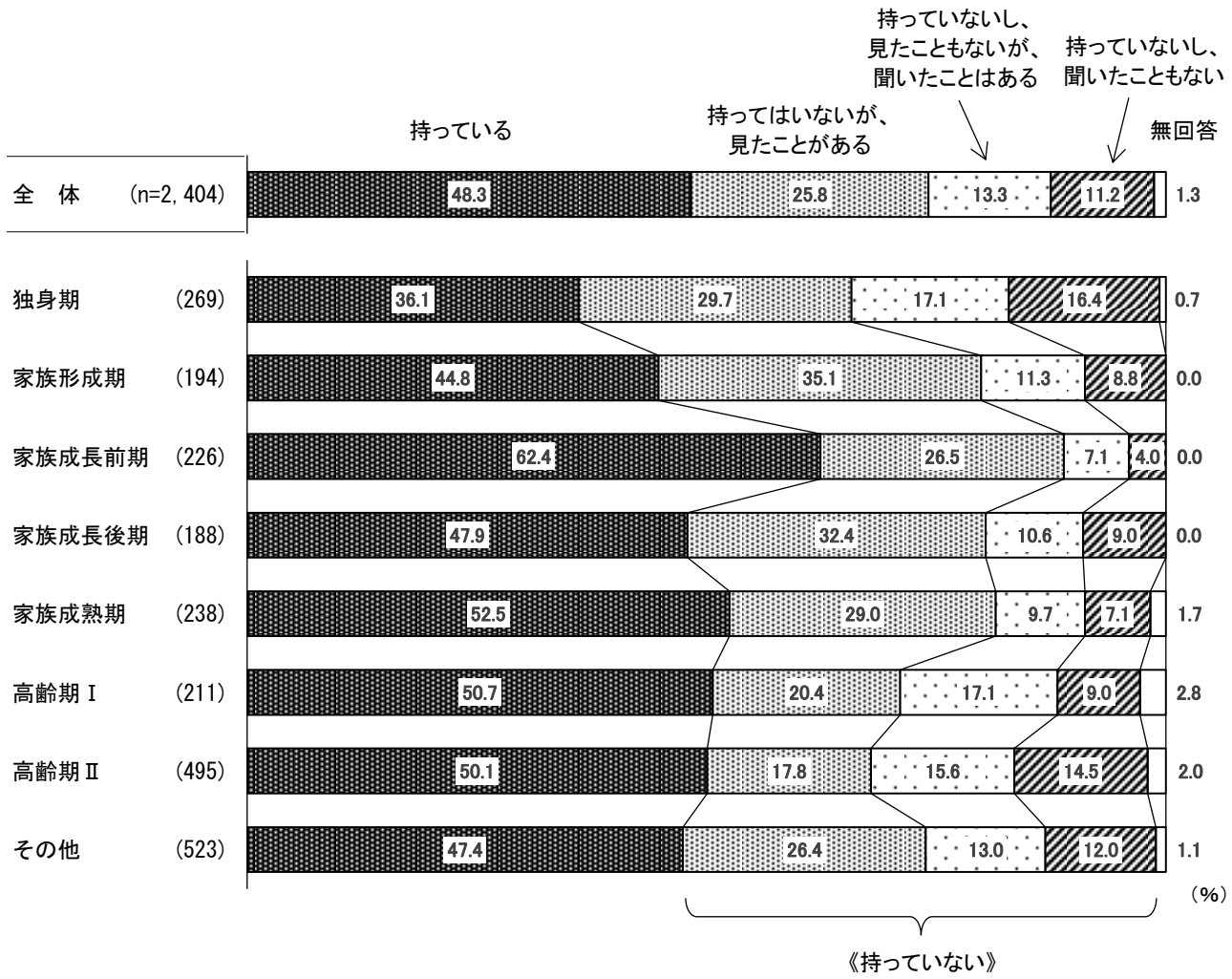
地域別にみると、「持っている」は砧南部でほぼ７割と他の地域より高く、次いで、玉川西部で６割近く、玉川南部、砧北部で５割を超えている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は世田谷東部で３割を超えている。（図７－２－２）

図７－２－３　「ハザードマップ」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「持っている」は女性の 40 歳代で６割を超え、女性の 70 歳代で５割半ばとなっている。《持っていない》は女性の 10・20 歳代で７割を超え、男性の 80 歳以上でほぼ６割、男性の 10・20 歳代と 30 歳代で６割となっている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は女性の 10・20 歳代で４割半ば、男性の 80 歳以上で４割となっている。（図７－２－３）

図７－２－４　「ハザードマップ」の認知度（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「持っている」は家族成長前期で６割を超え、家族成熟期で５割を超え、高齢期Ⅰでほぼ５割、高齢期Ⅱで５割となっている。《持っていない》は独身期で６割を超えている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は独身期で３割を超え、高齢期Ⅱで３割となっている。

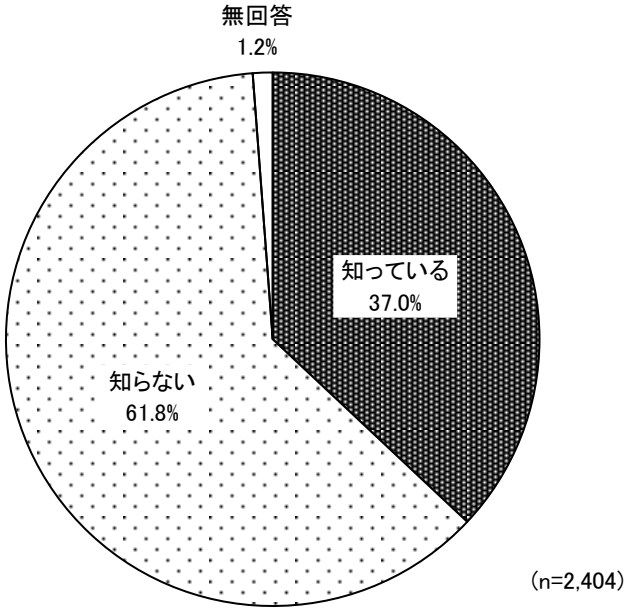
（図７－２－４）

（３）在宅避難推奨の認知度

◎「知っている」が４割近く、「知らない」が６割を超える

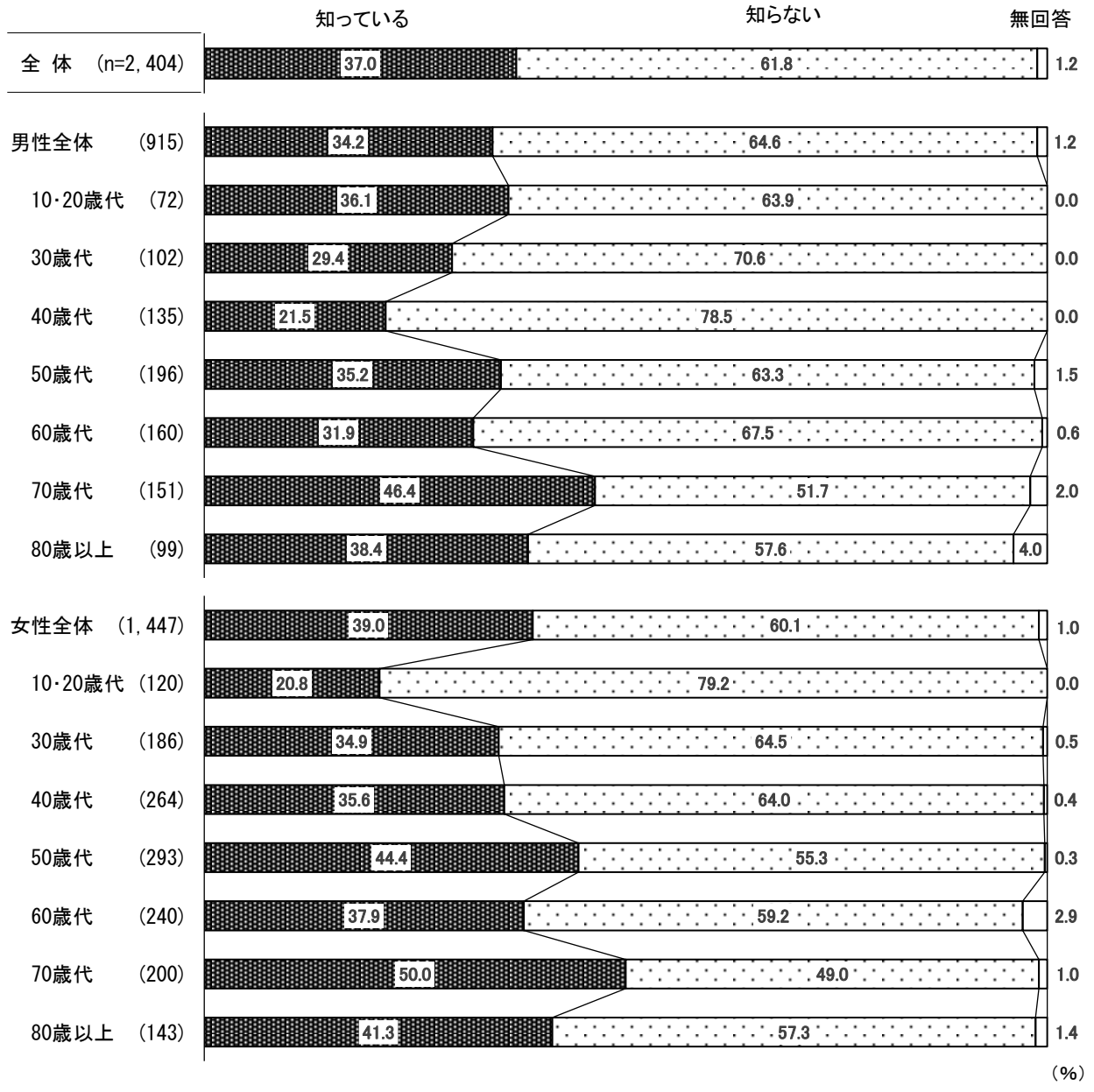
問２２　あなたは区が在宅避難を推奨していることを知っていましたか。（○は１つ）

図７－３－１



区が在宅避難を推奨していることを知っているか聞いたところ、「知っている」（37.0%）が４割近く、「知らない」（61.8%）が６割を超える。（図７－３－１）

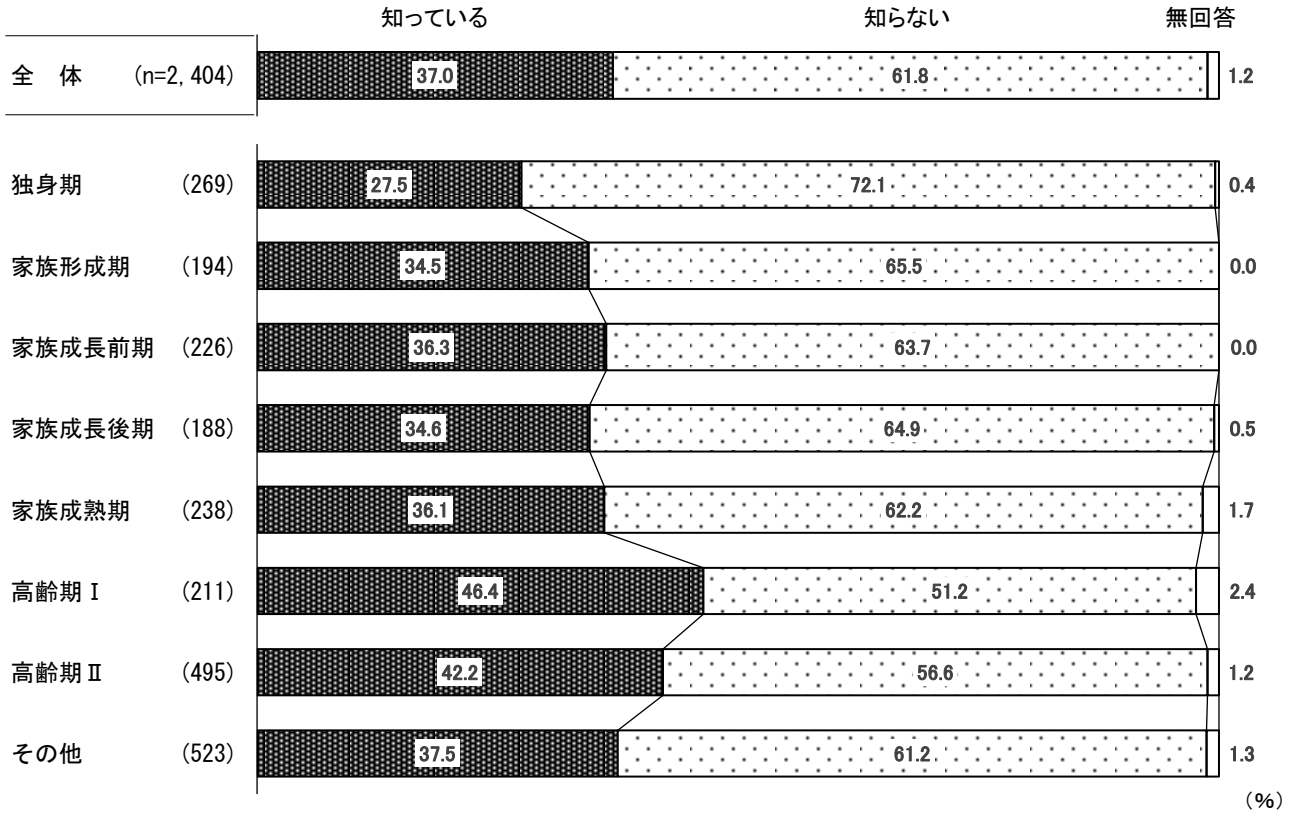
図７－３－２　在宅避難推奨の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、女性の 70 歳代を除くすべての年代で「知っている」より「知らない」の方が高い。「知っている」は女性の 70 歳代で５割、男性の 70 歳代、女性の 50 歳代で４割半ばとなっている。一方、「知らない」は女性の 10・20 歳代でほぼ８割、男性の 40 歳代で８割近くとなっている。

（図７－３－２）

図７－３－３　在宅避難推奨の認知度（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「知っている」は高齢期Ⅰで４割半ば、高齢期Ⅱで４割を超えている。一方、「知らない」は独身期で７割を超え、家族形成期、家族成長後期で６割半ばとなっている。

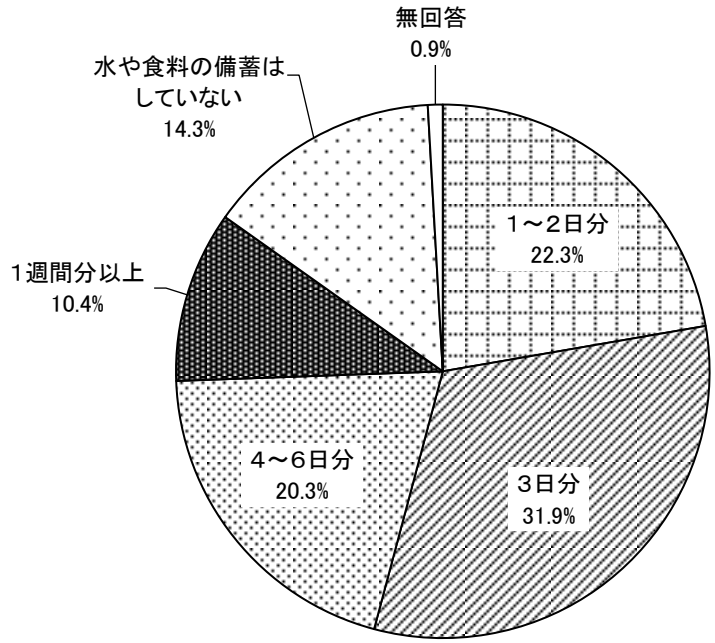
（図７－３－３）

（４）水や食料の備蓄について

◎水や食料の備蓄は「３日分」が３割を超える

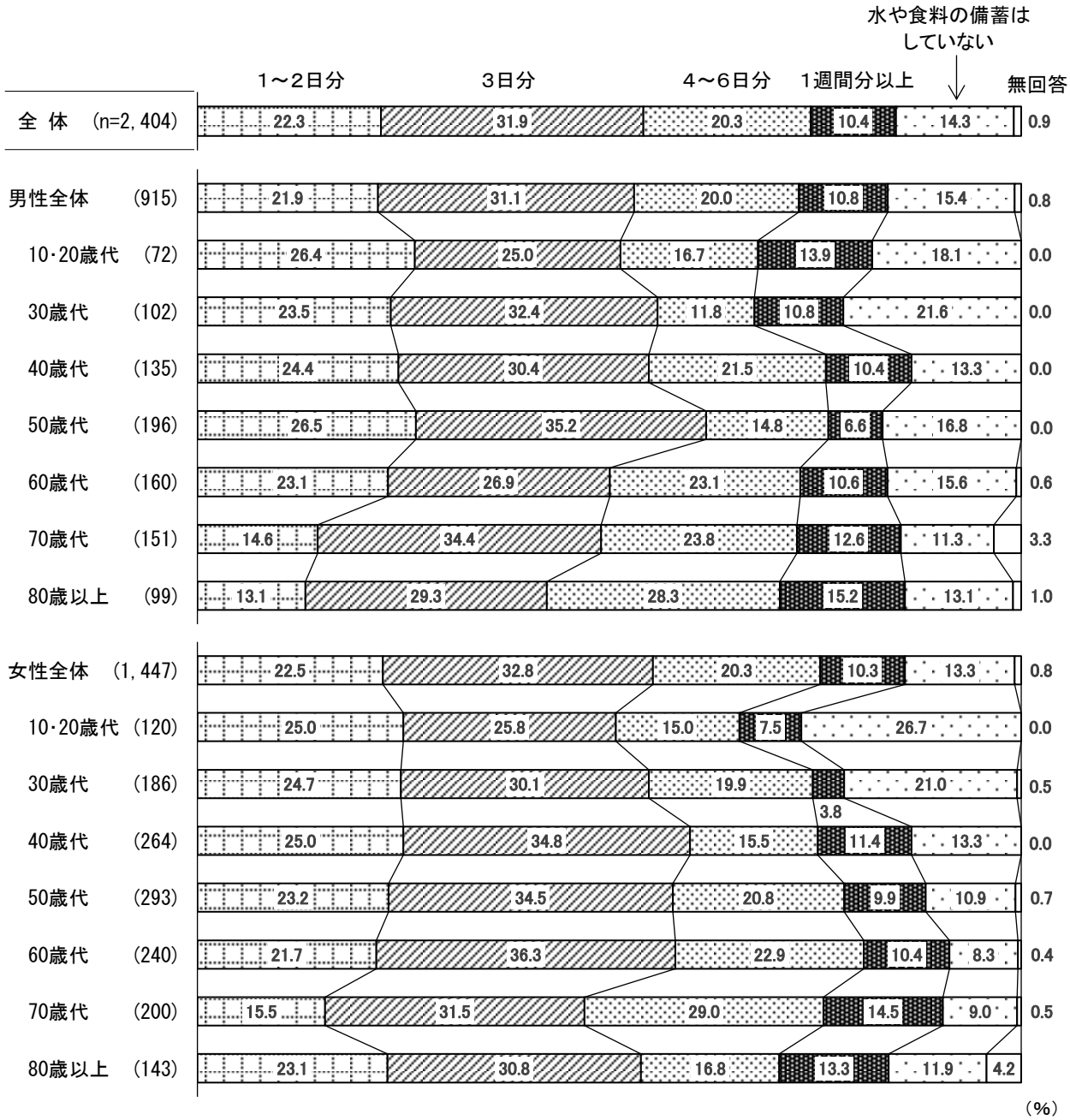
問２３　あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。（○は１つ）

図７－４－１



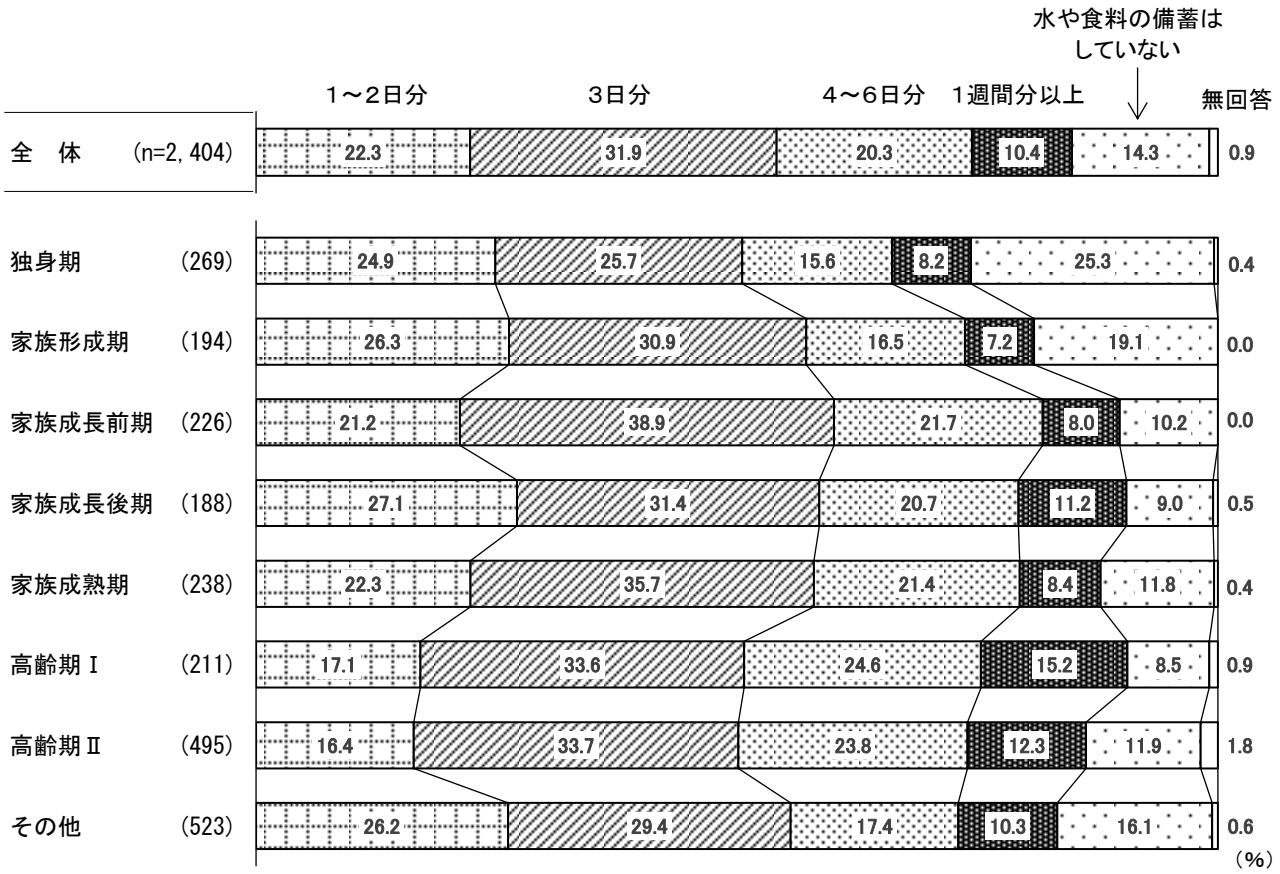
災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているか聞いたところ、「３日分」（31.9%）が３割を超えて最も高く、以下、「１～２日分」（22.3%）、「４～６日分」（20.3%）などと続いている。「水や食料の備蓄はしていない」（14.3%）は１割半ばとなっている。（図７－４－１）

図７－４－２　水や食料の備蓄について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、３日分以上（「３日分」＋「４～６日分」＋「１週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、女性の 10・20 歳代を除くすべての年代で５割を超えており、女性の 70 歳代で７割半ば、男性の 80 歳以上で７割を超え、男性の 70 歳代でほぼ７割、女性の 60 歳代で７割となっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男女ともに 30 歳代以下が高く、女性の 10・20 歳代で３割近く、男性の 30 歳代、女性の 30 歳代で２割を超えている。（図７－４－２）

図７－４－３　水や食料の備蓄について（ライフステージ別）



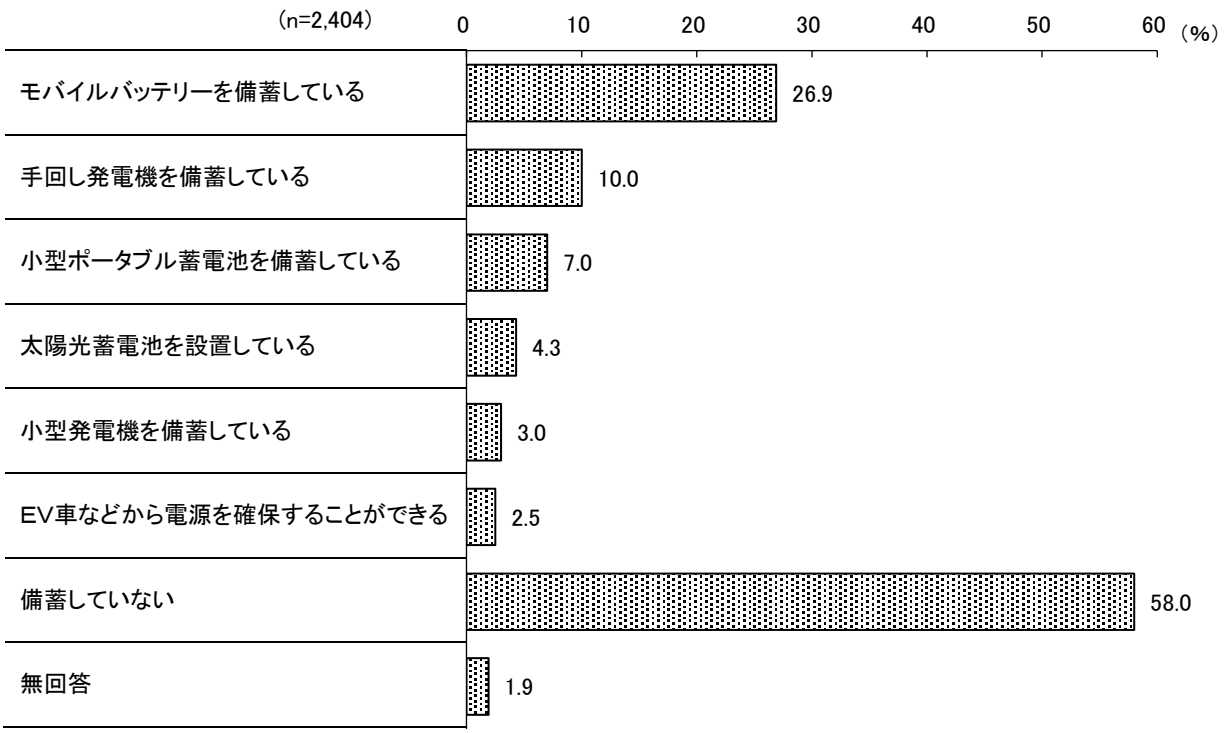
ライフステージ別にみると、３日分以上（「３日分」＋「４～６日分」＋「１週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は高齢期Ⅰで７割を超え、高齢期Ⅱで７割となっている。一方、独身期で３日分以上備蓄している割合はほぼ５割と他のライフステージに比べ低い。（図７－４－３）

（５）非常用電力の備蓄について

◎非常用電力は「備蓄していない」が６割近く

問２４　あなたのご家庭では、災害に備えて非常用電力の備蓄をしていますか。（○はいくつでも）

図７－５－１



災害時に備えた非常用電力を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄していない」（58.0%）が６割近くで最も高い。備蓄している中では、「モバイルバッテリーを備蓄している」（26.9%）が３割近くで最も高く、以下、「手回し発電機を備蓄している」（10.0%）、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」（7.0%）などと続く。（図７－５－１）

表７－５－１　非常用電力の備蓄について（性・年齢別）

（%）

		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	ＥＶ車などから電源を確保することができる	備蓄していない	無回答
全　体		2,404	26.9	10.0	7.0	4.3	3.0	2.5	58.0	1.9
性・年齢別	男性全体	915	24.9	9.0	8.3	3.5	2.7	2.5	60.5	1.2
	10･20歳代	72	40.3	18.1	6.9	1.4	8.3	4.2	44.4	1.4
	30歳代	102	43.1	8.8	5.9	5.9	2.0	1.0	47.1	1.0
	40歳代	135	34.8	8.1	11.1	5.2	0.7	0.7	54.8	－
	50歳代	196	25.5	9.2	8.7	2.6	2.6	4.1	59.2	0.5
	60歳代	160	21.3	10.0	12.5	2.5	3.1	1.9	63.1	0.6
	70歳代	151	13.9	6.6	7.3	4.0	1.3	3.3	67.5	3.3
	80歳以上	99	3.0	5.1	2.0	3.0	4.0	2.0	81.8	2.0
	女性全体	1,447	28.5	10.6	6.3	4.9	3.1	2.5	56.1	2.1
	10･20歳代	120	38.3	17.5	2.5	5.8	9.2	4.2	46.7	－
	30歳代	186	47.8	12.9	6.5	4.8	3.2	2.2	39.8	1.1
	40歳代	264	41.7	12.5	7.6	6.1	1.5	1.5	45.8	1.9
	50歳代	293	30.7	12.3	10.2	5.1	3.8	4.8	50.9	1.0
	60歳代	240	23.3	8.8	4.6	5.8	2.9	2.5	61.7	0.8
	70歳代	200	9.5	7.0	4.5	3.5	1.0	1.5	75.0	3.0
	80歳以上	143	2.1	3.5	4.2	2.1	2.8	－	79.0	9.1

性・年齢別にみると、「備蓄していない」は若年層より高年層の方が高く、男性の 80 歳以上で８割を超え、女性の 80 歳以上でほぼ８割、女性の 70 歳代で７割半ばとなっている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は若年層が高く、女性の 30 歳代で５割近く、男性の 30 歳代、女性の 40 歳代で４割を超え、男性の 10・20 歳代で４割となっている。「手回し発電機を備蓄している」は男女とも 10・20 歳代で２割近くとなっている。（表７－５－１）

表７－５－２　非常用電力の備蓄について（ライフステージ別）

（%）

		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	ＥＶ車などから電源を確保することができる	備蓄していない	無回答
全　体		2,404	26.9	10.0	7.0	4.3	3.0	2.5	58.0	1.9
ライフステージ別	独身期	269	43.5	14.5	3.7	4.8	7.1	3.0	43.9	0.7
	家族形成期	194	42.8	13.9	10.8	3.6	2.1	1.0	45.4	0.5
	家族成長前期	226	38.9	8.4	7.5	4.9	1.8	2.7	48.7	1.3
	家族成長後期	188	39.9	13.3	14.4	6.9	2.7	2.7	44.7	1.1
	家族成熟期	238	27.3	12.6	8.8	5.5	2.5	8.0	53.8	0.4
	高齢期Ⅰ	211	14.2	8.1	9.0	5.7	3.8	2.8	65.9	2.8
	高齢期Ⅱ	495	9.1	6.1	4.4	2.6	1.8	1.4	76.6	2.8
	その他	523	25.8	9.8	5.9	3.6	2.7	1.0	59.5	1.5

ライフステージ別にみると、「備蓄していない」は高齢期Ⅱで８割近く、高齢期Ⅰで６割半ばとなっている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は独身期、家族形成期で４割を超え、家族成長後期で４割、家族成長前期で４割近くとなっている。「手回し発電機を備蓄している」は独身期で１割半ば、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」は家族成長後期で１割半ばとなっている。

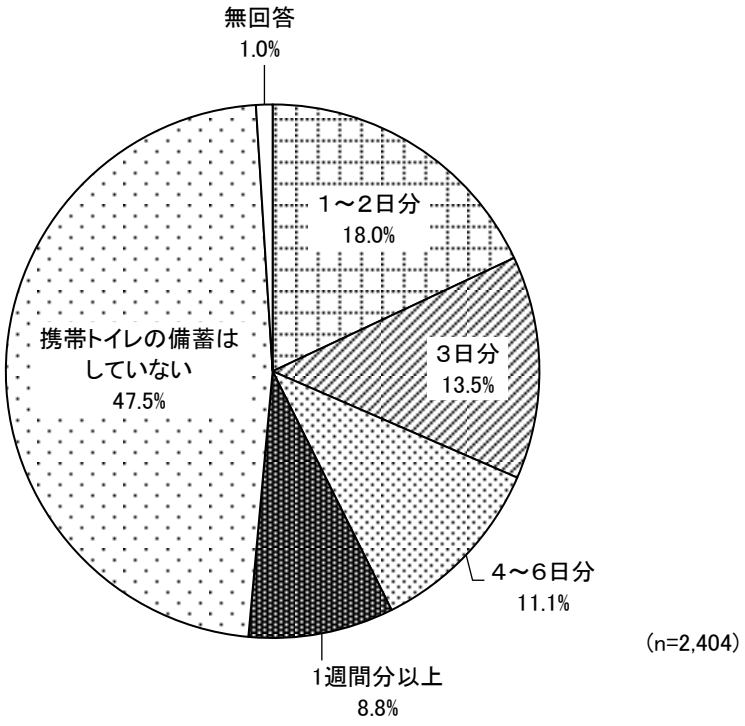
（表７－５－２）

（６）携帯トイレの備蓄について

◎「携帯トイレの備蓄はしていない」が５割近く

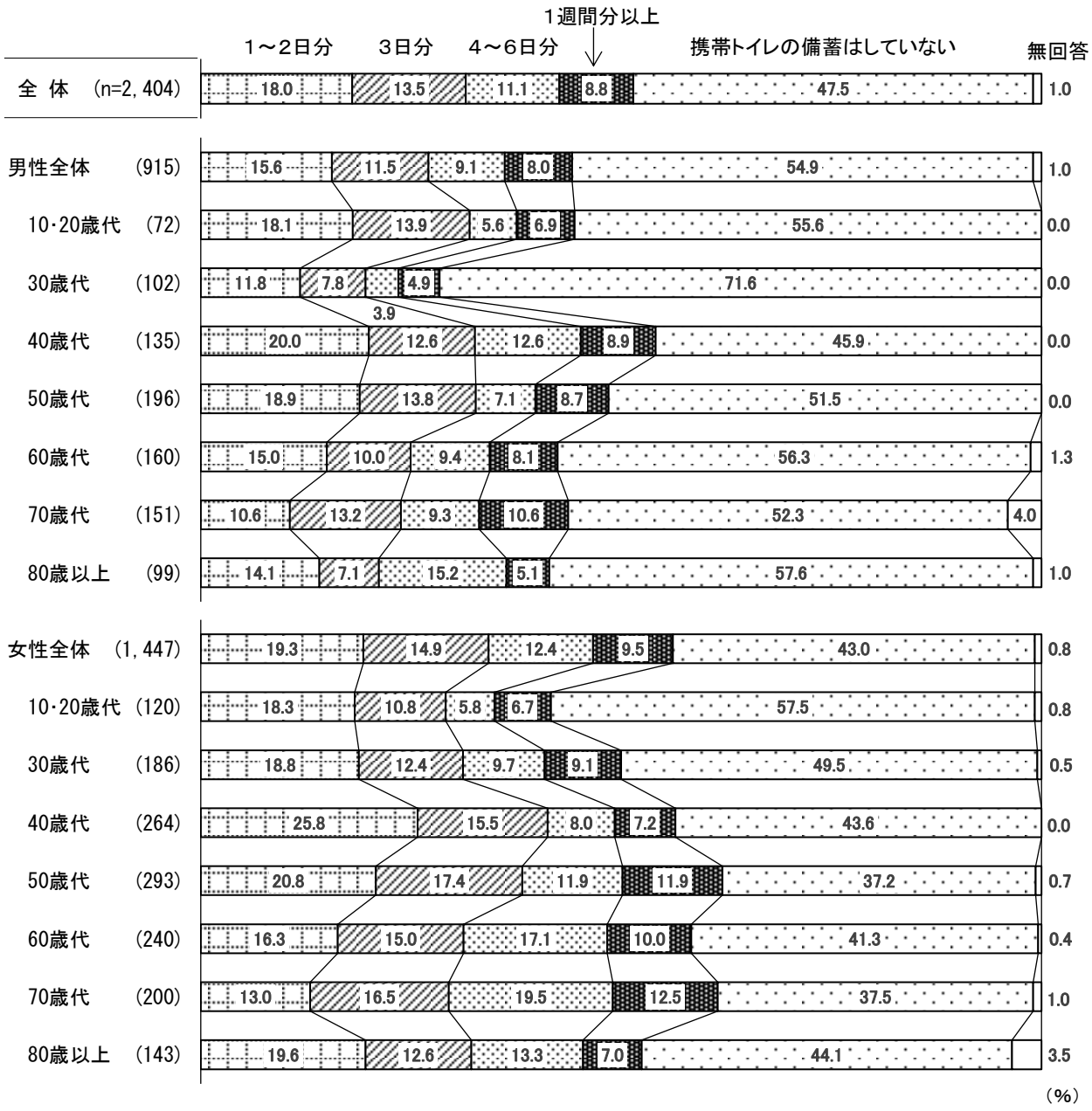
問２５　あなたのご家庭では、携帯トイレを何日分備蓄していますか。（○は１つ）

図７－６－１



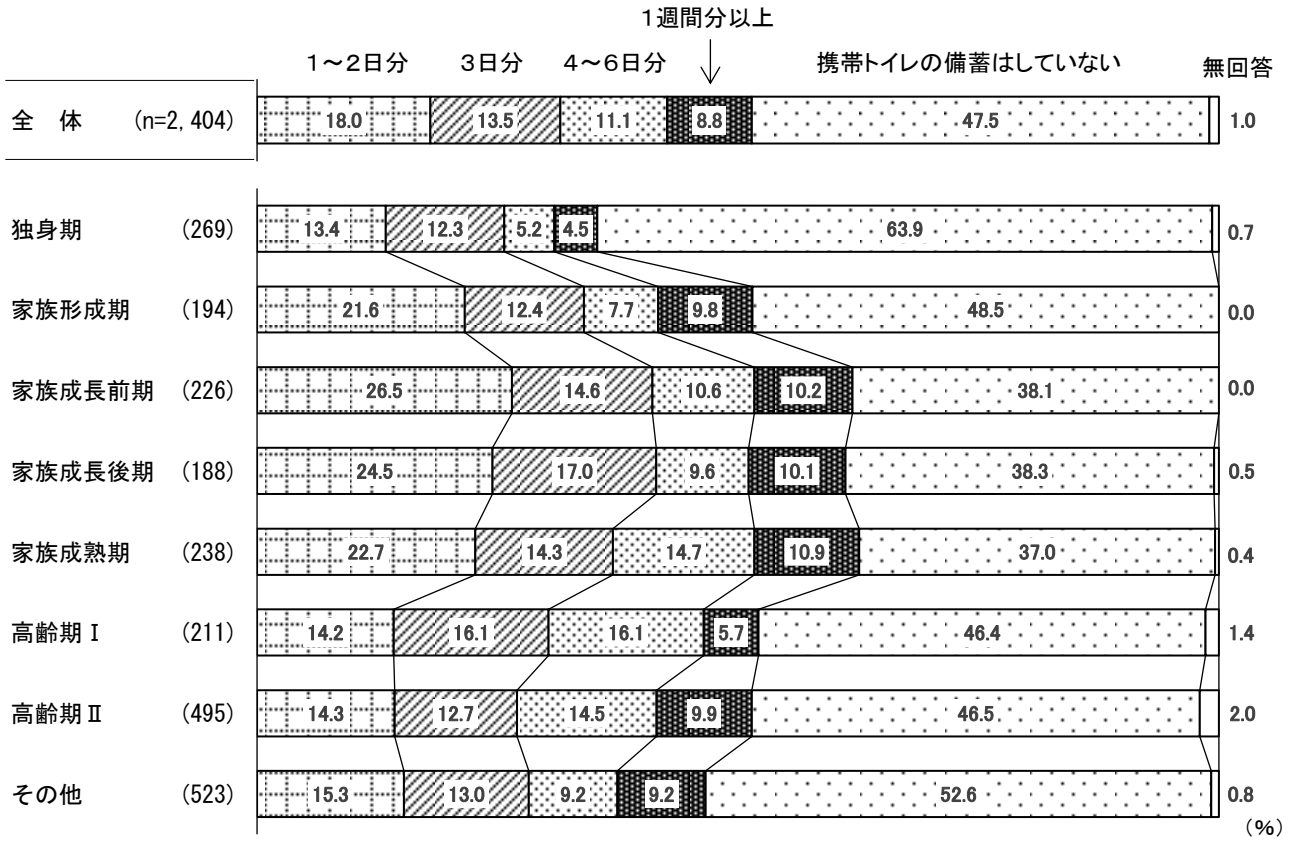
災害に備えて携帯トイレを何日分備蓄しているか聞いたところ、「携帯トイレの備蓄はしていない」(47.5%)が５割近くで最も高い。備蓄している中では、「１～２日分」(18.0%)、「３日分」(13.5%)、「４～６日分」（11.1%）、「１週間分以上」（8.8%）と続く。（図７－６－１）

図７－６－２　携帯トイレの備蓄について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、３日分以上（「３日分」＋「４～６日分」＋「１週間分以上」）の携帯トイレを備蓄している割合は、女性の 70 歳代で５割近く、女性の 50 歳代と 60 歳代で４割を超えている。「携帯トイレの備蓄はしていない」は男性の 30 歳代で７割を超え、男性の 80 歳以上、女性の 10・20 歳代で６割近く、男性の 10･20 歳代と 60 歳代で５割半ばとなっている。（図７－６－２）

図７－６－３　携帯トイレの備蓄について（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、３日分以上（「３日分」＋「４～６日分」＋「１週間分以上」）の携帯トイレを備蓄している割合は家族成熟期で４割、家族成長後期、高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで４割近くとなっている。「１～２日分」は家族成長前期で３割近く、家族成長後期で２割半ば、「携帯トイレの備蓄はしていない」は独身期で６割を超え、その他で５割を超えている。（図７－６－３）

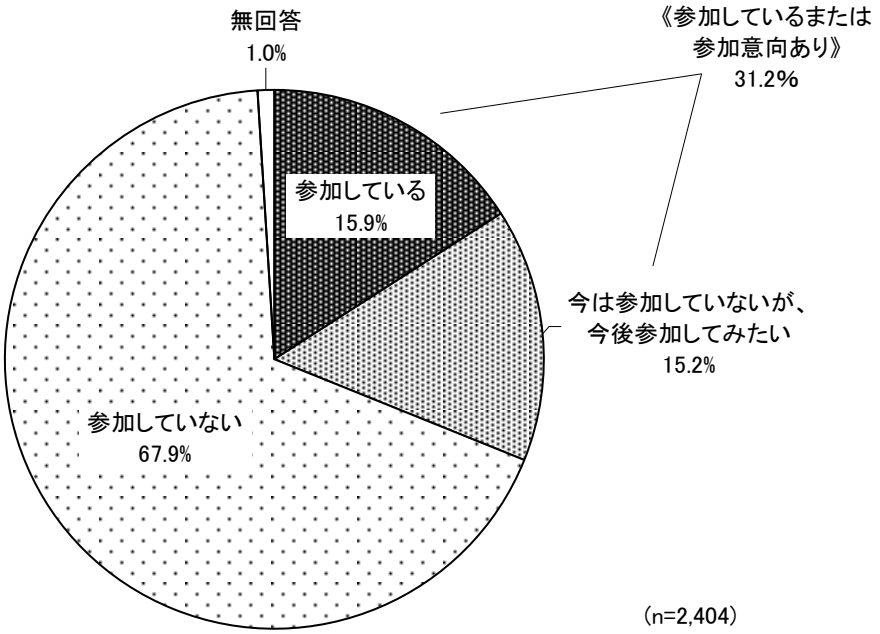
８．地域コミュニティ

（１）地域活動への参加経験・参加意向

◎《参加しているまたは参加意向あり》が３割を超える

問２６　あなたは、身近な地域の活動に参加していますか。（○は１つ）

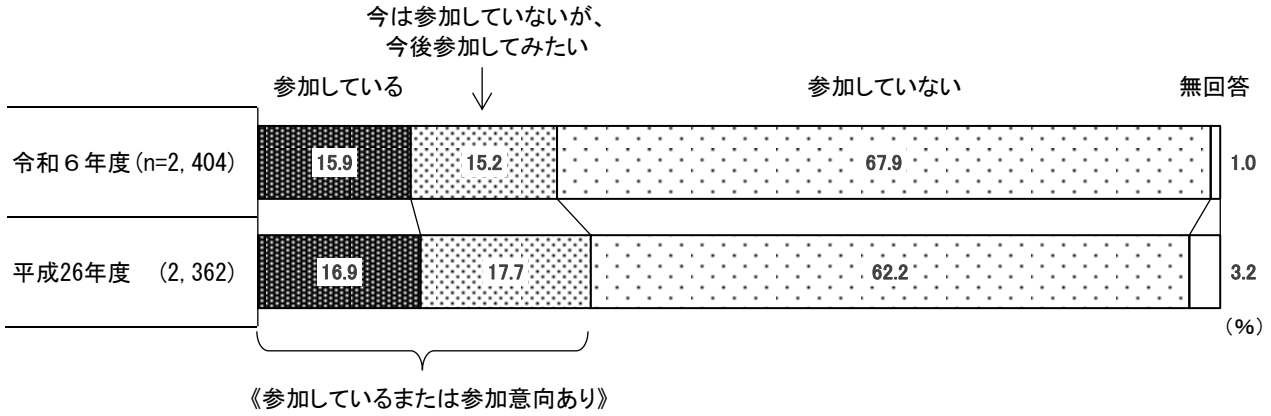
図８－１－１



身近な地域の活動に参加しているかどうか聞いたところ、「参加している」（15.9%）と「今は参加していないが、今後参加してみたい」（15.2%）を合わせた《参加しているまたは参加意向あり》（31.2%）が３割を超える。「参加していない」（67.9%）は７割近くとなっている。

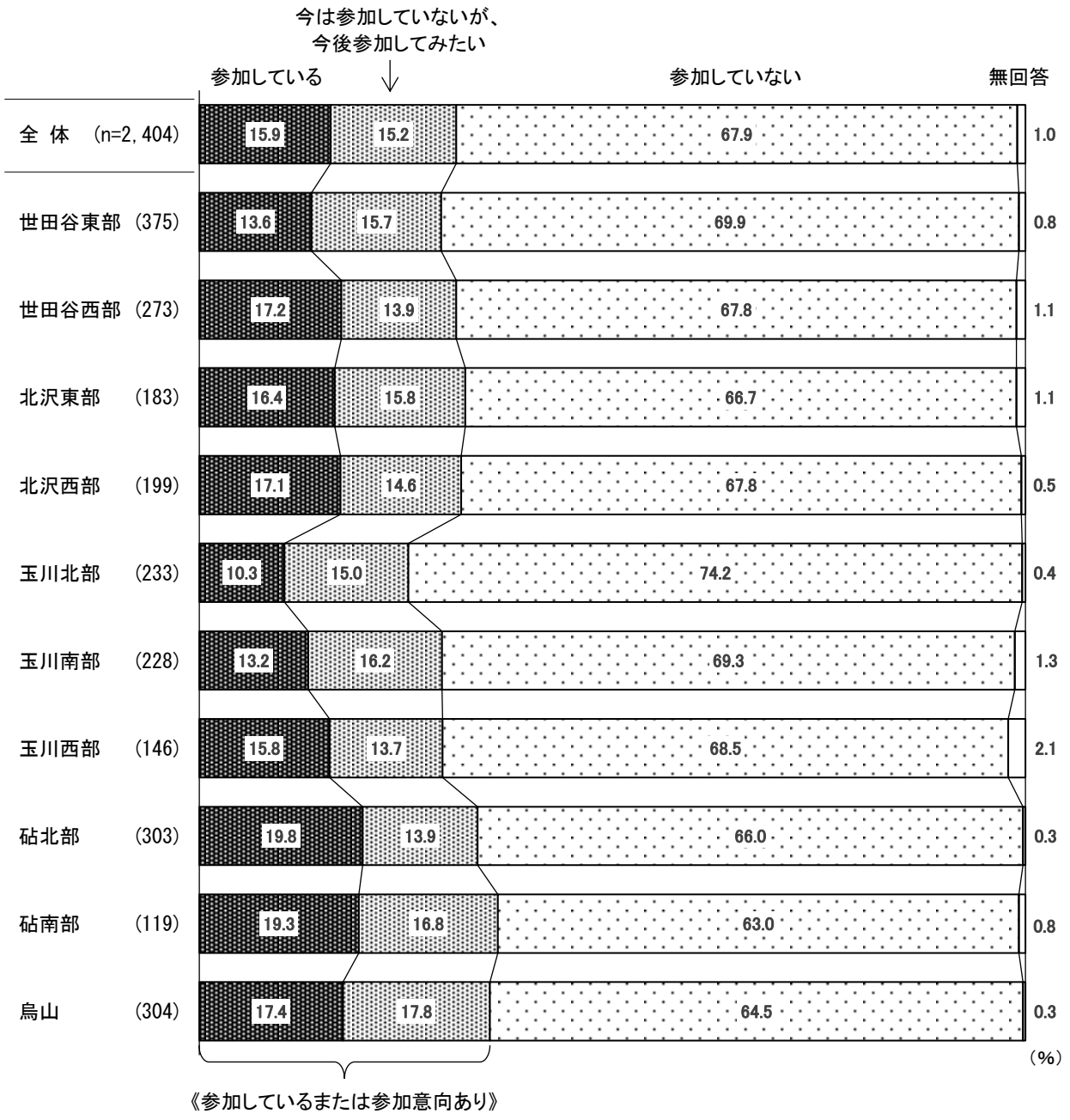
（図８－１－１）

図８－１－２　地域活動への参加経験・参加意向（時系列）



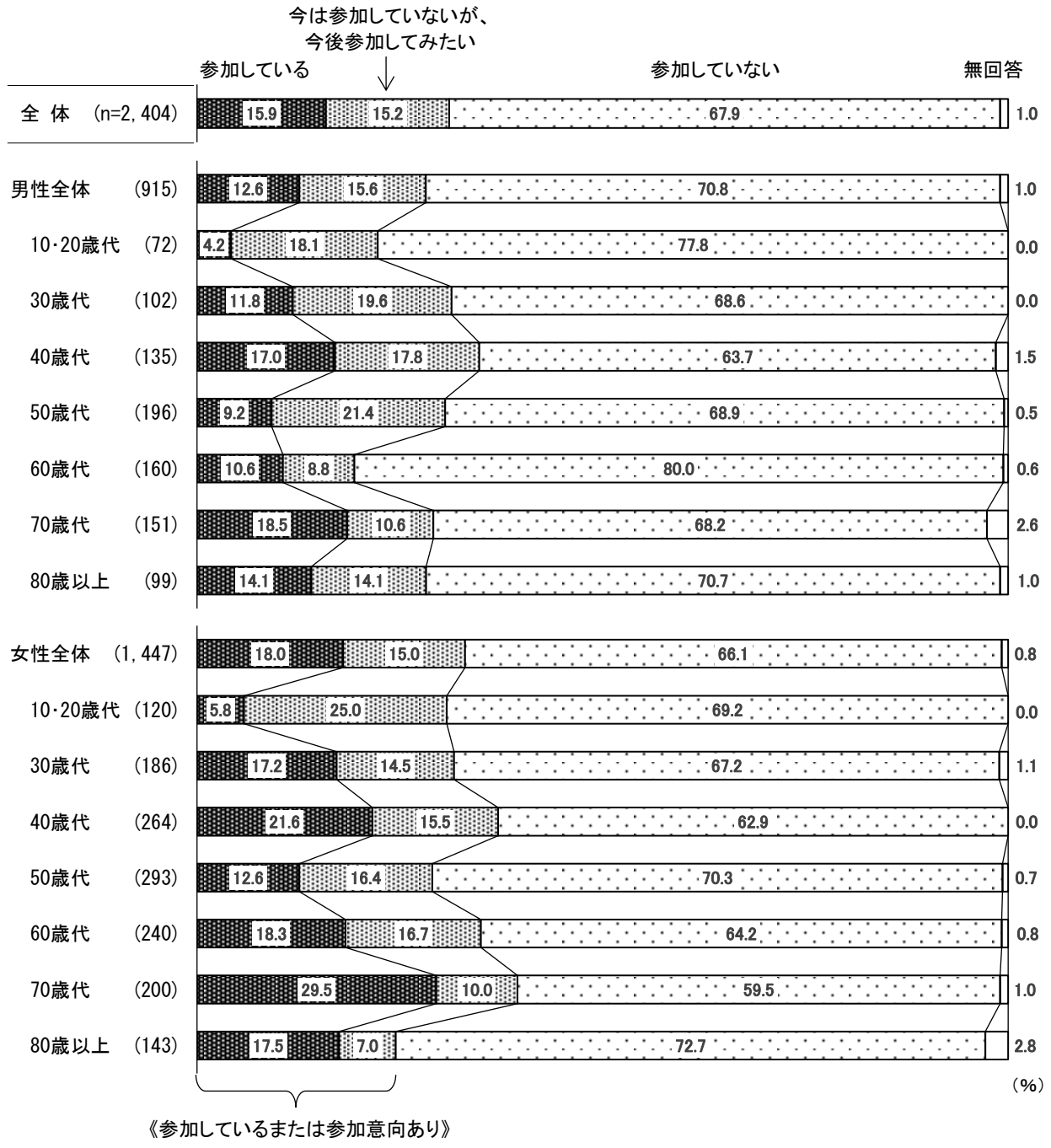
平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《参加しているまたは参加意向あり》は平成 26 年度（34.6%）から令和６年度（31.2%）でやや減少している。（図８－１－２）

図８－１－３　地域活動への参加経験・参加意向（地域別）



地域別にみると、「参加している」は砧北部で２割、砧南部でほぼ２割、「今は参加していないが、今後参加してみたい」は烏山、砧南部で２割近くとなっている。《参加しているまたは参加意向あり》は砧南部、烏山で３割半ばと高く、玉川北部で２割半ばと低くなっている。（図８－１－３）

図８－１－４　地域活動への参加経験・参加意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「参加している」はいずれの年代も女性の方が男性より高く、女性の 70 歳代で３割、女性の 40 歳代で２割を超えている。「今は参加していないが、今後参加してみたい」は女性の 10・20 歳代で２割半ば、男性の 50 歳代で２割を超え、男性の 30 歳代で２割となっている。《参加しているまたは参加意向あり》は女性の 70 歳代で４割、女性の 40 歳代で４割近く、男性の 40 歳代、女性の 60 歳代で３割半ばとなっている。（図８－１－４）

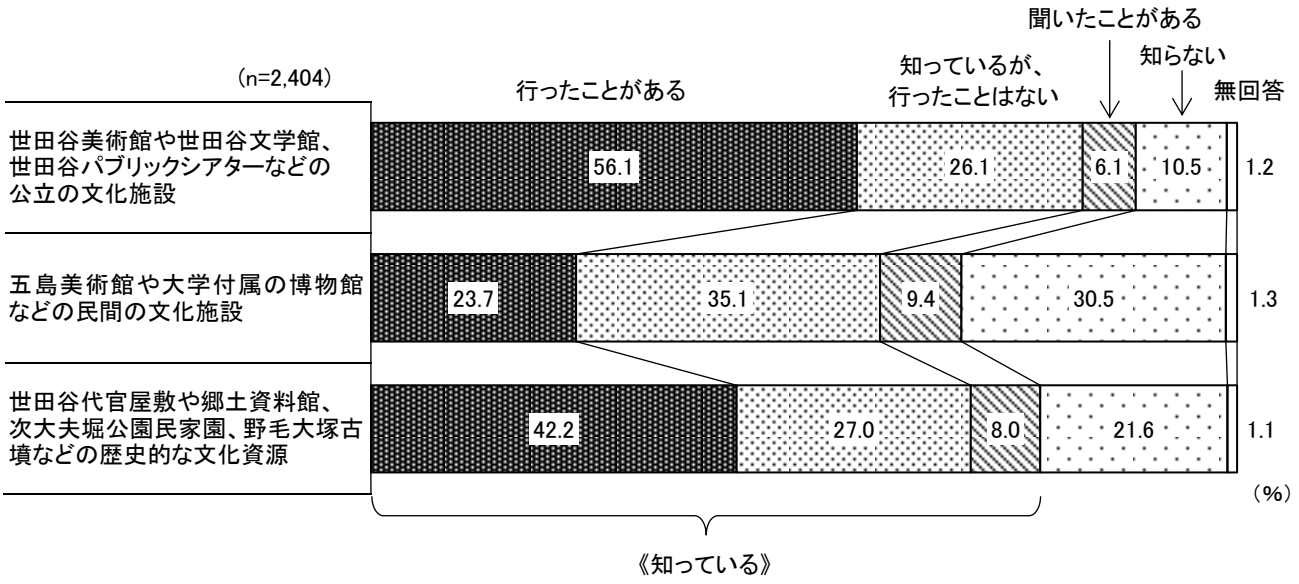
９．文化活動

（１）区内の文化資源の認知度

◎「行ったことがある」は公立の文化施設が５割半ば、歴史的な文化資源が４割を超える

問２７　あなたは、区内にある美術館や文学館、劇場、文化財・史跡などの文化資源について、どの程度、ご存知ですか。次の（１）から（３）の項目について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

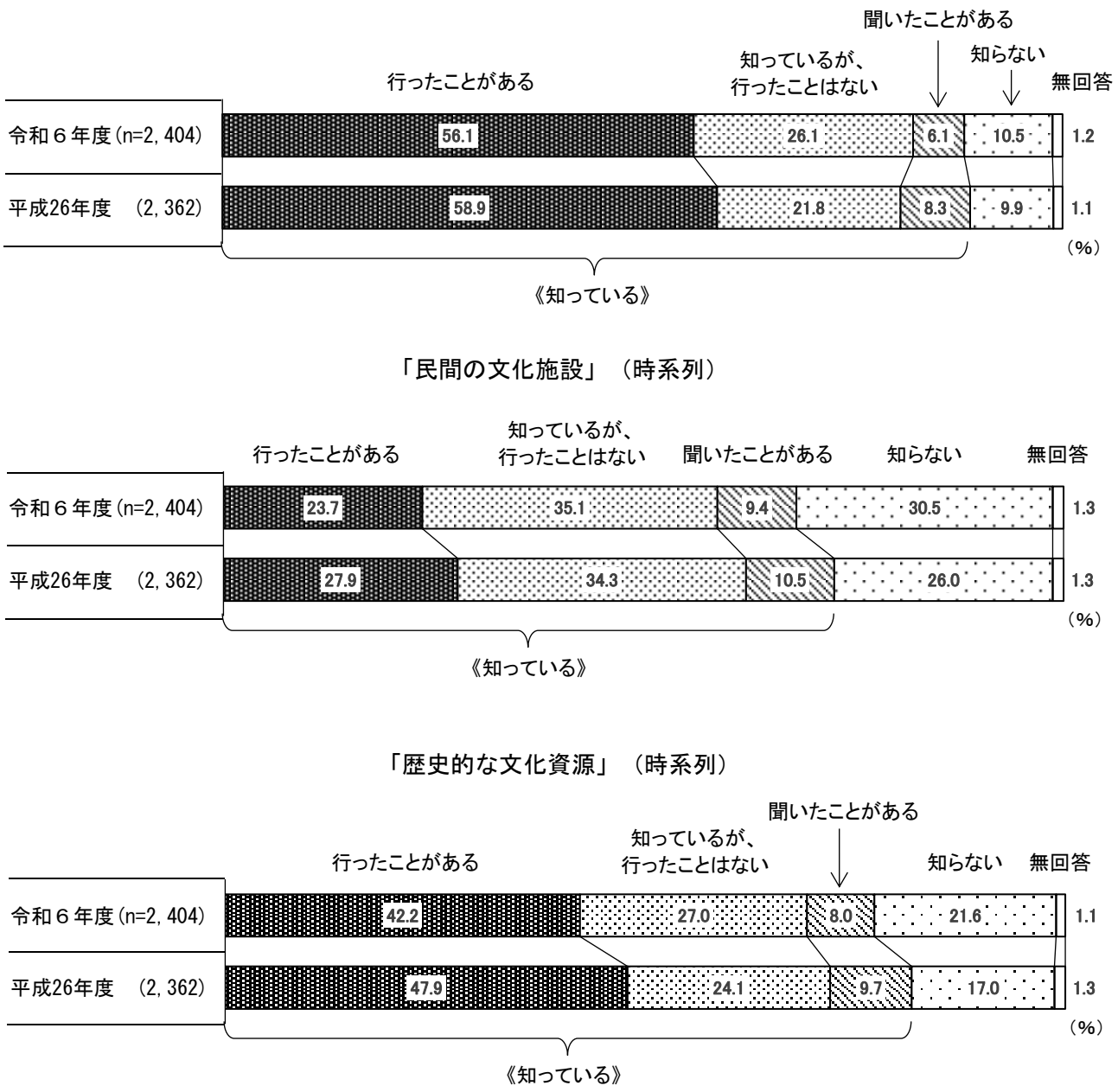
図９－１－１



区内の文化資源についてどの程度知っているか聞いたところ、「行ったことがある」は、公立の文化施設（56.1%）が５割半ばで最も高く、歴史的な文化資源（42.2%）が４割を超え、民間の文化施設（23.7%）が２割を超えている。《知っている》は、公立の文化施設が９割近くで最も高い。

（図９－１－１）

図９－１－２　区内の文化資源の認知度（時系列）



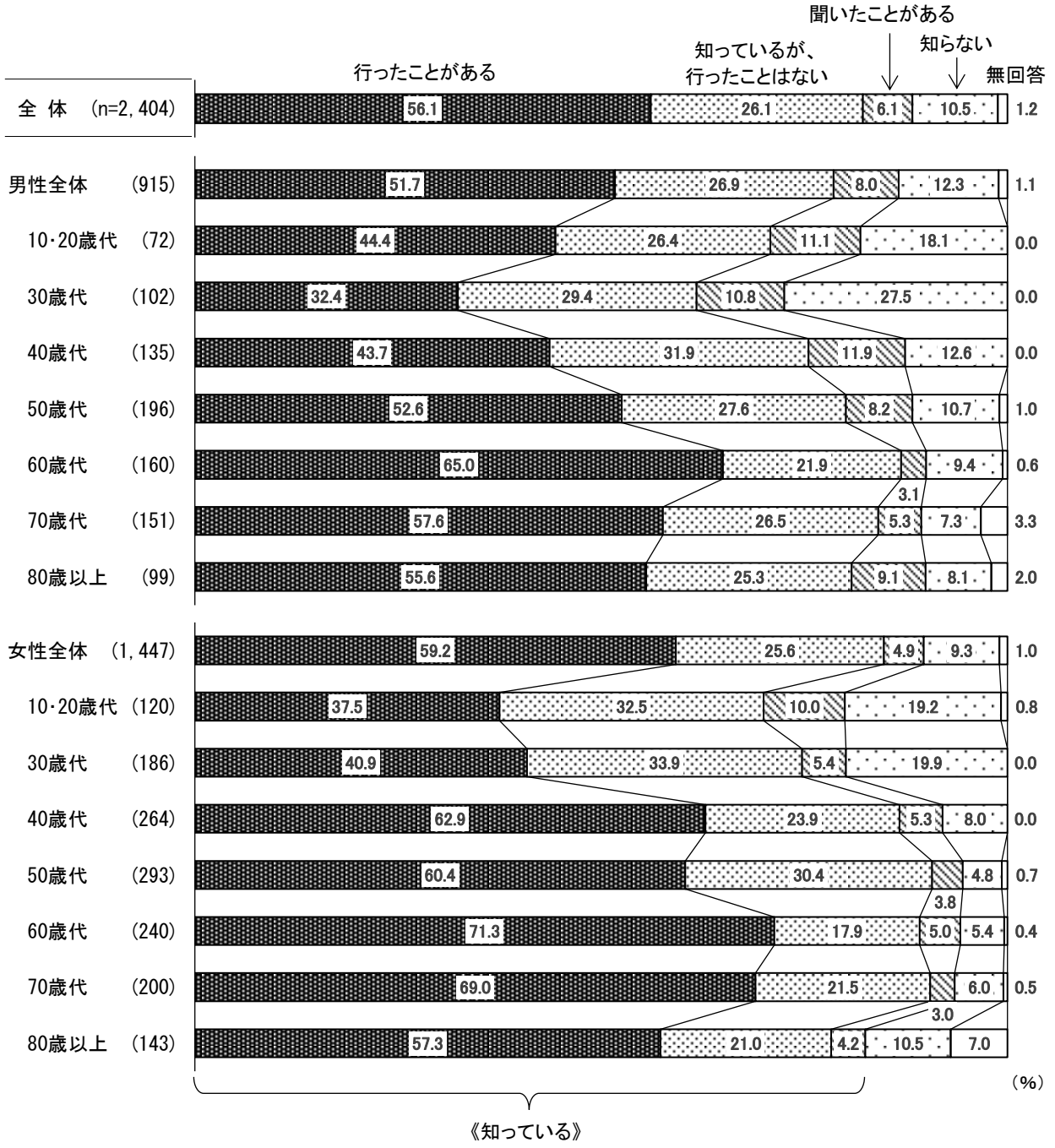
「公立の文化施設」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度（58.9%）から令和６年度（56.1%）で大きな違いはみられない。

「民間の文化施設」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度（27.9%）から令和６年度（23.7%）で減少している。

「歴史的な文化資源」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度（47.9%）から令和６年度（42.2%）で減少している。（図９－１－２）

図９－１－３　区内の文化資源の認知度

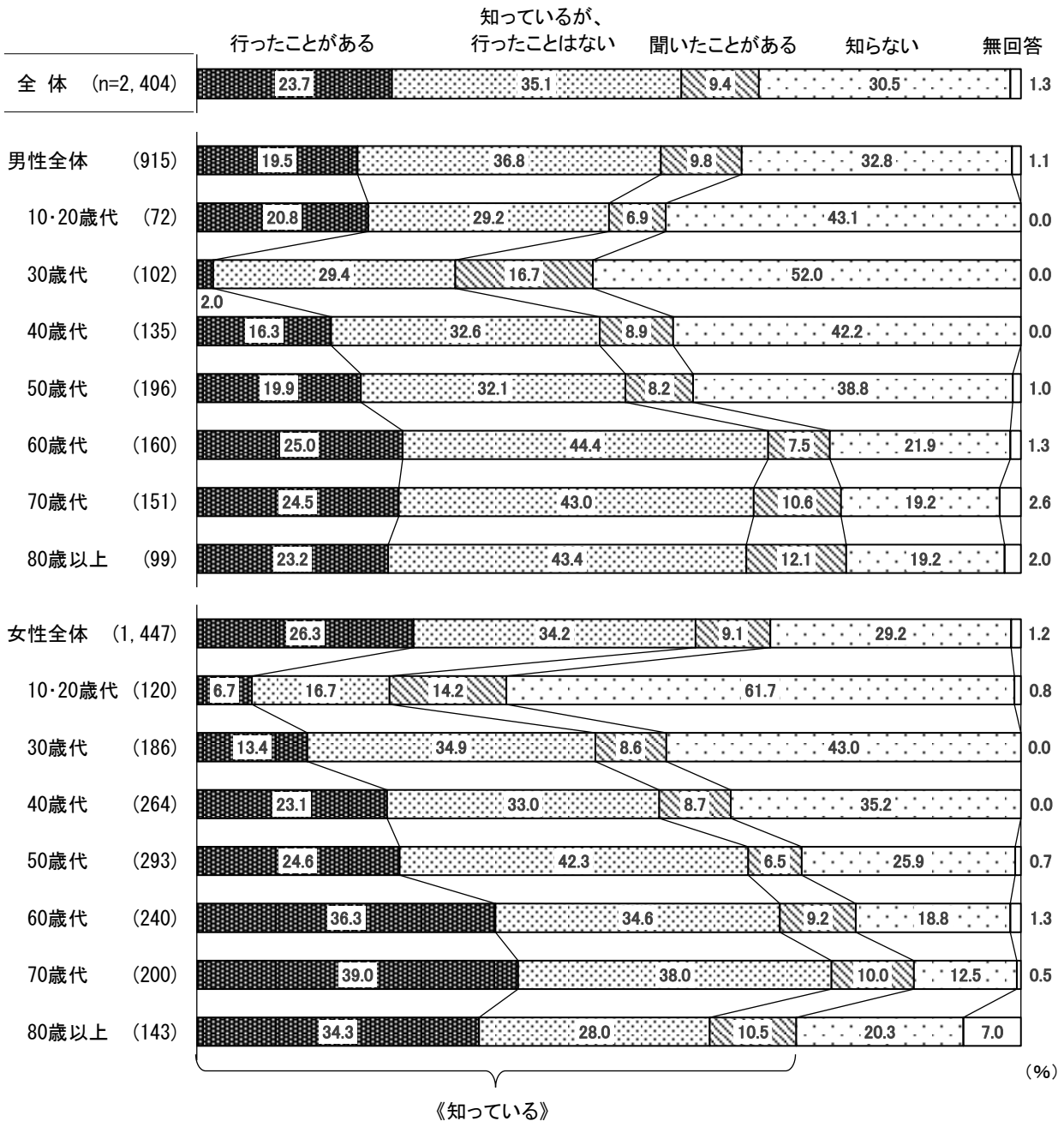
公立の文化施設（性・年齢別）



「公立の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の 60 歳代で７割を超え、女性の 70 歳代でほぼ７割、男性の 60 歳代で６割半ばとなっている。「知らない」は男女とも 30 歳代以下が高く、男性の 30 歳代で３割近く、女性の 30 歳代で２割、女性の 10･20 歳代でほぼ２割、男性の 10・20 歳代で２割近くとなっている。（図９－１－３）

図９－１－４　区内の文化資源の認知度

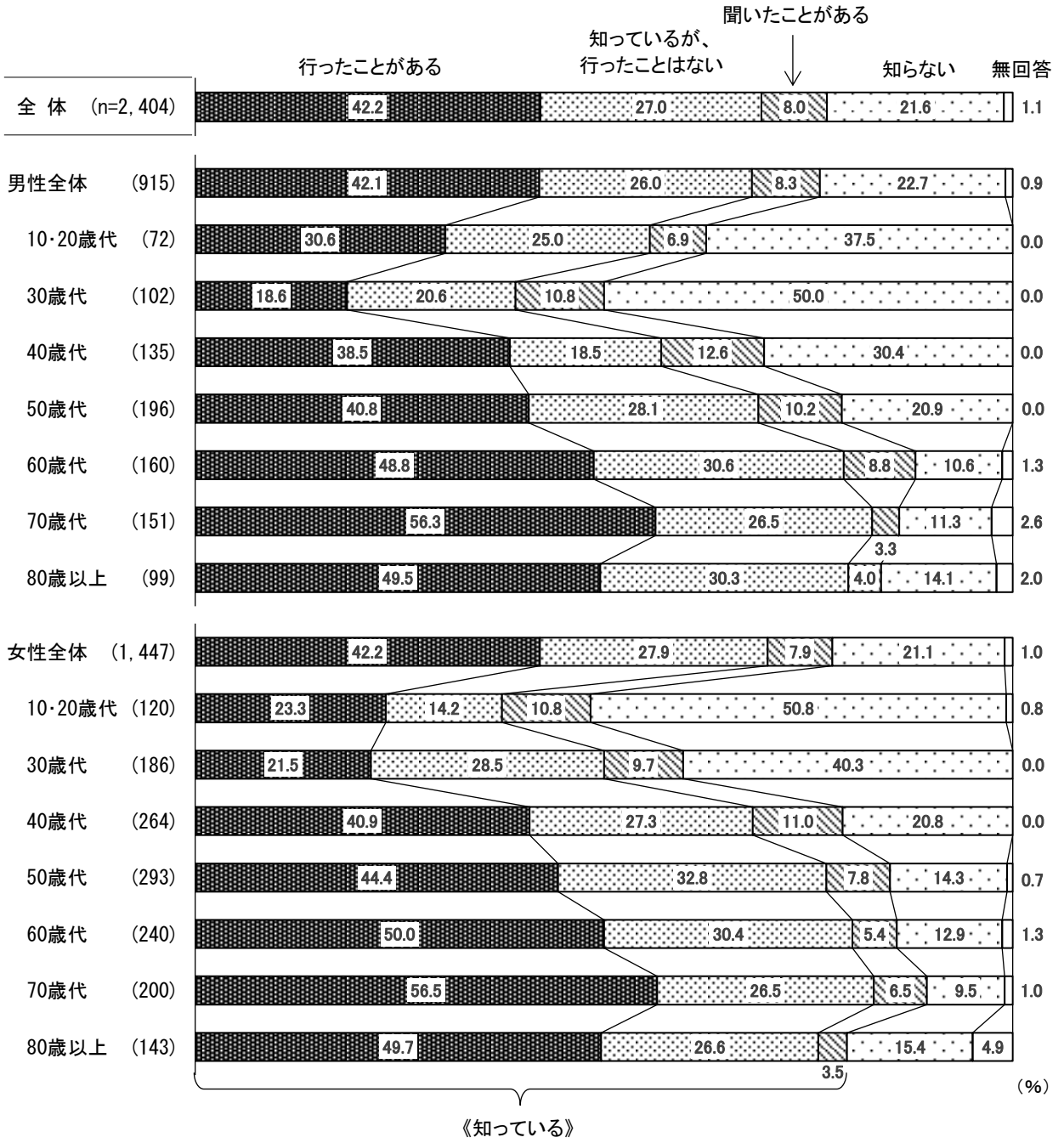
民間の文化施設（性・年齢別）



「民間の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の 70 歳代でほぼ４割、女性の 60 歳代と 80 歳以上で３割半ばとなっている。「知らない」は女性の 10･20 歳代で６割を超え、男性の 30 歳代で５割を超え、男性の 10・20 歳代と 40 歳代、女性の 30 歳代で４割を超えている。（図９－１－４）

図９－１－５　区内の文化資源の認知度

歴史的な文化資源（性・年齢別）



「歴史的な文化資源」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の 70 歳代で６割近く、男性の 70 歳代で５割半ば、男性の 80 歳以上、女性の 60 歳代と 80 歳以上で５割となっている。「知らない」は女性の 10・20 歳代でほぼ５割、男性の 30 歳代で５割、女性の 30 歳代で４割となっている。（図９－１－５）

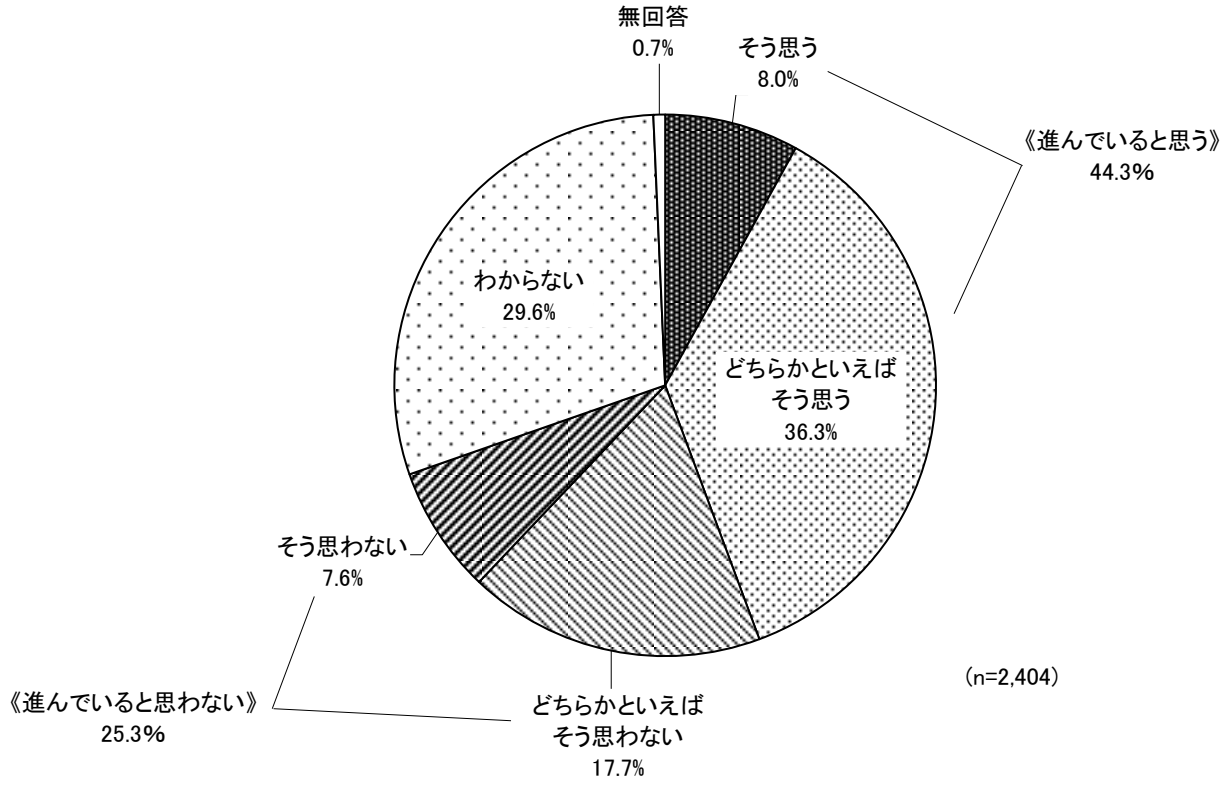
10. 多文化共生

（１）区の多文化共生社会への進捗状況

◎《進んでいると思う》が４割半ば、《進んでいると思わない》が２割半ば

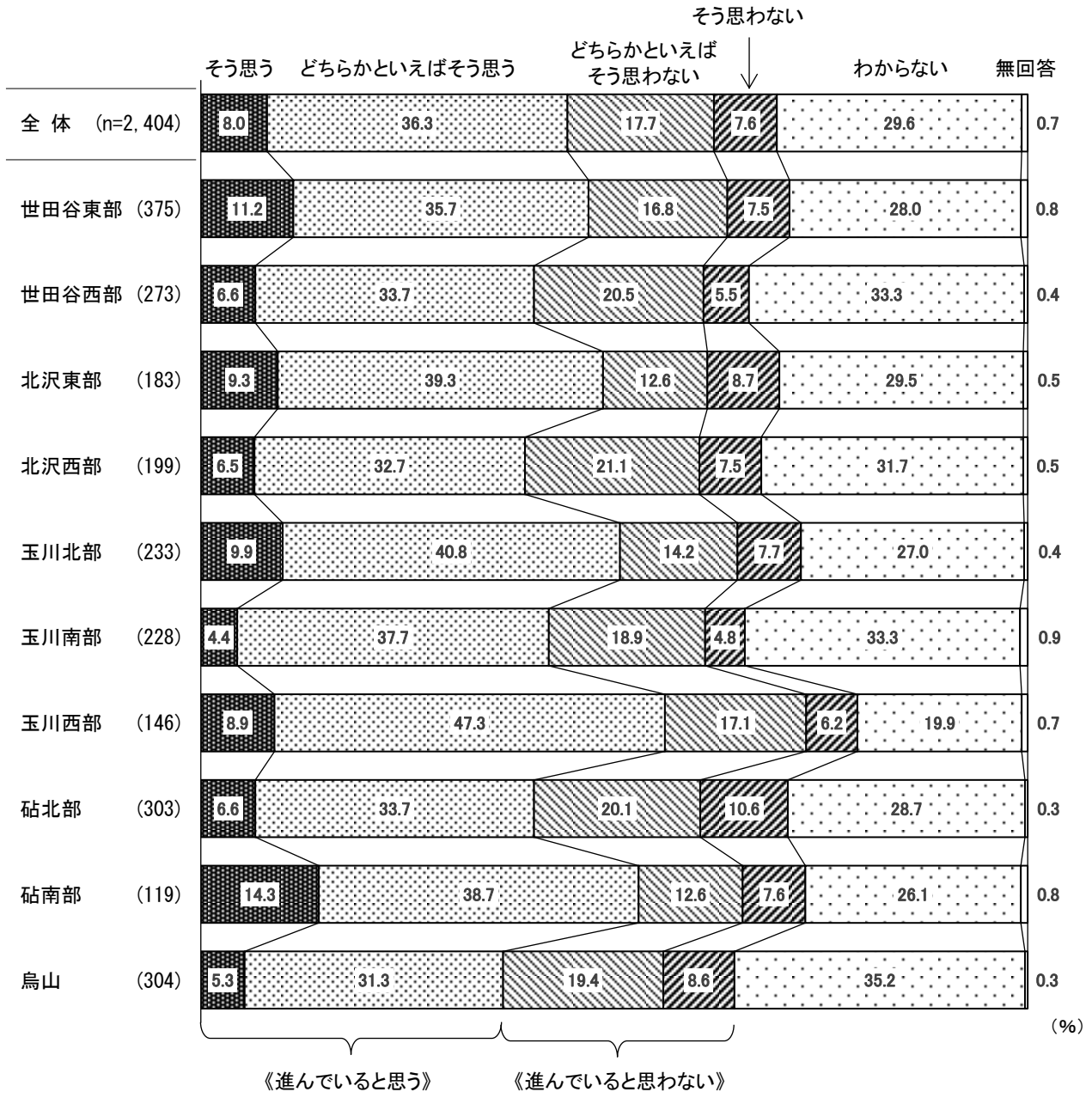
問２８　あなたは、「外国人住民と日本人住民が共に暮らす」という視点からみて、世田谷区は多文化共生が進んでいると思いますか。（○は１つ）

図１０－１－１



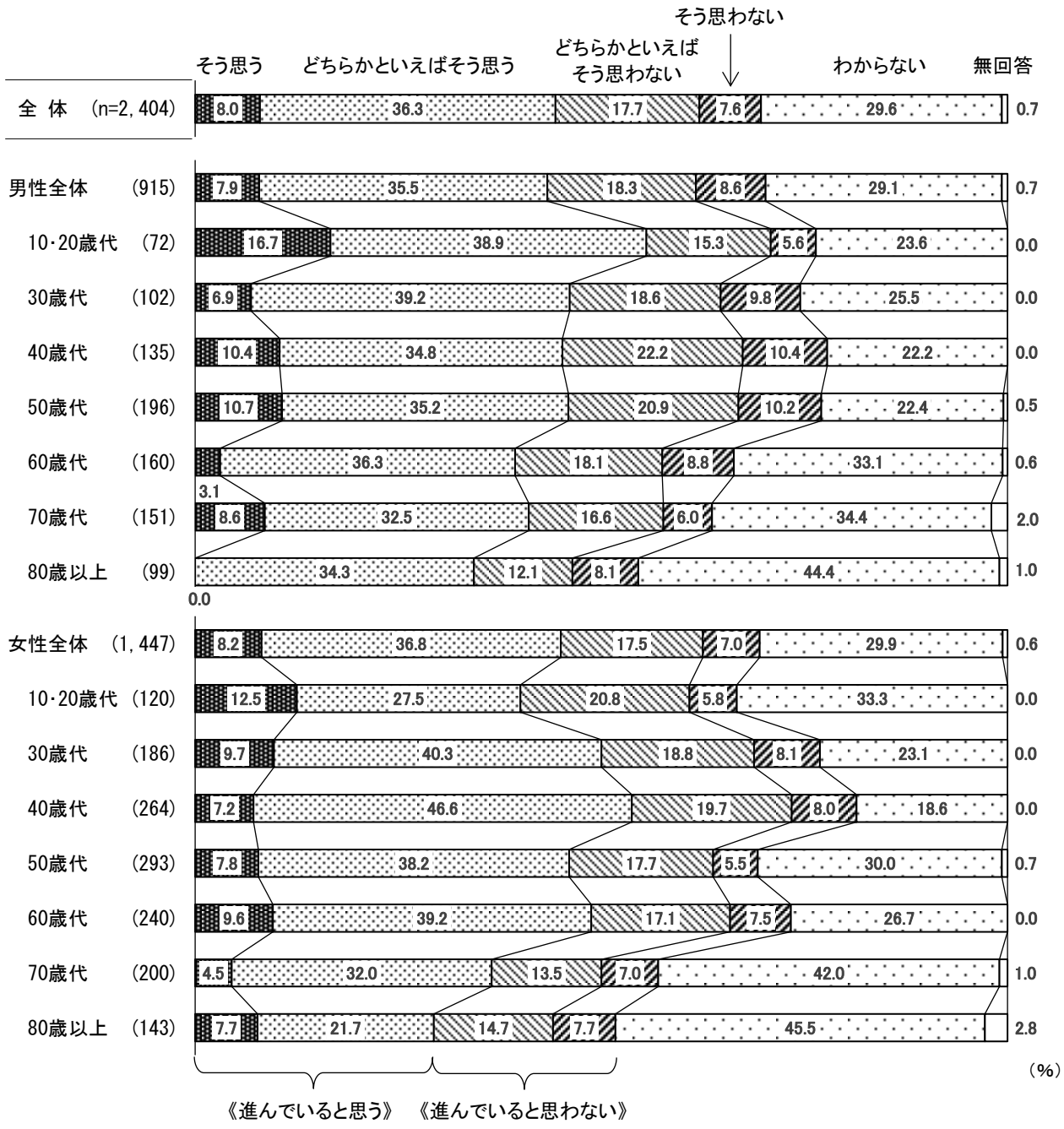
区の多文化共生が進んでいると思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」（36.3%）と「そう思う」（8.0%）を合わせた《進んでいると思う》（44.3%）が４割半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（17.7%）と「そう思わない」（7.6%）を合わせた《進んでいると思わない》（25.3%）は２割半ばとなっている。（図１０－１－１）

図１０－１－２　区の多文化共生社会への進捗状況（地域別）



地域別にみると、《進んでいると思う》は玉川西部で５割半ば、砧南部で５割を超え、玉川北部でほぼ５割となっている。《進んでいると思わない》は砧北部でほぼ３割、烏山、北沢西部で３割近くとなっている。（図１０－１－２）

図１０－１－３　区の多文化共生社会への進捗状況（性・年齢別）



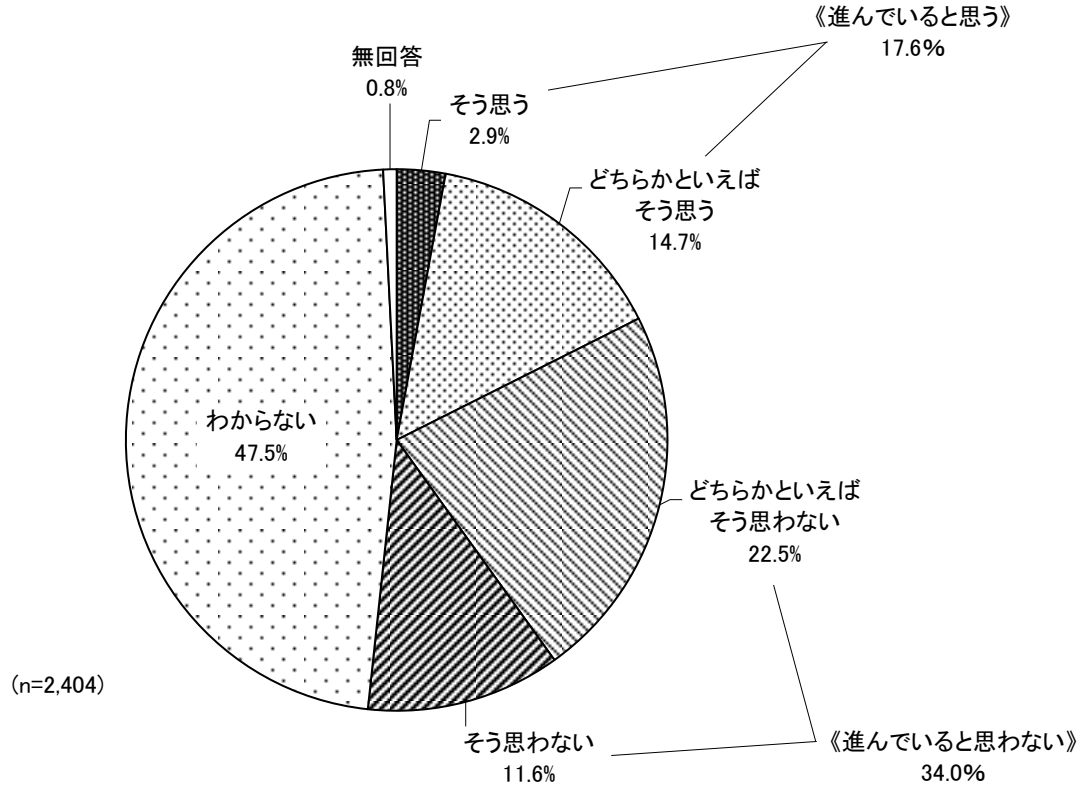
性・年齢別にみると、《進んでいると思う》は男性の 10・20 歳代で５割半ば、女性の 40 歳代で５割を超え、女性の 30 歳代で５割となっている。《進んでいると思わない》は男性の 40 歳代と 50 歳代で３割を超えている。（図１０－１－３）

（２）外国人の地域活動への参加の進捗状況

◎《進んでいると思う》が２割近く、《進んでいると思わない》が３割半ば

問２９　区では、外国人等が地域住民の一人として地域社会に参加・活躍できるように、地域のおまつりや防災訓練、ボランティア活動などへの参加を促進しています。
あなたは、外国人等の地域活動への参加が進んでいると思いますか。（○は１つ）

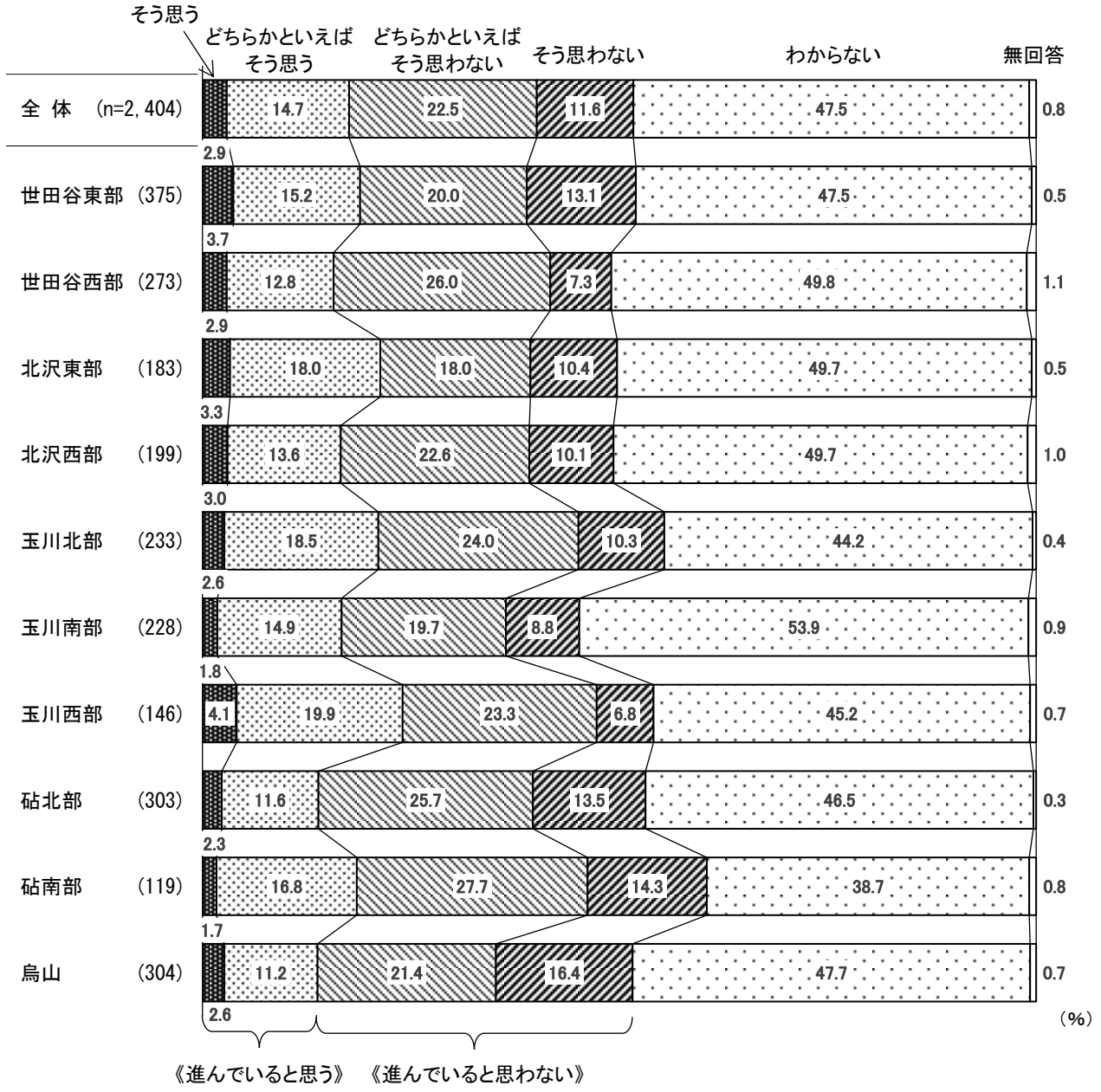
図１０－２－１



外国人等の地域活動への参加が進んでいると思うか聞いたところ、「わからない」（47.5%）が５割近くで最も高い。「どちらかといえばそう思わない」（22.5%）と「そう思わない」（11.6%）を合わせた《進んでいると思わない》（34.0%）が３割半ば、「そう思う」（2.9%）と「どちらかといえばそう思う」（14.7%）を合わせた《進んでいると思う》（17.6%）は２割近くとなっている。

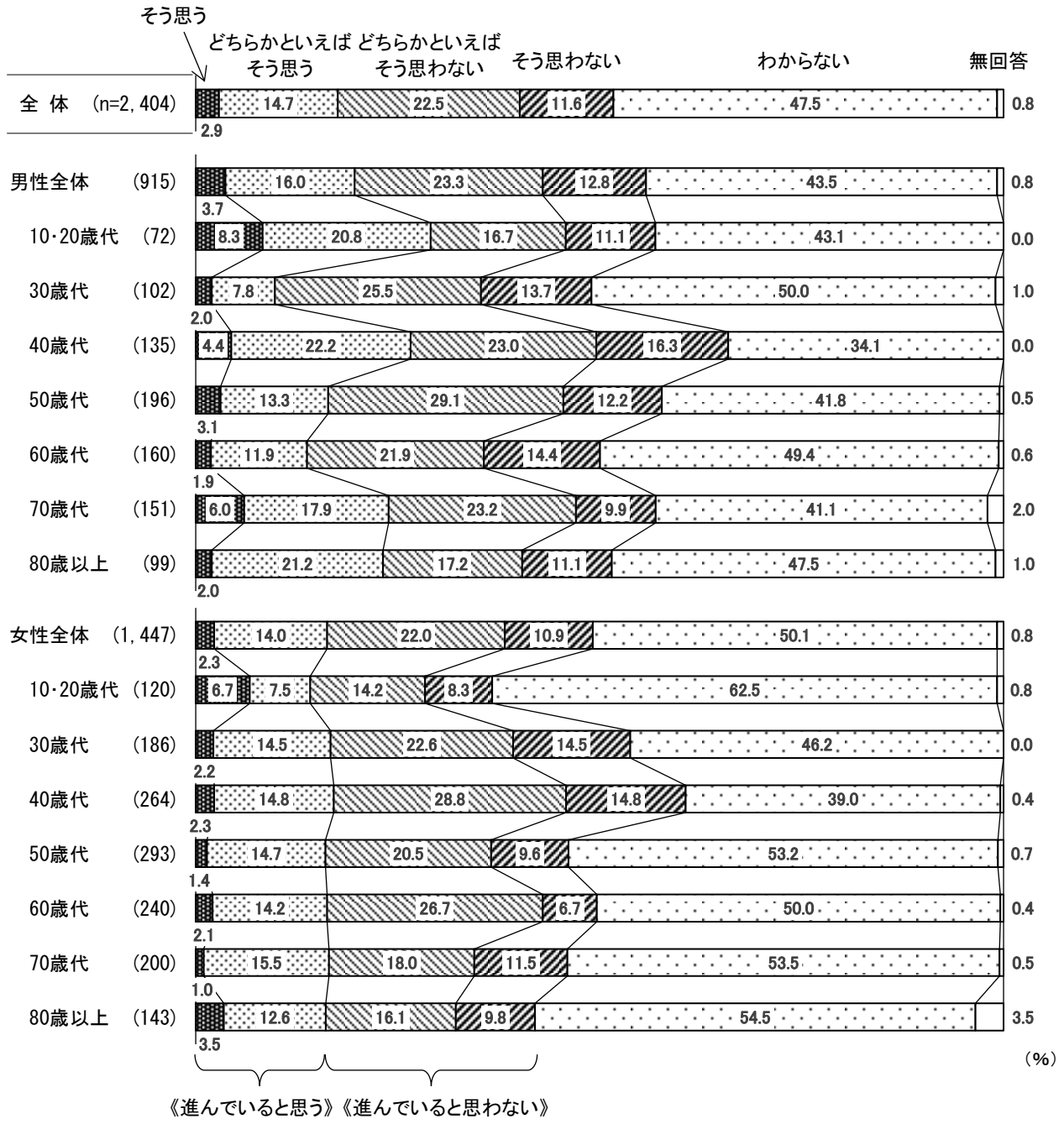
（図１０－２－１）

図１０－２－２　外国人の地域活動への参加の進捗状況（地域別）



地域別にみると、《進んでいると思う》は玉川西部で２割半ば、北沢東部、玉川北部で２割を超えている。《進んでいると思わない》は砧南部で４割を超え、砧北部でほぼ４割、烏山で４割近くとなっている。「わからない」は玉川南部で５割を超えている。（図１０－２－２）

図１０－２－３　外国人の地域活動への参加の進捗状況（性・年齢別）



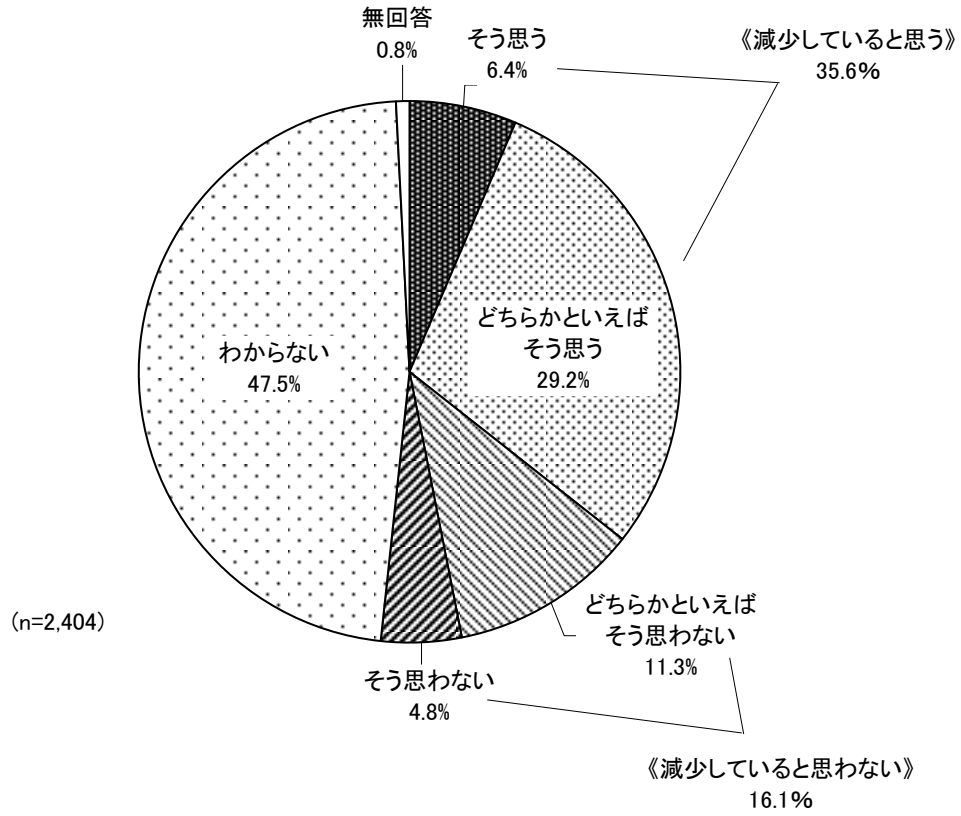
性・年齢別にみると、《進んでいると思う》は男性の 10・20 歳代でほぼ３割、男性の 40 歳代で３割近くとなっている。《進んでいると思わない》は男性の 50 歳代、女性の 40 歳代で４割を超え、男性の 30 歳代と 40 歳代でほぼ４割となっている。「わからない」は女性の 10・20 歳代で６割を超え、女性の 80 歳以上で５割半ば、女性の 50 歳代と 70 歳代で５割を超えている。（図１０－２－３）

（３）区内の外国人への偏見や差別の改善状況

◎《減少していると思う》が３割半ば、《減少していると思わない》が１割半ば

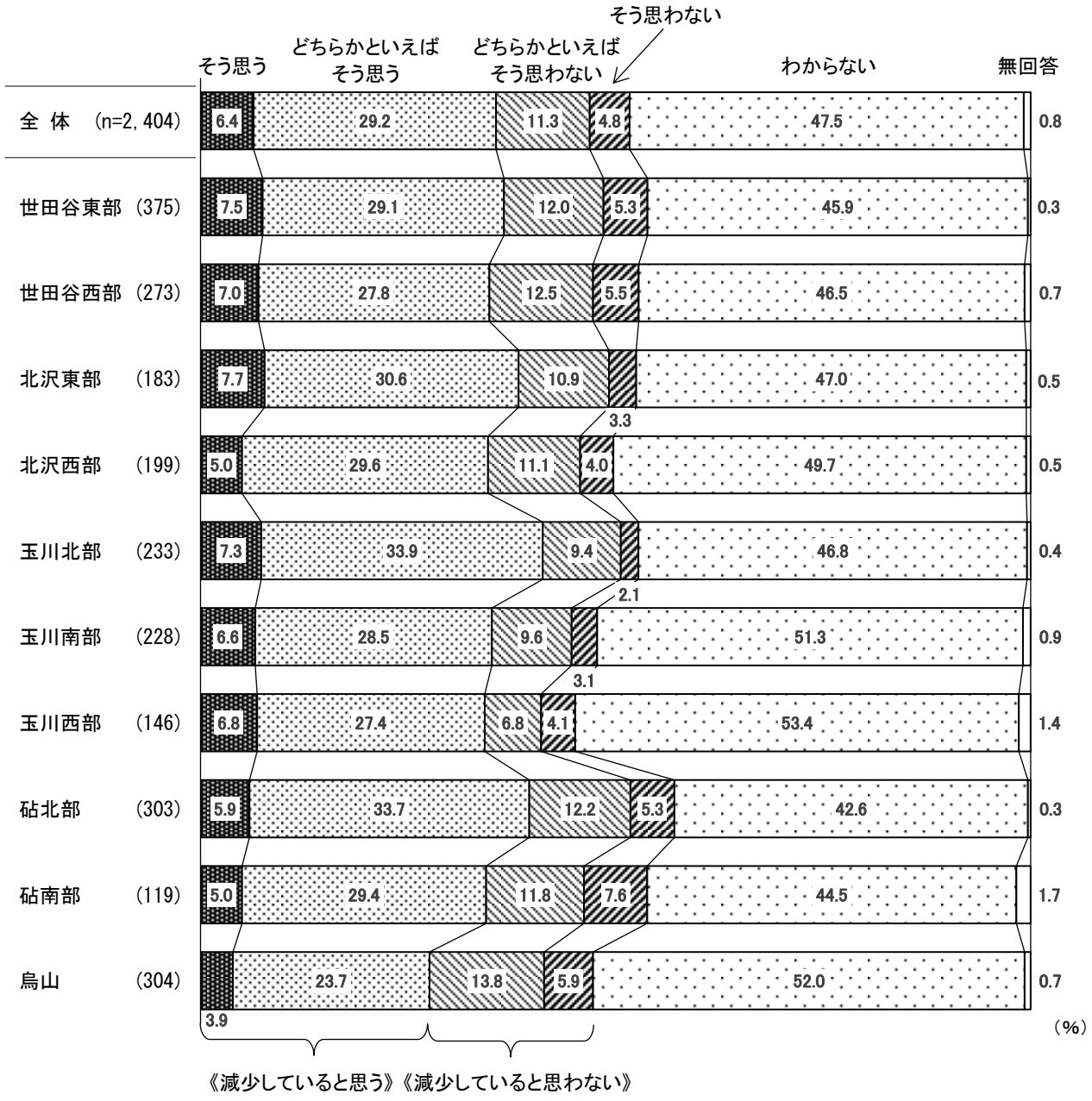
問３０　区では、多様な文化を理解し合える交流イベントなどを開催し、区民一人ひとりが互いの文化について理解を深め、偏見や差別を解消することで、多文化共生社会の実現を目指しています。あなたは、区内において外国人等に対する偏見や差別が減少していると思いますか。（○は１つ）

図１０－３－１



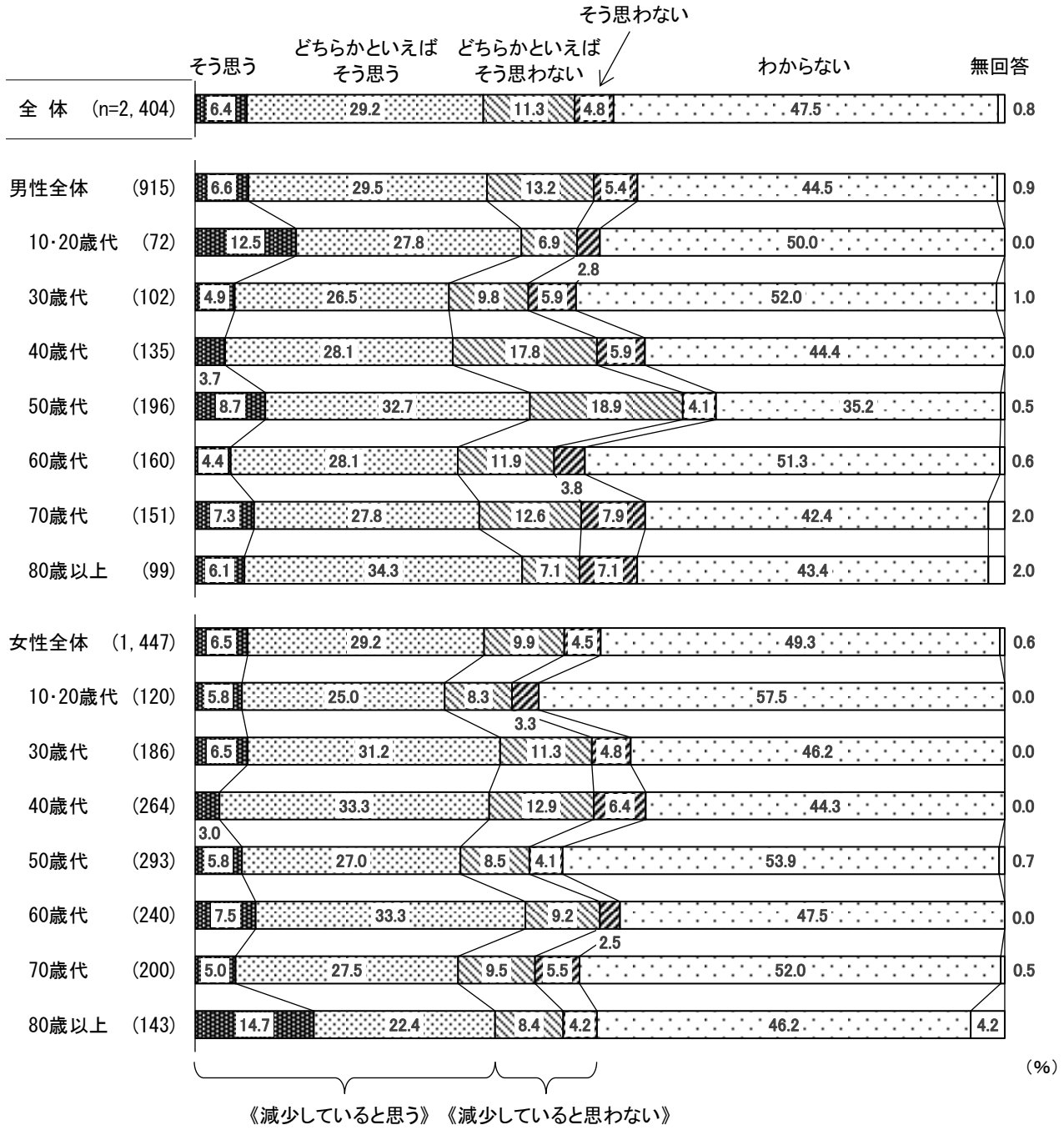
区内の外国人等に対する偏見や差別が減少していると思うか聞いたところ、「わからない」（47.5%）が５割近くで最も高い。「どちらかといえばそう思う」（29.2%）がほぼ３割で、「そう思う」（6.4%）と合わせた《減少していると思う》（35.6%）が３割半ばとなっている。「どちらかといえばそう思わない」（11.3%）と「そう思わない」（4.8%）を合わせた《減少していると思わない》（16.1%）は１割半ばとなっている。（図１０－３－１）

図１０－３－２　区内の外国人への偏見や差別の改善状況（地域別）



地域別にみると、《減少していると思う》は玉川北部で４割を超え、砧北部で４割、北沢東部、世田谷東部で４割近くとなっている。《減少していると思わない》は烏山で２割、砧南部でほぼ２割となっている。「わからない」は玉川西部、烏山、玉川南部で５割を超えている。（図１０－３－２）

図１０－３－３　区内の外国人への偏見や差別の改善状況（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《減少していると思う》は男性の 50 歳代で４割を超え、女性の 60 歳代でほぼ４割、男性の 10・20 歳代と 80 歳以上で４割となっている。《減少していると思わない》は男性の 40 歳代と 50 歳代で２割を超えている。「わからない」は女性の 10・20 歳代で６割近く、男性の 30 歳代と 60 歳代、女性の 50 歳代と 70 歳代で５割を超えている。（図１０－３－３）

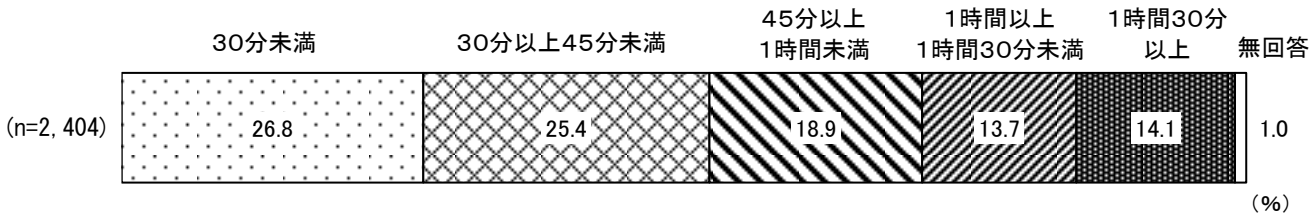
11. 健康づくり

（１） １日の歩行時間

◎「30 分未満」が３割近く、「30 分以上 45 分未満」が２割半ば

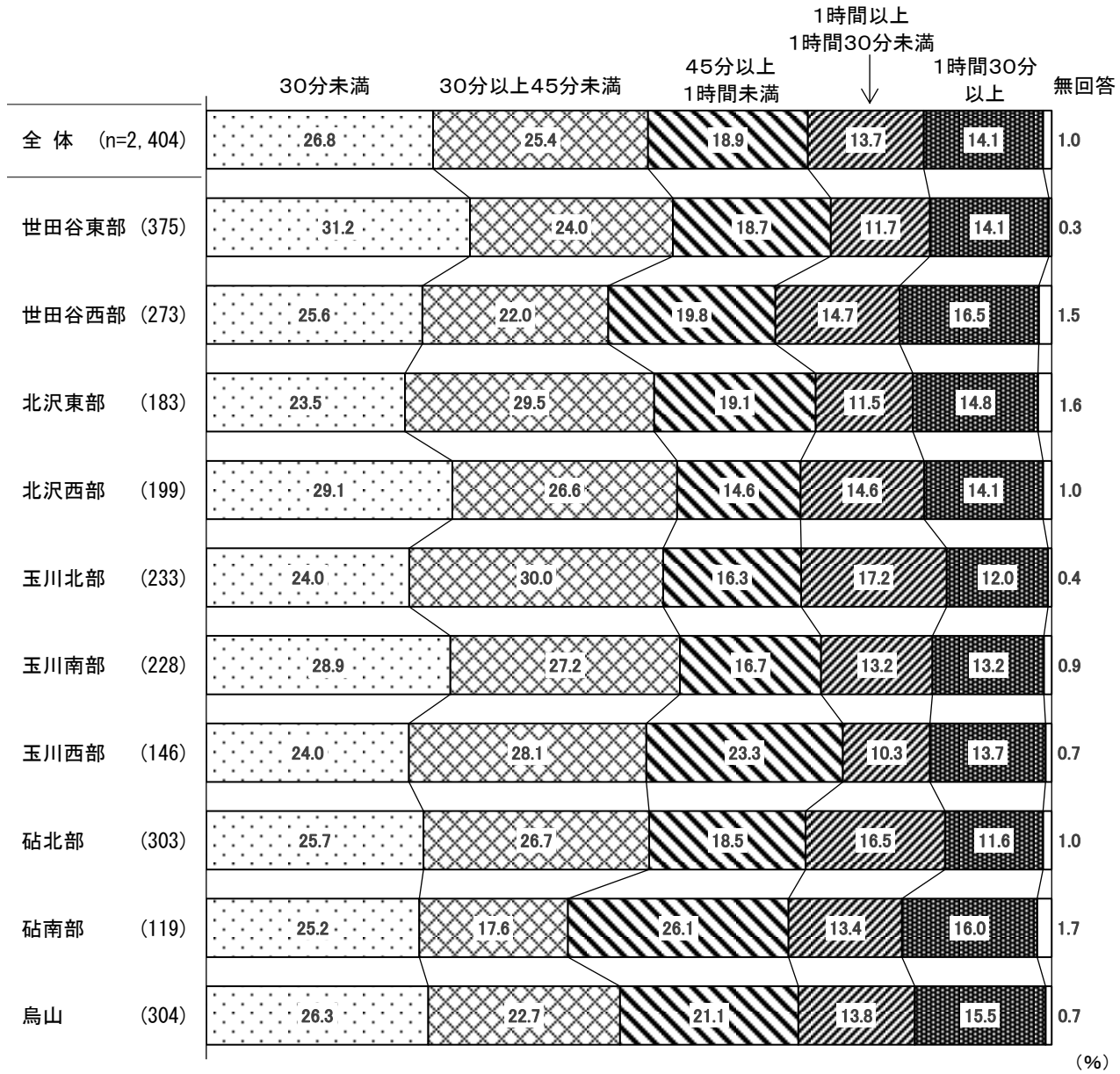
問３１　あなたは、１日にあわせてどのくらい歩きますか。
（通学・通勤のための徒歩や室内の移動、散歩を含む）　（○は１つ）

図１１－１－１



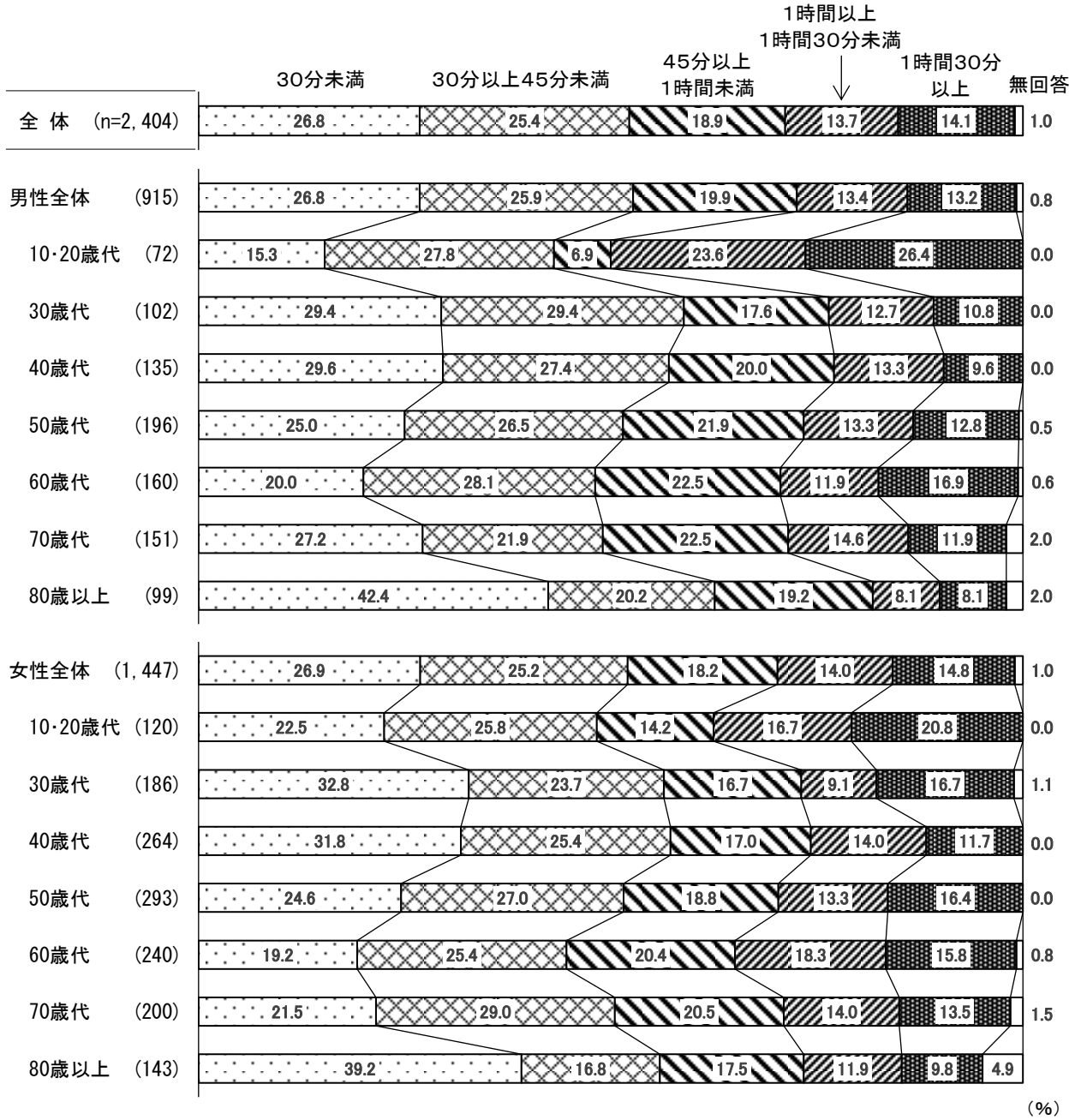
１日の歩行時間を聞いたところ、「30 分未満」（26.8%）が３割近く、「30 分以上 45 分未満」（25.4%）が２割半ばとなっている。以下、「45 分以上１時間未満」（18.9%）、「１時間 30 分以上」（14.1%）、「１時間以上１時間 30 分未満」（13.7%）と続く。（図１１－１－１）

図１１－１－２　１日の歩行時間（地域別）



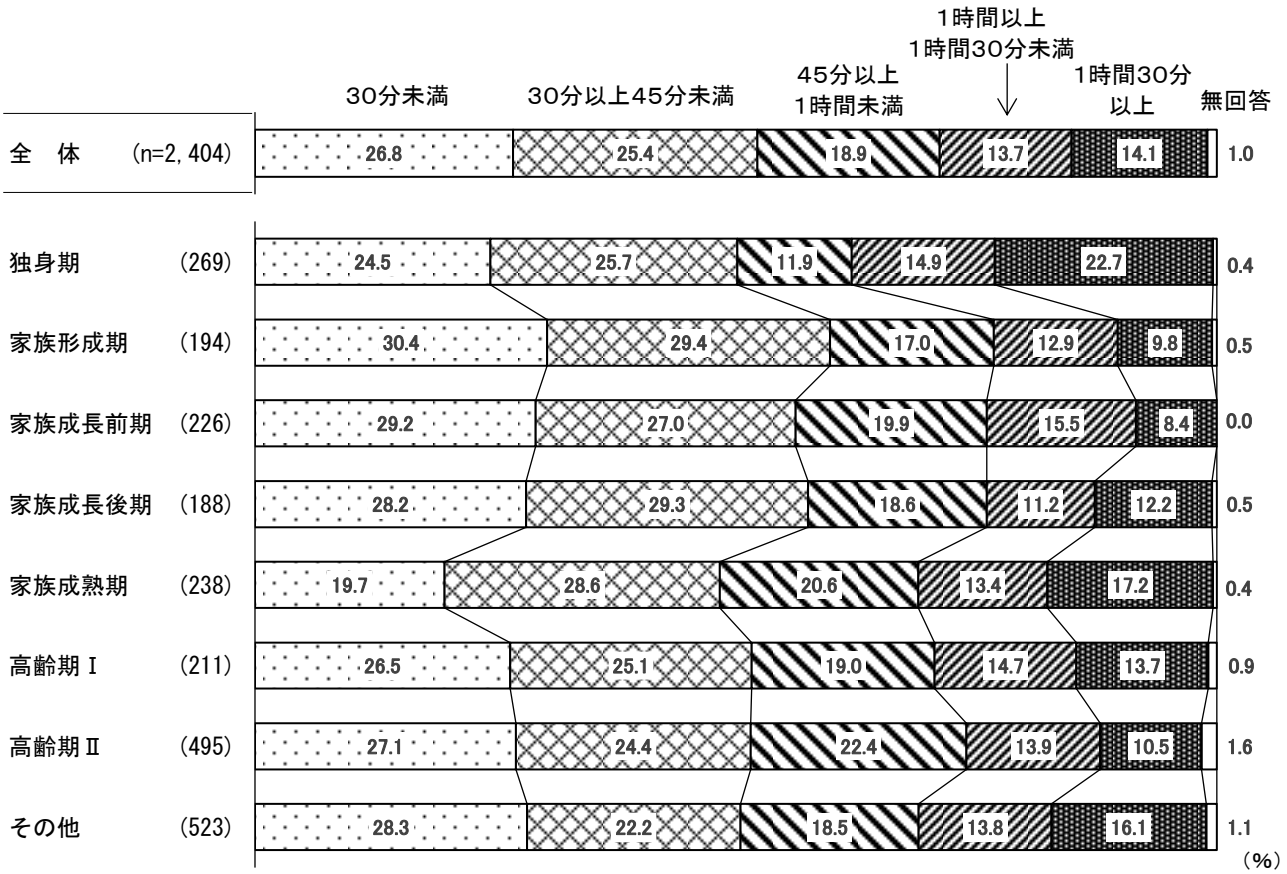
地域別にみると、「30 分未満」は世田谷東部で３割を超え、北沢西部でほぼ３割、玉川南部で３割近くとなっている。「30 分以上 45 分未満」は玉川北部、北沢東部で３割となっている。30 分以上（「30 分以上 45 分未満」＋「45 分以上１時間未満」＋「１時間以上１時間 30 分未満」＋「１時間 30 分以上」）は玉川北部、玉川西部、北沢東部で７割半ば、砧北部、砧南部、烏山、世田谷西部で７割を超えている。（図１１－１－２）

図１１－１－３　１日の歩行時間（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「30 分未満」は男性の 80 歳以上で４割を超え、女性の 80 歳以上でほぼ４割、女性の 30 歳代と 40 歳代で３割を超えている。「30 分以上 45 分未満」は男性の 30 歳代、女性の 70 歳代でほぼ３割、男性の 10・20 歳代と 40 歳代～60 歳代、女性の 50 歳代で３割近くとなっている。30 分以上（「30 分以上 45 分未満」＋「45 分以上１時間未満」＋「１時間以上１時間 30 分未満」＋「１時間 30 分以上」）は男性の 10・20 歳代で８割半ば、女性の 60 歳代で８割、男性の 60 歳代でほぼ８割となっている。（図１１－１－３）

図１１－１－４　１日の歩行時間（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「30 分未満」は家族形成期で３割、家族成長前期でほぼ３割と高く、家族成熟期で２割と低い。「30 分以上 45 分未満」は家族形成期、家族成長後期でほぼ３割、家族成長前期、家族成熟期で３割近くとなっている。30 分以上（「30 分以上 45 分未満」＋「45 分以上１時間未満」＋「１時間以上１時間 30 分未満」＋「１時間 30 分以上」）は家族成熟期で８割、独身期で７割半ばとなっている。（図１１－１－４）

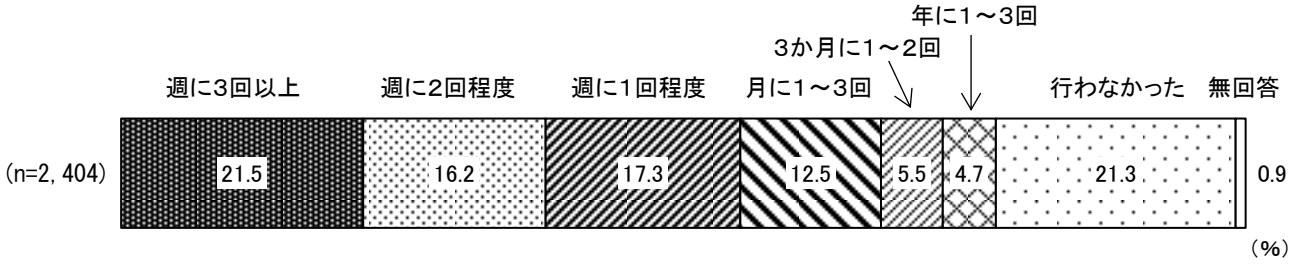
12. スポーツ

（１）この１年間に行ったスポーツや運動の回数

◎「週に３回以上」が２割を超える

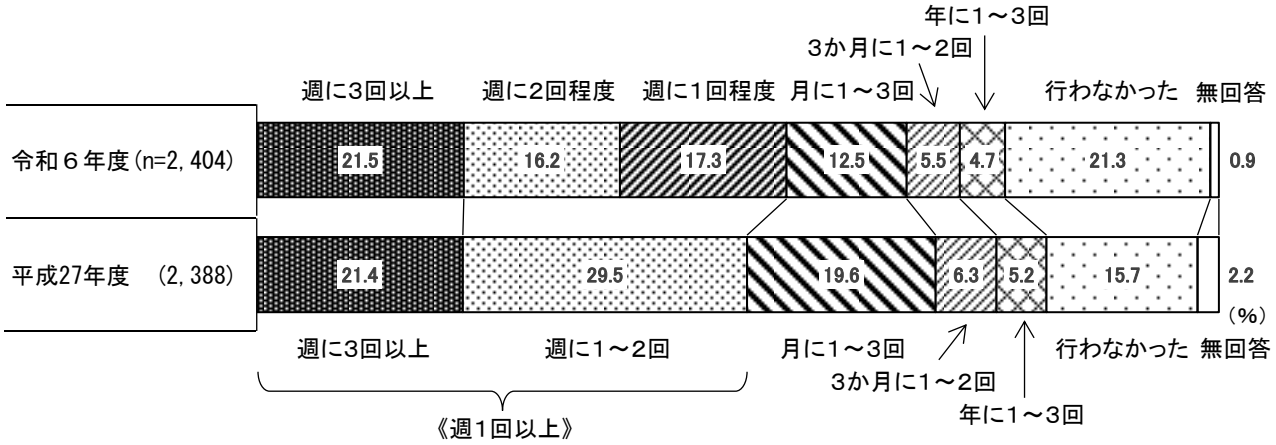
問３２　あなたがこの１年間にスポーツや運動（ウォーキングや軽い体操、介護予防のためのトレーニング、様々なレクリエーションなどを含む）を行った回数はどのくらいですか。（○は１つ）

図１２－１－１



この１年間に行ったスポーツや運動の回数を聞いたところ、「週に３回以上」（21.5%）が２割を超えて最も高く、次いで「行わなかった」(21.3%)も２割を超える。以下、「週に１回程度」(17.3%)、「週に２回程度」（16.2%）、「月に１～３回」（12.5%）などと続く。（図１２－１－１）

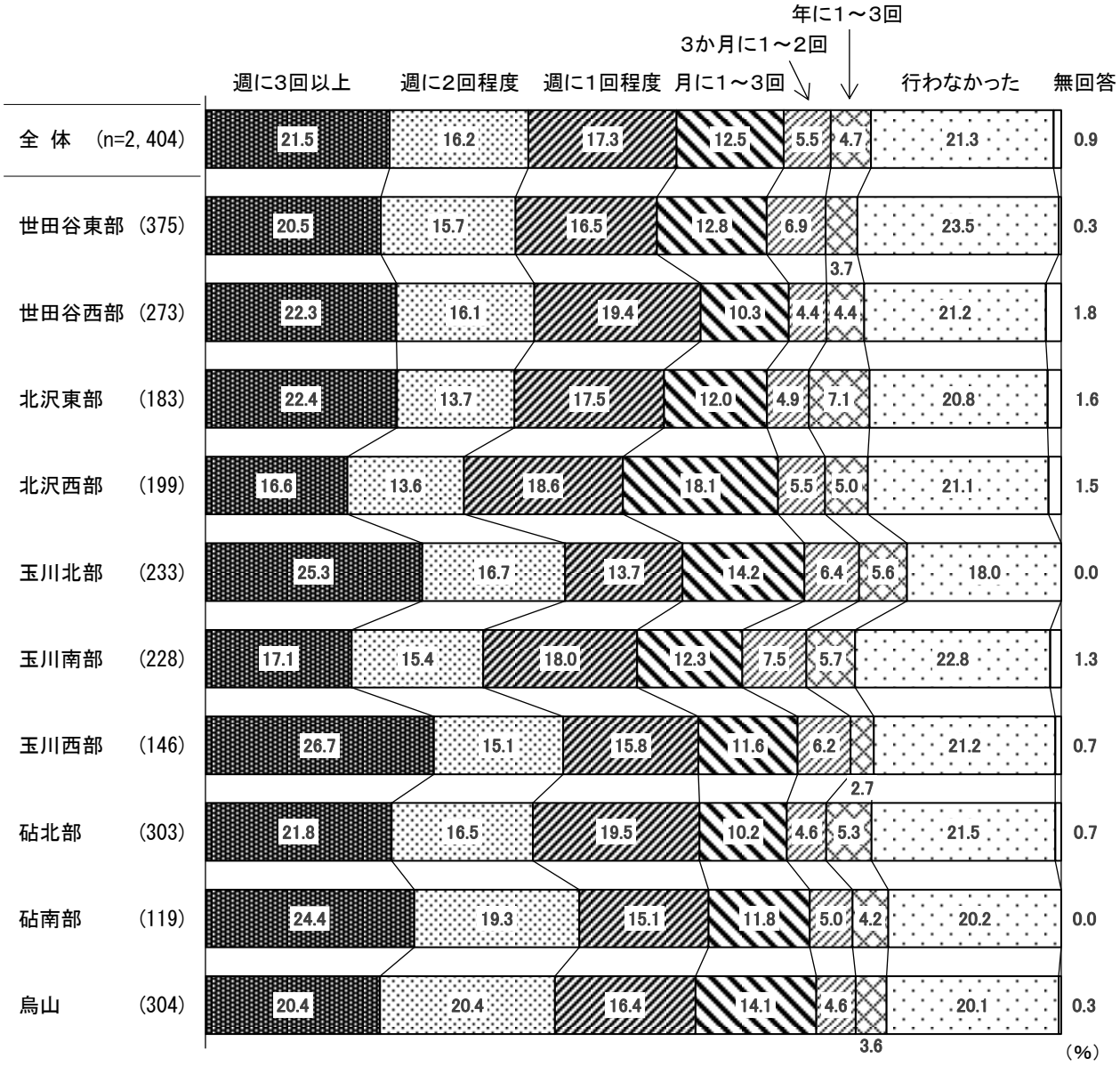
図１２－１－２　この１年間に行ったスポーツや運動の回数（時系列）



注）令和5年度調査から「週に1～2回」を「週に1回程度」「週に2回程度」の2つの選択肢とした。

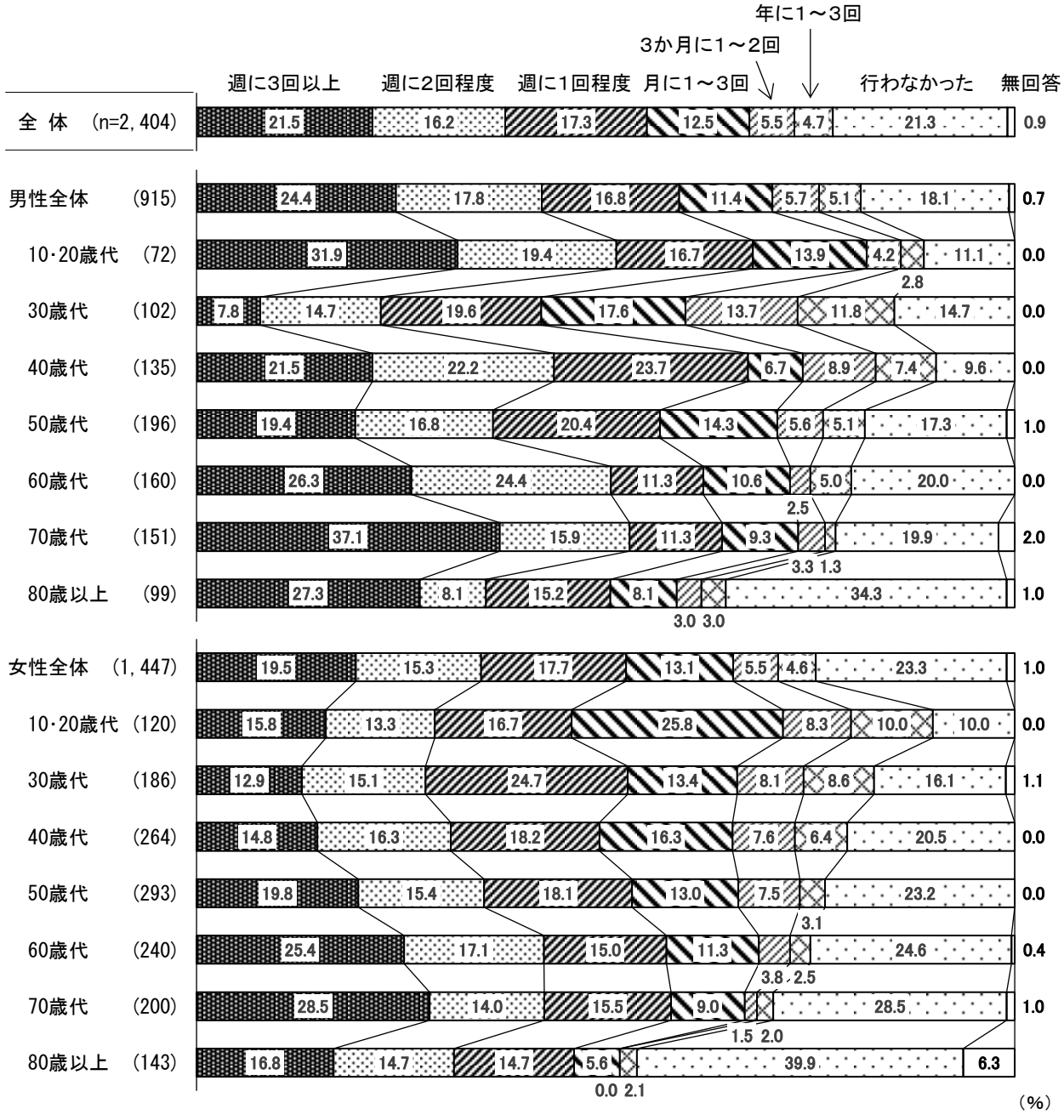
平成 27 年度からの時系列の変化をみると、《週１回以上》は平成 27 年度（50.9%）から令和６年度（55.0%）で増加している。「行わなかった」も平成 27 年度（15.7%）から令和６年度（21.3%）で増加している。（図１２－１－２）

図１２－１－３　この１年間に行ったスポーツや運動の回数（地域別）



地域別にみると、「週に３回以上」は玉川西部で３割近く、玉川北部、砧南部で２割半ばとなっている。《週１回以上》（「週に３回以上」＋「週に２回程度」＋「週に１回程度」）は砧南部、世田谷西部、砧北部、玉川西部、烏山で６割近くと高く、玉川南部で５割、北沢西部で５割近くと低い。《月１回以上》（「週に３回以上」＋「週に２回程度」＋「週に１回程度」＋「月に１～３回」）は烏山で７割を超え、砧南部、玉川西部でほぼ７割、玉川北部で７割となっている。（図１２－１－３）

図１２－１－４　この１年間に行ったスポーツや運動の回数（性・年齢別）



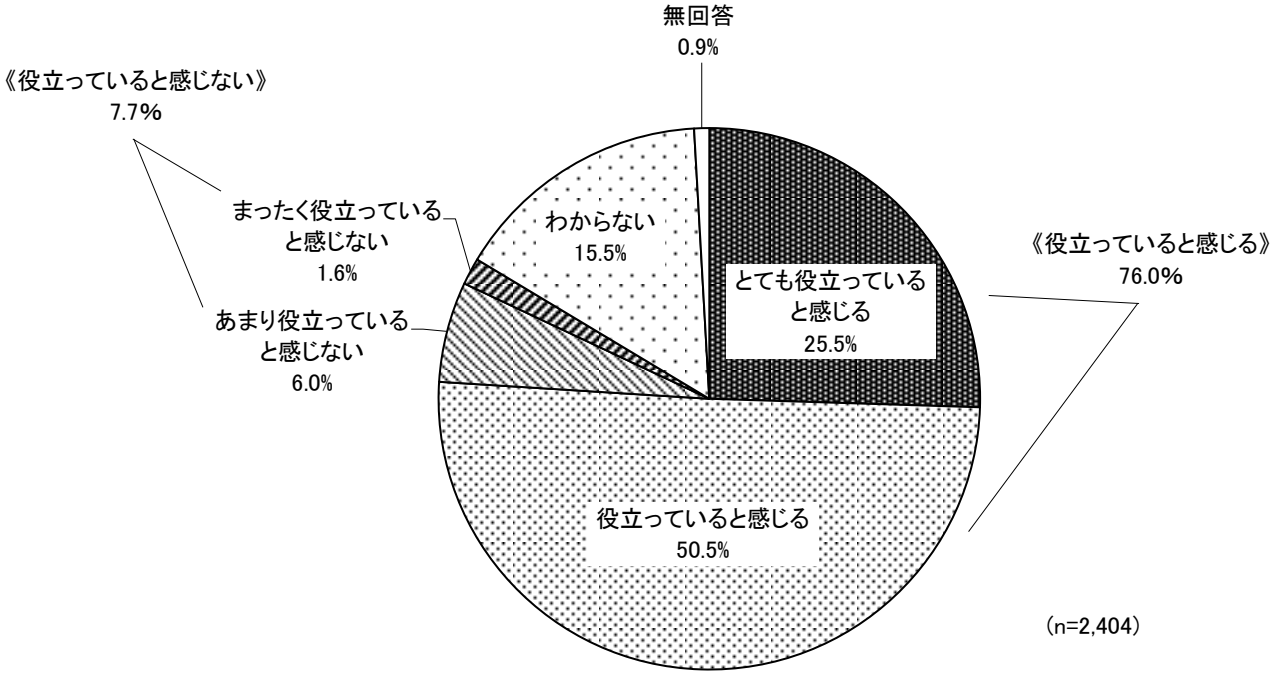
性・年齢別にみると、「週に３回以上」は男性の 70 歳代で４割近く、男性の 10・20 歳代で３割を超え、男性の 80 歳以上、女性の 70 歳代で３割近くとなっている。《週１回以上》は男性の 10・20 歳代と 40 歳代で７割近く、男性の 70 歳代で６割半ばとなっている。《月１回以上》は男性の 10・20 歳代で８割を超え、男性の 40 歳代～70 歳代と女性の 10・20 歳代で７割台となっている。「行わなかった」は女性の 80 歳以上で４割、男性の 80 歳以上で３割半ばとなっている。（図１２－１－４）

（２）スポーツの生活の質向上への役立ち度

◎《役立っていると感じる》が７割半ば

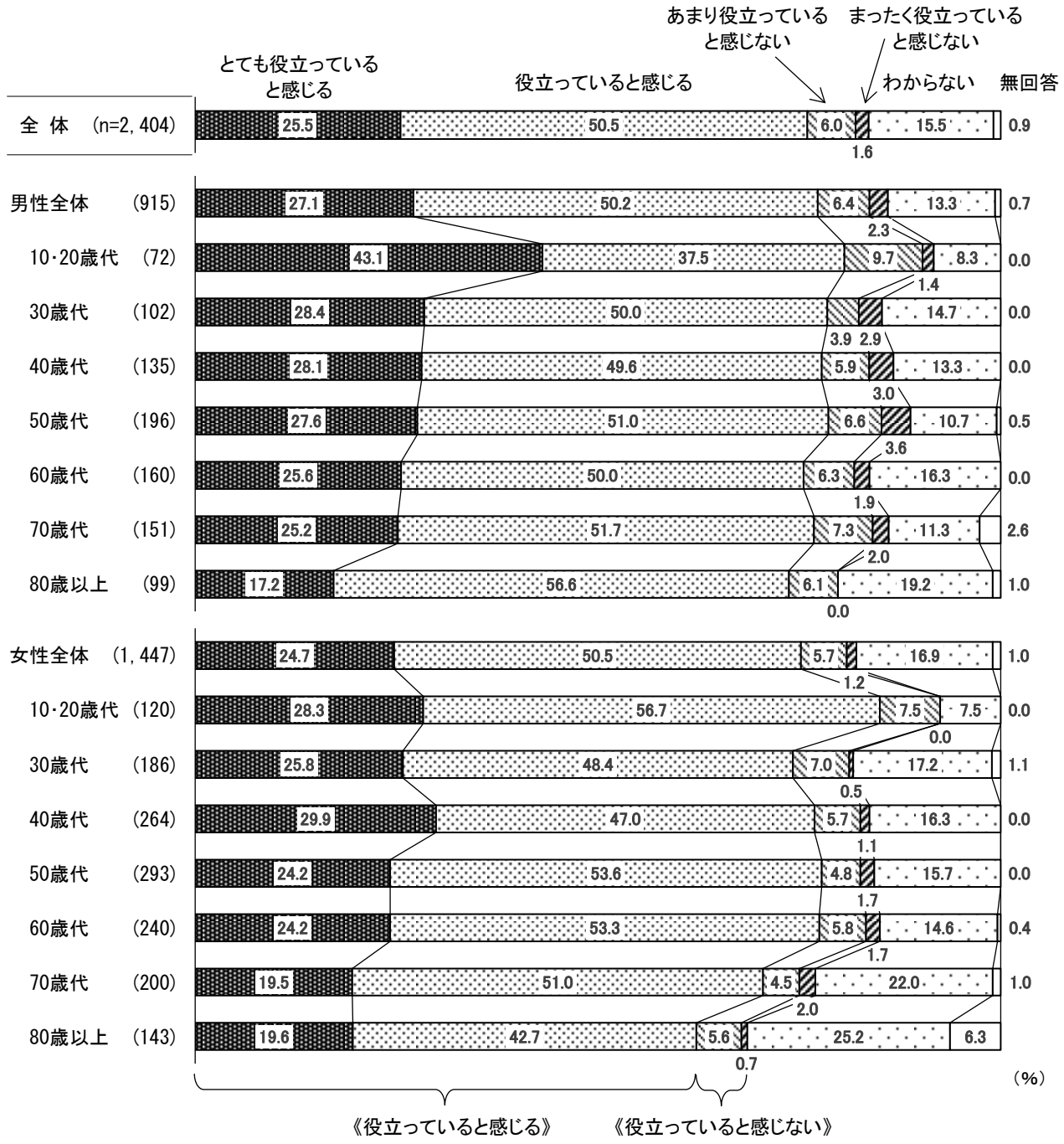
問３３　あなたは、スポーツが生活の質の向上に役立っていると感じますか。（○は１つ）

図１２－２－１



スポーツが生活の質の向上に役立っていると感じるか聞いたところ、「役立っていると感じる」（50.5%）がほぼ５割で、「とても役立っていると感じる」（25.5%）と合わせた《役立っていると感じる》（76.0%）が７割半ばとなっている。「あまり役立っていると感じない」（6.0%）と「まったく役立っていると感じない」（1.6%）を合わせた《役立っていると感じない》（7.7%）は１割未満となっている。（図１２－２－１）

図１２－２－２　スポーツの生活の質向上への役立ち度（性・年齢別）



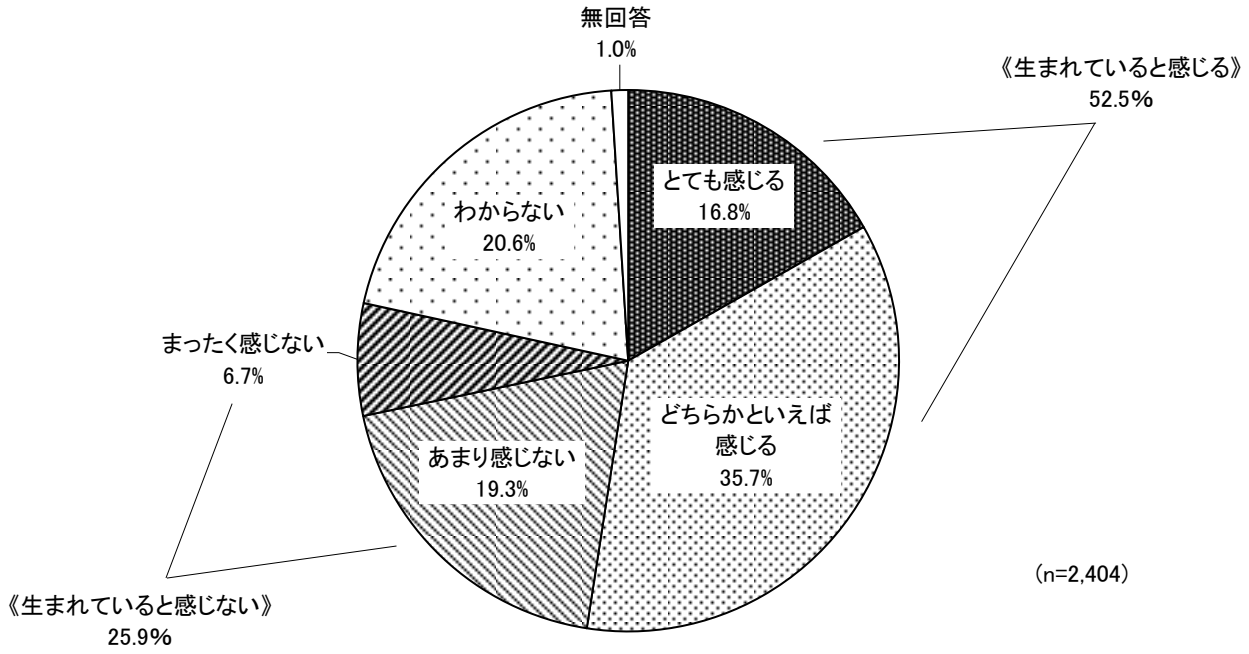
性・年齢別にみると、「とても役立っていると感じる」は男性の 10・20 歳代で４割を超えている。《役立っていると感じる》は男女とも 10・20 歳代が８割台と高く、その他の年代も女性の 80 歳以上の６割台を除くとすべて７割台となっている。《役立っていると感じない》は男性の 10・20 歳代で１割を超えている。（図１２－２－２）

（３）スポーツの新たな交流への貢献度

◎新たな交流が《生まれていると感じる》が５割を超える

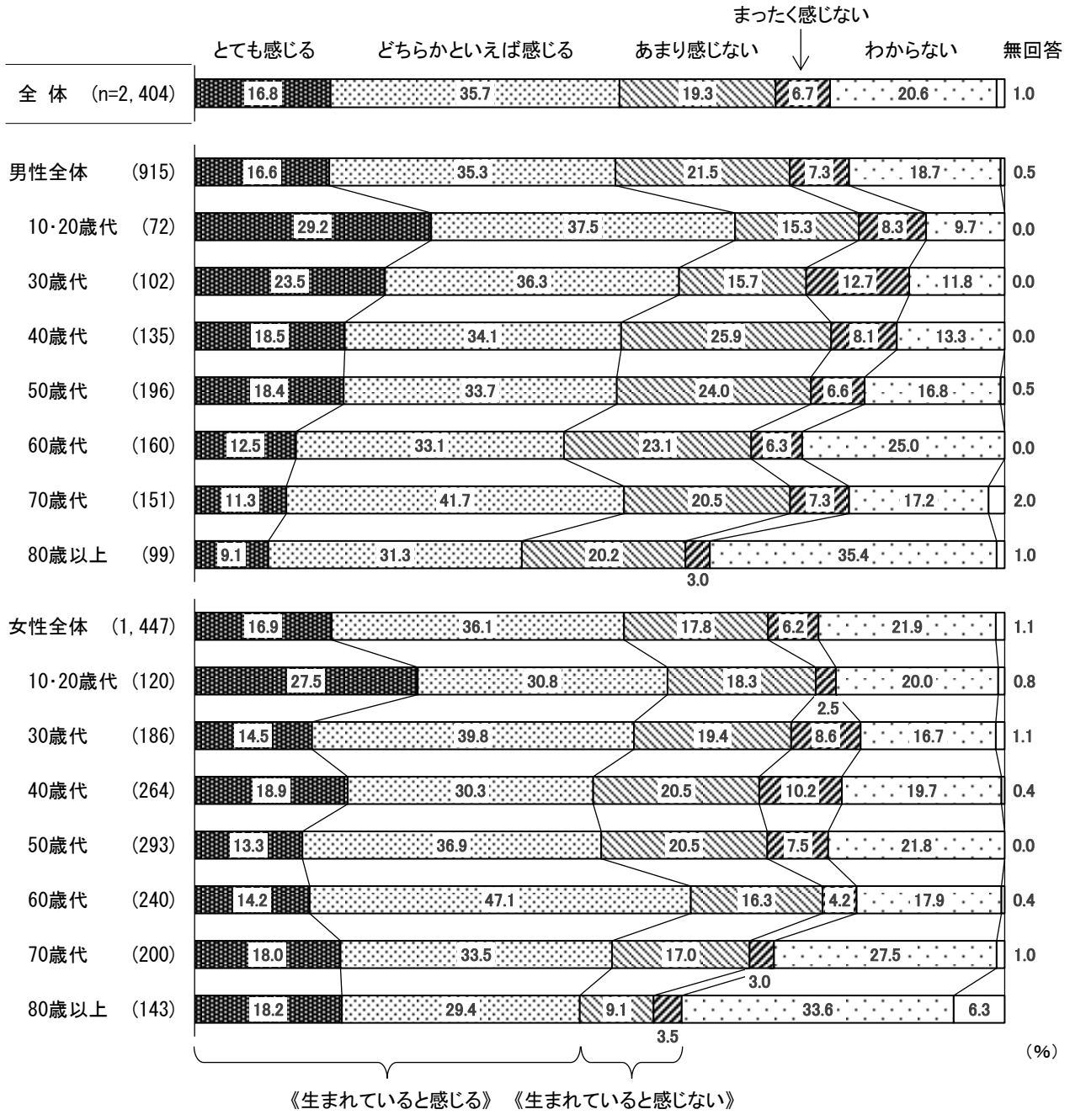
問３４　あなたは、スポーツを通じて新たな交流が生まれていると感じますか。（○は１つ）

図１２－３－１



スポーツを通じて新たな交流が生まれていると感じるか聞いたところ、「どちらかといえば感じる」（35.7%）が３割半ばで、「とても感じる」（16.8%）と合わせた《生まれていると感じる》（52.5%）が５割を超える。「あまり感じない」（19.3%）と「まったく感じない」（6.7%）を合わせた《生まれていると感じない》（25.9%）は２割半ばとなっている。（図１２－３－１）

図１２－３－２　スポーツの新たな交流への貢献度（性・年齢別）



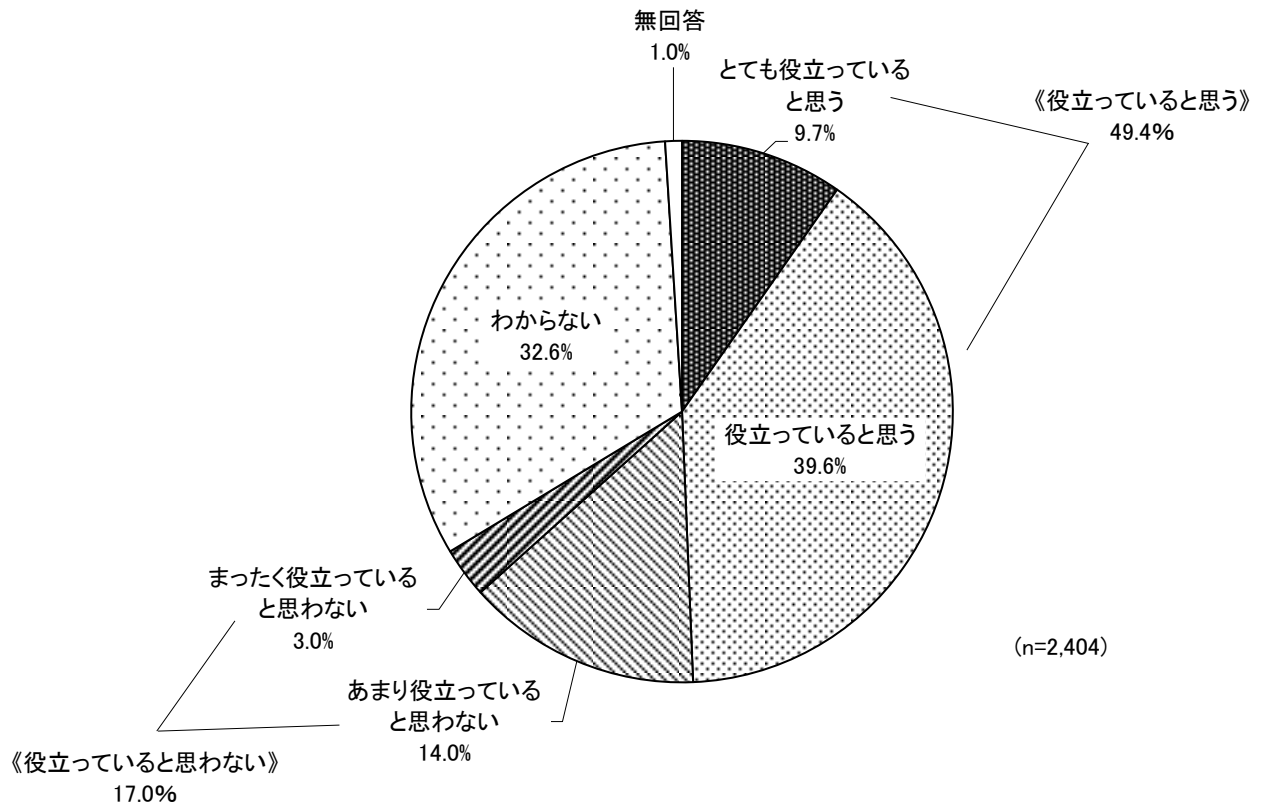
性・年齢別にみると、《生まれていると感じる》は男性の 10・20 歳代で７割近く、女性の 60 歳代で６割を超え、男性の 30 歳代で６割、女性の 10・20 歳代で６割近くとなっている。《生まれていると感じない》は男性の 40 歳代で３割半ば、男性の 50 歳代と 60 歳代、女性の 40 歳代でほぼ３割となっている。（図１２－３－２）

（４）スポーツの地域の活性化への役立ち度

◎地域の活性化に《役立っていると思う》がほぼ５割

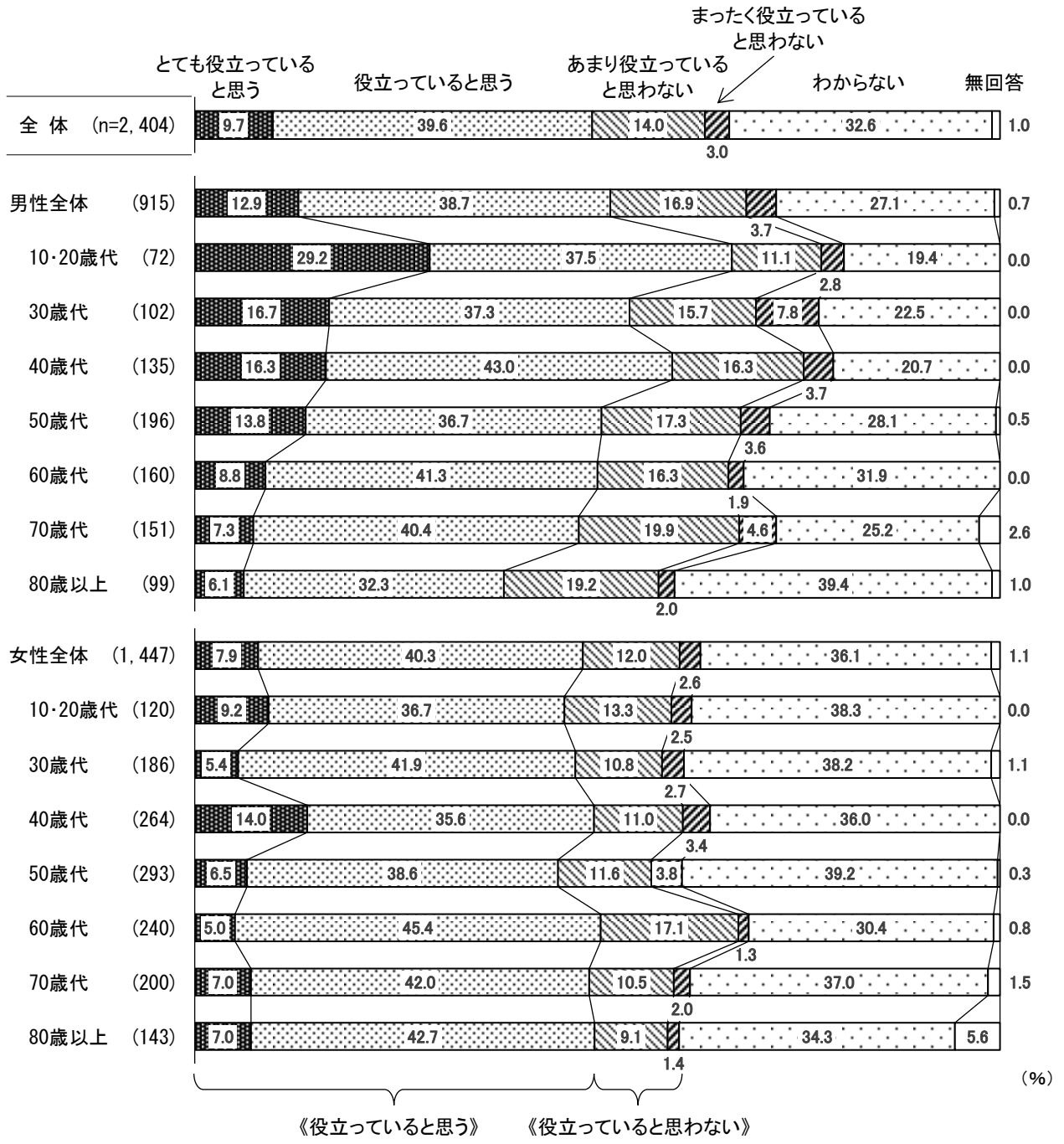
問３５　あなたは、スポーツが地域の活性化に役立っていると思いますか。（○は１つ）

図１２－４－１



スポーツが地域の活性化に役立っていると思うか聞いたところ、「役立っていると思う」（39.6%）が４割で、「とても役立っていると思う」（9.7%）と合わせた《役立っていると思う》（49.4%）がほぼ５割となっている。「あまり役立っていると思わない」（14.0%）と「まったく役立っていると思わない」（3.0%）を合わせた《役立っていると思わない》（17.0%）は２割近くとなっている。（図１２－４－１）

図１２－４－２　スポーツの地域の活性化への役立ち度（性・年齢別）



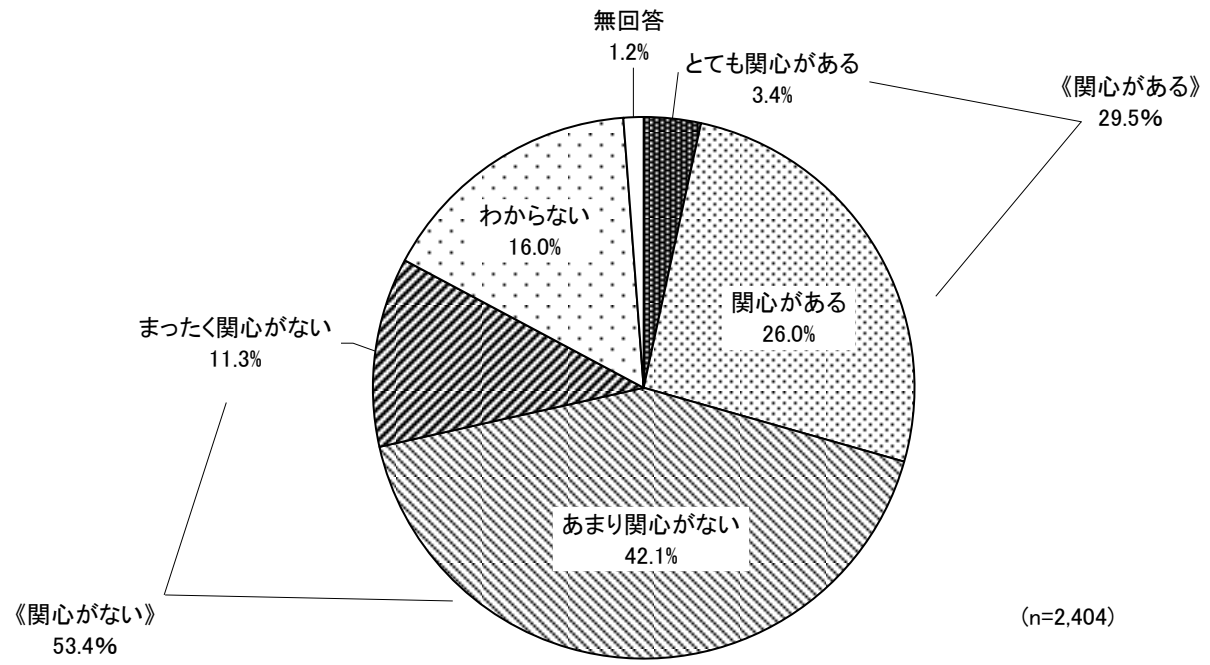
性・年齢別にみると、《役立っていると思う》は男性の 10・20 歳代で７割近く、男性の 40 歳代でほぼ６割、男性の 30 歳代で５割を超える。《役立っていると思わない》は男性の 70 歳代で２割半ば、男性の 30 歳代と 80 歳以上で２割を超えている。「わからない」は男性の 60 歳代と 80 歳以上、女性のすべての年代で３割台となっている。（図１２－４－２）

（５）ユニバーサルスポーツの関心度

◎《関心がある》が３割、《関心がない》が５割を超える

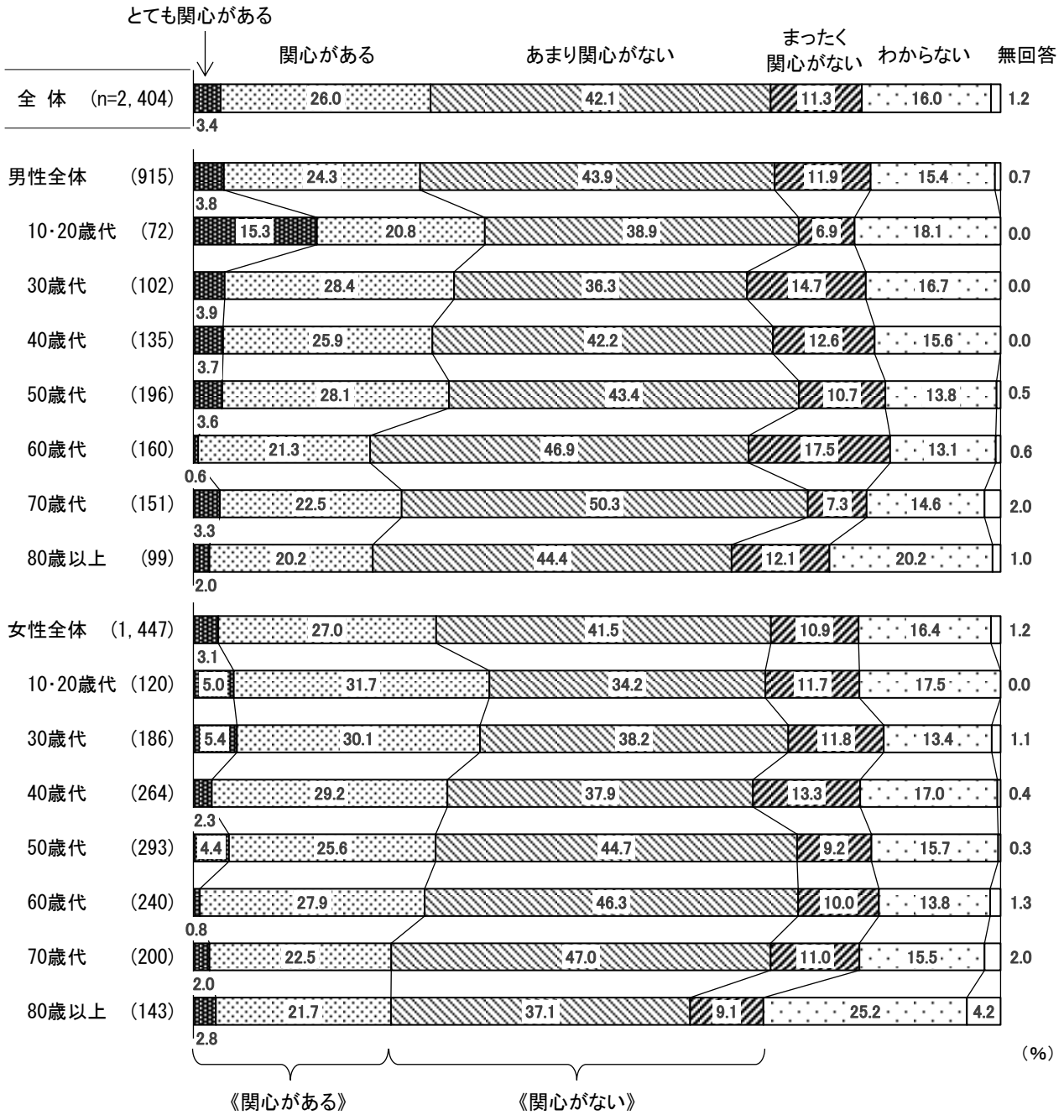
問３６　あなたは、ユニバーサルスポーツに関心がありますか。（○は１つ）

図１２－５－１



ユニバーサルスポーツに関心があるか聞いたところ、「あまり関心がない」（42.1%）が４割を超え、「まったく関心がない」（11.3%）と合わせた《関心がない》（53.4%）が５割を超えている。「関心がある」（26.0%）と「とても関心がある」（3.4%）を合わせた《関心がある》（29.5%）は３割となっている。（図１２－５－１）

図１２－５－２　ユニバーサルスポーツの関心度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「とても関心がある」は男性 10・20 歳代で１割半ばと高い。《関心がある》は男女とも若年層の方が高く、女性の 10・20 歳代で４割近く、男性の 10・20 歳代、女性の 30 歳代で３割半ばとなっている。《関心がない》は男性の 60 歳代で６割半ば、男性の 70 歳代と 80 歳以上、女性の 70 歳代で６割近くとなっている。（図１２－５－２）

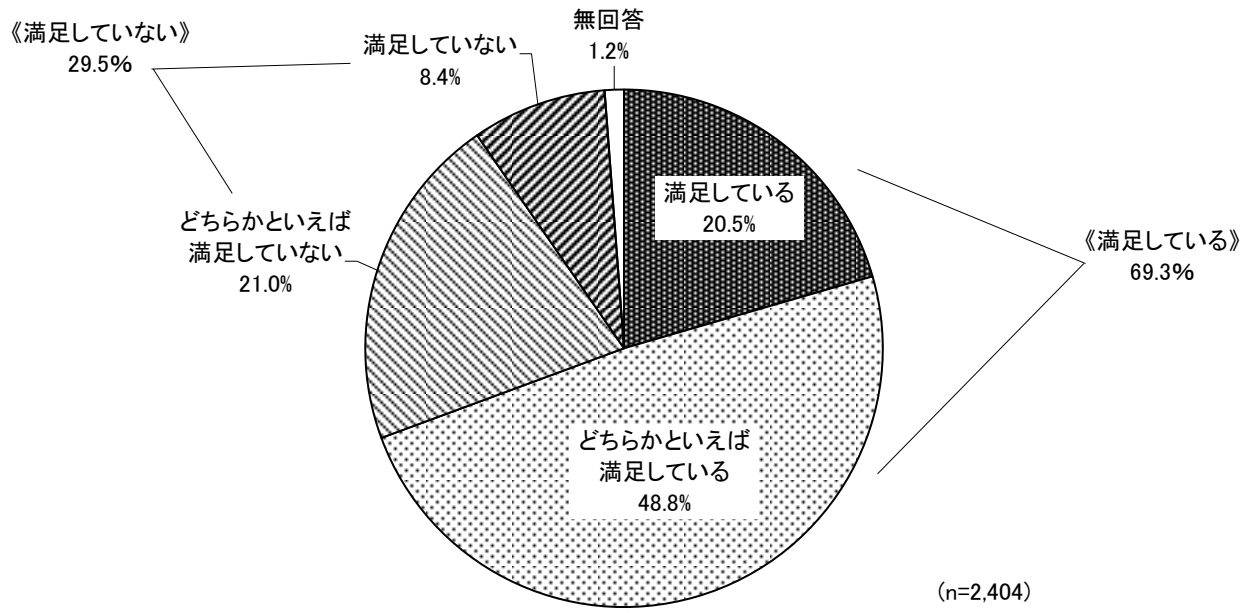
13. 交通

（１）区の交通手段の満足度

◎《満足している》がほぼ７割、《満足していない》が３割

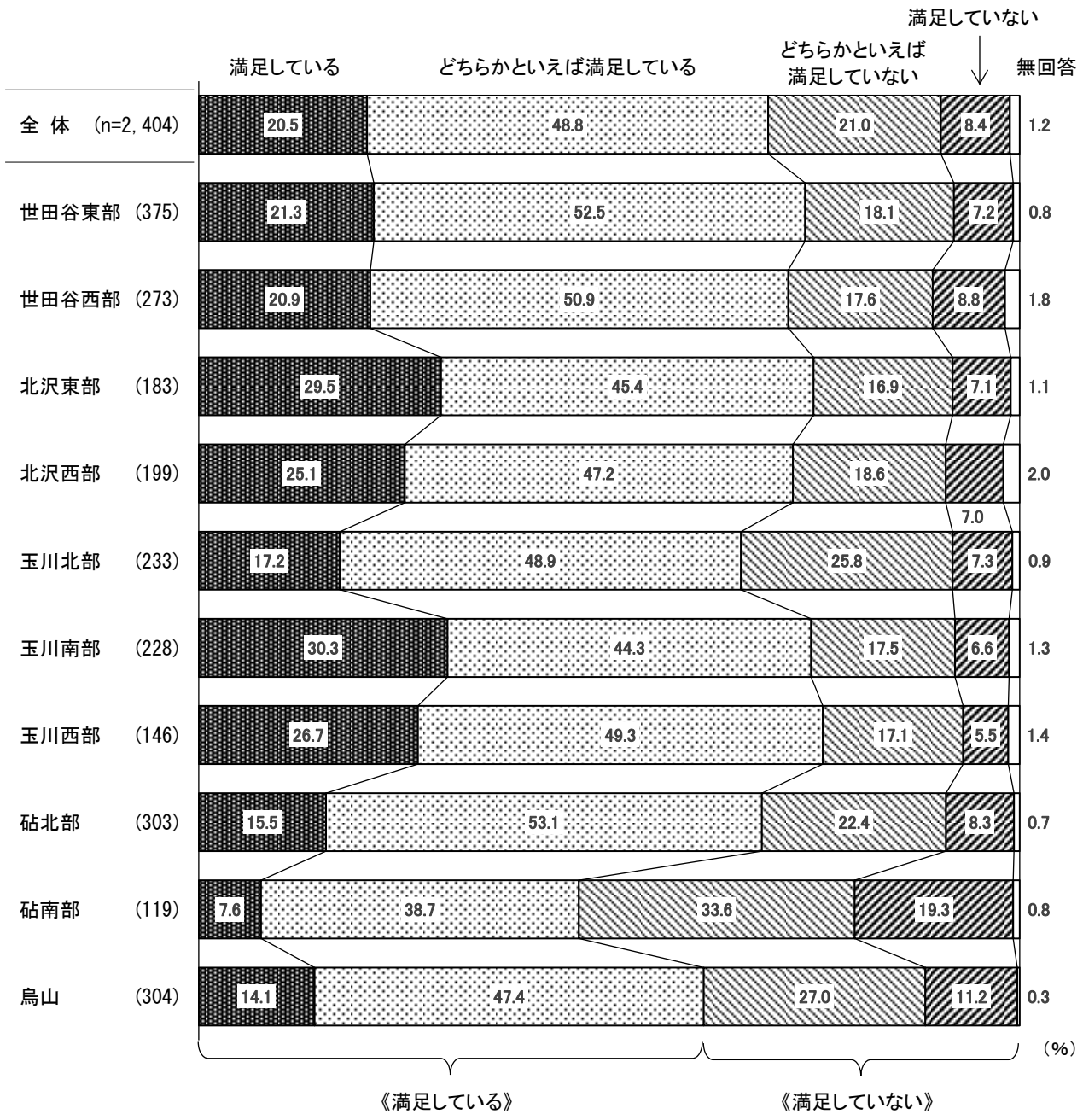
問３７　あなたは、区内の交通手段（移動手段）に満足していますか。（○は１つ）

図１３－１－１



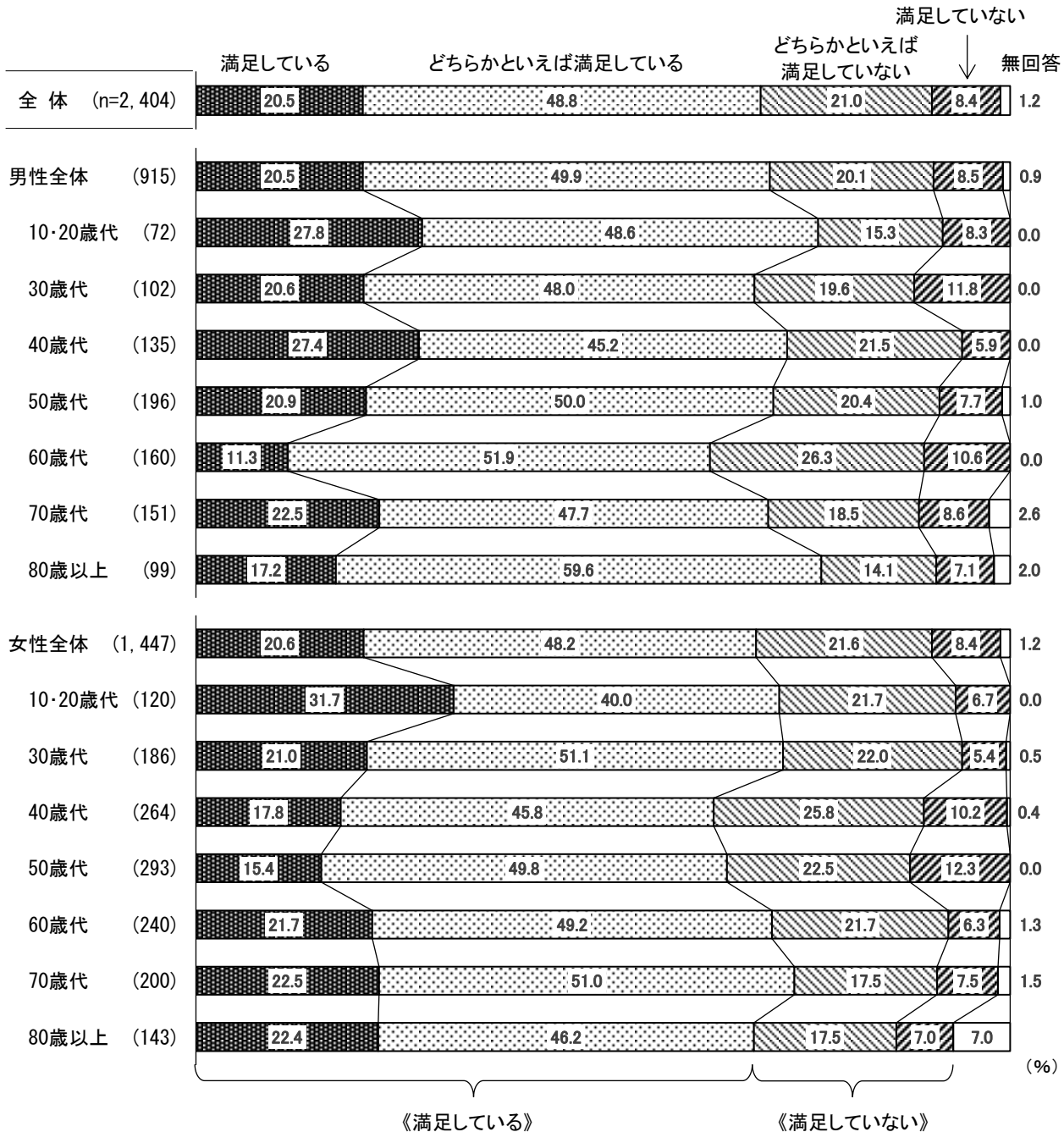
区内の交通手段に満足しているか聞いたところ、「どちらかといえば満足している」（48.8%）が５割近くで最も高く、「満足している」（20.5%）と合わせた《満足している》（69.3%）がほぼ７割となっている。「どちらかといえば満足していない」（21.0%）と「満足していない」（8.4%）を合わせた《満足していない》（29.5%）は３割となっている。（図１３－１－１）

図１３－１－２　区の交通手段の満足度（地域別）



地域別にみると、「満足している」は玉川南部、北沢東部で３割となっている。《満足している》は玉川西部、北沢東部、玉川南部で７割半ばと高く、砧南部で４割半ばと低い。《満足していない》は砧南部で５割を超え、烏山で４割近くとなっている。（図１３－１－２）

図１３－１－３　区の交通手段の満足度（性・年齢別）



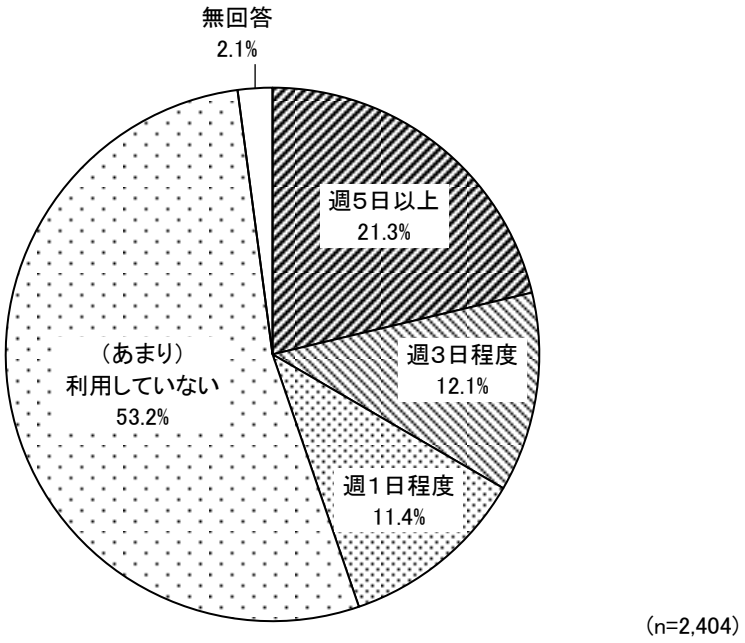
性・年齢別にみると、「満足している」は女性の 10・20 歳代で３割を超え、男性の 10・20 歳代と 40 歳代で３割近くとなっている。《満足している》は男性の 80 歳以上で８割近く、男性の 10・20 歳代で７割半ばとなっている。《満足していない》は男性の 60 歳代で４割近く、女性の 40 歳代と 50 歳代で３割半ばとなっている。（図１３－１－３）

（２）自転車利用頻度

◎「（あまり）利用していない」が５割を超え、「週５日以上」が２割を超える

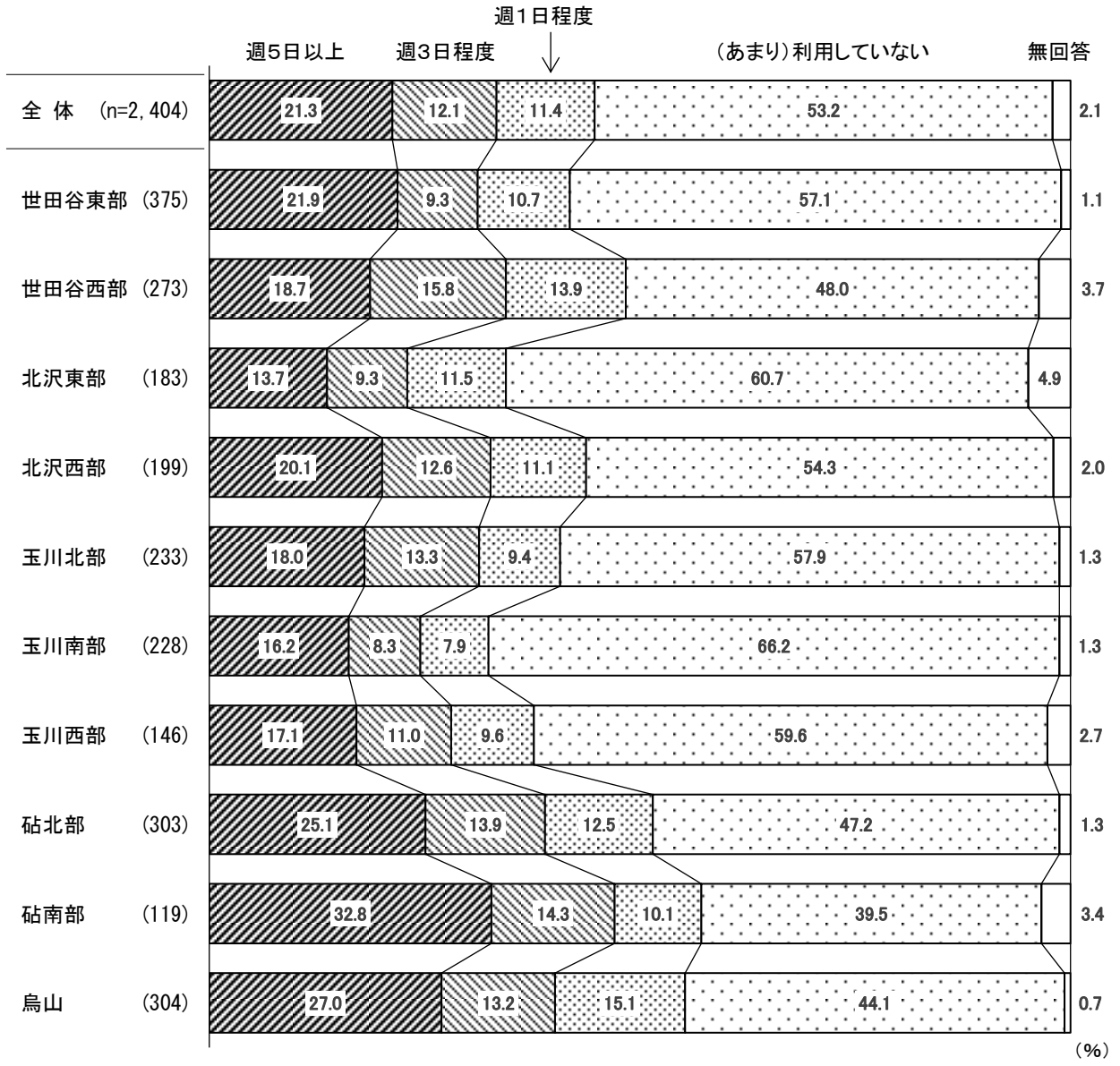
問３８　あなたは、ふだん、どのくらい自転車を利用していますか。（○は１つ）

図１３－２－１



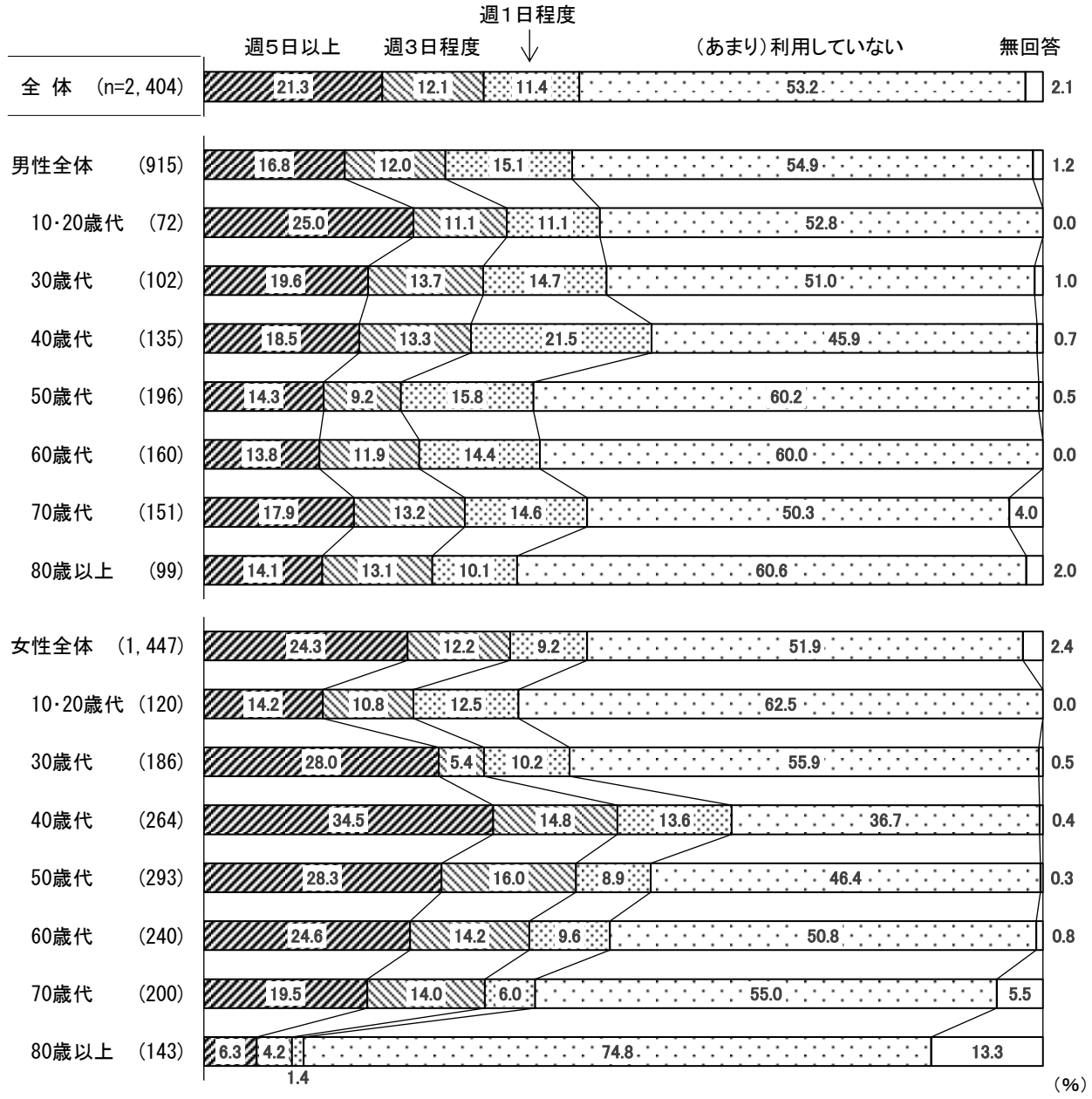
ふだんの自転車の利用頻度を聞いたところ、「（あまり）利用していない」（53.2%）が５割を超えて最も高く、以下、「週５日以上」（21.3%）、「週３日程度」（12.1%）、「週１日程度」（11.4%）と続く。（図１３－２－１）

図１３－２－２　自転車利用頻度（地域別）



地域別にみると、「週５日以上」は砧南部で３割を超え、烏山で３割近く、砧北部で２割半ばとなっている。「（あまり）利用していない」は玉川南部で６割半ば、北沢東部でほぼ６割、玉川西部で６割となっている。（図１３－２－２）

図１３－２－３　自転車利用頻度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「週５日以上」は女性の 40 歳代で３割半ば、女性の 30 歳代と 50 歳代で３割近くとなっている。「（あまり）利用していない」は女性の 80 歳以上で７割半ば、女性の 10・20 歳代で６割を超え、男性の 80 歳以上でほぼ６割、男性の 50 歳代と 60 歳代で６割となっている。

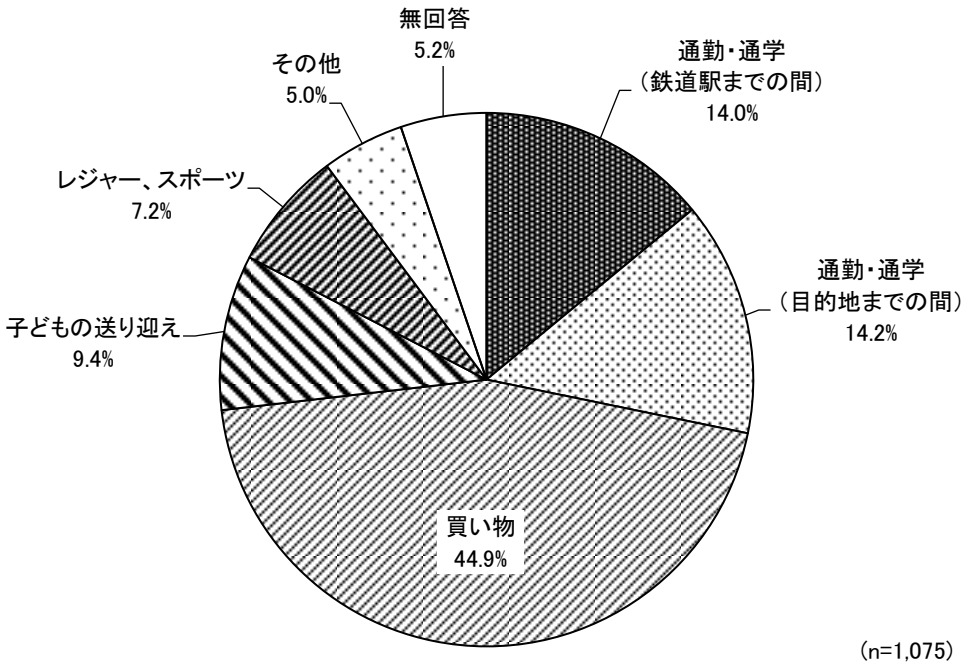
（図１３－２－３）

（３）主な自転車利用用途

◎「買い物」が４割半ば

（問３８で「週５日以上」または「週３日程度」または「週１日程度」と答えた方に）
問３８－１　自転車を利用する主な用途は何ですか。（○は１つ）

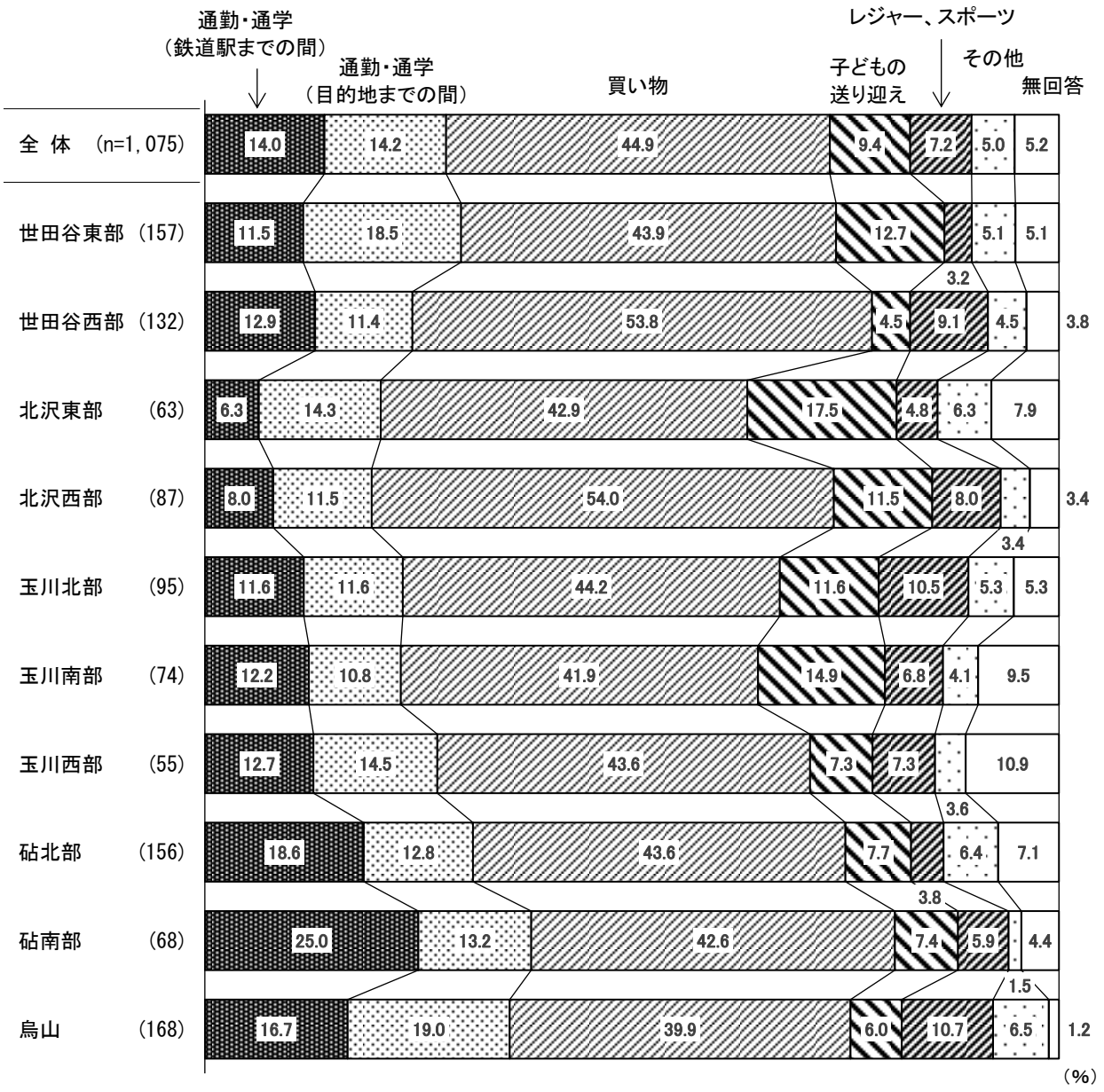
図１３－３－１



ふだんの自転車の利用頻度が「週５日以上」または「週３日程度」または「週１日程度」と答えた方（1,075 人）に、自転車を利用する主な用途を聞いたところ、「買い物」（44.9%）が４割半ばで最も高く、以下、「通勤・通学（目的地までの間）」（14.2%）、「通勤・通学（鉄道駅までの間）」（14.0%）、「子どもの送り迎え」（9.4%）、「レジャー、スポーツ」（7.2%）などと続く。

（図１３－３－１）

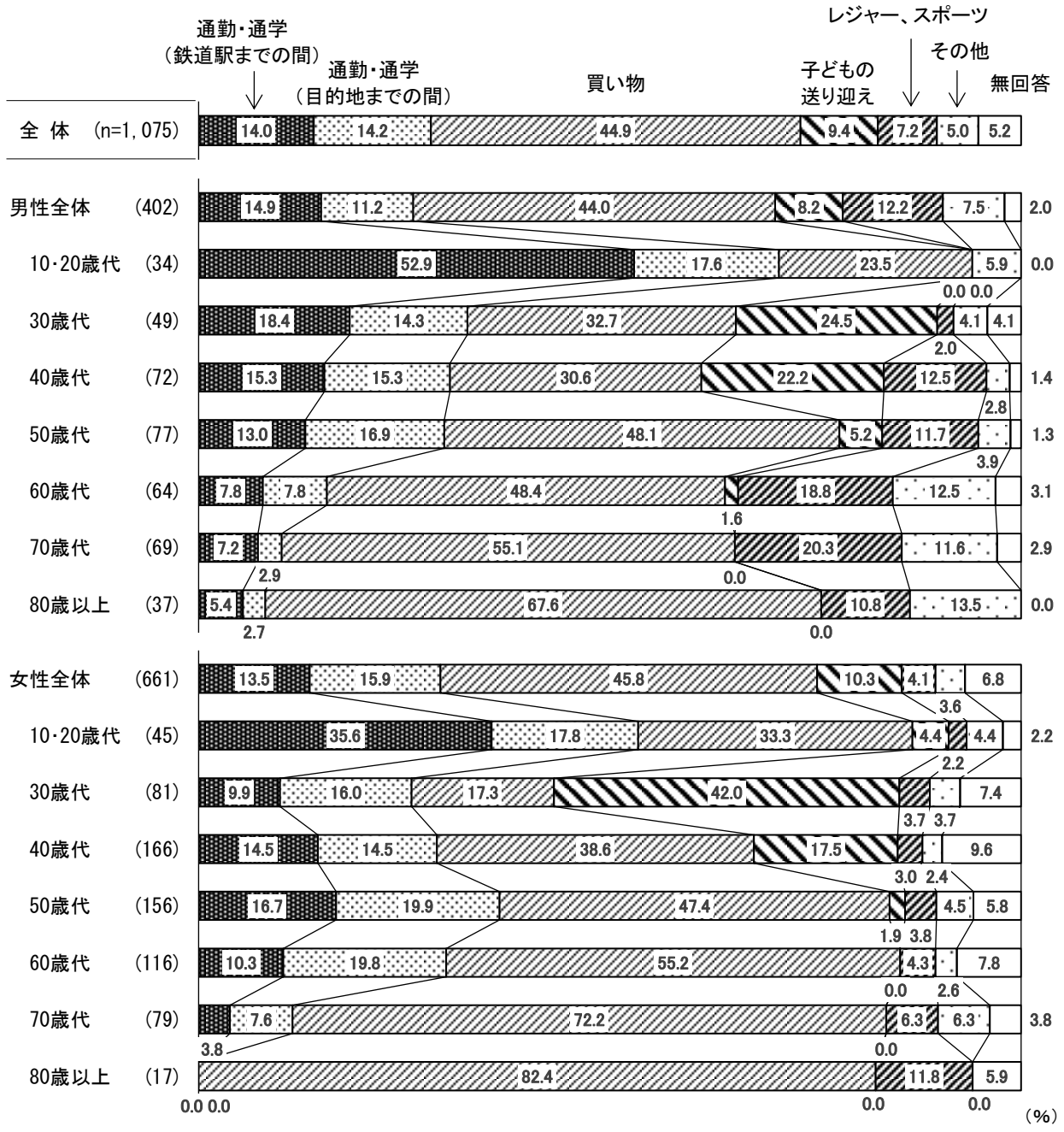
図１３－３－２　主な自転車利用用途（地域別）



地域別にみると、「買い物」は北沢西部で５割半ば、世田谷西部で５割を超えている。「通勤・通学（目的地までの間）」は烏山でほぼ２割、世田谷東部で２割近く、「通勤・通学（鉄道駅までの間）」は砧南部で２割半ば、「子どもの送り迎え」は北沢東部で２割近くとなっている。

（図１３－３－２）

図１３－３－３　主な自転車利用用途（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「買い物」は女性の 70 歳代で７割を超え、男性の 80 歳以上で７割近く、男性の 70 歳代、女性の 60 歳代で５割半ばとなっている。「通勤・通学（鉄道駅までの間）」は男女とも 10・20 歳代が高く、男性は５割を超え、女性は３割半ばとなっている。「子どもの送り迎え」は女性の 30 歳代で４割を超えている。（図１３－３－３）

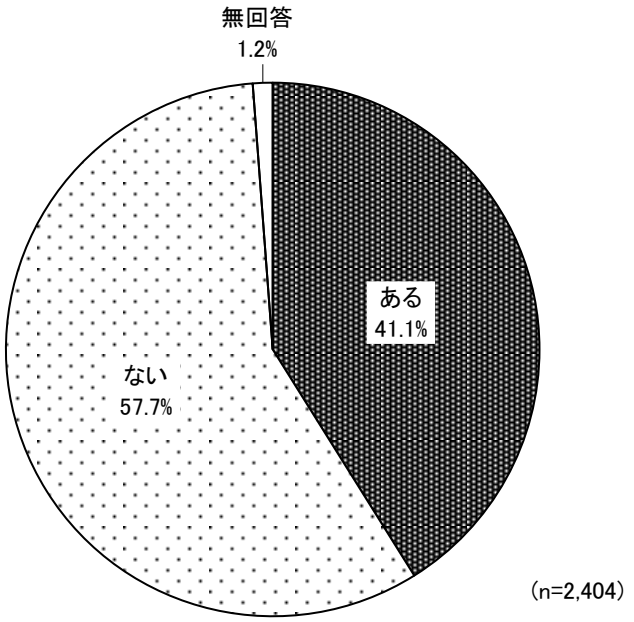
なお、基数(n)が 30 に満たない層については参考値とする。

（４）歩行時の自転車との接触有無

◎「ある」が４割を超える

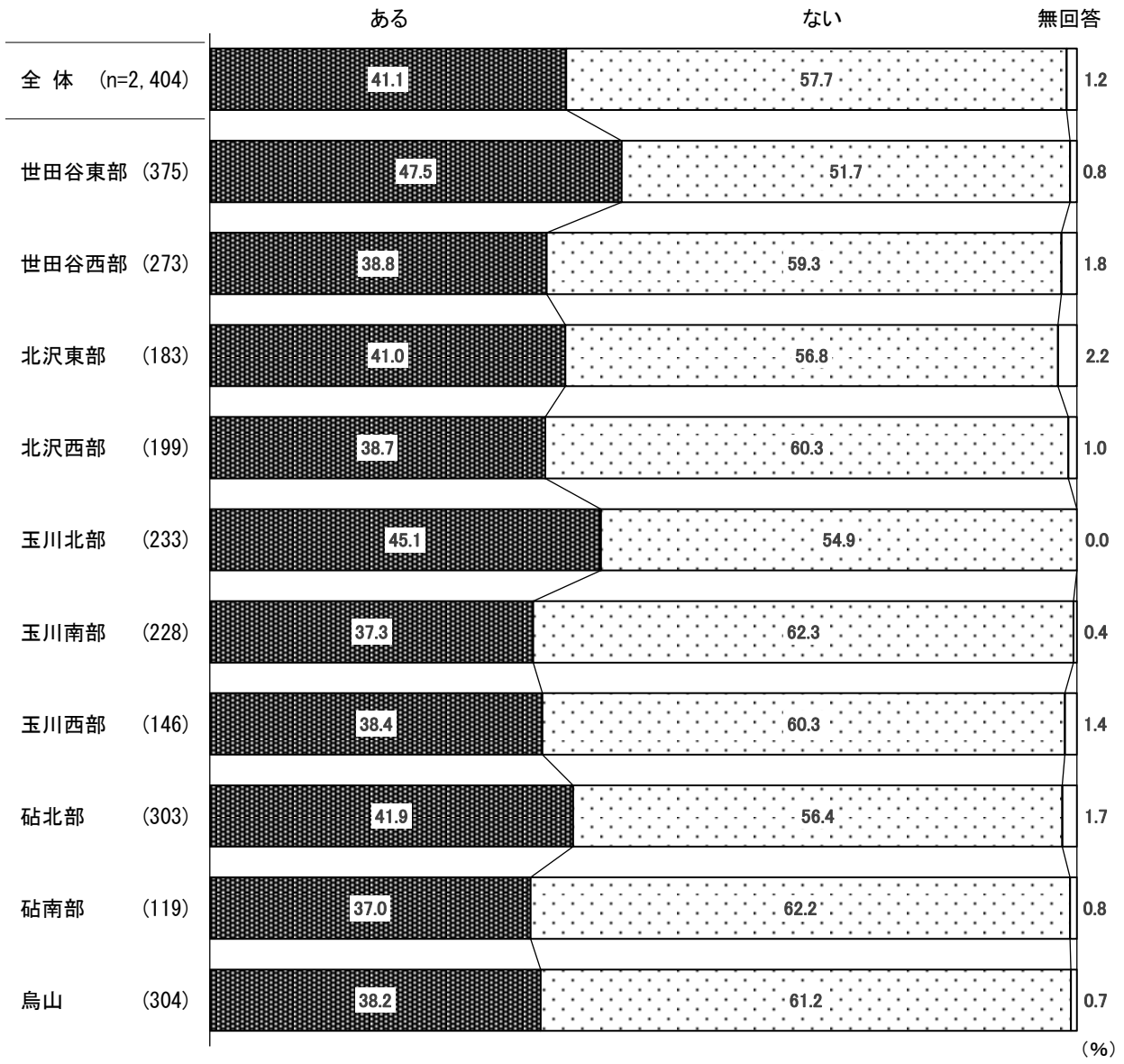
問３９　あなたは、ここ１年間で歩行時に自転車とぶつかった、あるいはぶつかりそうになったことがありますか。（○は１つ）

図１３－４－１



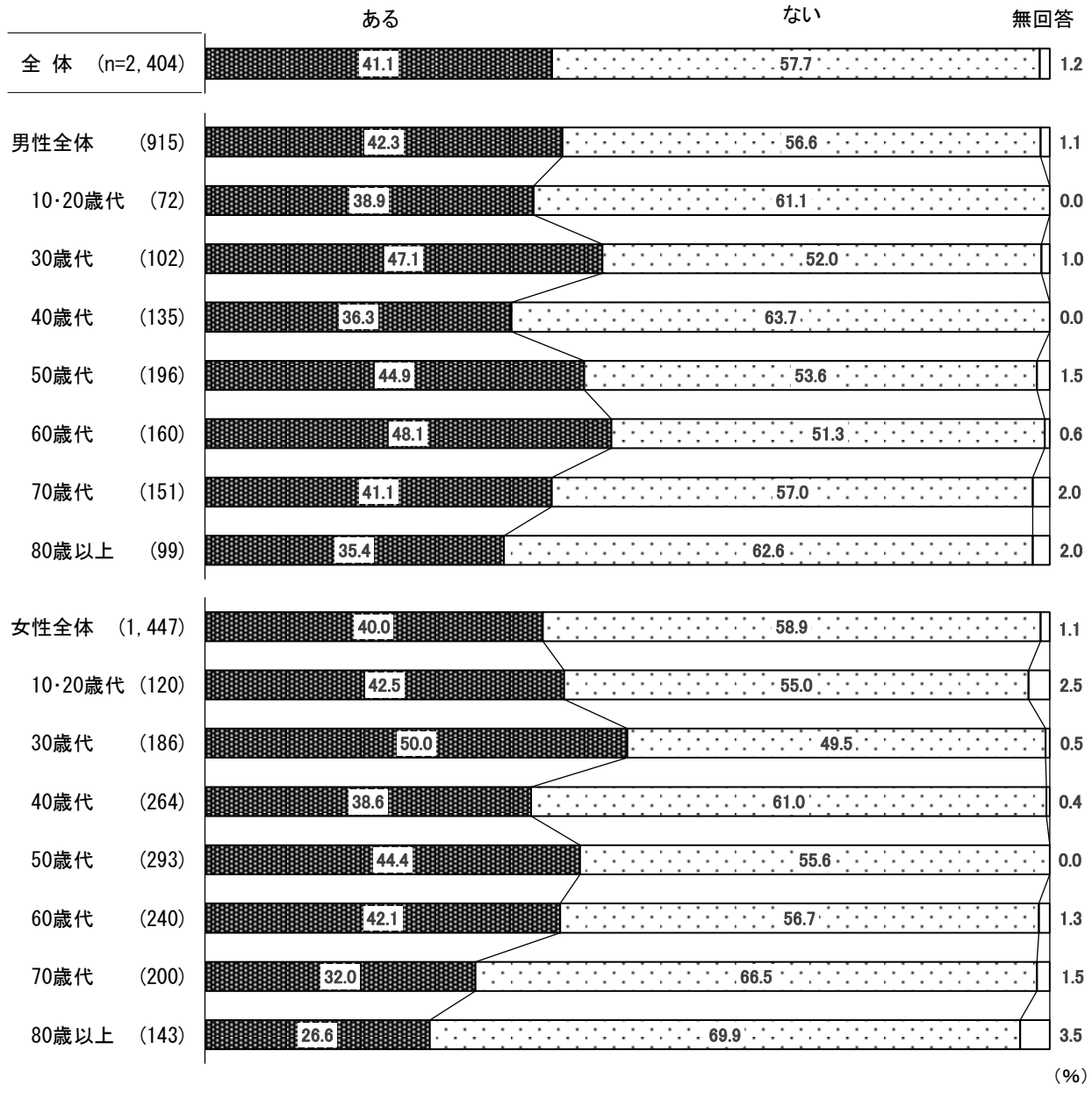
ここ１年間で歩行時に自転車とぶつかった、あるいはぶつかりそうになったか聞いたところ、「ある」（41.1%）が４割を超え、「ない」（57.7%）が６割近くとなっている。（図１３－４－１）

図１３－４－２　歩行時の自転車との接触有無（地域別）



地域別にみると、「ある」は世田谷東部で５割近く、玉川北部で４割半ば、砧北部、北沢東部で４割を超えている。（図１３－４－２）

図１３－４－３　歩行時の自転車との接触有無（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「ある」は女性の 30 歳代で５割、男性の 30 歳代と 60 歳代で５割近く、男性の 50 歳代、女性の 50 歳代で４割半ば、男性の 70 歳代、女性の 10・20 歳代と 60 歳代で４割を超えている。（図１３－４－３）

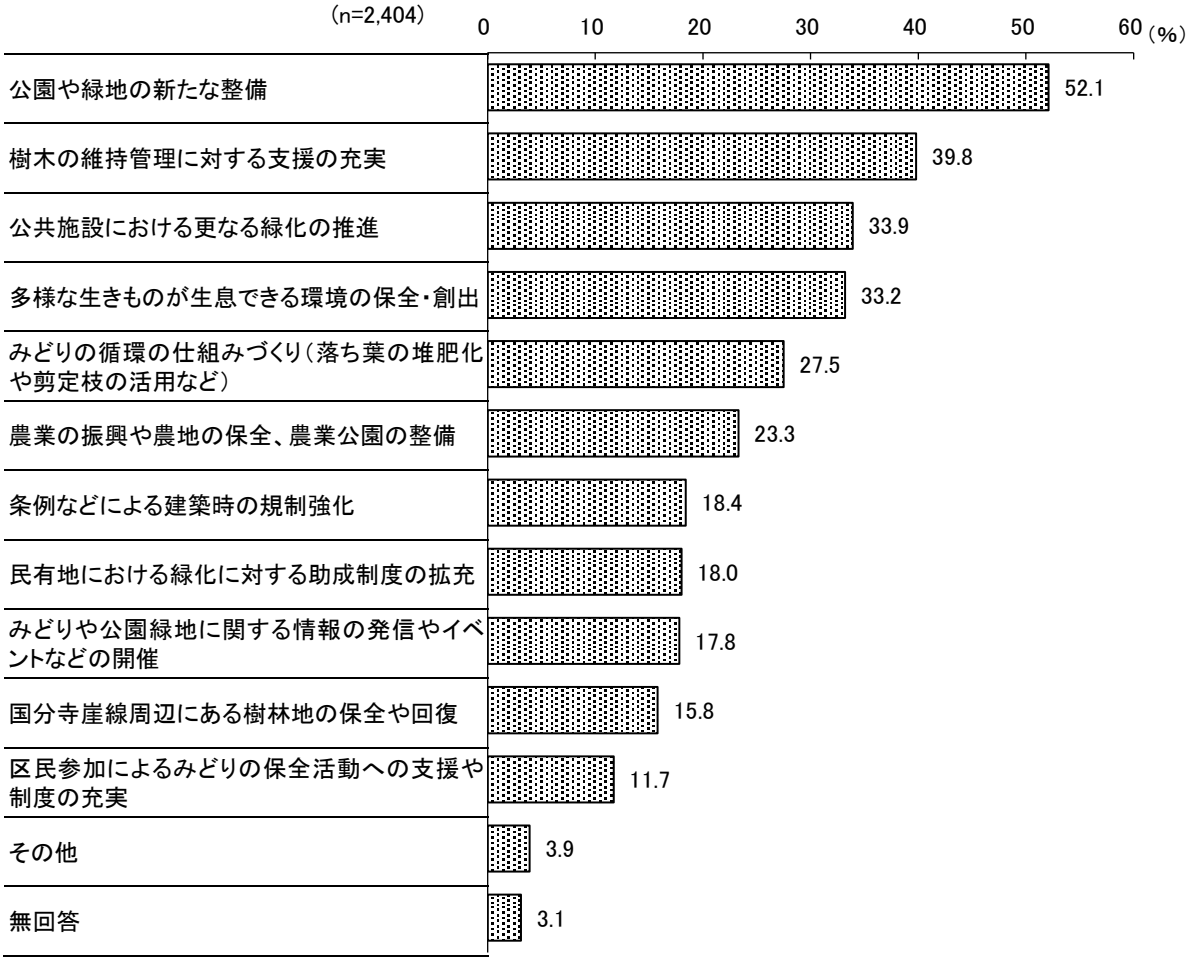
14. みどり

（１）みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと

◎「公園や緑地の新たな整備」が５割を超える

問４０　みどりを守り増やすために、区に取り組んでほしいことは何ですか。（○はいくつでも）

図１４－１－１



みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいことを聞いたところ、「公園や緑地の新たな整備」（52.1%）が５割を超えて最も高く、以下、「樹木の維持管理に対する支援の充実」（39.8%）、「公共施設における更なる緑化の推進」（33.9%）、「多様な生きものが生息できる環境の保全・創出」（33.2%）、「みどりの循環の仕組みづくり（落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など）」（27.5%）などと続く。（図１４－１－１）

表１４－１－１　みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと（地域別）

（%）

		n	公園や緑地の新たな整備	樹木の維持管理に対する支援の充実	公共施設における更なる緑化の推進	多様な生きものが生息できる環境の保全・創出	みどりの循環の仕組みづくり（落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など）	農業の振興や農地の保全、農業公園の整備	条例などによる建築時の規制強化	民有地における緑化に対する助成制度の拡充	みどりや公園緑地に関する情報の発信やイベントなどの開催	国分寺崖線周辺にある樹林地の保全や回復	区民参加によるみどりの保全活動への支援や制度の充実	その他	無回答
全　体		2,404	52.1	39.8	33.9	33.2	27.5	23.3	18.4	18.0	17.8	15.8	11.7	3.9	3.1
地域別	世田谷東部	375	54.4	39.5	33.6	32.5	30.4	21.1	17.1	17.3	21.6	13.6	12.8	3.5	3.5
	世田谷西部	273	49.1	39.2	33.3	30.8	24.9	23.4	20.5	16.1	16.8	13.6	8.1	3.7	3.3
	北沢東部	183	55.7	42.6	35.0	31.1	27.3	20.2	16.4	17.5	18.0	9.3	11.5	4.9	2.7
	北沢西部	199	55.3	35.2	36.7	32.7	31.2	24.1	16.6	17.1	16.6	9.0	13.6	3.0	5.0
	玉川北部	233	49.8	34.8	37.8	36.9	29.2	21.5	15.5	17.2	18.5	12.9	12.4	3.9	2.6
	玉川南部	228	56.6	40.8	36.8	35.1	27.2	19.7	18.4	22.4	16.7	14.5	11.0	3.9	0.9
	玉川西部	146	56.8	41.8	34.2	38.4	28.1	25.3	26.0	19.9	21.9	34.2	12.3	1.4	2.1
	砧北部	303	49.2	43.6	32.0	33.0	26.7	26.4	21.5	20.8	17.2	24.4	13.5	5.3	2.6
	砧南部	119	43.7	42.9	31.9	42.0	35.3	31.1	16.8	15.1	17.6	18.5	15.1	3.4	5.0
	烏山	304	51.6	37.5	29.9	27.3	19.4	23.7	16.4	16.4	15.1	12.5	8.9	4.6	3.0

地域別にみると、「公園や緑地の新たな整備」は玉川西部、玉川南部で６割近く、北沢東部、北沢西部、世田谷東部で５割半ばとなっている。「樹木の維持管理に対する支援の充実」は砧北部、砧南部、北沢東部、玉川西部で４割を超え、「公共施設における更なる緑化の推進」は玉川北部、玉川南部、北沢西部で４割近く、「多様な生きものが生息できる環境の保全・創出」は砧南部で４割を超え、玉川西部、玉川北部で４割近くとなっている。「みどりの循環の仕組みづくり（落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など）」は砧南部が３割半ば、「農業の振興や農地の保全、農業公園の整備」も砧南部が３割を超えている。「国分寺崖線周辺にある樹林地の保全や回復」は玉川西部が３割半ば、砧北部が２割半ばとなっている。（表１４－１－１）

表１４－１－２　みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと（性・年齢別）

（%）

		n	公園や緑地の新たな整備	樹木の維持管理に対する支援の充実	公共施設における更なる緑化の推進	多様な生きものが生息できる環境の保全・創出	みどりの循環の仕組みづくり（落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など）	農業の振興や農地の保全、農業公園の整備	条例などによる建築時の規制強化	民有地における緑化に対する助成制度の拡充	みどりや公園緑地に関する情報の発信やイベントなどの開催	国分寺崖線周辺にある樹林地の保全や回復	区民参加によるみどりの保全活動への支援や制度の充実	その他	無回答
全　体		2,404	52.1	39.8	33.9	33.2	27.5	23.3	18.4	18.0	17.8	15.8	11.7	3.9	3.1
性・年齢別	男性全体	915	57.3	39.0	36.4	34.1	23.4	22.4	20.2	20.8	18.0	15.7	11.5	3.9	3.3
	10･20歳代	72	68.1	29.2	37.5	37.5	19.4	19.4	11.1	16.7	12.5	18.1	9.7	1.4	2.8
	30歳代	102	70.6	25.5	29.4	26.5	17.6	18.6	6.9	18.6	17.6	6.9	3.9	4.9	6.9
	40歳代	135	63.0	34.8	34.1	33.3	21.5	23.7	19.3	21.5	20.7	15.6	10.4	4.4	2.2
	50歳代	196	57.7	31.1	37.2	33.7	24.5	23.0	20.4	19.9	21.9	16.3	17.3	6.1	2.0
	60歳代	160	55.6	52.5	40.0	38.1	22.5	25.6	30.0	27.5	16.3	23.1	12.5	2.5	1.3
	70歳代	151	46.4	47.0	35.1	35.8	23.2	23.8	23.2	17.9	14.6	10.6	11.9	3.3	6.6
	80歳以上	99	46.5	47.5	40.4	32.3	34.3	18.2	21.2	20.2	19.2	18.2	8.1	3.0	2.0
	女性全体	1,447	48.9	40.7	32.8	33.2	30.0	24.0	17.3	16.5	17.9	16.0	11.7	3.7	2.8
	10･20歳代	120	58.3	34.2	31.7	36.7	22.5	19.2	10.0	10.8	11.7	19.2	12.5	2.5	－
	30歳代	186	63.4	28.5	28.0	37.6	26.9	22.6	12.4	17.2	18.3	10.8	11.8	1.6	2.2
	40歳代	264	52.3	34.1	33.7	34.1	32.2	22.3	14.4	15.2	16.7	15.2	10.6	3.0	1.5
	50歳代	293	42.3	50.9	34.8	36.5	31.7	28.0	19.8	16.4	14.0	21.2	11.3	6.1	0.7
	60歳代	240	46.7	46.3	33.8	30.4	29.2	30.0	16.3	18.8	22.1	12.9	15.8	2.5	2.1
	70歳代	200	42.0	43.0	35.5	29.5	30.0	23.5	29.0	20.5	24.0	19.5	11.5	3.5	3.5
	80歳以上	143	42.7	41.3	28.0	25.9	34.3	14.7	16.1	14.0	17.5	11.2	7.0	5.6	12.6

性・年齢別にみると、「公園や緑地の新たな整備」は高年層より若年層の方が高く、男性の 30 歳代でほぼ７割、男性の 10・20 歳代で７割近く、男性の 40 歳代、女性の 30 歳代で６割を超えている。「樹木の維持管理に対する支援の充実」は男性の 60 歳代で５割を超え、女性の 50 歳代でほぼ５割、男性の 70 歳代と 80 歳以上で５割近くとなっている。「公共施設における更なる緑化の推進」は男性の 60 歳代と 80 歳以上で４割、「多様な生きものが生息できる環境の保全・創出」は男性の 10・20 歳代と 60 歳代、女性の 10・20 歳代、30 歳代、50 歳代で４割近くとなっている。（表１４－１－２）

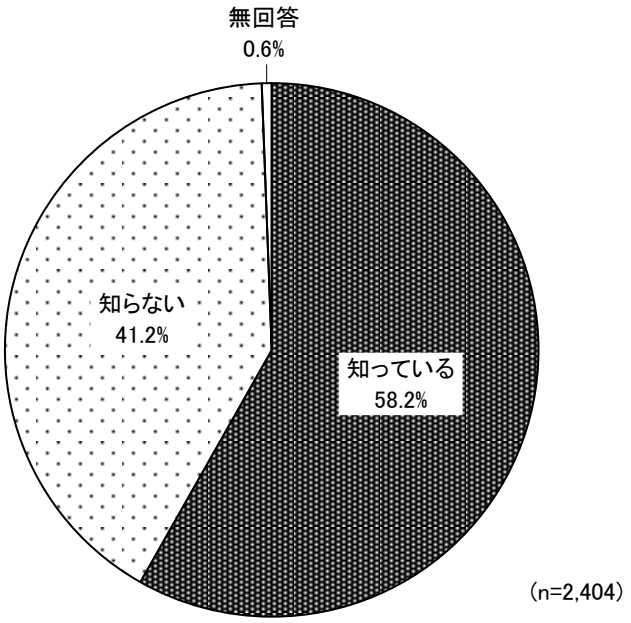
15. ふるさと納税

（１）「世田谷区民が世田谷区にふるさと納税ができる」ことの認知度

◎「知っている」が６割近く

問４１　世田谷区民も世田谷区にふるさと納税（寄附）をすることができ、所得税や住民税の控除も受けることができます。このことを知っていますか。（○は１つ）

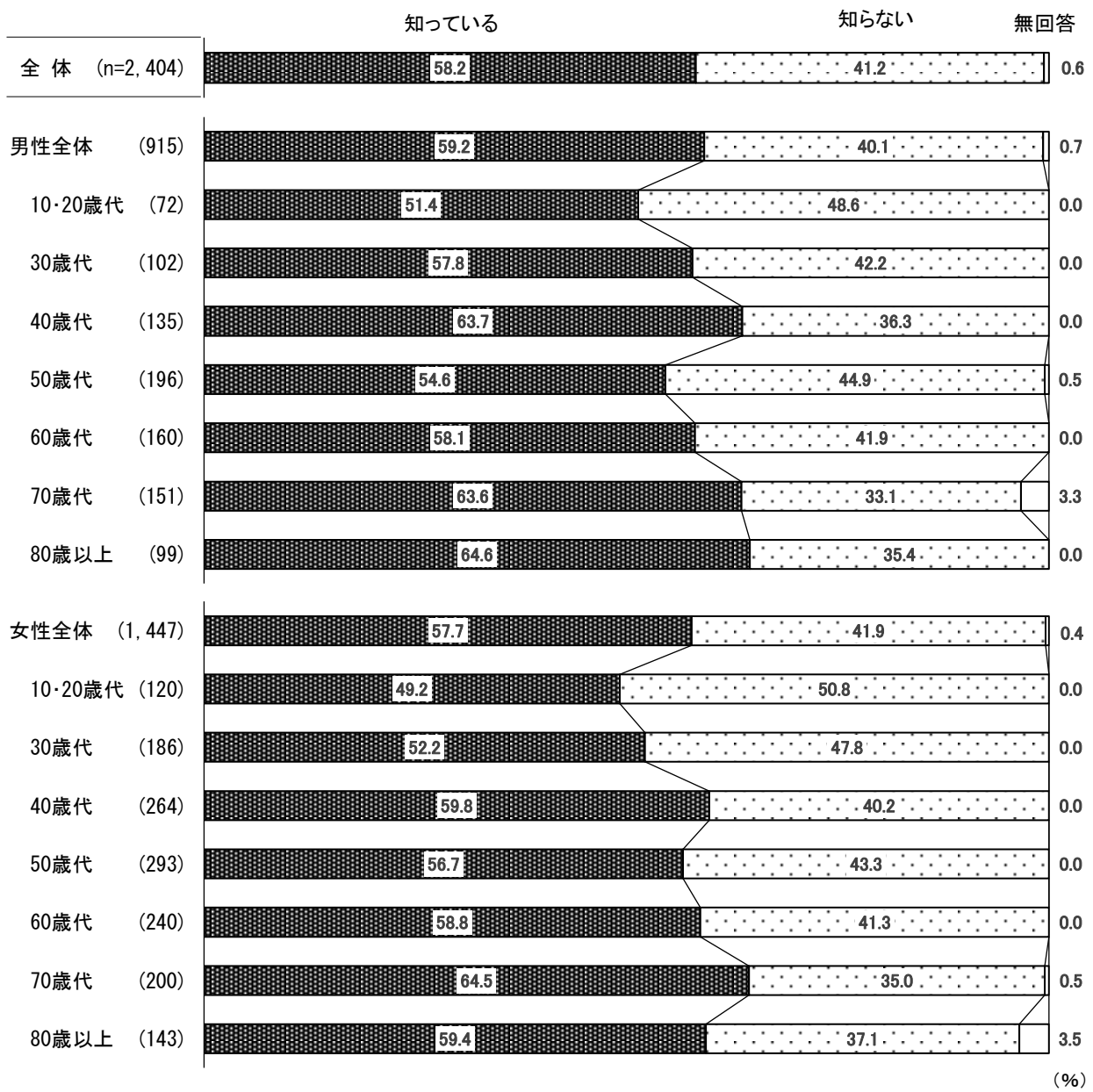
図１５－１－１



世田谷区民も世田谷区にふるさと納税をすることができ、税の控除が受けられることを知っているか聞いたところ、「知っている」（58.2%）が６割近く、「知らない」（41.2%）が４割を超えている。（図１５－１－１）

図１５－１－２　「世田谷区民が世田谷区にふるさと納税ができる」ことの認知度

（性・年齢別）

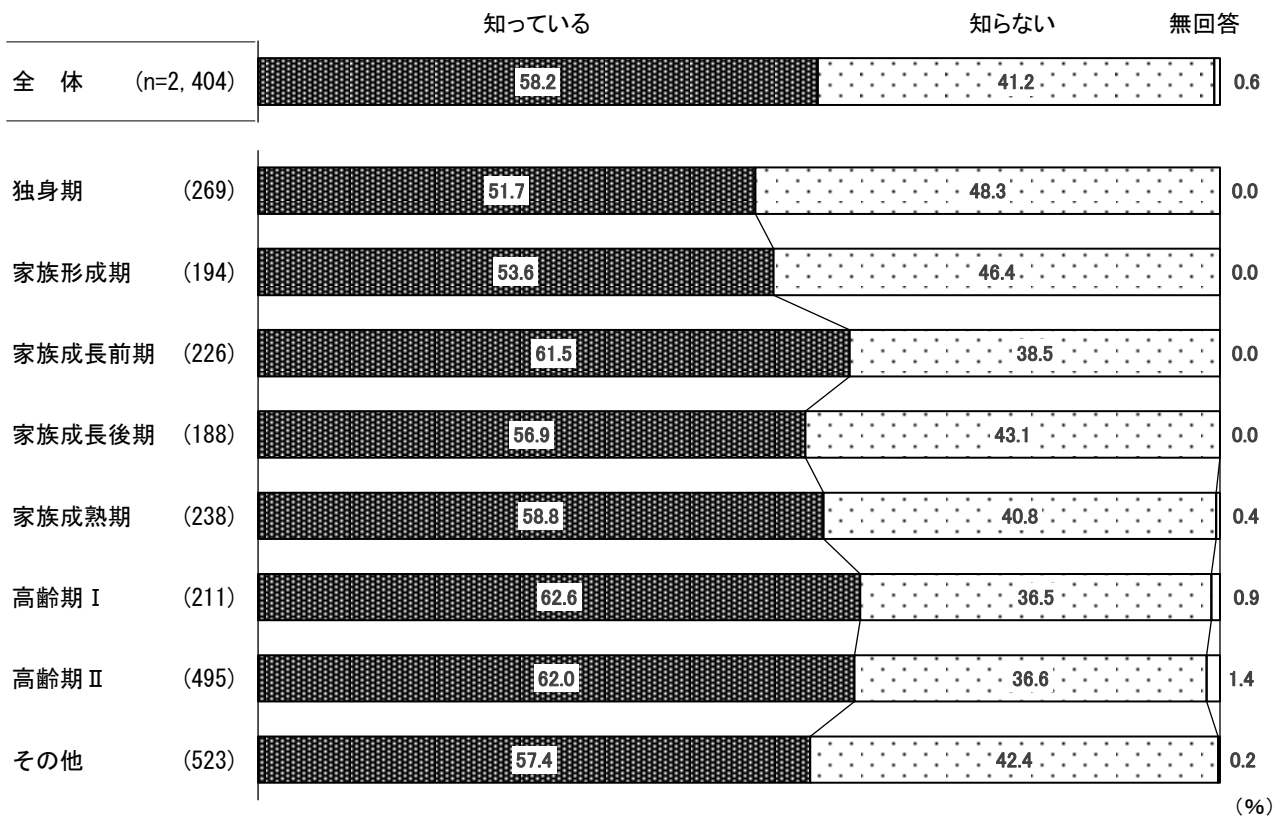


性・年齢別にみると、「知っている」は男性の 80 歳以上、女性の 70 歳代で６割半ば、男性の 40 歳代と 70 歳代で６割を超え、女性の 40 歳代で６割、女性の 80 歳以上でほぼ６割となっている。

（図１５－１－２）

図１５－１－３　「世田谷区民が世田谷区にふるさと納税ができる」ことの認知度

（ライフステージ別）



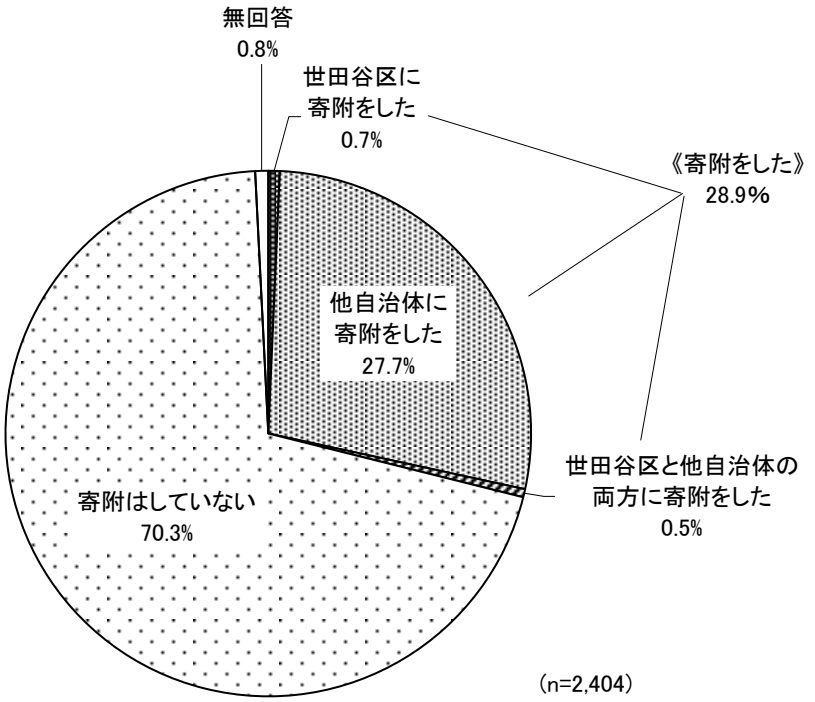
ライフステージ別にみると、「知っている」は家族成長前期、高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで６割を超え、それ以外のライフステージは５割台となっている。（図１５－１－３）

（２）「ふるさと納税」の経験

◎「寄附はしていない」が７割

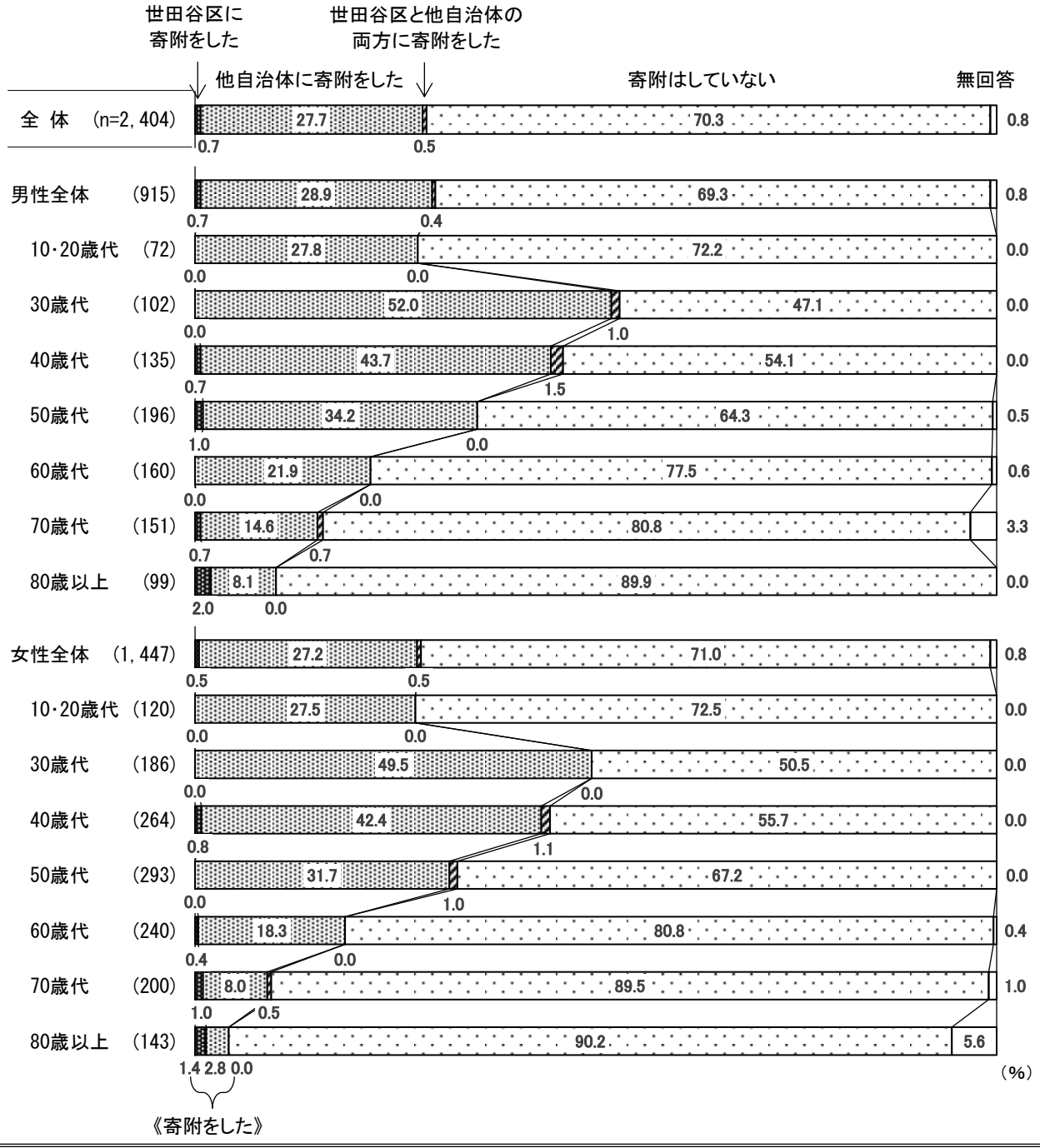
問４２　あなたは令和５年にふるさと納税（寄附）をしましたか。（○は１つ）

図１５－２－１



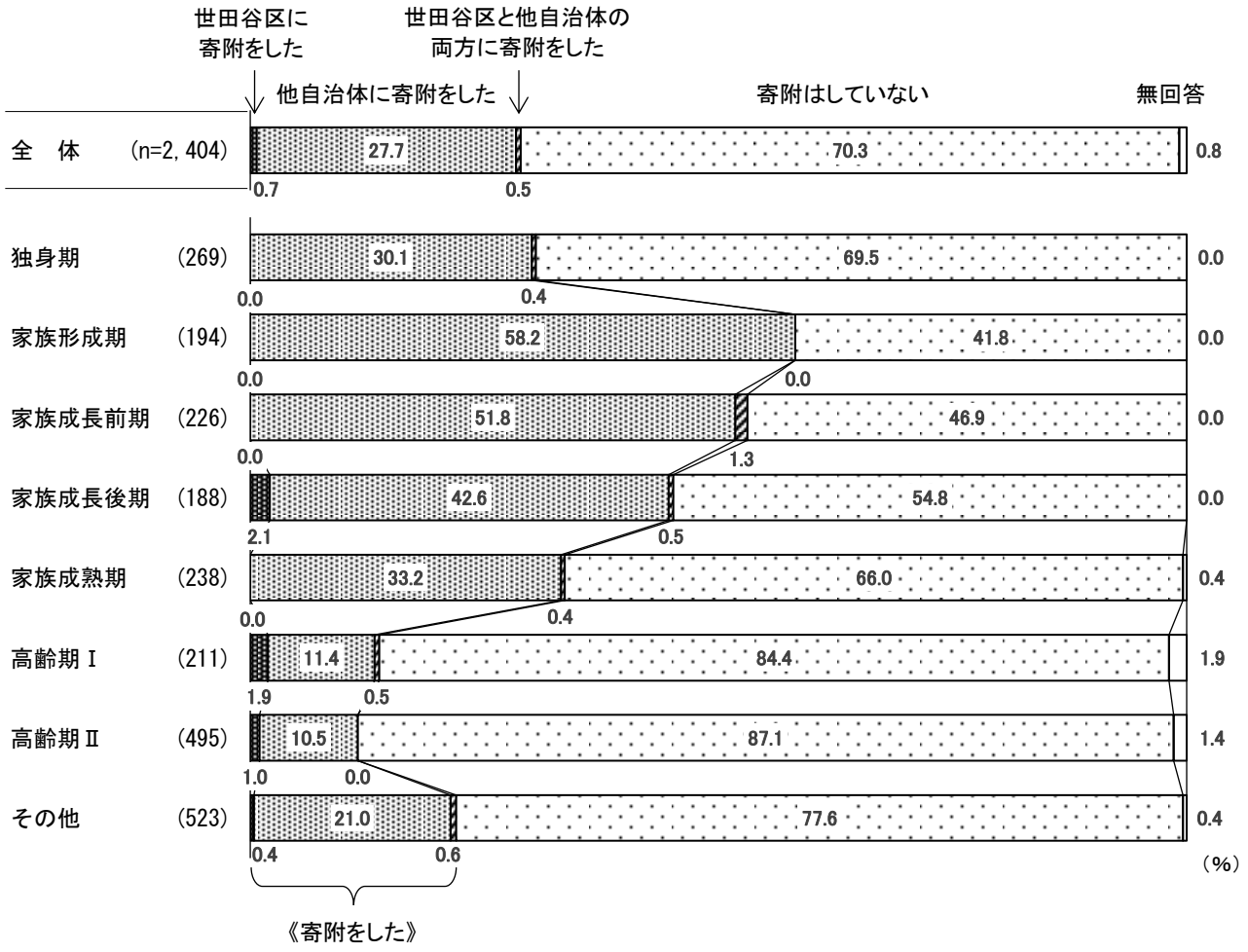
令和５年にふるさと納税をしたか聞いたところ、「寄附はしていない」（70.3%）が７割で最も高い。「他自治体に寄附をした」（27.7%）が３割近くで、「世田谷区に寄附をした」（0.7%）と「世田谷区と他自治体の両方に寄附をした」（0.5%）を合わせた《寄附をした》（28.9%）も３割近くとなっている。（図１５－２－１）

図１５－２－２　「ふるさと納税」の経験（性・年齢別）



性・年齢別にみると、男女とも同様の傾向を示し、「他自治体に寄附をした」は30歳代が最も高く、男性で５割を超え、女性で５割となっており、30歳代以降年代が上がるにつれ割合は下がり、40歳代で４割台、50歳代で３割台となっている。「寄附はしていない」は男性の80歳以上と女性の70歳代と80歳以上で９割、男性の70歳代、女性の60歳代でほぼ８割となっている。（図１５－２－２）

図１５－２－３　「ふるさと納税」の経験（ライフステージ別）



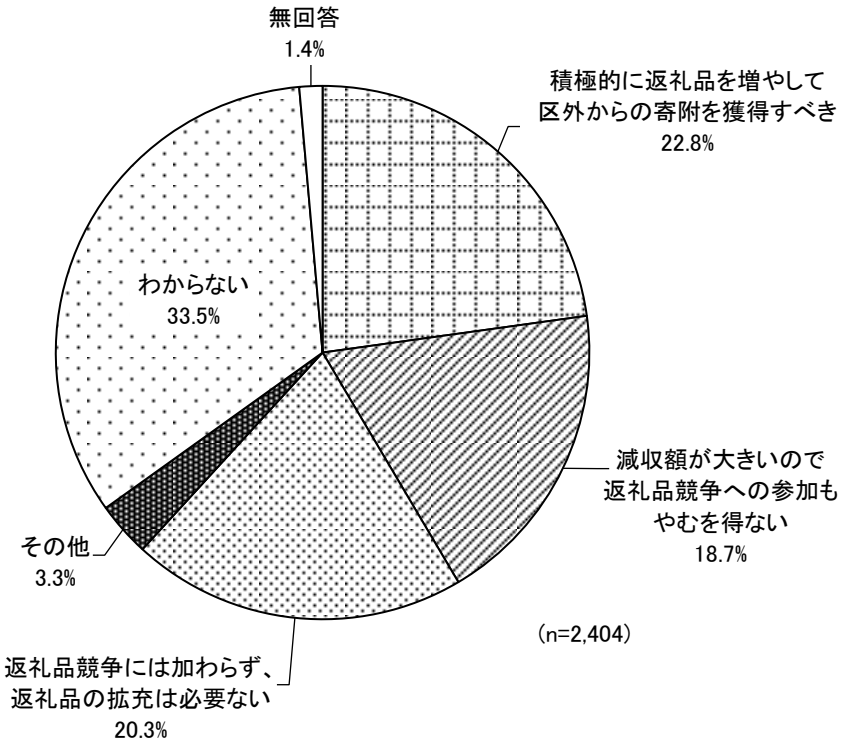
ライフステージ別にみると、「他自治体に寄附をした」は家族形成期で６割近く、家族成長前期で５割を超え、家族成長後期で４割を超え、家族成熟期で３割を超え、独身期で３割となっている。「寄附はしていない」は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱが８割台となっている。（図１５－２－３）

（３）返礼品に関する区の姿勢について

◎「わからない」が３割を超え、「積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき」が２割を超える

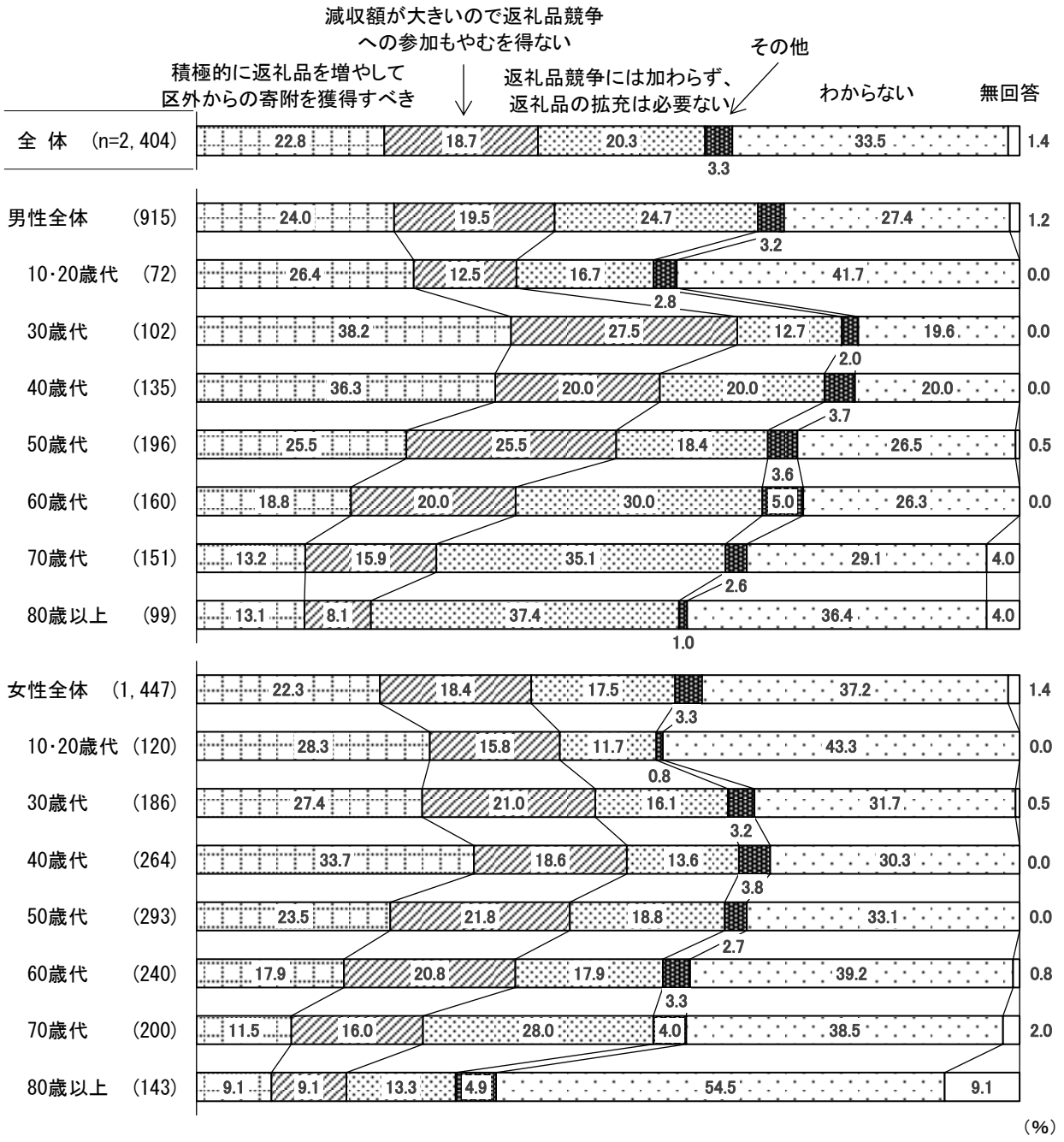
問４３　制度上、世田谷区から区民の方には返礼品などをお贈りすることはできません。一方、区外からの寄附者へは返礼品をお贈りしています。この区の姿勢として、あなたのお考えに近いものをお選びください。（○は１つ）

図１５－３－１



ふるさと納税の返礼品に関する区の姿勢について聞いたところ、「わからない」（33.5%）が３割を超えて最も高い。「積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき」（22.8%）は２割を超え、以下、「返礼品競争には加わらず、返礼品の拡充は必要ない」（20.3%）、「減収額が大きいので返礼品競争への参加もやむを得ない」（18.7%）などと続く。（図１５－３－１）

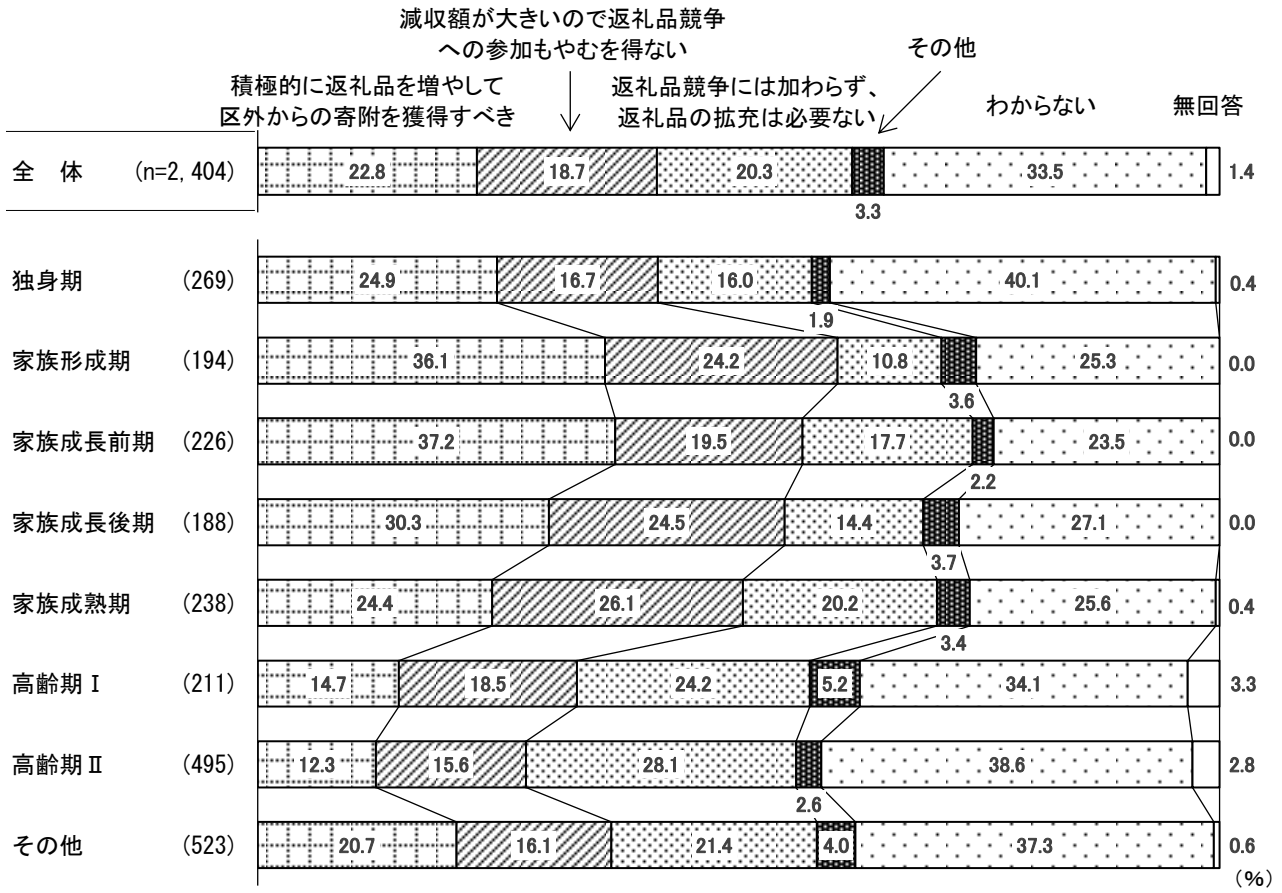
図１５－３－２　返礼品に関する区の姿勢について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき」は男性の 30 歳代で４割近く、男性の 40 歳代で３割半ば、女性の 40 歳代で３割を超えている。「減収額が大きいので返礼品競争への参加もやむを得ない」は男性の 30 歳代で３割近く、男性の 50 歳代で２割半ばとなっている。一方、「返礼品競争には加わらず、返礼品の拡充は必要ない」は男性の 60 歳代以上で３割台となっている。「わからない」は各年代とも男性より女性の方が高く、３割台～５割台となっている。

（図１５－３－２）

図１５－３－３　返礼品に関する区の姿勢について（ライフステージ別）



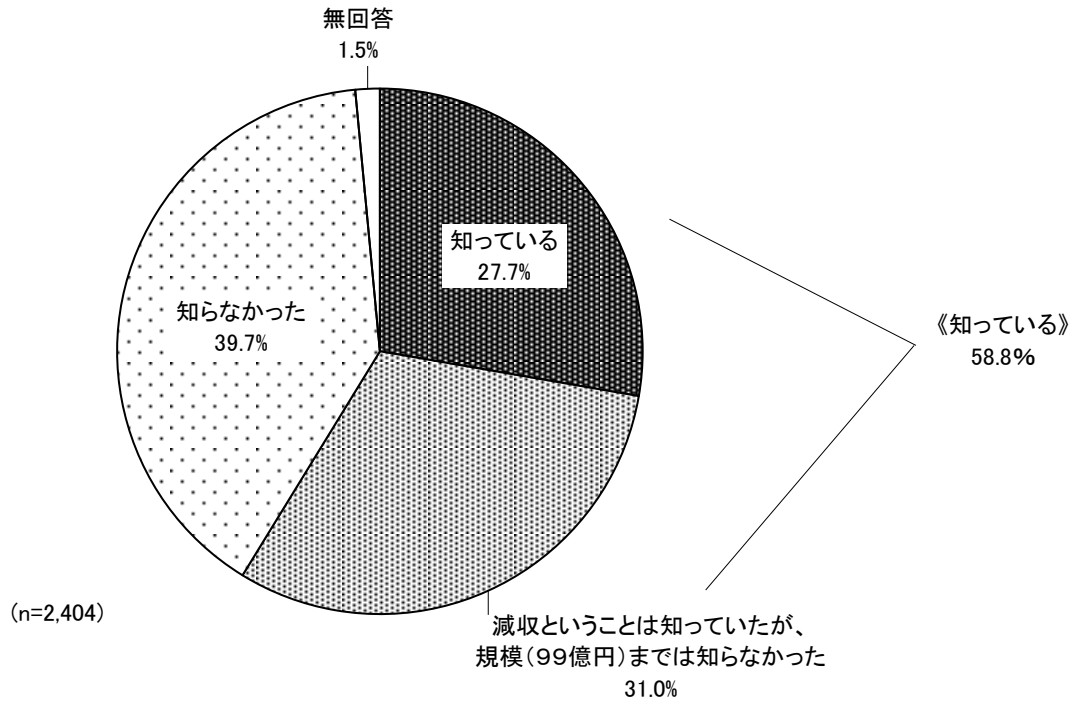
ライフステージ別にみると、「積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき」は家族成長前期で４割近く、家族形成期で３割半ば、家族成長後期で３割となっている。「減収額が大きいので返礼品競争への参加もやむを得ない」は家族形成期、家族成長後期、家族成熟期で２割半ばとなっている。一方、「返礼品競争には加わらず、返礼品の拡充は必要ない」は高齢期Ⅱで３割近く、高齢期Ⅰで２割半ばとなっている。（図１５－３－３）

（４）「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度

◎《知っている》が６割近く

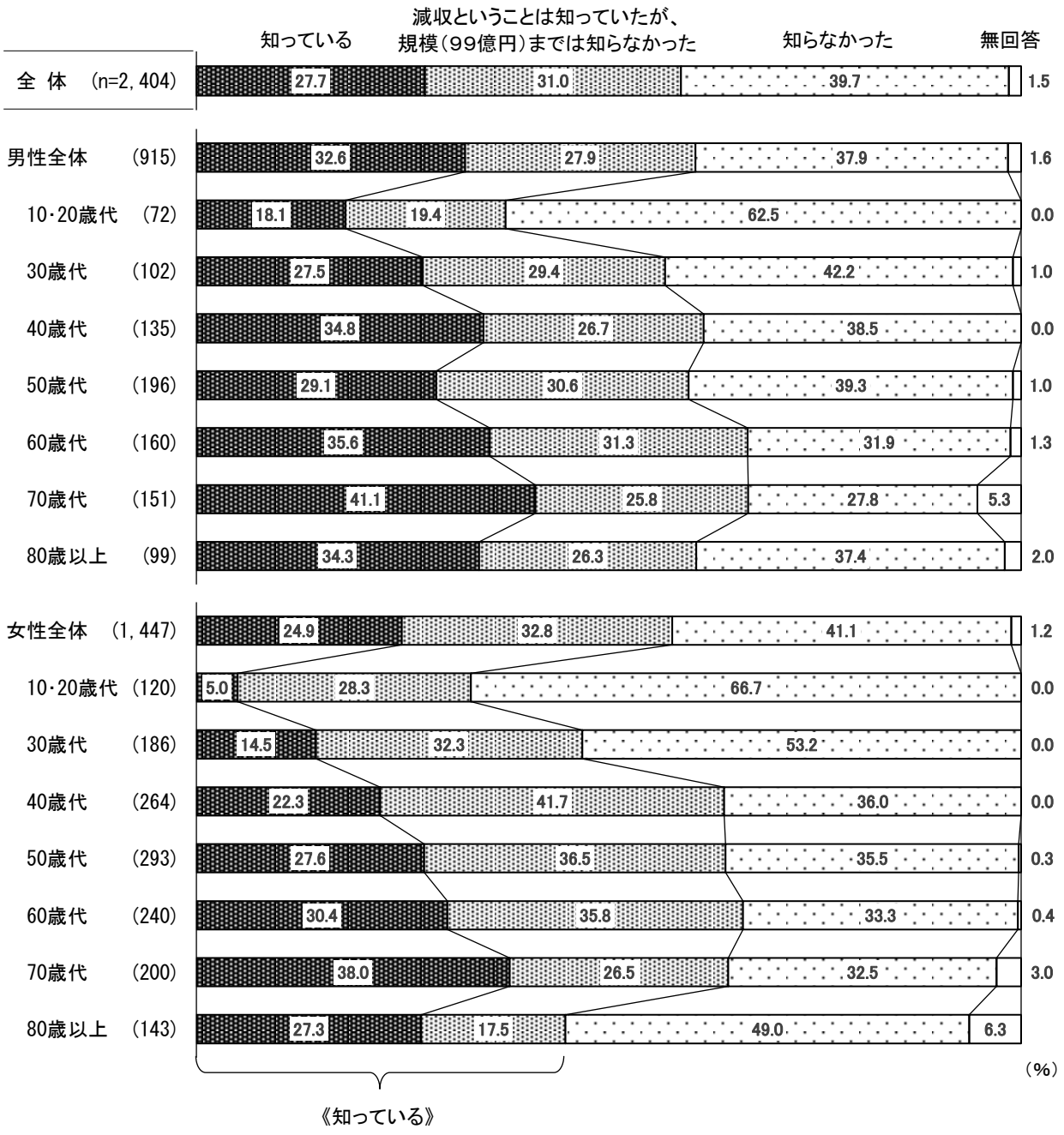
問４４　「ふるさと納税」による世田谷区の区民税の減収額は、年々増加し、令和５年度では約９９億円に上ります。この現状を知っていますか。（○は１つ）

図１５－４－１



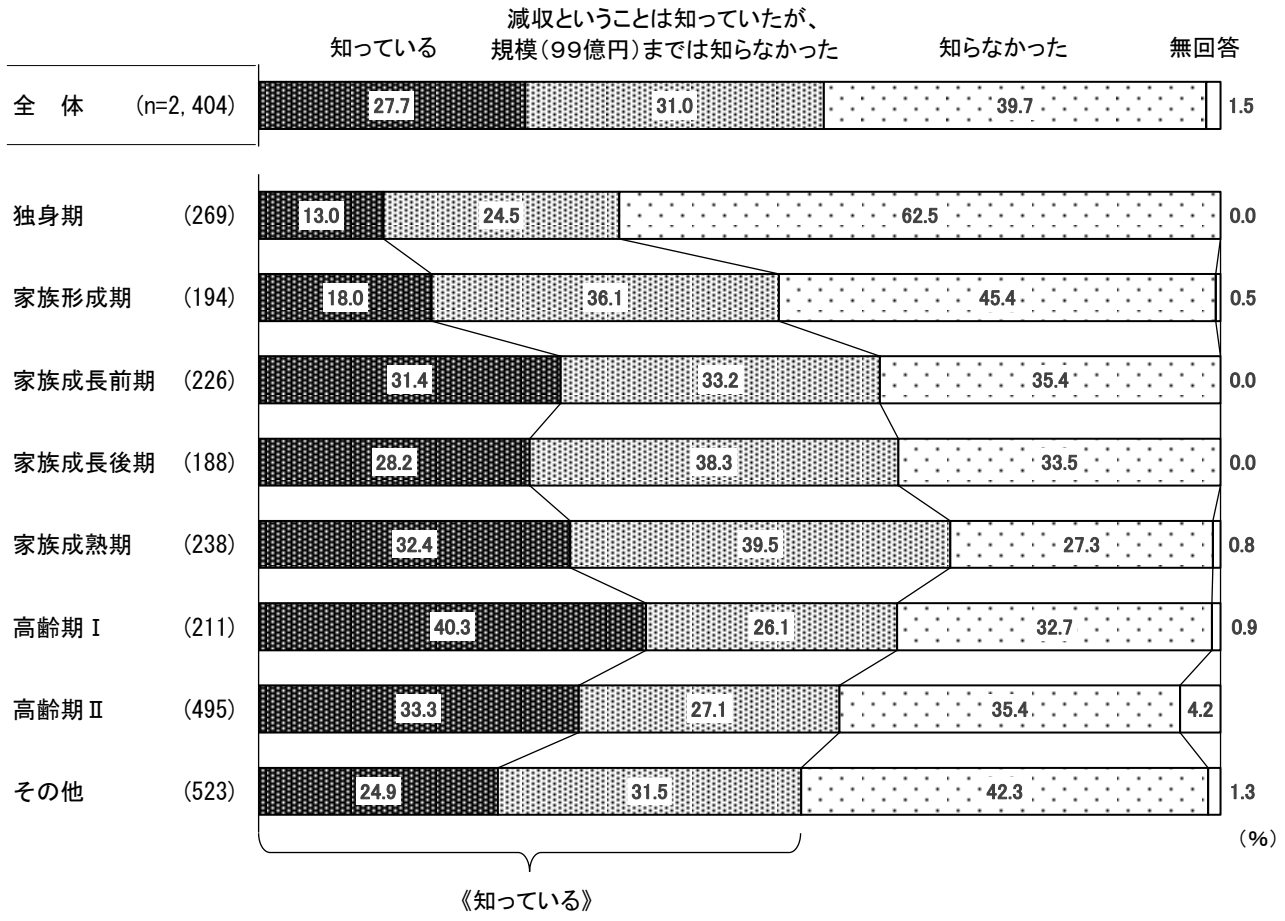
ふるさと納税による世田谷区の区民税の減収額の現状を知っているか聞いたところ、「減収ということは知っていたが、規模（９９億円）までは知らなかった」（31.0%）と「知っている」（27.7%）を合わせた《知っている》（58.8%）が６割近くとなっている。一方、「知らなかった」（39.7%）は４割となっている。（図１５－４－１）

図１５－４－２　「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「知っている」は男性の 70 歳代で４割を超え、女性の 70 歳代で４割近くとなっている。《知っている》は男性の 60 歳代と 70 歳代で７割近く、女性の 40 歳代～70 歳代で６割半ばとなっている。「知らなかった」は女性の 10・20 歳代で７割近く、男性の 10・20 歳代で６割を超え、女性の 30 歳代で５割を超えている。（図１５－４－２）

図１５－４－３　「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「知っている」は高齢期Ⅰで４割となっており、「減収ということは知っていたが、規模（９９億円）までは知らなかった」は家族成熟期で４割となっている。《知っている》は家族成熟期で７割を超え、家族成長後期で７割近く、家族成長前期、高齢期Ⅰで６割半ばとなっている。「知らなかった」は独身期で６割を超えている。（図１５－４－３）

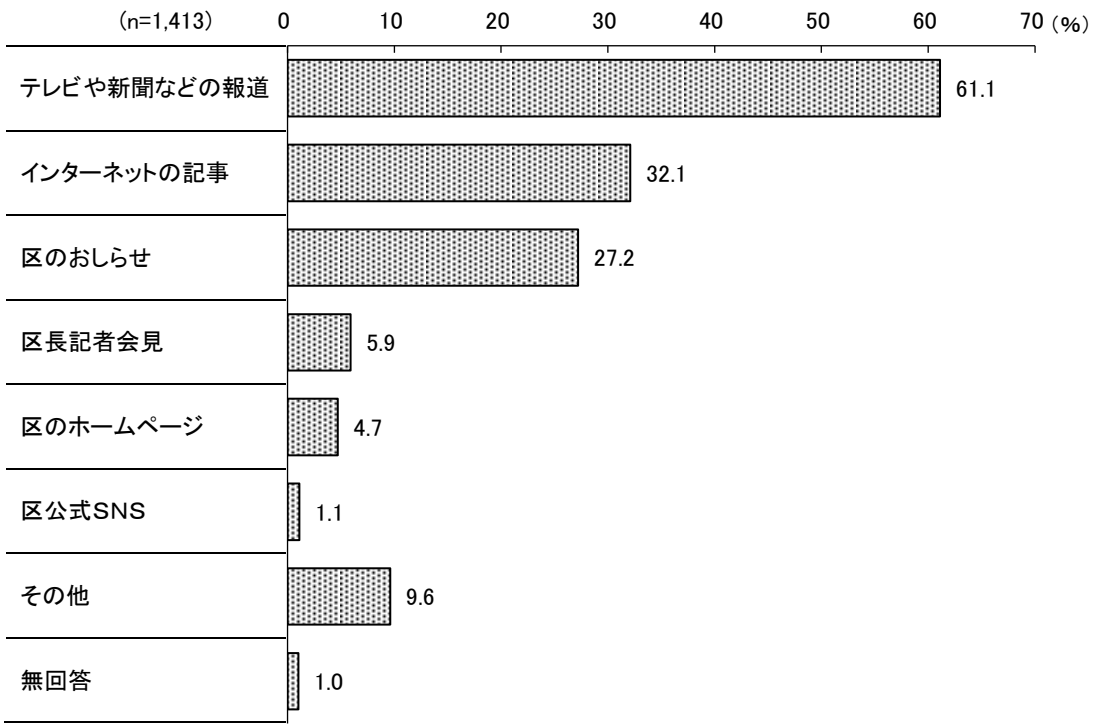
（５）区民税の減収状況の認知経路

◎「テレビや新聞などの報道」が６割を超える

（問４４で「知っている」または「減収ということは知っていたが、規模（９９億円）までは知らなかった」と答えた方に）

問４４－１　減収の状況を何でお知りになりましたか。（○はいくつでも）

図１５－５－１



ふるさと納税による世田谷区の区民税の減収額について「知っている」または「減収ということは知っていたが、規模（９９億円）までは知らなかった」と答えた方（1,413 人）に、減収の状況を何で知ったか聞いたところ、「テレビや新聞などの報道」（61.1%）が６割を超えて最も高く、以下、「インターネットの記事」（32.1%）、「区のおしらせ」（27.2%）などと続く。（図１５－５－１）

表１５－５－１　区民税の減収状況の認知経路（性・年齢別）

（%）

		n	テレビや新聞などの報道	インターネットの記事	区のおしらせ	区長記者会見	区のホームページ	区公式ＳＮＳ	その他	無回答
全　体		1,413	61.1	32.1	27.2	5.9	4.7	1.1	9.6	1.0
性・年齢別	男性全体	553	64.6	38.5	26.4	5.8	5.4	1.3	7.6	0.7
	10・20歳代	27	48.1	59.3	14.8	11.1	11.1	3.7	14.8	－
	30歳代	58	62.1	67.2	8.6	－	6.9	1.7	5.2	1.7
	40歳代	83	54.2	59.0	10.8	6.0	3.6	－	9.6	1.2
	50歳代	117	61.5	48.7	25.6	6.8	6.8	0.9	7.7	0.9
	60歳代	107	73.8	30.8	19.6	2.8	2.8	0.9	8.4	0.9
	70歳代	101	76.2	15.8	41.6	10.9	5.0	2.0	8.9	－
	80歳以上	60	58.3	5.0	58.3	3.3	6.7	1.7	－	－
	女性全体	836	59.1	28.3	27.4	5.9	4.1	1.1	11.0	1.1
	10・20歳代	40	52.5	50.0	2.5	－	－	2.5	20.0	－
	30歳代	87	46.0	46.0	6.9	4.6	2.3	2.3	19.5	－
	40歳代	169	55.0	32.0	17.2	5.9	2.4	1.8	14.8	1.2
	50歳代	188	55.3	37.2	23.4	3.7	3.7	1.1	8.5	1.6
	60歳代	159	67.3	24.5	29.6	4.4	4.4	0.6	6.9	1.9
	70歳代	129	62.8	8.5	55.0	10.1	7.8	－	8.5	0.8
	80歳以上	64	75.0	4.7	48.4	12.5	6.3	－	6.3	－

性・年齢別にみると、「テレビや新聞などの報道」は男性の 70 歳代、女性の 80 歳以上で７割半ば、男性の 60 歳代で７割を超えている。「インターネットの記事」は男性の 30 歳代で７割近く、男性の 40 歳代でほぼ６割となっている。「区のおしらせ」は男女とも 70 歳代以上が高く、４割台～５割台となっている。（表１５－５－１）

なお、基数(n)が 30 に満たない層については参考値とする。

表１５－５－２　区民税の減収状況の認知経路（ライフステージ別）

（%）

		n	テレビや新聞などの報道	インターネットの記事	区のおしらせ	区長記者会見	区のホームページ	区公式ＳＮＳ	その他	無回答
全　体		1,413	61.1	32.1	27.2	5.9	4.7	1.1	9.6	1.0
ライフステージ別	独身期	101	43.6	52.5	10.9	4.0	5.9	5.0	18.8	1.0
	家族形成期	105	54.3	53.3	6.7	5.7	3.8	－	11.4	－
	家族成長前期	146	56.8	41.8	16.4	4.8	2.7	0.7	11.0	1.4
	家族成長後期	125	53.6	40.0	23.2	5.6	1.6	0.8	14.4	2.4
	家族成熟期	171	67.8	38.0	25.7	1.8	5.3	0.6	5.3	0.6
	高齢期Ⅰ	140	67.1	16.4	41.4	10.0	7.1	1.4	7.1	－
	高齢期Ⅱ	299	70.2	13.0	47.2	6.4	5.4	0.3	6.7	0.7
	その他	295	59.3	34.2	20.7	7.8	4.4	1.4	10.5	1.4

ライフステージ別にみると、「テレビや新聞などの報道」は高齢期Ⅱで７割、家族成熟期、高齢期Ⅰで７割近くとなっている。「インターネットの記事」は独身期、家族形成期で５割を超え、「区のおしらせ」は高齢期Ⅱで５割近く、高齢期Ⅰで４割を超えている。（表１５－５－２）

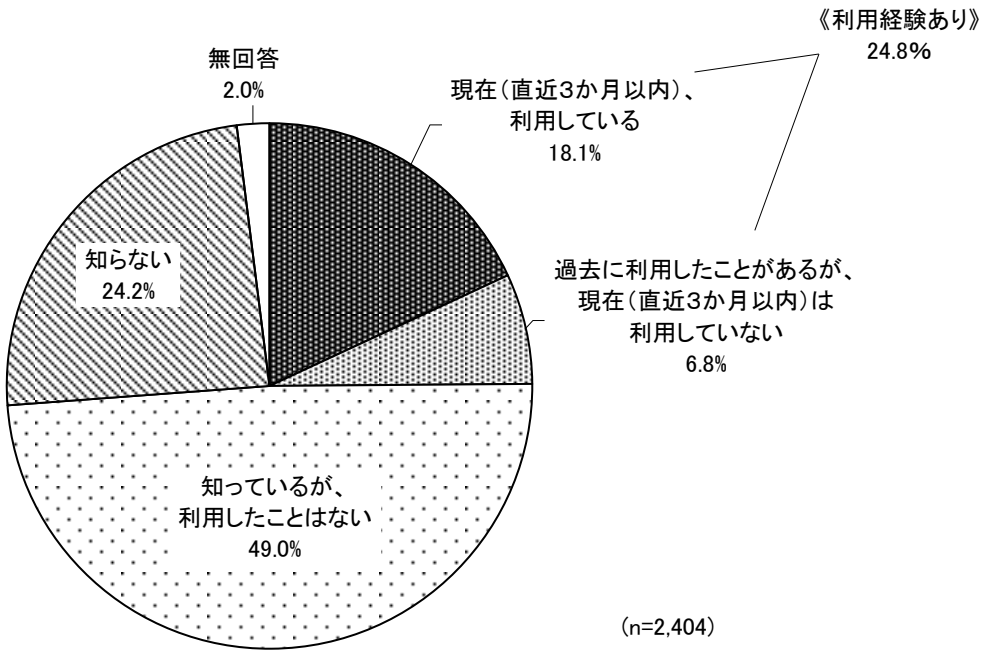
16. せたがや Pay

（１）せたがや Pay の認知・利用度

◎「知っているが、利用したことはない」がほぼ５割

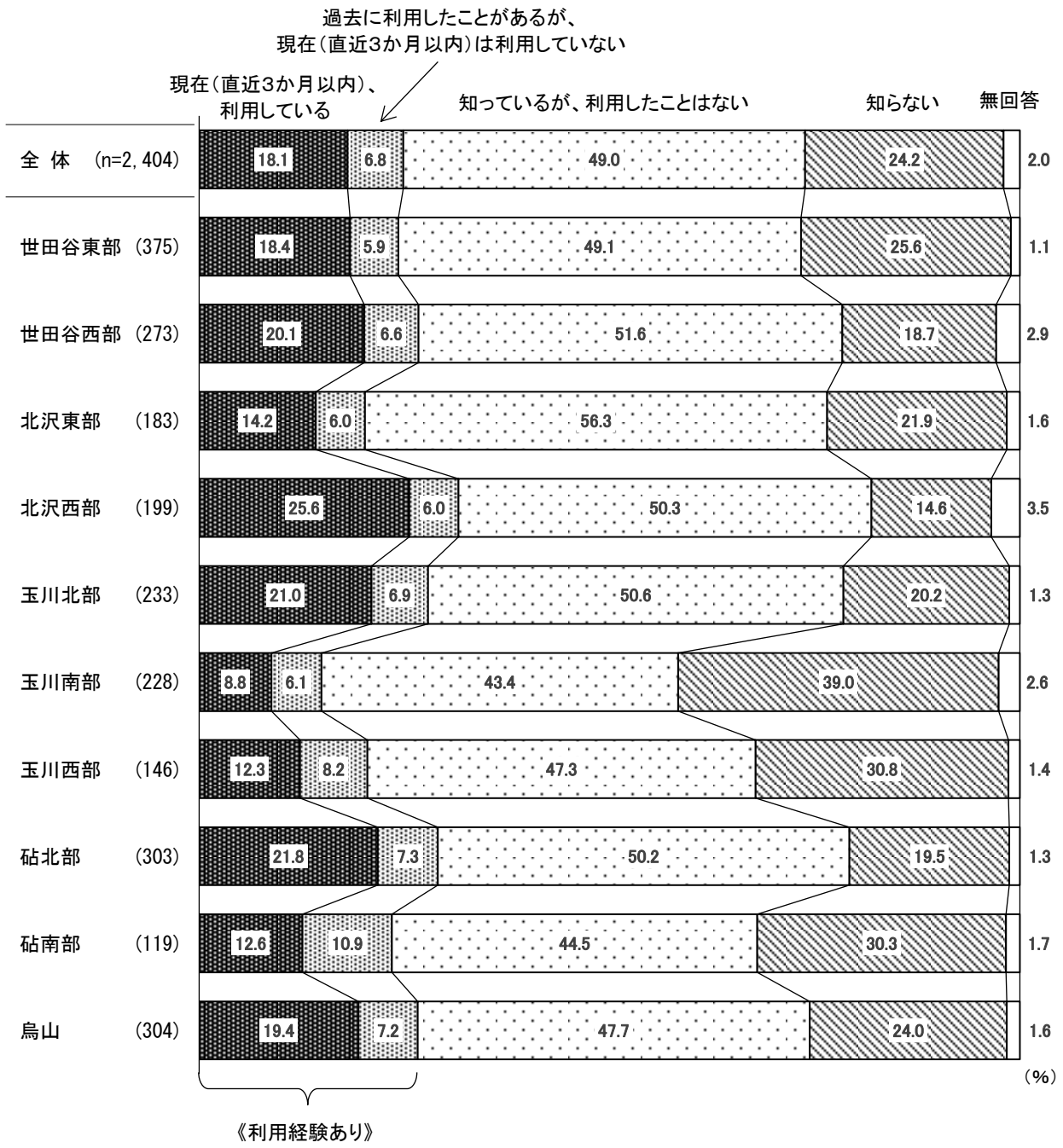
問４５　せたがや Pay を知っていますか。また、利用したことがありますか。（○は１つ）

図１６－１－１



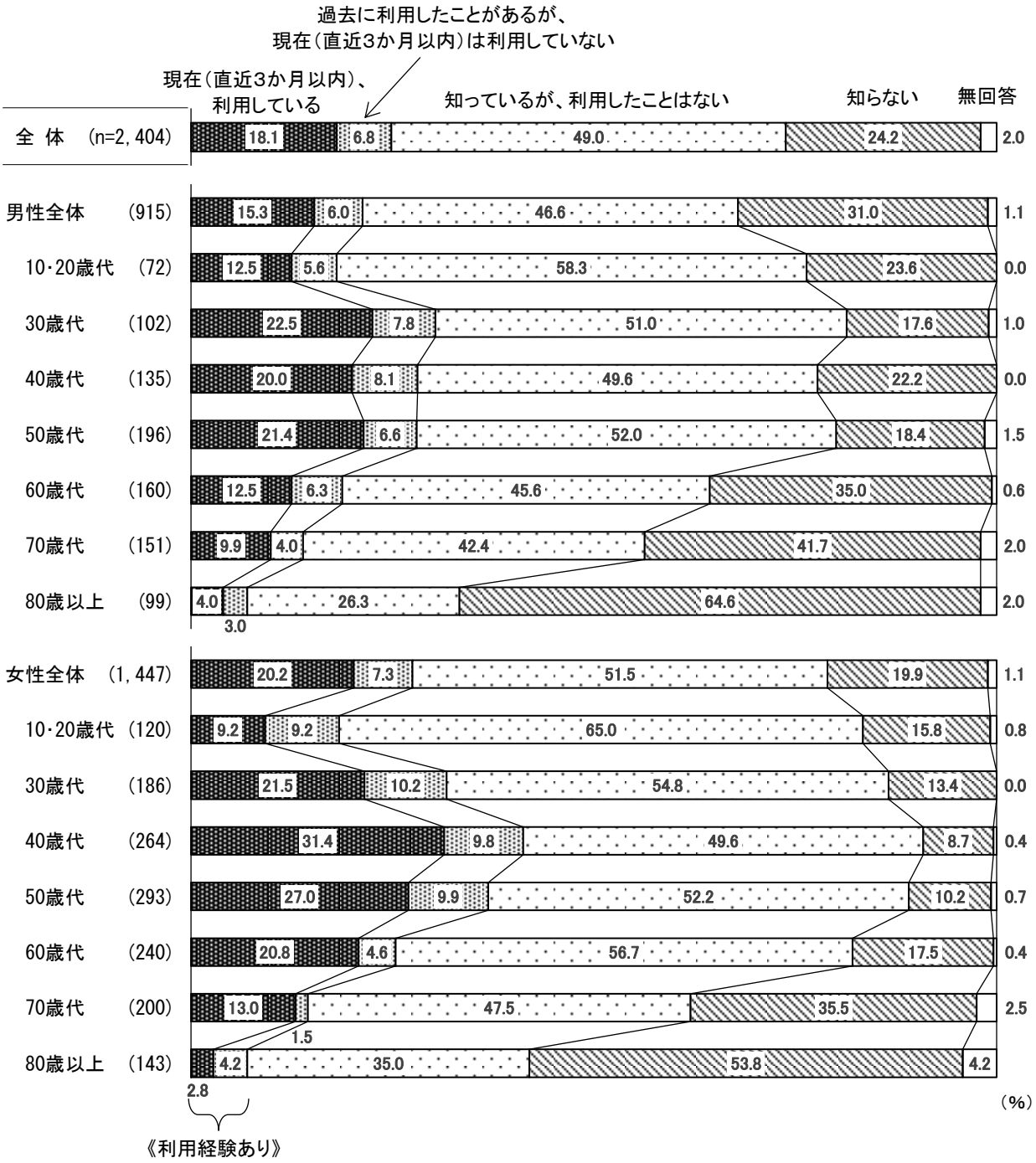
せたがや Pay の認知・利用度を聞いたところ、「知っているが、利用したことはない」（49.0%）がほぼ５割で最も高い。「知らない」（24.2%）は２割半ばで、「現在（直近３か月以内）、利用している」（18.1%）と「過去に利用したことがあるが、現在（直近３か月以内）は利用していない」（6.8%）を合わせた《利用経験あり》（24.8%）は２割半ばとなっている。（図１６－１－１）

図１６－１－２　せたがやPayの認知・利用度（地域別）



地域別にみると、「知っているが、利用したことはない」は北沢東部で５割半ばとなっている。《利用経験あり》は北沢西部で３割を超え、砧北部でほぼ３割、玉川北部、世田谷西部、烏山で３割近くとなっている。一方、「知らない」は玉川南部でほぼ４割となっている。（図１６－１－２）

図１６－１－３　せたがやPayの認知・利用度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「知っているが、利用したことはない」は女性の10・20歳代で６割半ば、男性の10・20歳代、女性の60歳代で６割近くとなっている。《利用経験あり》は女性の40歳代で４割を超え、女性の50歳代で４割近く、女性の30歳代で３割を超え、男性の30歳代で３割となっている。一方、「知らない」は男性の80歳以上で６割半ば、女性の80歳以上で５割を超えている。

（図１６－１－３）

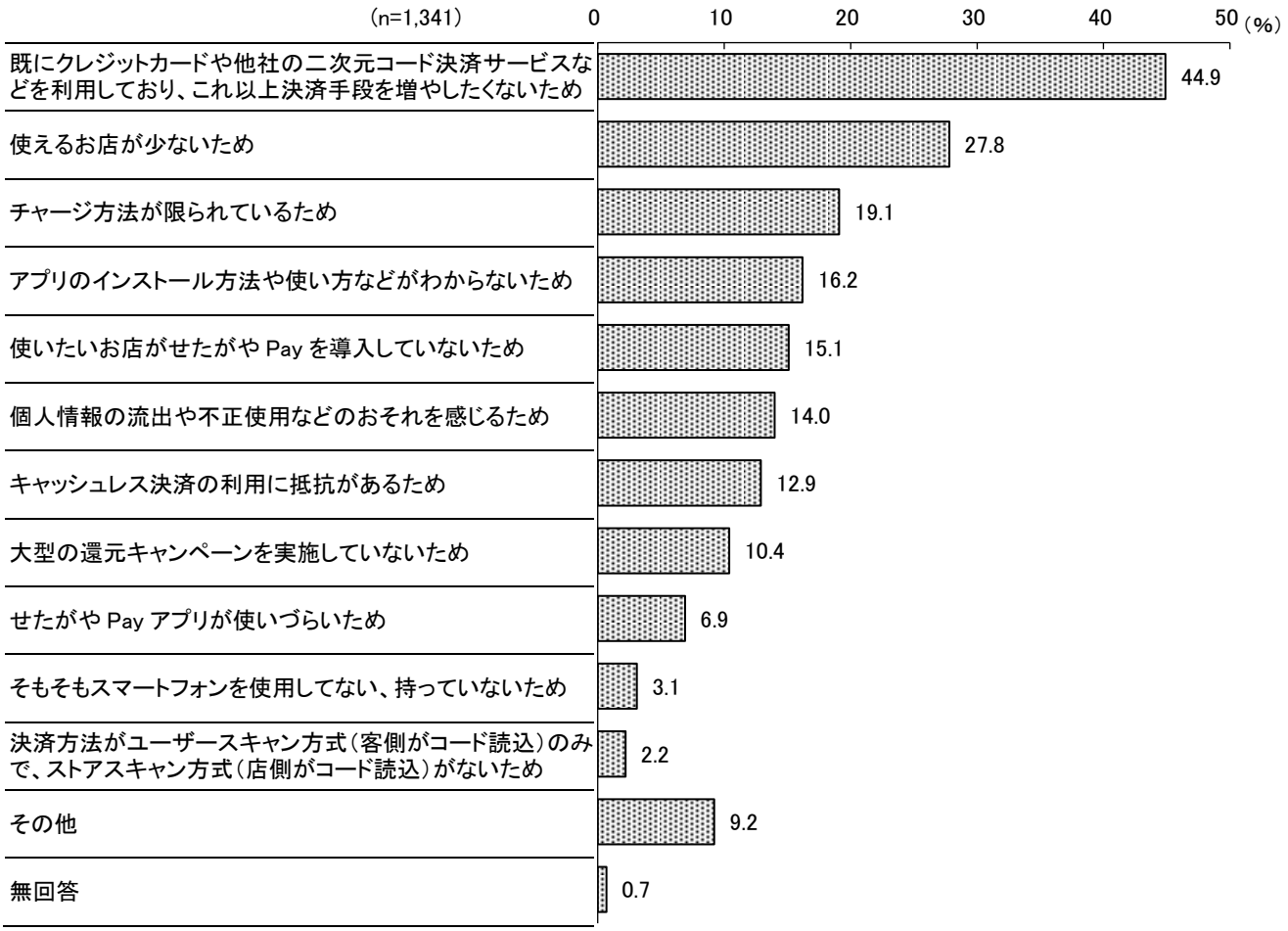
（２）せたがや Pay を利用しない理由

◎「既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため」が４割半ば

（問４５で「過去に利用したことがあるが、現在（直近３か月以内）は利用していない」または「知っているが、利用したことはない」と答えた方に）

問４５－１　せたがや Pay を利用していない理由を教えてください。（○はいくつでも）

図１６－２－１



せたがや Pay を「過去に利用したことがあるが、現在（直近３か月以内）は利用していない」または「知っているが、利用したことはない」と答えた方（1,341 人）に、利用していない理由を聞いたところ、「既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため」(44.9%)が４割半ばで最も高く、「使えるお店が少ないため」(27.8%)が３割近くとなっている。（図１６－２－１）

表１６－２－１　せたがやPayを利用しない理由（性・年齢別）

（%）

		n	既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため	使えるお店が少ないため	チャージ方法が限られているため	アプリのインストール方法や使い方などがわからないため	使いたいお店がせたがやPayを導入していないため	個人情報の流出や不正使用などのおそれを感じるため	キャッシュレス決済の利用に抵抗があるため	大型の還元キャンペーンを実施していないため	せたがやPayアプリが使いづらいため	そもそもスマートフォンを使用してない、持っていないため	決済方法がユーザースキャン方式（客側がコード読込）のみで、ストアスキャン方式（店側がコード読込）がないため	その他	無回答
全　体		1,341	44.9	27.8	19.1	16.2	15.1	14.0	12.9	10.4	6.9	3.1	2.2	9.2	0.7
性・年齢別	男性全体	481	45.7	29.5	19.8	16.0	18.5	12.5	10.2	12.5	9.1	3.3	3.5	10.2	1.2
	10･20歳代	46	41.3	30.4	17.4	8.7	23.9	4.3	8.7	13.0	10.9	－	4.3	21.7	－
	30歳代	60	51.7	40.0	30.0	8.3	10.0	6.7	1.7	23.3	8.3	－	5.0	8.3	－
	40歳代	78	50.0	25.6	20.5	11.5	20.5	9.0	7.7	11.5	10.3	－	5.1	11.5	－
	50歳代	115	47.0	26.1	26.1	14.8	15.7	9.6	7.0	14.8	6.1	3.5	1.7	12.2	0.9
	60歳代	83	42.2	31.3	10.8	19.3	20.5	16.9	13.3	8.4	7.2	2.4	3.6	7.2	1.2
	70歳代	70	44.3	32.9	14.3	24.3	24.3	20.0	20.0	7.1	10.0	8.6	1.4	4.3	1.4
	80歳以上	29	37.9	17.2	13.8	31.0	13.8	27.6	17.2	6.9	20.7	13.8	6.9	6.9	10.3
	女性全体	850	44.4	27.1	18.6	16.4	13.3	14.9	14.5	9.2	5.4	2.9	1.4	8.6	0.5
	10･20歳代	89	53.9	31.5	14.6	4.5	12.4	3.4	6.7	13.5	5.6	－	－	9.0	1.1
	30歳代	121	55.4	28.1	26.4	5.8	8.3	8.3	5.0	9.1	5.0	－	－	11.6	－
	40歳代	157	46.5	29.9	26.1	8.9	11.5	7.6	9.6	14.0	3.2	0.6	1.3	8.3	0.6
	50歳代	182	36.8	25.3	18.1	14.3	14.8	15.9	19.8	6.0	7.1	1.1	2.2	11.0	0.5
	60歳代	147	49.0	26.5	16.3	20.4	15.6	23.1	19.7	10.2	4.8	4.1	2.7	6.1	－
	70歳代	98	37.8	26.5	9.2	35.7	20.4	26.5	18.4	4.1	9.2	4.1	2.0	4.1	1.0
	80歳以上	56	23.2	17.9	10.7	41.1	7.1	23.2	23.2	5.4	1.8	21.4	－	8.9	－

性・年齢別にみると、「既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため」は男性の30歳代と40歳代、女性の10・20歳代と30歳代で５割台となっている。「使えるお店が少ないため」は男性の30歳代で４割、「アプリのインストール方法や使い方などがわからないため」は女性の80歳以上で４割を超えている。

（表１６－２－１）

なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

世 田 谷 区 民 意 識 調 査 ２ ０ ２ ４

令和６年９月発行（広報印刷物登録番号No. ２２７６）

発　行　　世田谷区政策経営部広報広聴課
〒154-8504　東京都世田谷区世田谷４丁目21番27号
電話：０３（５４３２）２０１４
ファクシミリ：０３（５４３２）３００１

実　施　　株式会社アダムスコミュニケーション
〒168-0074　東京都杉並区上高井戸１丁目８番17号
ブライトコアビル新館６階
電話：０３（６８４７）５７５７
ファクシミリ：０３（６８４７）５７５６